鹿児島県

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(140)　市ノ原遺跡（第3地点）　第Ⅲ分冊　二〇〇九年三月　鹿児島県立埋蔵文化財センター

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（140）

南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（ＸＸⅨ）

（伊集院IC～市来IC間）

市ノ原遺跡（いちのはら）

（第３地点）

（鹿児島県日置市東市来町）

（第 Ⅲ 分 冊）

2009年3月
鹿児島県立埋蔵文化財センター

目　　次（第Ⅲ分冊）

第Ⅵ章　弥生時代の調査 …… 5
　第１節　遺構 …… 5
　第２節　遺物 …… 24
第Ⅶ章　古墳時代の調査 …… 52
　第１節　遺構 …… 52
　第２節　遺物 …… 63
第Ⅷ章　古代から中世の調査 …… 88
　第１節　遺構 …… 88
　第２節　古代の遺物 …… 110
　第３節　中世の遺物 …… 124
　第４節　土坑・ピット群の調査 …… 135
第Ⅸ章　近世の調査 …… 163
　第１節　遺物 …… 163
第Ｘ章　科学分析 …… 173
遺物観察表 …… 192
第Ⅺ章　発掘調査のまとめ …… 256

挿　図　目　次

第１図　弥生時代住居跡位置図 …… 6
第２図　弥生時代１号住居跡 …… 7
第３図　弥生時代１号住居跡遺物出土状況 … 8
第４図　弥生時代１号住居跡内遺物（１）…… 9
第５図　弥生時代１号住居跡内遺物（２）… 10
第６図　弥生時代１号住居跡内遺物（３）… 11
第７図　弥生時代１号住居跡内遺物（４）… 12
第８図　弥生時代２号住居跡 …… 13
第９図　弥生時代２号住居跡遺物出土状況 … 14
第10図　弥生時代２号住居跡内遺物 …… 14
第11図　弥生時代３号住居跡 …… 15
第12図　弥生時代３号住居跡周辺ピット … 16
第13図　弥生時代３号住居跡内遺物（１）… 17
第14図　弥生時代３号住居跡内遺物（２）… 18
第15図　弥生時代４号住居跡 …… 19
第16図　弥生時代４号住居跡内遺物（１）… 20
第17図　弥生時代４号住居跡内遺物（２）… 21
第18図　弥生時代貝層を含む土坑位置図 … 22
第19図　貝層を含む土坑及び遺構内遺物 … 23
第20図　弥生土器出土状況 …… 25
第21図　弥生時代甕形土器（１）…… 28
第22図　弥生時代甕形土器（２）…… 29
第23図　弥生時代甕形土器（３）…… 30
第24図　弥生時代甕形土器（４）…… 31
第25図　弥生時代甕形土器（５）…… 32
第26図　弥生時代甕形土器（６）…… 33
第27図　弥生時代甕形土器（７）…… 34
第28図　弥生時代甕形土器（８）…… 35
第29図　弥生時代甕形土器（９）…… 36
第30図　弥生時代甕形土器（10）…… 37
第31図　弥生時代甕形土器（11）…… 38
第32図　弥生時代甕形土器（12）…… 39
第33図　弥生時代甕形土器（13）…… 40
第34図　弥生時代甕形土器（14）…… 41
第35図　弥生時代甕形土器（15）…… 42
第36図　弥生時代甕形土器（16）…… 43
第37図　弥生時代甕形土器（17）…… 44
第38図　弥生時代壺形土器（１）…… 45
第39図　弥生時代壺形土器（２）…… 46
第40図　弥生時代壺形土器等（３）…… 47
第41図　弥生時代土器底部（１）…… 48
第42図　弥生時代土器底部（２）…… 49
第43図　弥生時代土器底部（３）…… 50
第44図　古墳時代住居跡位置図 …… 51
第45図　古墳時代１号住居跡 …… 52
第46図　古墳時代１号住居跡遺物出土状況 … 53
第47図　古墳時代１号住居跡内遺物 …… 54
第48図　古墳時代２号住居跡 …… 55

第49図　古墳時代２号住居跡内遺物 …… 56
第50図　古墳時代３号住居跡 …… 57
第51図　古墳時代３号住居跡内遺物 …… 58
第52図　古墳時代３・４号住居跡内遺物 … 59
第53図　古墳時代４号住居跡 …… 60
第54図　貝層を含む土坑及び散布域位置図… 61
第55図　貝層を含む土坑及び遺構内遺物 … 62
第56図　古墳時代穀形土器（１）…… 63
第57図　古墳時代土器出土状況 …… 64
第58図　古墳時代穀形土器（２）…… 66
第59図　古墳時代穀形土器（３）…… 67
第60図　古墳時代穀形土器（４）…… 68
第61図　古墳時代穀形土器（５）…… 69
第62図　古墳時代穀形土器（６）…… 71
第63図　古墳時代穀形土器（７）…… 72
第64図　古墳時代穀形土器（８）…… 73
第65図　古墳時代穀形土器（９）…… 74
第66図　古墳時代穀形土器（10）…… 75
第67図　古墳時代穀形土器（11）…… 76
第68図　古墳時代壺形土器（１）…… 77
第69図　古墳時代壺形土器（２）…… 79
第70図　古墳時代壺形土器（３）…… 80
第71図　古墳時代壺形土器（４）…… 81
第72図　古墳時代壺形土器（５）…… 82
第73図　古墳時代壺形土器（６）…… 83
第74図　古墳時代小形土器，甑形土器 …… 84
第75図　古墳時代鉢形土器 …… 85
第76図　古墳時代高坏形土器 …… 86
第77図　古墳時代小形土器等 …… 87
第78図　掘立柱建物跡位置図 …… 89
第79図　掘立柱建物跡位置図１～６号 …… 90
第80図　掘立柱建物跡１，２号 …… 91
第81図　掘立柱建物跡３，４号 …… 92
第82図　掘立柱建物跡５，６号 …… 93
第83図　掘立柱建物跡位置図７～17号 …… 94
第84図　掘立柱建物跡位置図18，19号 …… 95
第85図　溝位置図 …… 99
第86図　溝及び硬化面位置図 …… 100
第87図　溝内遺物（１）…… 101
第88図　溝内遺物（２）…… 102
第89図　道跡１，２ …… 103
第90図　道跡出土遺物 …… 104
第91図　焼土跡位置図 …… 105
第92図　焼土跡１～４ …… 106
第93図　焼土跡５，６ …… 107
第94図　焼土跡５出土遺物 …… 107
第95図　焼土跡７及び出土遺物 …… 108
第96図　焼土跡８～10 …… 109
第97図　土師器埋納土坑及び遺物 …… 109
第98図　古代土師器（１）鉢，埦 …… 110
第99図　古代遺物出土状況 …… 111
第100図　古代土師器（２）埦 …… 112
第101図　古代土師器（３）埦 …… 113
第102図　古代土師器（４）埦 …… 114
第103図　古代土師器（５）坏 …… 115
第104図　古代土師器（６）鉢 …… 116
第105図　古代土師器（７）甕 …… 117
第106図　古代土師器（８）甕 …… 118
第107図　古代土師器（９）甕 …… 119
第108図　古代墨書，箆書土器 …… 120
第109図　古代須恵器（１）皿，蓋，甕 …… 121
第110図　古代須恵器（２）甕 …… 122
第111図　古代須恵器（３）甕，鉢，壺 …… 123
第112図　中世遺物出土状況 …… 125
第113図　中世土師器（１）埦，坏 …… 126
第114図　中世土師器（２）坏，皿 …… 127
第115図　中世土師器（３）皿 …… 128
第116図　中世須恵器 …… 129
第117図　瓦質土器（１）…… 130
第118図　瓦質土器（２）…… 131
第119図　備前焼・青磁 …… 132
第120図　青磁，白磁，青花 …… 133
第121図　土製品，石製品 …… 134
第122図　Ⅰ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ層土坑位置図 …… 136

第123図 Ⅴ層土坑位置図 …… 137
第124図 Ⅳ層土坑位置図 …… 138
第125図 Ⅲ層土坑位置図 …… 139
第126図 Ⅴ層土坑 …… 140
第127図 Ⅳ層土坑 …… 141
第128図 E－39Ⅲb層土坑位置図 …… 142
第129図 Ⅲb層土坑（1）…… 142
第130図 Ⅲb層土坑（2）…… 143
第131図 Ⅲb層土坑（3）…… 144
第132図 Ⅲb層土坑（4）…… 145
第133図 Ⅲa層土坑（1）…… 146
第134図 Ⅲa層土坑（2）…… 147
第135図 Ⅲa層土坑（3）…… 148
第136図 E－29Ⅲ層土坑位置図 …… 149
第137図 Ⅲ層土坑（1）…… 149
第138図 Ⅲ層土坑（2）…… 150
第139図 Ⅲ層土坑（3）…… 151
第140図 Ⅲ層土坑（4）…… 152
第141図 Ⅰ層土坑及び遺構内遺物 …… 152
第142図 Ⅰ層土坑位置図 …… 153
第143図 全ピット群位置図 …… 154
第144図 ピット群位置図（1）…… 155
第145図 ピット群位置図（2）…… 156
第146図 ピット群位置図（3）…… 157
第147図 ピット群位置図（4）…… 158
第148図 ピット群位置図（5）…… 159
第149図 ピット群位置図（6）…… 160
第150図 ピット群位置図（7）…… 161
第151図 ピット群位置図（8）…… 162
第152図 近世遺物（1）陶器 …… 164
第153図 近世遺物（2）陶器 …… 165
第154図 近世遺物（3）陶器 …… 166
第155図 近世遺物（4）陶器 …… 167
第156図 近世遺物（5）陶器 …… 168
第157図 近世遺物（6）陶器等 …… 169
第158図 近世遺物（7）陶製品 …… 170
第159図 近世遺物（8）陶製品 …… 171
第160図 近世遺物（9）銭貨 …… 172

表 目 次

第 1 表 掘立柱建物跡計測表（1）…… 97
第 2 表 掘立柱建物跡計測表（2）…… 98
第 3 表 旧石器時代石器観察表（1）…… 192
第 4 表 旧石器時代石器観察表（2）…… 193
第 5 表 旧石器時代石器観察表（3）…… 194
第 6 表 旧石器時代石器観察表（4）…… 195
第 7 表 旧石器時代石器観察表（5）…… 196
第 8 表 旧石器時代石器観察表（6）…… 197
第 9 表 旧石器時代石器観察表（7）…… 198
第10表 旧石器時代石器観察表（8）…… 199
第11表 縄文時代遺構内遺物観察表 …… 200
第12表 縄文時代土器観察表（1）…… 200
第13表 縄文時代土器観察表（2）…… 201
第14表 縄文時代土器観察表（3）…… 202
第15表 縄文時代土器観察表（4）…… 203
第16表 縄文時代土器観察表（5）…… 204
第17表 縄文時代土器観察表（6）…… 205
第18表 縄文時代土器観察表（7）…… 206
第19表 縄文時代土器観察表（8）…… 207
第20表 縄文時代土器観察表（9）…… 208
第21表 縄文時代土器観察表（10）…… 209
第22表 縄文時代土器観察表（11）…… 210
第23表 縄文時代土器観察表（12）…… 211
第24表 縄文時代土器観察表（13）…… 212
第25表 縄文時代土器観察表（14）…… 213
第26表 出土石器観察表（1）…… 214
第27表 出土石器観察表（2）…… 215
第28表 出土石器観察表（3）…… 216
第29表 出土石器観察表（4）…… 217
第30表 出土石器観察表（5）…… 218

第31表　出土石器観察表（6）…… 219
第32表　出土石器観察表（7）…… 220
第33表　出土石器観察表（8）…… 221
第34表　出土石器観察表（9）…… 222
第35表　出土石器観察表（10）…… 223
第36表　出土石器観察表（11）…… 224
第37表　出土石器観察表（12）…… 225
第38表　出土石器観察表（13）…… 226
第39表　出土石器観察表（14）…… 227
第40表　出土石器観察表（15）…… 228
第41表　出土石器観察表（16）…… 229
第42表　出土石器観察表（17）…… 230
第43表　出土石器観察表（18）…… 231
第44表　出土石器観察表（19）…… 232
第45表　出土石器観察表（20）…… 233
第46表　出土石器観察表（21）…… 234
第47表　出土石器観察表（22）…… 235
第48表　出土石器観察表（23）…… 236
第49表　出土石器観察表（24）…… 237
第50表　出土石器観察表（25）…… 238
第51表　出土石器観察表（26）…… 239
第52表　弥生時代遺構内土器観察表…… 240
第53表　弥生時代遺構内石器観察表…… 240
第54表　弥生時代土器観察表（1）…… 241
第55表　弥生時代土器観察表（2）…… 242
第56表　弥生時代土器観察表（3）…… 243
第57表　弥生時代土器観察表（4）…… 244
第58表　弥生時代土器観察表（5）…… 245
第59表　古墳時代遺構内土器観察表…… 246
第60表　古墳時代遺構内石器観察表…… 246
第61表　古墳時代土器観察表（1）…… 246
第62表　古墳時代土器観察表（2）…… 247
第63表　古墳時代土器観察表（3）…… 248
第64表　古代・中世遺構内遺物観察表…… 249
第65表　古代土器観察表（1）…… 250
第66表　古代土器観察表（2）…… 251
第67表　古代土器観察表（3）…… 252
第68表　中世土器観察表（1）…… 252
第69表　中世土器観察表（2）…… 253
第70表　中世磁器観察表…… 254
第71表　中世土製品観察表…… 254
第72表　中世石製品観察表…… 254
第73表　近世陶磁器観察表…… 255
第74表　近世陶製品観察表…… 255
第75表　近世銭貨観察表…… 255

第Ⅵ章　弥生時代の調査

弥生時代の調査は層の堆積に安定性を欠くためⅡ～Ⅴ層にかけて土器を中心に石器等の遺物の出土が見られたが，中心となる包含層はⅢa・Ⅲb層で，遺構はⅢb層で検出されている。確認された遺構は竪穴住居跡４軒と貝溜り土坑１基である。

第１節　遺構

１　竪穴住居跡（第１図）

調査区内で４軒検出された。検出区域はある程度まとまっており，Ｅ～Ｈ－ 30～34区で確認された。

１号住居跡（第２・３図）

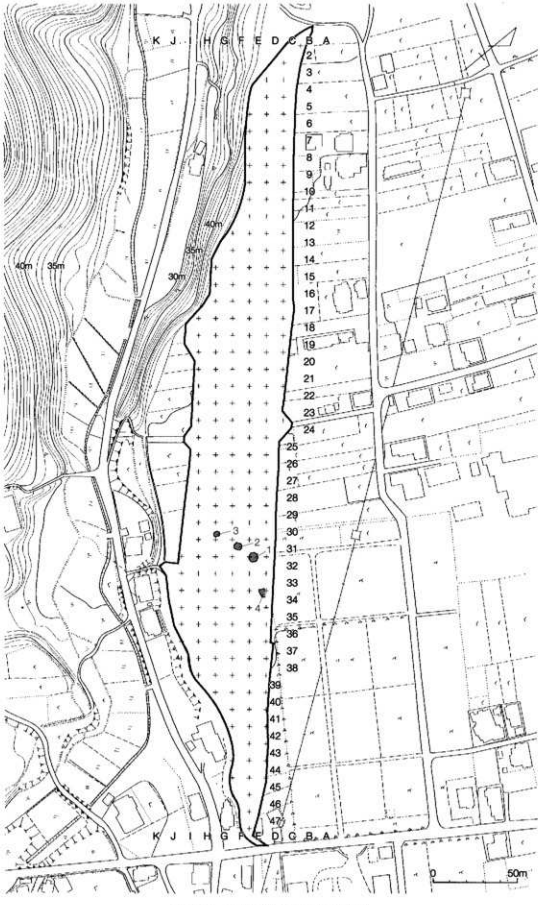
Ｅ－ 31・32区のⅢb層で検出された。長軸5.5m短軸5.3mの円形に近いプランで，４軒検出された竪穴住居跡のなかで最も面積が広い。検出面からほぼフラットな床面まで約40～46cmを測る。床面にピットが10基検出された。主柱穴ははっきりしないが，ほぼ中央部に深さ約25cmのＰ１があり，周辺にＰ２とＰ３がある。Ｐ３は検出面より65cmの深さを測る。その他のピット７基は壁際に位置する。埋土は細かい軽石が混ざる暗茶褐色土の単一層で細かい粒子で粘性が見られず，鬼界カルデラ起源の通称アカホヤ火山灰の腐植土と考えられる。

１号住居跡出土遺物（第４～７図）

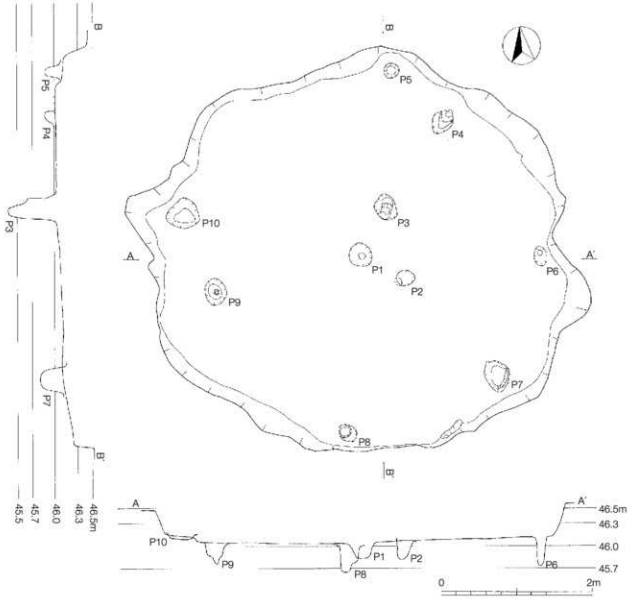
１～16は甕形土器である。１は完形に復元できた資料である。口唇部外面に小振りな刻目のある断面三角形の突帯を貼り付ける。胴部はやや丸みをおび，外面に概ね縦方向のハケメ調整を施す。２～５・12は口唇部外側に断面が台形の突帯を貼り付け，胴部は緩やかに張る。突帯の先端は２～４・12は凹んでおり，５は刻目を有する。６・７・10は口唇部外側の突帯が斜上方に傾き，口縁内端部が張り出す。14は緩やかに張る胴部の上位に，断面三角形の摘みあげた絡縄状の突帯を４本貼り付ける。胴部の最大径は突帯の下位で求められる。15・16は脚部である。外面はヘラミガキで仕上げられ，底面は上げ底である。17・18は高坏の口縁部である。共に器壁は薄く丁寧なナデ調整で仕上げる。口縁内端部が強く張り出し，外へ張り出した口唇部が凹む。18の口縁部はやや垂れ下がる。19は広口壺の口縁部である。18の口縁部と同様にやや垂れ下がり，口唇部が凹む。20・21は壺形土器の肩部である。外面は共に丹塗りであり，同一個体であるかもしれない。24・25は安山岩製の石皿である。24は被熱により赤化し，ひび割れが見られる。25は半分近くを欠損する。敲打による疲痕状の凹みを有するので台石として使われていたと考えられる。

２号住居跡（第８・９図）

Ｆ－ 30区のⅢb層で検出された。後世の芋穴と削平により北西と南西側の一部が切られるが，直径が4.2～4.5mの円形に近いプランであると考えられる。検出面から床面まで約10～20cmを測る。床面にピットが５基検出された。Ｐ１～Ｐ４は床面にほぼ四角形に並び主柱穴であると考えられる。これらのピットの検出面からの深さは平均で約74cmである。中央に焼土域があり，その脇にＰ３がある。この形状から床面中央に炉があり，その両脇にピットを有するいわゆる松菊里タイプの住居である可能性が考えられる。埋土は暗茶褐色土の単一層で細かい粒子で粘性が見られず，鬼界カル



第１図　弥生時代住居跡位置図



第２図　弥生時代１号住居跡

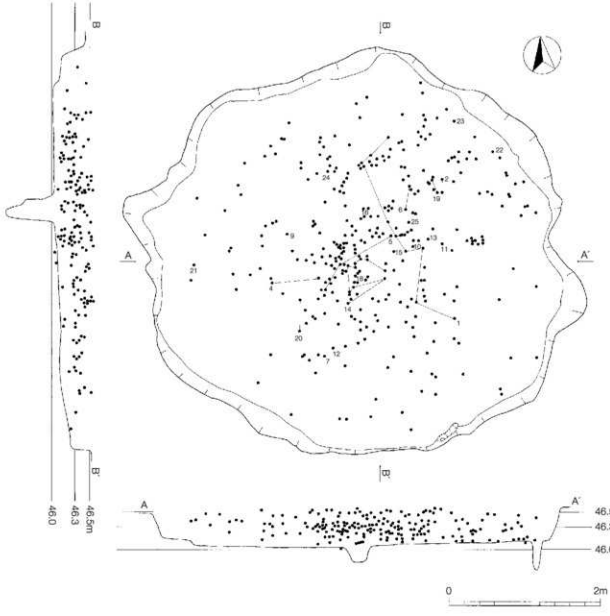
デラ起源の通称アカホヤ火山灰の腐植土と考えられる。２号住居跡の南東側にピットが４基検出されたがこの遺構との関係は不明である。

２号住居跡出土遺物（第10図）

26・27は壺形土器の口縁部である。26は外に張り出した断面台形の突帯の先端が凹む。27は２号住居跡のすぐ横で出土した資料であるが遺構内遺物として掲載した。口縁部上面には管状の工具で刺突した連点文を有し，在地の壺形土器にはあまり見られないものである。28は壺形土器の底部である。外面はヘラミガキで調整される。内面は痕状の剥離が見られる。

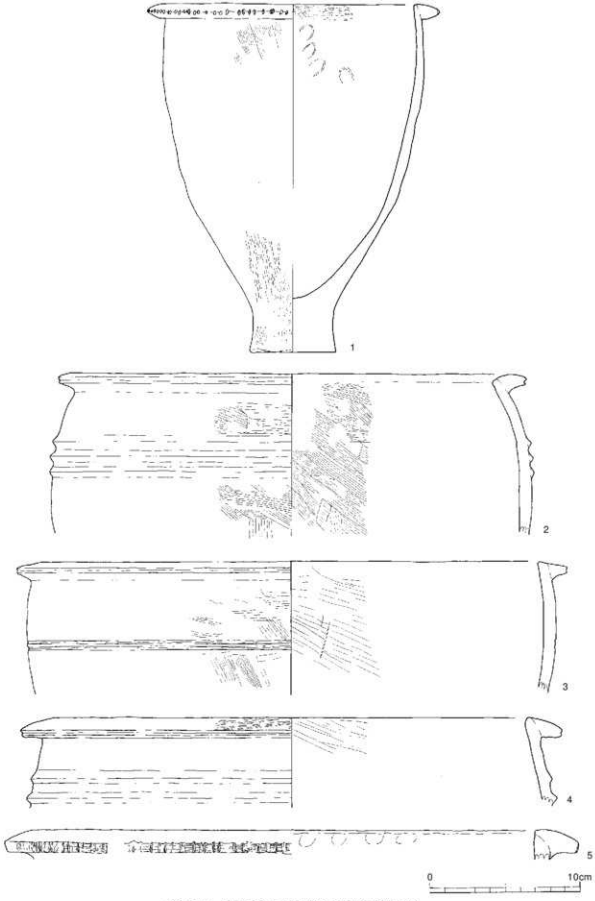
３号住居跡（第11・12図）

Ｇ・Ｈ－30区のⅢb層で検出された。後世の芋穴により南西側の一部が切られるが，直径が3.3～

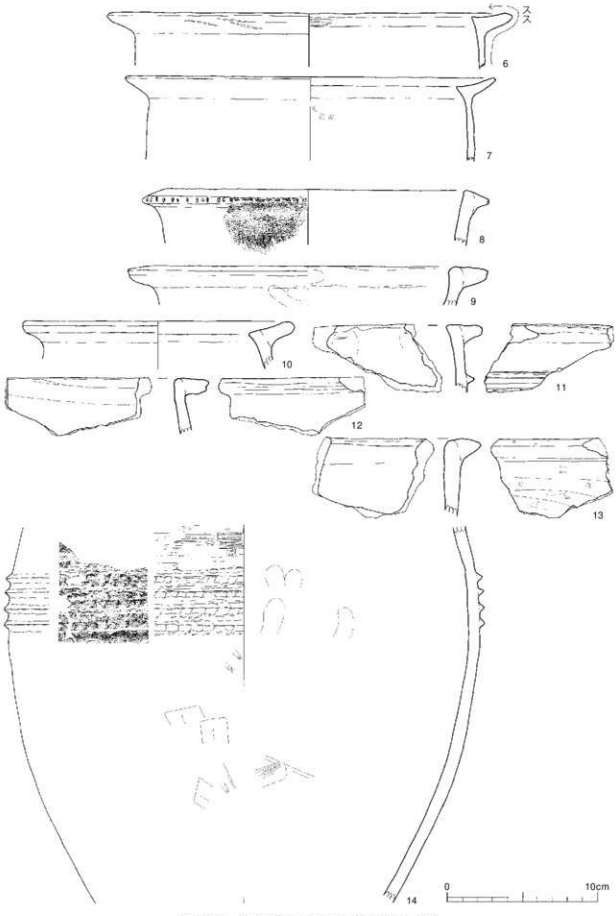


第３図　弥生時代１号住居跡遺物出土状況

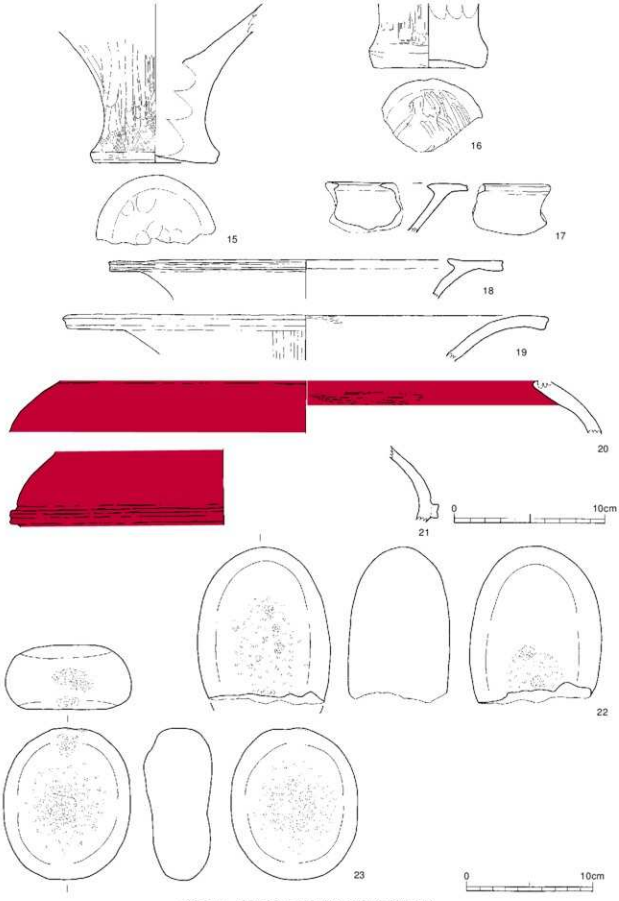
3.5mの円形に近いプランであると考えられる。検出面から床面まで約20～25cmを測る。床面にピットが９基検出された。主柱穴ははっきりしないが，床面のほぼ中央部に深さ約50cmのＰ２があり，その北西方向に焼土域が隣接する。この形状から２号住居跡と同様に松菊里タイプの住居である可能性が考えられる。このＰ２と焼土域の北側には硬化面が囲むように広がる。他の８基のピットは南東側床面を除く周囲に位置する。埋土は暗茶褐色土の単一層で細かい粒子で粘性が見られず，鬼界カルデラ起源の通称アカホヤ火山灰の腐植土と考えられる。また本遺構は周囲を取り囲むように18基のピットがあるという特徴がある。垂木用のピットであると考えられるが，深さは18～120cmと様々である。いくつかは樹根の可能性も排除できないが，他の住居跡の周囲には見られないことから，本遺構の性格や機能，あるいは時期の差として捉えることができるかもしれない。



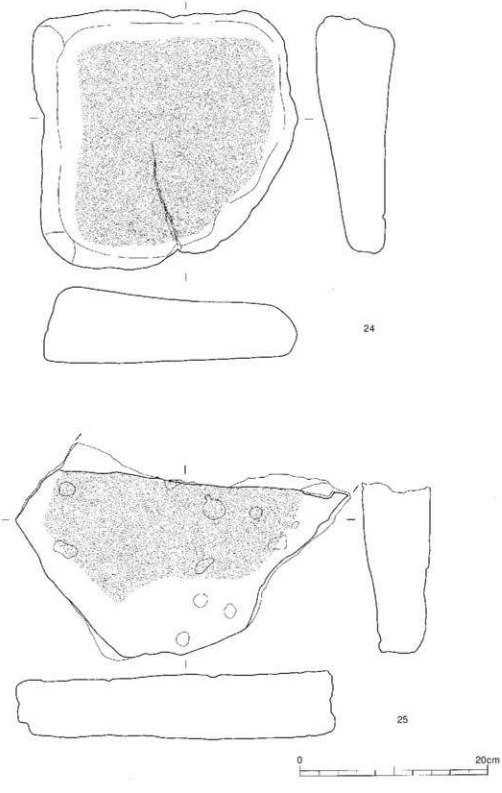
第４図　弥生時代１号住居跡内遺物（１）



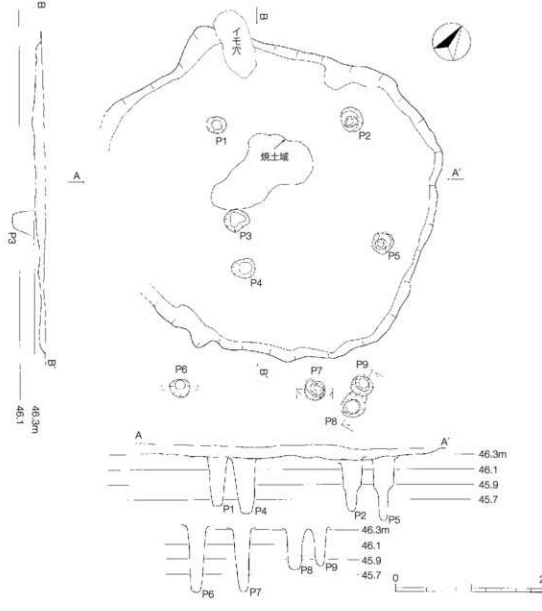
第５図　弥生時代１号住居跡内遺物（２）



第６図　弥生時代１号住居跡内遺物（３）



第７図　弥生時代１号住居跡内遺物（４）



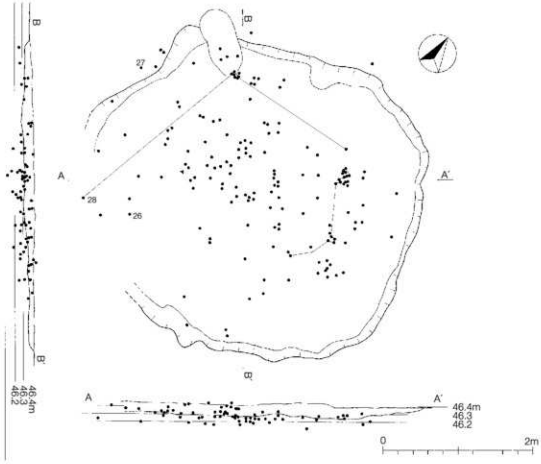
第８図　弥生時代２号住居跡

３号住居跡出土遺物（第13・14図）

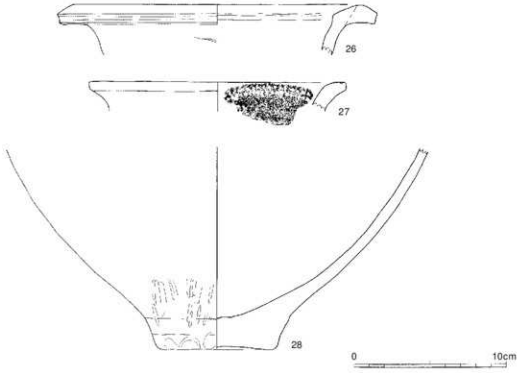
29～35は甕形土器である。29・31・34は僅かに垂れ下がる断面台形の突帯の先端に刻み目を有する。29・34は胴部上位に沈線が施され，31は刻目突帯を２条有する。30・32は口縁部の断面台形の突帯の先端が凹み，胴部上位に断面三角形の突帯を１条有する。37は３号住居跡の北側に位置するＰ17より出土した資料で頁岩製の磨製石鏃である。表裏面共に主に斜め方向に丁寧に研磨されており，断面はレンズ状を呈する。基部は縦方向の研磨により浅い抉りが見られる。

４号住居跡（第15図）

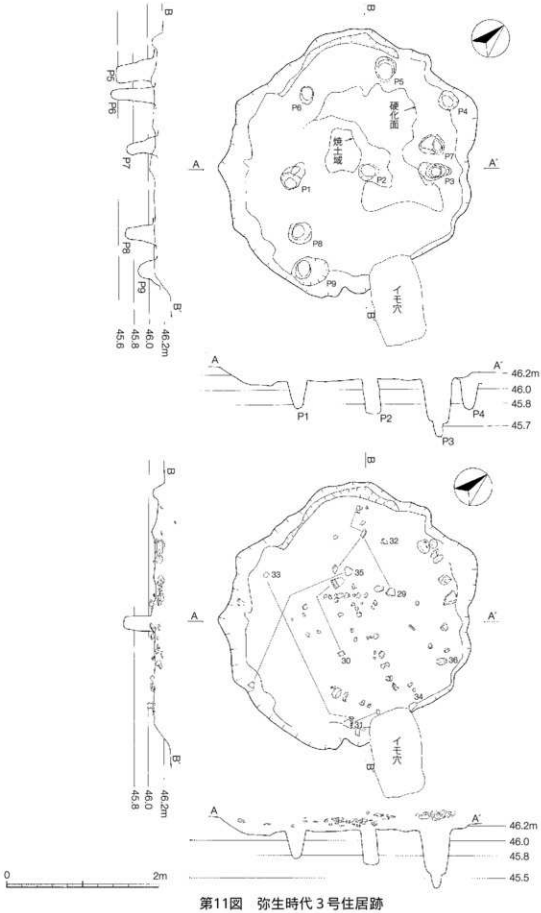
Ｅ－ 33・34区のⅢb層で検出された。４軒のなかで最も東側に位置するのが本遺構である。後世の撹乱により北西部分と北東部分が切られるが，長軸3.8m短軸3.4mのほぼ方形に近いプランであり，円形に近いプランである他の３軒とは様相が異なるがこれは本遺構の性格や機能，あるいは時



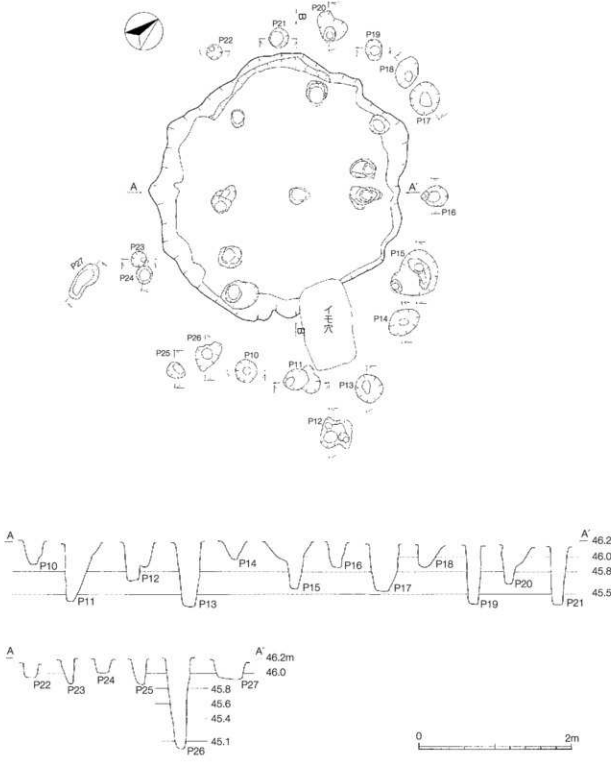
第９図　弥生時代２号住居跡遺物出土状況



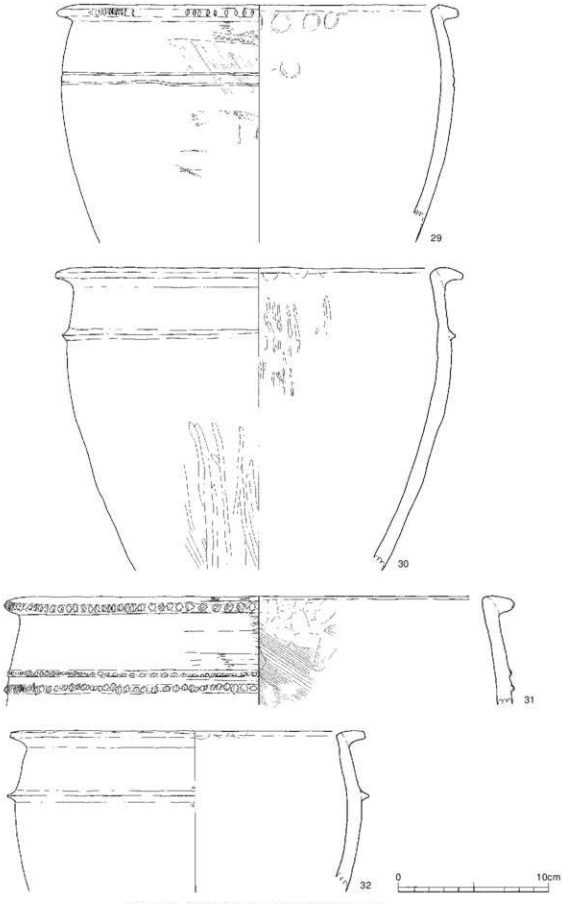
第10図　弥生時代２号住居跡内遺物



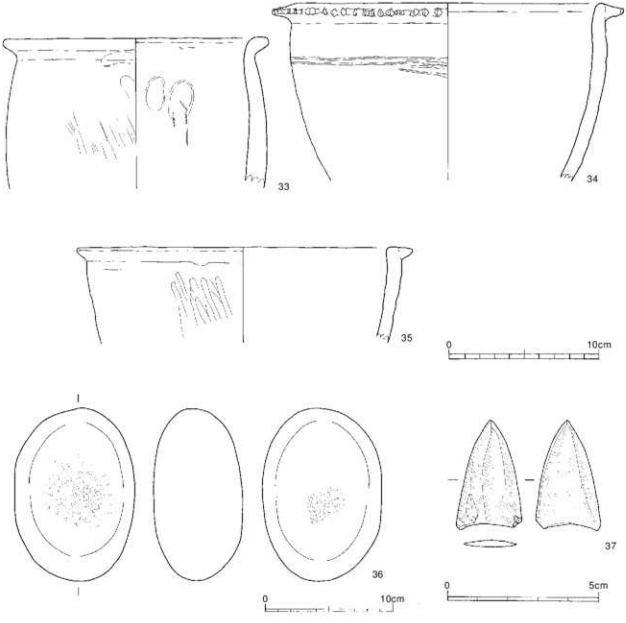
第11図　弥生時代３号住居跡



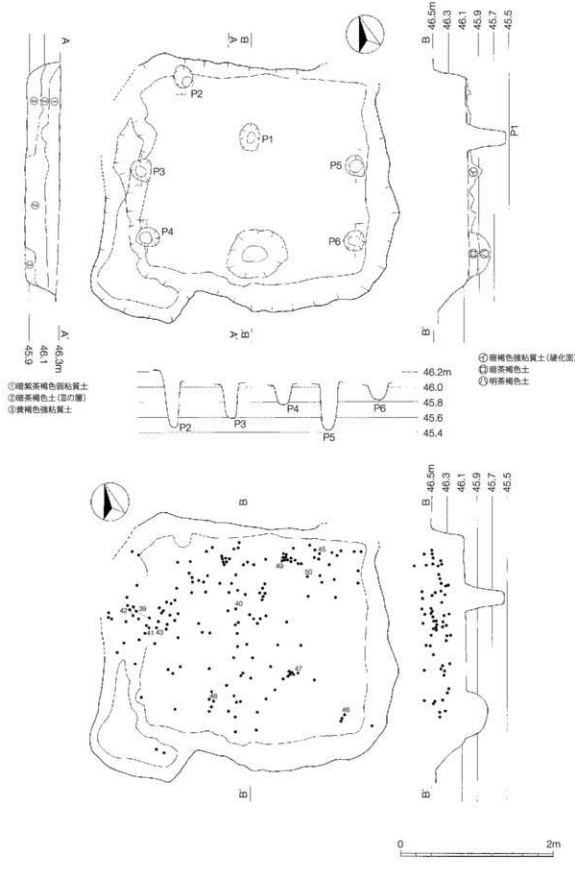
第12図　弥生時代３号住居跡周辺ピット



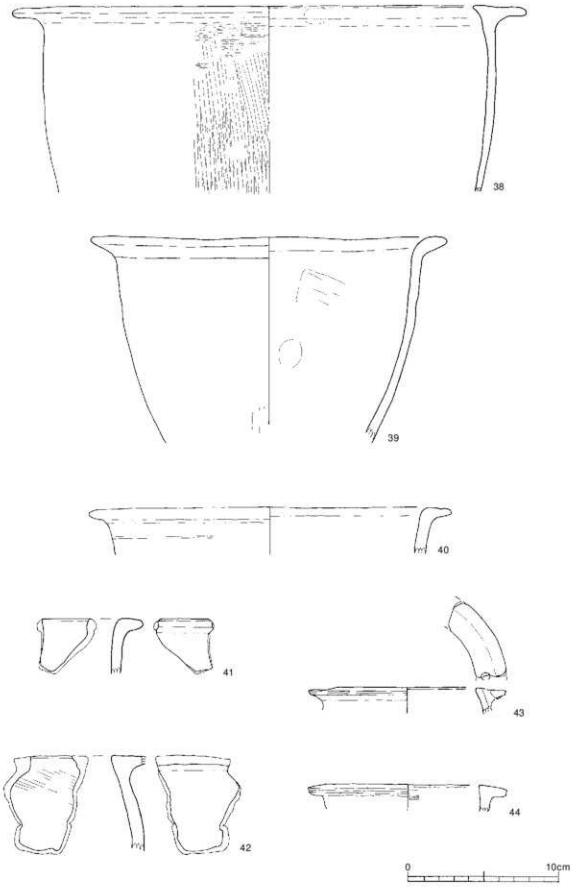
第13図　弥生時代３号住居跡内遺物（１）



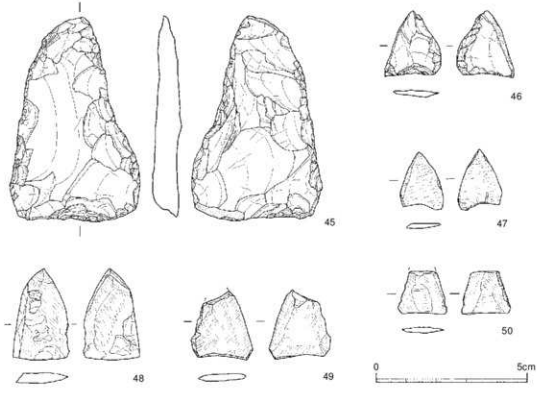
第14図　弥生時代３号住居跡内遺物（２）



第15図　弥生時代４号住居跡



第16図　弥生時代４号住居跡内遺物（１）

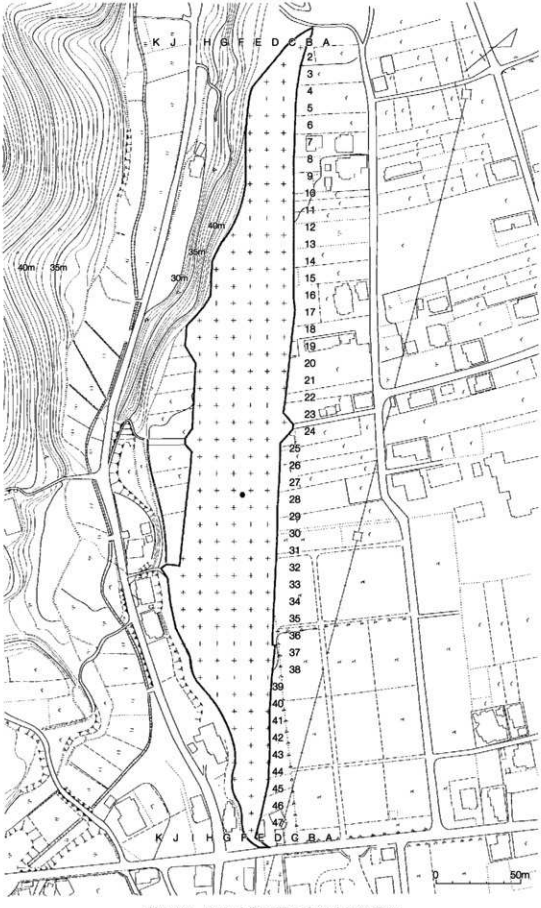


第17図　弥生時代４号住居跡内遺物（２）

期の差として捉えることができるかもしれない。検出面から床面まで約45～50cmを測り，床面はほぼ全面で硬化している。これは当時の生活面であると考えられる。南西側と西側に２箇所張り出し部を有すると考えられるが後世の撹乱により形状は不明である。床面にピット６基と土坑１基が検出された。Ｐ１以外のピットはいずれも壁際に位置する。特にＰ３～Ｐ６は東西の壁際に対比して位置するため，柱穴であると考えられる。土坑は南側に位置し，長軸80cm短軸64cm深さ28cmである。詳しい用途については不明であるが貯蔵の可能性も考えられる。住居跡内の埋土は４層に分かれ，概ねレンズ状の堆積を見る。

４号住居跡出土遺物（第16・17図）

38～44は穂形土器である。38は口唇部外側の突帯が逆Ｌ字状を呈し，口縁内端部が尖り気味に突出する。器壁は薄く外面は顕著なハケメ調整が施される。43・44は口径が11cm未満の小型の甕で，突帯の先端が凹む。43は口縁部に穿孔がある。45・46は磨製石鏃の未製品である。剥離で縁辺調整をおこなっている。47～50は磨製石鏃である。45～49は赤色頁岩製で50は頁岩製である。46の左側面は研磨で成形され，右側面と下面は剥離で成形される。48は平基である。49・50は先端部を欠損している。



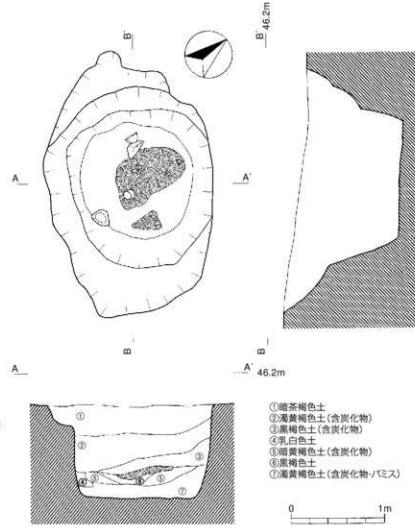
第18図　弥生時代貝層を含む土坑位置図

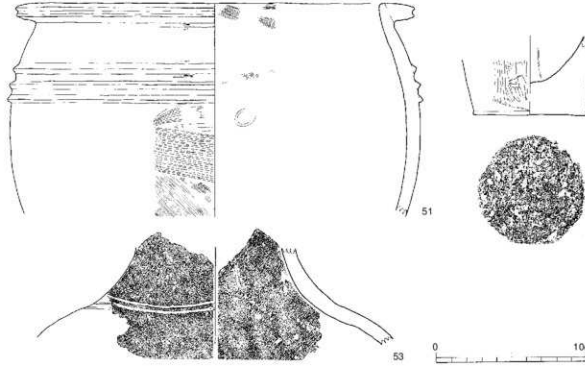
2　貝層を含む土坑（第19図）

F－28区のⅢb層で検出された。2.8×1.8mの長円形の掘込みで，検出面からの深さは約1mを測る。二段掘りになっており，床面はほぼフラットである。床面から20～30cmの高さに貝層があり，貝殻約13.6kgが検出された。貝層の上面に弥生時代の甕（51・52）と壺（53）が出土したため弥生時代の遺構として掲載した。

下記の4科5種が確認された。

ウミニナ科クロヘタナリ
タマガイ科ソメワケツメタ
イガイ科シロインコガイ
マルスダレガイ科イオウハマグリ
イタボガキ科ノコギリガキ





第19図　貝層を含む土坑及び遺構内遺物

第２節　遺物

主な包含層はⅢa・Ⅲb層である。礫石器等は明確な時代の特定は困難であったため，別章で類別に掲載しているので，ここでは土器の掲載に留めたい。分布状況は調査区東側で比較的多く出土している。器種は甕形土器，鉢形土器，壺形土器，高坏で，小片で器種不明のものが数点見られた。

甕形土器（第21図54～38図199）

甕形土器の全体形状が不明のものが多いが，口縁部の形状で分類を行い１～10類に分類した。

１類（第21図）

胴部上位が「く」の字状に内側に屈曲する。口唇部からわずかに下がったところと屈曲部に刻目の入った断面三角形の突帯を貼り付ける。屈曲部に突帯を有しないものもある。

55の器壁は内外面共に剥落している。56の突帯は横に大きく張り出す。58は屈曲部に突帯を有しない。60は丁寧なナデを行い，口縁部はわずかに外反する。

２類（第22図～第25図）

胴部上位が「く」の字状に内側に屈曲する。口唇部の外側と胴部の屈曲部付近に刻目の入った断面三角形の突帯を貼り付ける。比較的大振りの刻目を有するものをＡ類。小振りな刻目または刻目を有しないものをＢ類とした。胴部に沈線紋を有するものや，口縁部や胴部に数条の刻目突帯を有するものもある。

２－　Ａ類（第22図～第24図）

62の胴部上位には煤が付着する。63の内面器壁は痘痕状に剥落する。61と63は同一個体の可能性がある。64の口縁部は外反する。65の口縁部は波状になる可能性がある。68の突帯は特に上向きで，胴部は屈曲が無く緩やかに張るものである。70と71の外面には数条の沈線が山形や斜位に施される。72は口縁部に２条の刻目突帯を有する。73～75の全体形状は明らかでないが，胴部に数条の刻目突帯を有する。

２－　Ｂ類（第25図）

76～80は刻目のない断面三角形の突帯を口縁部に有する。77の口唇部の突帯は貼り付けずに摘みだしたものである。81と82の口縁部は外反し，口唇部に沈線を有する。

３類（第26図～第29図）

胴部はあまり張らずに底部に向かって砲弾形にすぼまるものや，緩やかに膨らむものがある。口唇部の外側と胴部に刻目の入った断面三角形の突帯を貼り付ける。口縁部内に弱い張り出しを有するものもある。

84～86は口唇部に丁寧なナデを施し，平坦にしている。88と89は口縁部から底部に向かってすぼまる形状を呈し，胴部には突帯を施さない。98は未貫通の補修孔と貫通した補修孔を有する。107～109は摘みだした突帯を有し，口縁部内面に弱い張り出し部を有する。他のⅢ類土器と時期差があるのかもしれない。111は胴部に張りが無く砲弾形を呈すると考えられる器形である。痘痕状に内面器壁が剥落する。

４類（第30図～第32図）

口縁部は外側に緩やかに外反する。断面は如意形を呈し，刻目を有する。胴部はあまり張らずに底部に向かって砲弾形にすぼまるものや，緩やかに膨らむものがある。胴部に刻目の入った断面三

第20図　弥生土器出土状況

角形の突帯を貼り付けるものもある。115は小さい刻目を密に施す。118は外面に指頭痕が明瞭に残る。125・126・137の外面は器面調整用の工具痕が残る。

5類（第33図～第35図）

口唇部外側に断面が三角形あるいは台形の突帯を貼り付ける。突帯の先端に刻目を施すものと凹んでいるものがある。胴部は緩やかに張り，沈線や刻目突帯を有するものがある。口唇部外側の突帯が水平に外反しているものをA類。下方に向かってやや垂れ下がっているものをB類とした。

5－ A類（第33図～第34図152）

140の外面は斜位にハケメ調整痕が残る。142・143の突帯の下面接合部分には指頭痕が明瞭に残る。147は胴部が大きく張る。149の突帯は先端部が凹んでいる。

5－ B類（第34図153～第35図164）

156は疱痕状に内面器壁が剥落する。160は胴部に2本以上の突帯を有する。161・163の突帯の下面接合部分には指頭痕が残る。164は胴部下位が最大径となる。

6類（第35図165・166）

口唇部外側に断面が台形の突帯を貼り付ける。突帯の先端は凹みがある。胴部は緩やかに張り，断面が三角形の小さな突帯を数本貼り付ける。

7類（第35図167）

口唇部外側に厚く断面が概ね三角形の突帯を貼り付ける。胴部は緩やかに張り，断面三角形の摘みあげた絡縄状の突帯を胴部上位に4本貼り付ける。胴部は突帯の下位に最大径を有し，内外面を丁寧にヘラミガキで調整する。

8類（第36図）

口唇部外側の突帯が逆L字状を呈する。突帯が水平に張り出すものとやや垂れ気味に張り出すものがある。口縁内端部が尖り気味に突出する。胎土は精緻で器壁が薄い。

168はやや内側に張り出した平坦な逆L字状の口縁を持つ。口縁外端部は凹んでいる。胴部はあまり張らず，底部に向かってゆるやかにくびれていく。内外面共にハケ目調整が施される。171～173の外端部はやや肥厚する。174～176の口縁外端部はやや垂れる。

9類（第37図177～190）

口唇部外側の突帯が斜上方に傾き，上面がわずかに凹んでいるものも見られる。口縁内端部の張り出しが8類より大きくなる。胎土は精緻で器壁が薄い。内外面共に丁寧なナデ調整で仕上げられる。177の突帯は短く，断面は三角形を呈する。178の断面からは粘土を一旦斜上方に曲げ突帯を形成し，その後口縁内端部の方向に折り返しているのが観察できる。

10類（第37図191～38図199）

口唇部外側に貼り付けた断面楕円の突帯は概ね逆L字状を呈する。胴部はやや丸みを帯び器壁はやや厚めで小形の甕である。口縁部付近が内傾するものもある。

191は口縁部内面に弱い張り出しを持ち，内面には指頭痕が明瞭に残る。196と199は口縁部が内傾する。

鉢形土器（第38図200～204）

出土個数が少なく全体形状は不明であるが台付きのものと台無しのものがあると思われる。5点

を図化した。200は口縁部断面が如意形を呈する。201は胴部上位が「く」の字状に内側に屈曲する。202も同様の形状と考えられる。203は口縁部外面に刻目突帯を有する。204は口縁直径11.2cmを測る小型のものである。

壺形土器（第38図205～40図232）

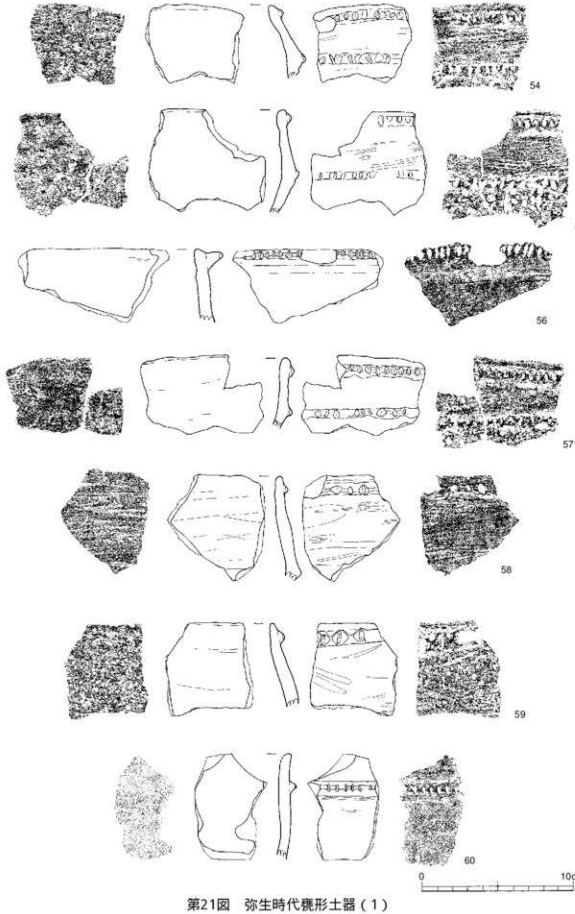
いずれも全体形状は不明である。205，206，208，210～212は頸部からゆるやかに外反する口縁部である。肩が張り安定した底になると考えられる。205の外面と口縁部内面は丹塗りである。208は口縁部が強く反り，頸部に沈線が数条巡る。209は頸部が直に立ち上がり，そこから強く外反し，内面に突帯が二条貼り付けられている。口縁上面には沈線を二本施し，口径は17cmを測る。213は外反する口縁部の内外面に断面三角形の突帯を有し，内外面を丁寧にミガキで調整する大型の壺の口縁部で，口径は36cmを測る。214，215は瘤痕状に内面器壁が剥落する。反転復元できなかったため径が不明であるが，概ね213と同程度になると思われる。209，212，213～215は弥生時代中期の壺である。216～222は肩部である。216～226は沈線が施される資料である。220は二条のヘラ描き沈線の上下に四条～数条のヘラ描き鋸歯文を有する。221は三条のヘラ描き沈線の下位に四条のヘラ描き重弧文を有する。224は二条のヘラ描き沈線の間に竹管様施文具で連点文を施す。228はS字条の沈線を有する。229・231・232は肩部に断面三角形の突帯を巡らす。

高坏形土器（第40図233）

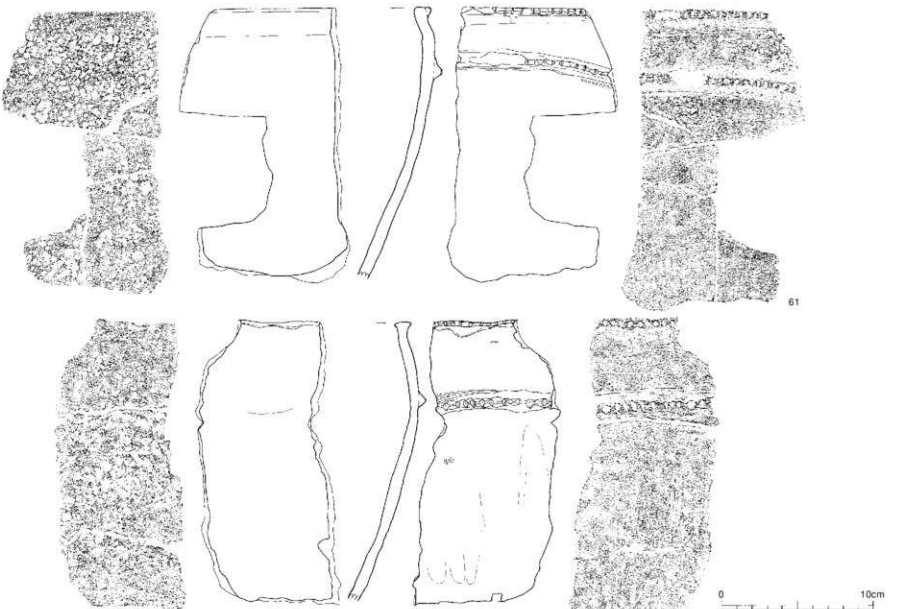
高坏形土器の坏部である。器壁は薄く丁寧なナデ調整で仕上げる。口縁内端部がわずかに張り出し，外へ張り出した口唇部がわずかに凹む。内面に赤色顔料のようなものがみられたが，剥離により詳しく確認できなかった。

底部（第41図～43図）

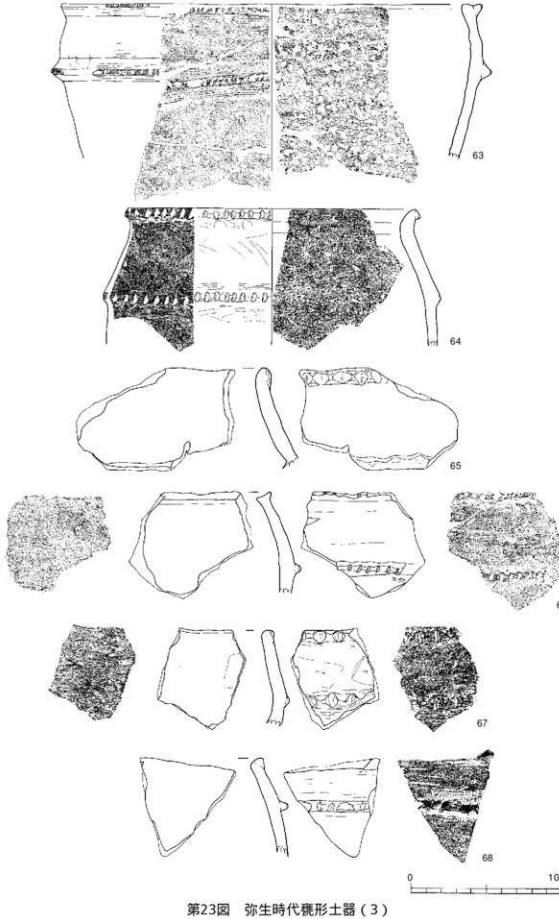
底部は胴部との接合ができなかったため形状により4種類に分類した。234～253は横に張り出した後立ち上がる形状のものである。254～268は張り出し部を持たずにまっすぐに立ち上がり緩やかに開く形状のものである。260～278は充実脚台を有するものである。279～288は横へ大きく開く形状のものである。概ね234～278は甕形土器または鉢形土器，279～288は鉢形土器または壺形土器の底部であるだろうと考えられる。



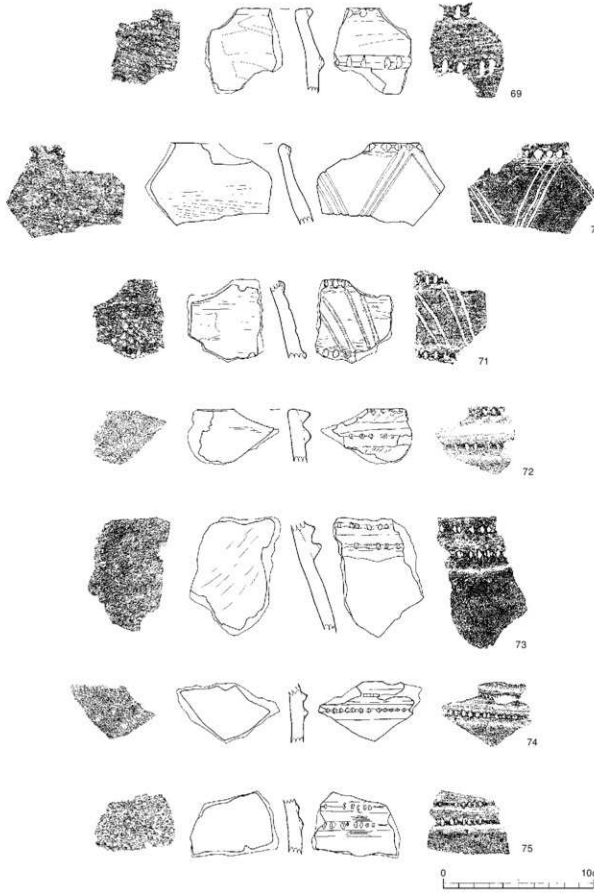
第21図　弥生時代甕形土器（1）



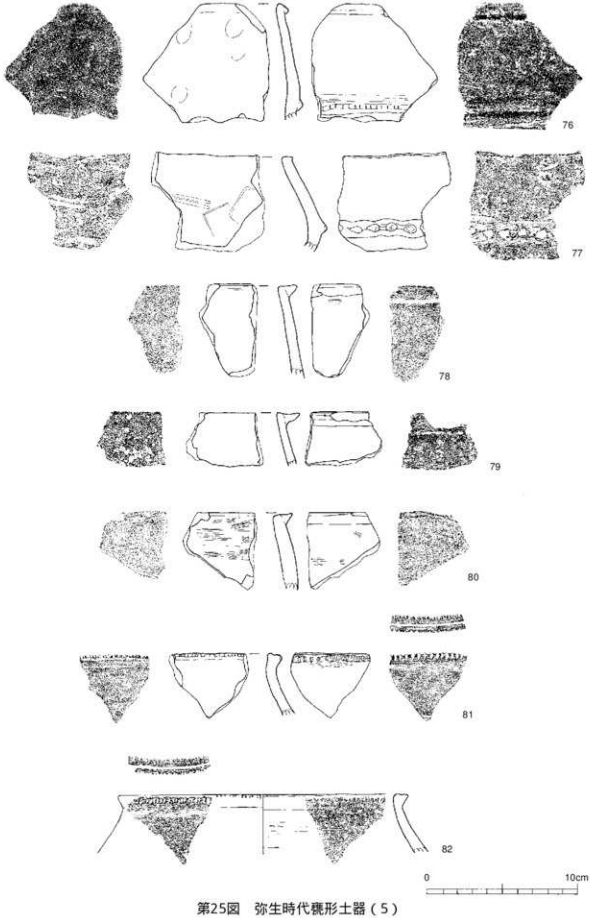
第22図　弥生時代甕形土器（２）



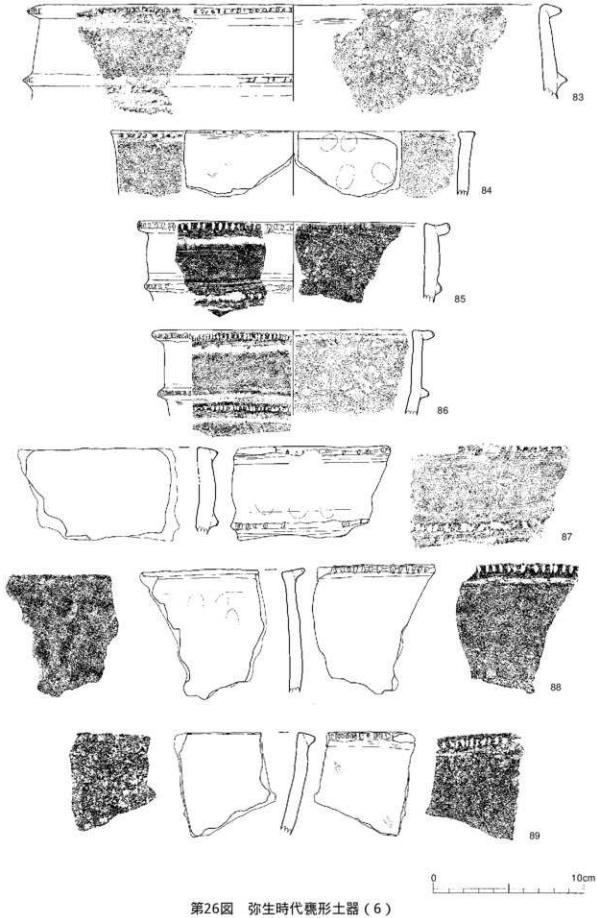
第23図　弥生時代甕形土器（3）



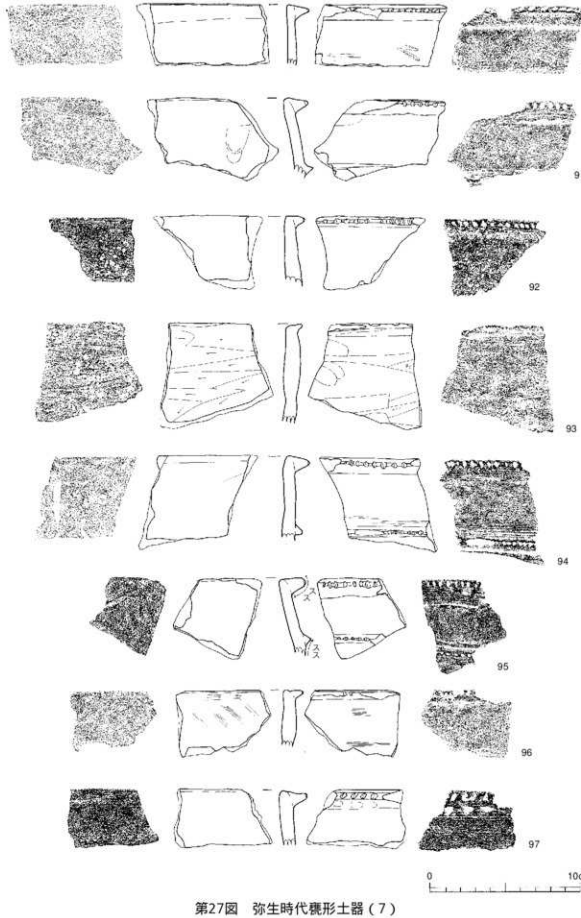
第24図　弥生時代甕形土器（4）



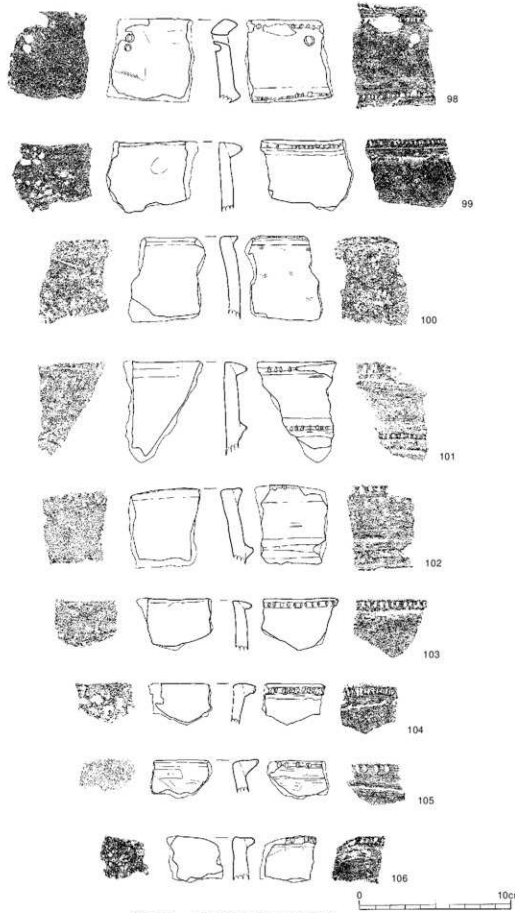
第25図　弥生時代甕形土器（５）



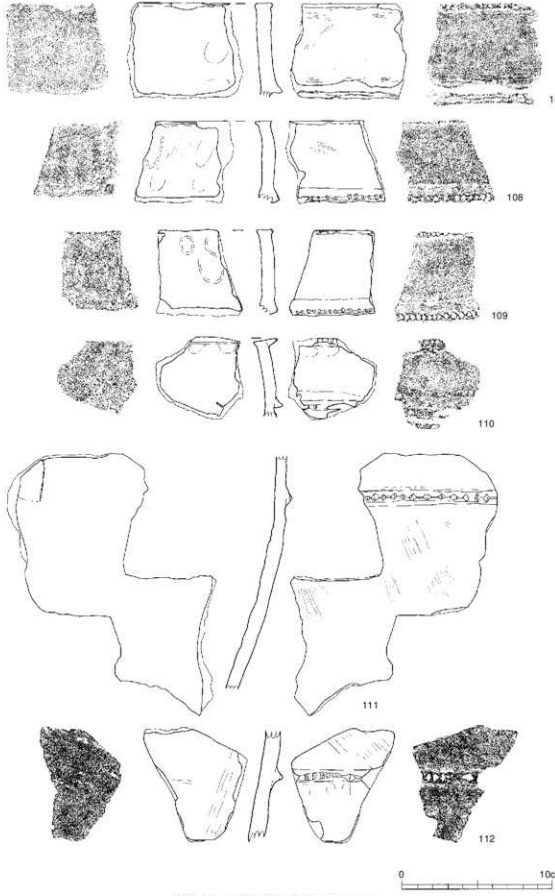
第26図　弥生時代甕形土器（6）



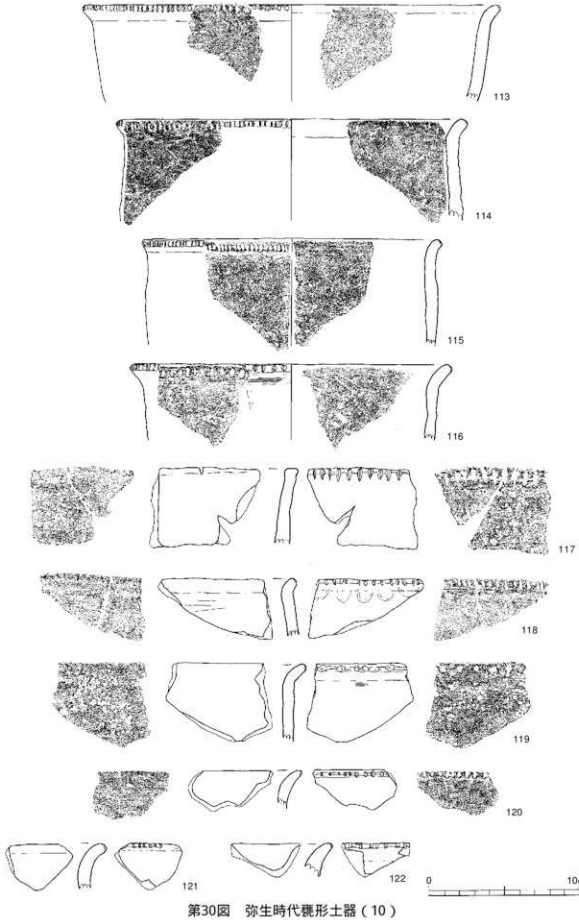
第27図　弥生時代甕形土器（7）



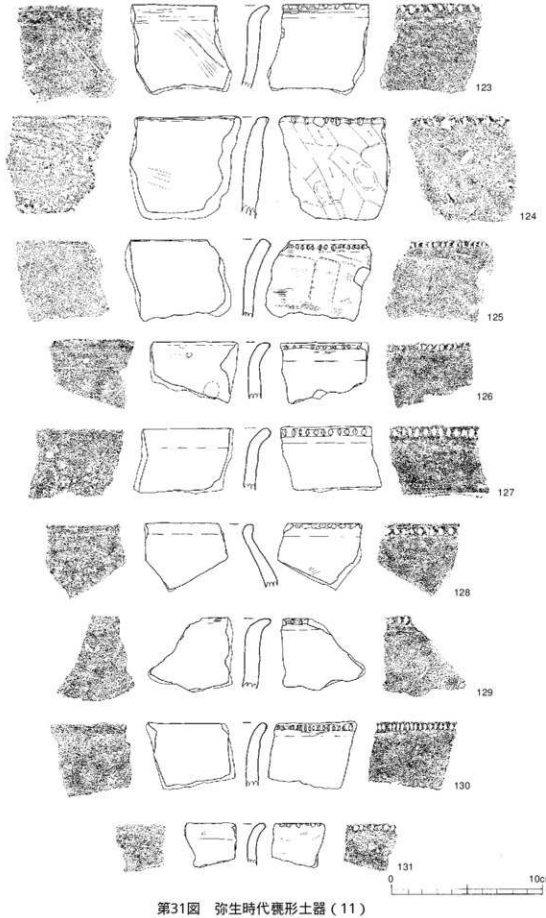
第28図　弥生時代甕形土器（8）



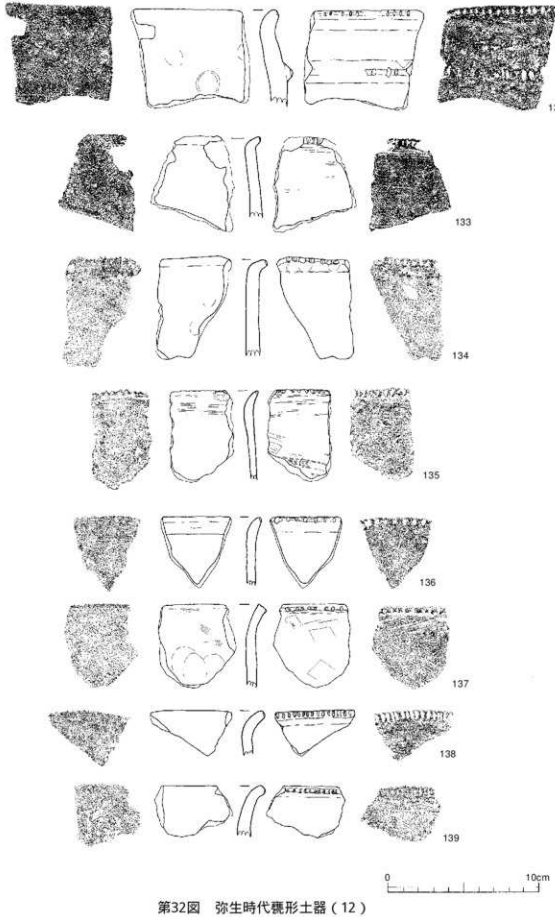
第29図　弥生時代甕形土器（９）



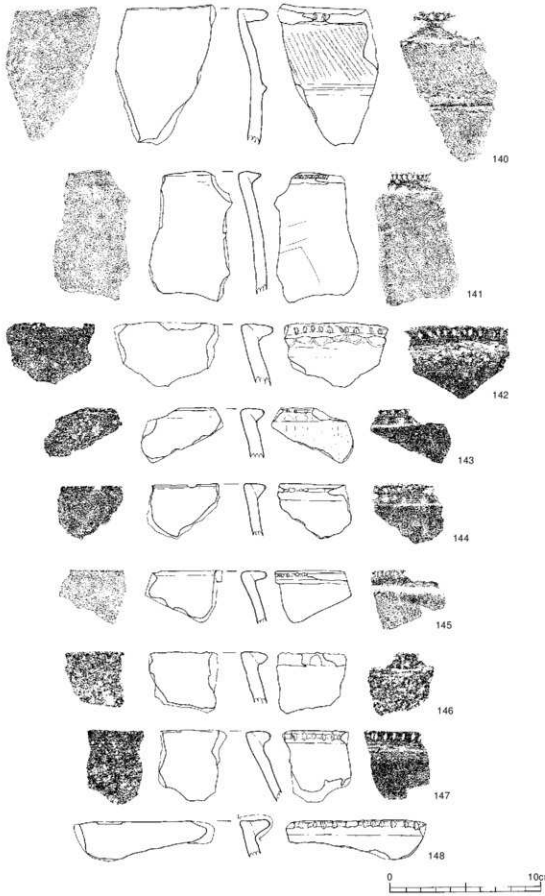
第30図　弥生時代甕形土器（10）



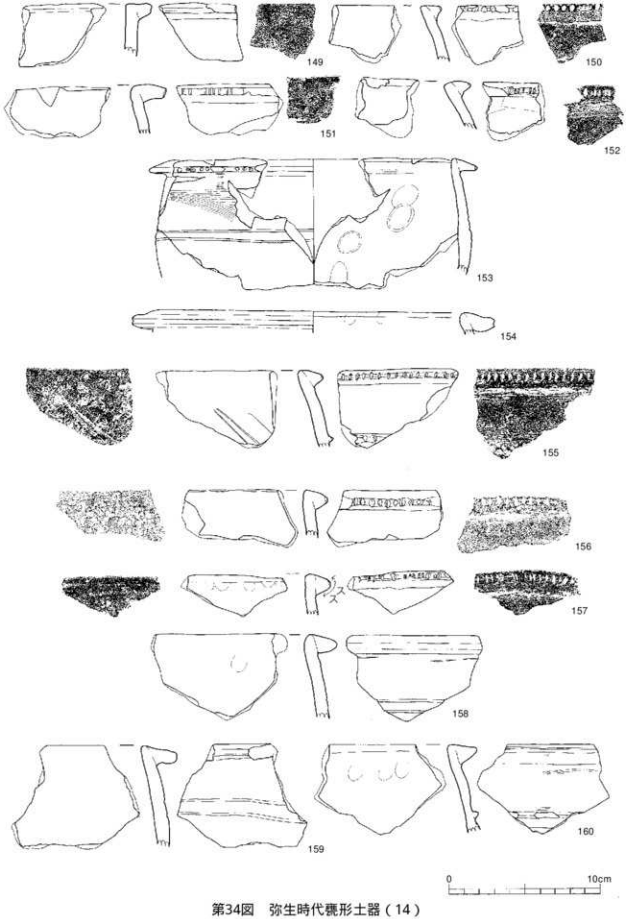
第31図　弥生時代甕形土器（11）



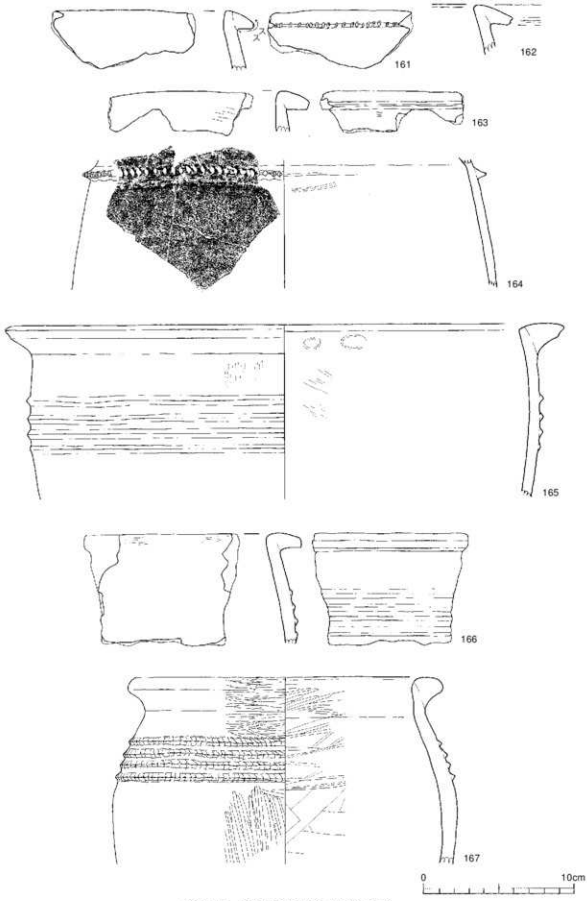
第32図　弥生時代甕形土器（12）



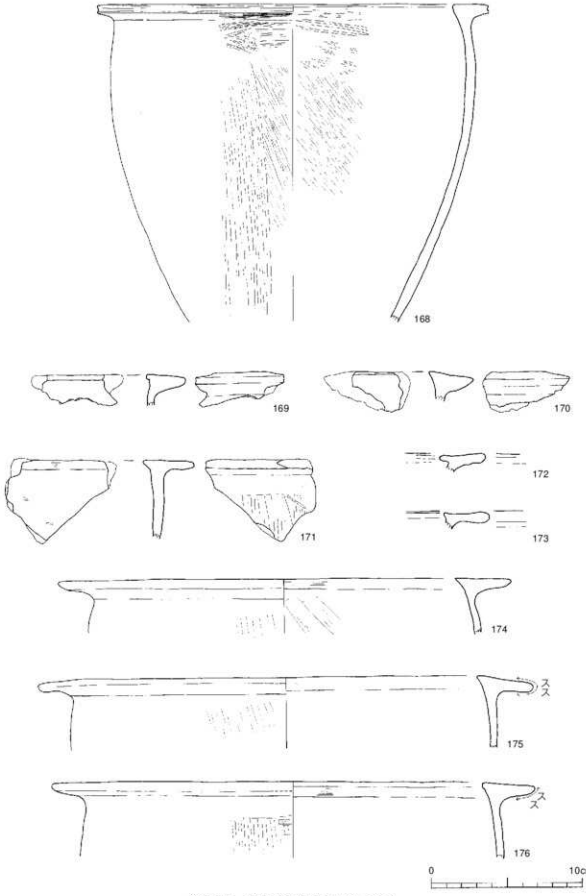
第33図　弥生時代甕形土器（13）



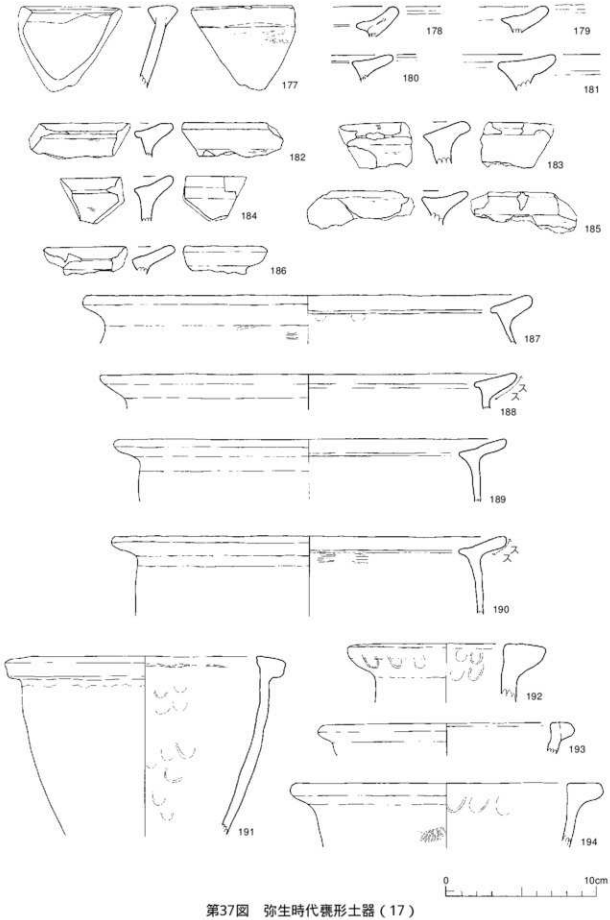
第34図　弥生時代甕形土器（14）



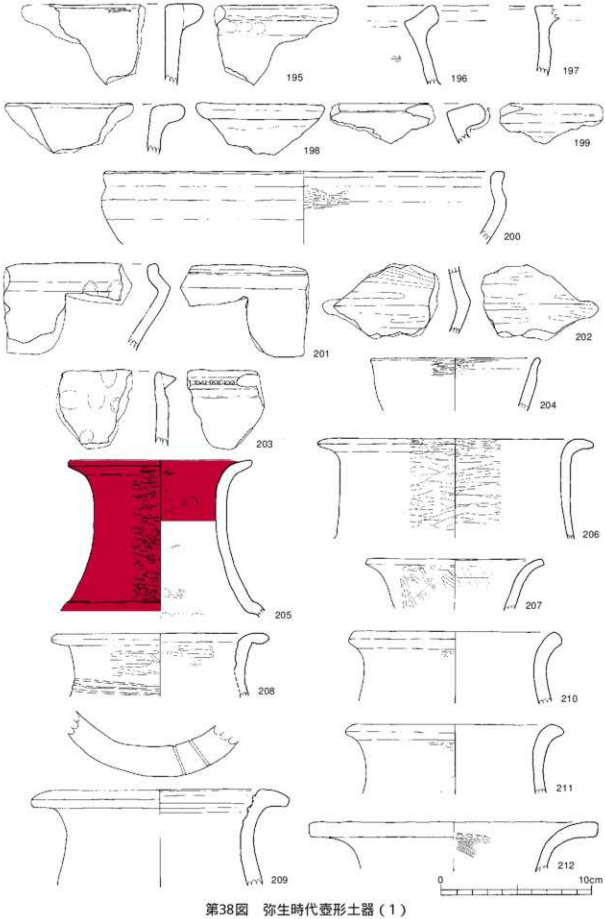
第35図　弥生時代甕形土器（15）



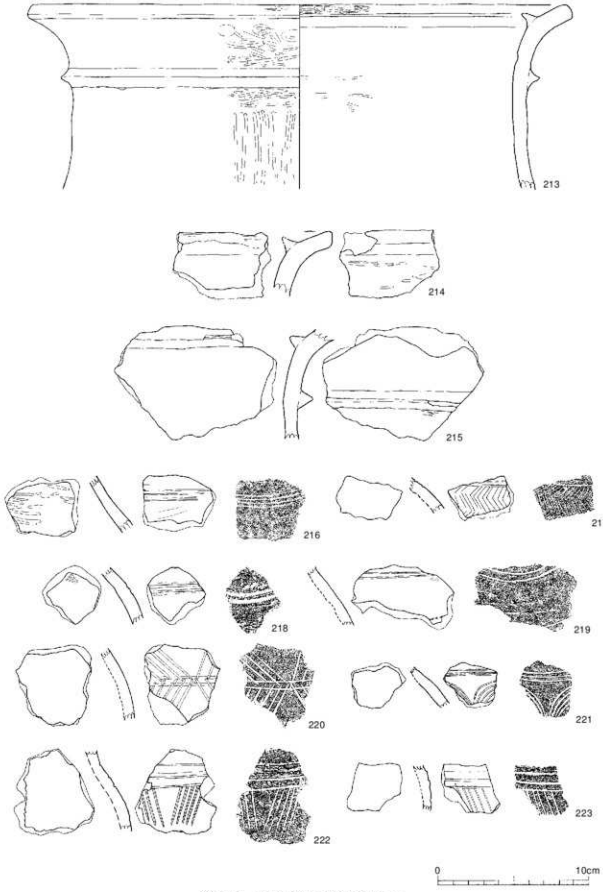
第36図　弥生時代甕形土器（16）



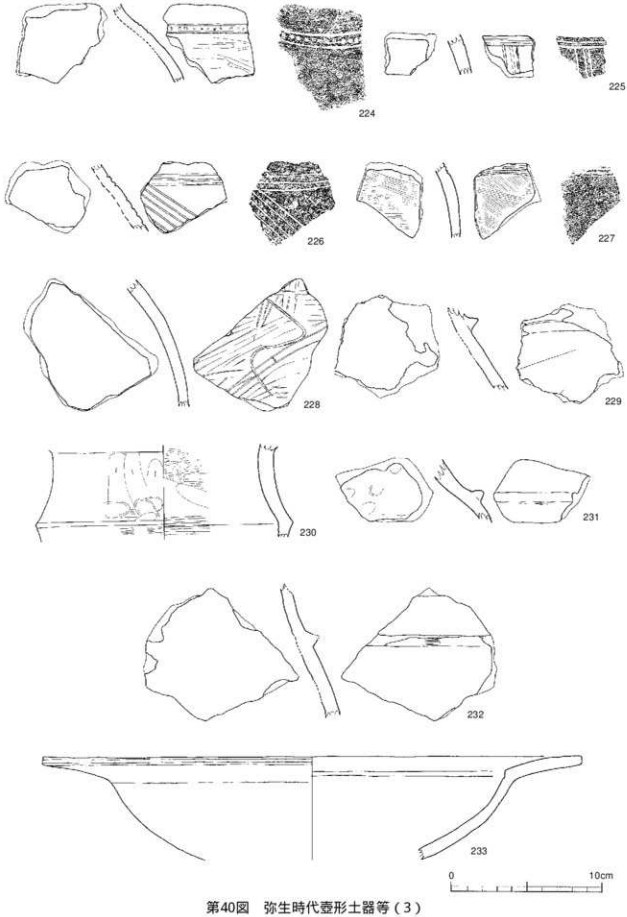
第37図　弥生時代甕形土器（17）



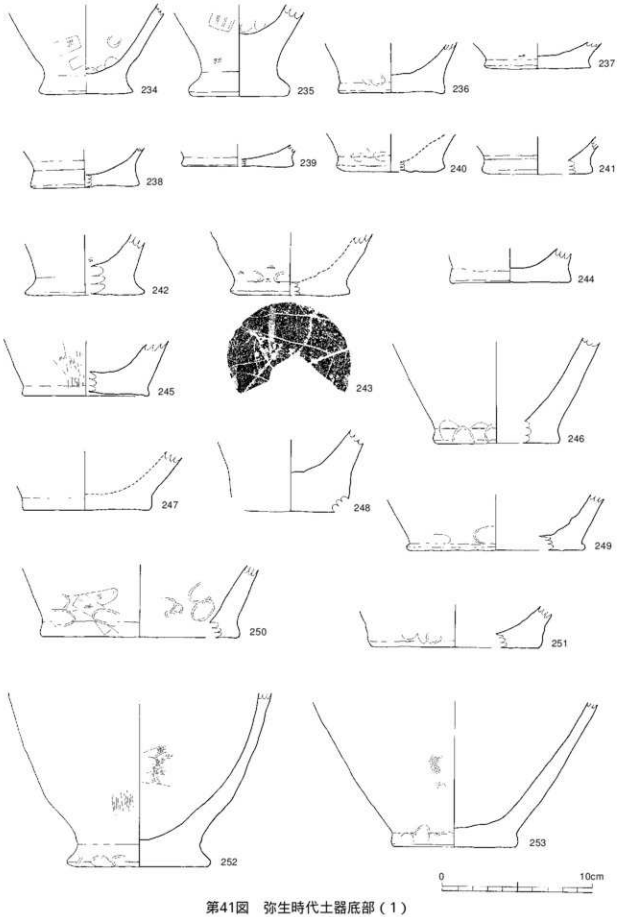
第38図　弥生時代壺形土器（1）



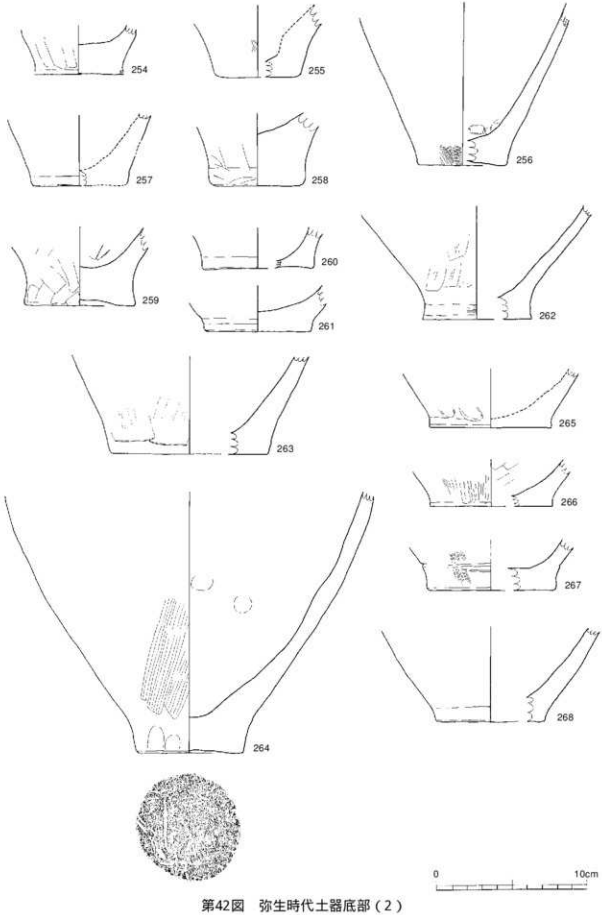
第39図　弥生時代壺形土器（2）



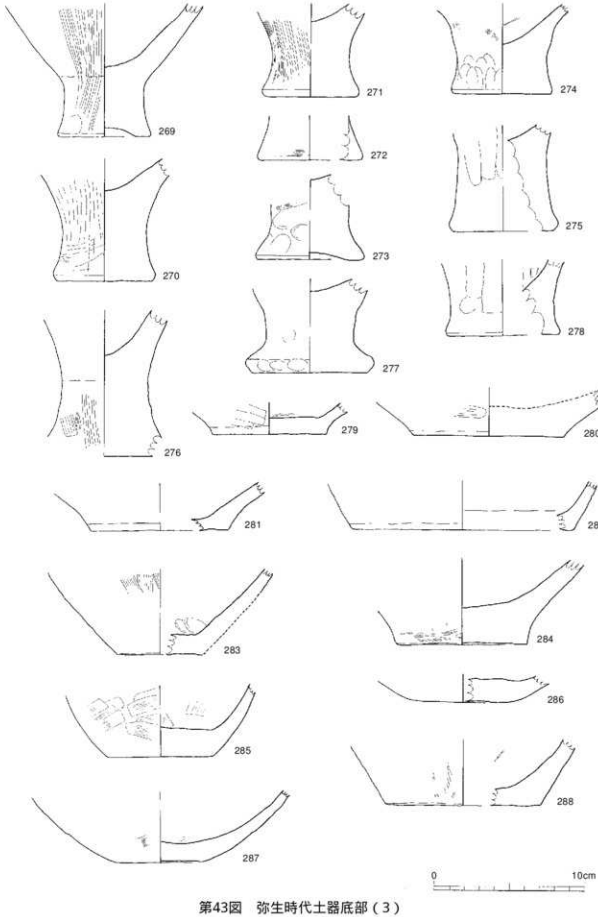
第40図　弥生時代壺形土器等（3）



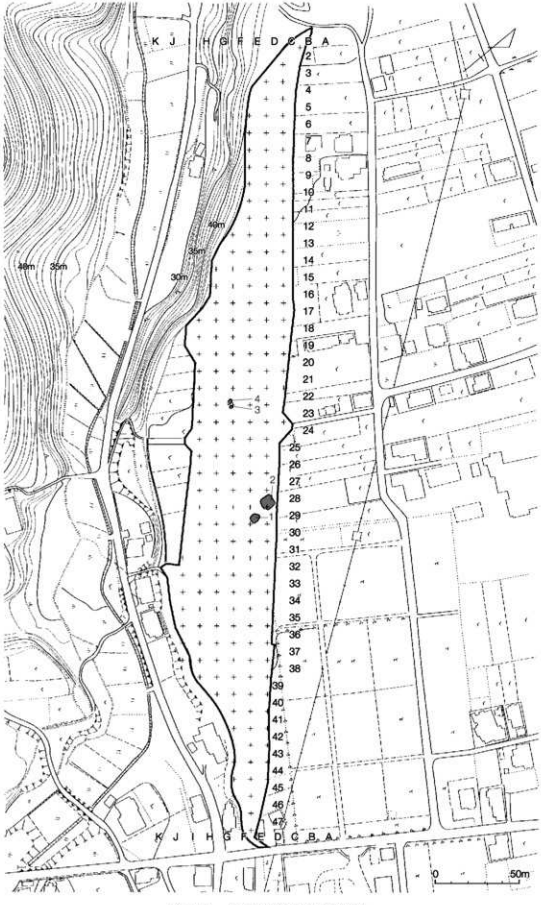
第41図　弥生時代土器底部（1）



第42図　弥生時代土器底部（2）



第43図　弥生時代土器底部（3）



第44図　古墳時代住居跡位置図

第Ⅶ章　古墳時代の調査

古墳時代の調査は層の堆積に安定性を欠くためⅡ～Ⅴ層にかけて土器を中心に石器等の遺物の出土が見られたが，中心となる包含層はⅢa・Ⅲb層で，遺構はⅢb層で検出されている。確認された遺構は竪穴住居跡４軒と貝溜り土坑１基である。

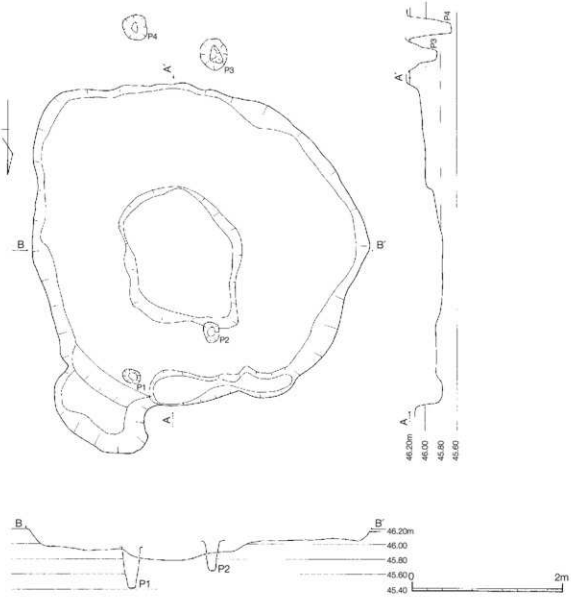
第１節　遺構

１　竪穴住居跡

調査区内で４軒検出された。検出区域はある程度まとまっており，E～H－ 30～34区で確認された。

１号住居跡（第45・46図）

１号住居跡は，４基の住居跡の中では，最も南側に位置するものである。その規模は，長径約



第45図　古墳時代１号住居跡

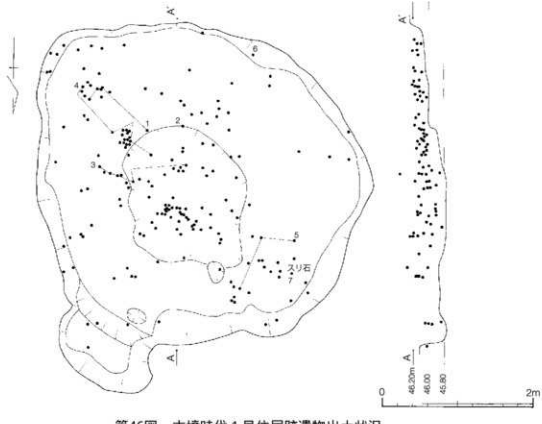
4.8m，短径約４ｍで，形態は円形に近い形をし，北東部に張出しを有するもので，検出面からの深さは最深部で約40cmである。

北東部の張出しは，階段状であり出入り口の可能性のあるものでもある。また，その横には，検出面より約0.4m，床面より約５cmの壁帯溝状の溝が存在する。住居跡の中央部には，長径２ｍ，短径0.8mの楕円形の窪みがあり，その埋土には若干の炭化物が含まれていた。柱穴は，住居跡内に２個，住居外南側に２個検出された。住居内の２個の柱穴については，その埋土等から，住居に関するものであると思われる。外部の２個については後世のものの可能性が強い。

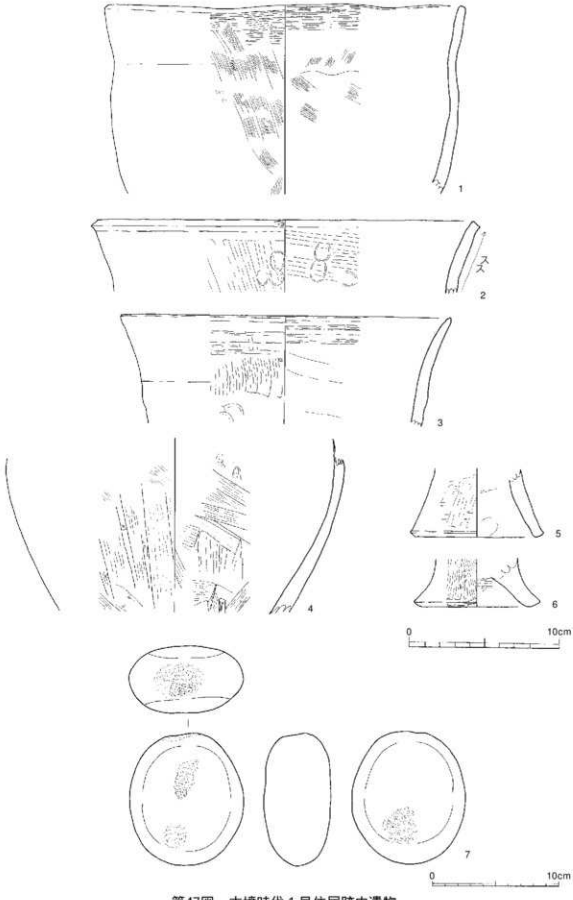
１～７までは，住居跡の埋土から出土した遺物で，床着で住居跡の時期を示す資料は，得られなかったが，住居跡に近い時期の遺物と考えられる。

１は，甕形土器の胴部から口縁部の破片である。復元口縁径が23cm，胴部部がやや張り，頸部で絞まりながら外反する口縁部を持つものである。造りは粗く，器壁の厚さにも差が見られる。調整は，内外共に口縁部が横ナデ，以下は，ハケ後ナデである。２は，外反する甕形土器の口縁部片である。復元口縁部径が26cm，頸部と口縁部の接合面の部分で破損したものと思われることから，頸部径は22cm程度と思われる。調整は内外面ともにハケ及びナデであり，所々に指頭圧痕が観察される。

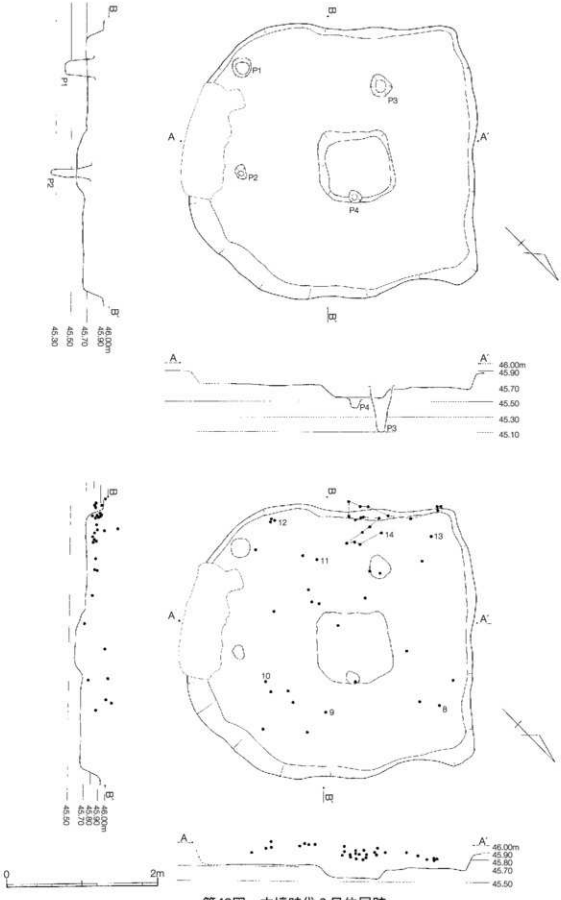
３は，１・２と同様に甕形土器の口縁部の破片である。頸部から外湾しながら口縁端部へと至る。口縁端部は，鋭く収めるものである。調整は外面は頸部から板状工具によるかき上げ及びナデ，内面は口縁部が横ナデ，胴部は斜位のハケ及びナデを主とするものである。４は，甕形土器の胴部片で，造りや調整は粗く，胎土も砂礫などが多い。色調は黒茶褐色である。



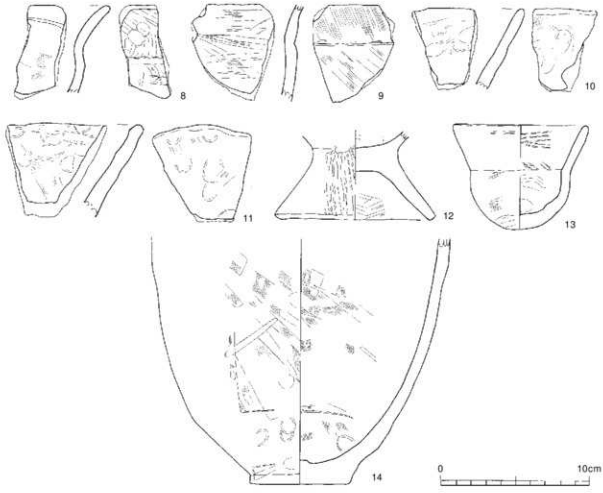
第46図　古墳時代１号住居跡遺物出土状況



第47図　古墳時代１号住居跡内遺物



第48図　古墳時代２号住居跡



第49図　古墳時代２号住居跡内遺物

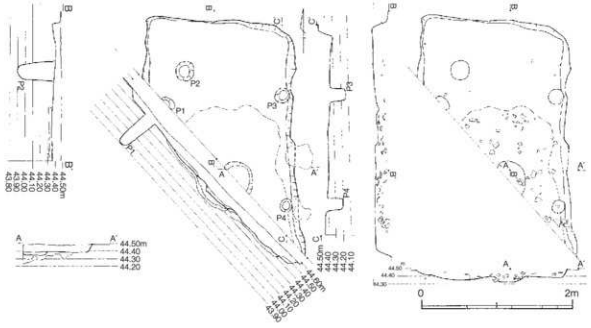
５・６は甕形土器の中空の脚台部分で，調整は両方とも，ハケ及びナデである。７は，敲石で，図の上部はかなり使い込まれている。また，磨石としても用いられていたようである。

２号住居跡（第48図）

２号住居跡は，１号住居跡より北へ10mに位置する。その規模は，長径約42m，短径約４mで，形態は南東部が撹乱を受けているが円形と隅丸方形の中間形態に近い形をしていたものと思われる。検出面からの深さは，平均20㎝，最深部で約40㎝である。住居跡の中央部には，約１mの隅丸方形の窪みがあり，その埋土には１号住居跡同様に若干の炭化物を含んでいた。

柱穴は，住居跡内の南側よりに４個の柱穴が確認された。Ｐ１～Ｐ３は，その深さが約40㎝～60㎝であり，この住居跡に関係があると思われるものである。Ｐ４は，中央の窪みと重なっていることや深さも浅いことから，他の柱穴とは性格を異にするものであると思われる。住居内及びその周辺において，他にも柱穴がないかの精査を行ったが，柱穴は検出されなかった。

８～14は，出土遺物である。遺物の数も少なく，断面図でも分かるように床着の遺物はなかったが，１号住居跡と同様にこの住居跡に近い時期のものであると思われる。８～11は甕形土器の口縁部片である。８は外湾する口縁部で，外面にハケによるかき上げ調整が観察される。９は，胴部上位から口縁部下端にかけての破片で，頸部で屈曲して外反するものである。８と同じように外面に



第50図　古墳時代３号住居跡

は，ハケによるかき上げ調整が観察される。

10は直線的に外反する口縁部片で，内外面に指頭によるナデと指頭圧痕が観察される。11も10とほぼ同様であるが，胎土に多くの砂粒を含み，器壁の厚さも一定でなく，その造りは粗いものである。12は，甕形土器の中空の脚台である。逆「ハ」の字状に張出した脚を有し，内外面にハケによる調整が見られる。底部径は，約10cmである。13は，坩形土器である。胴部は半球状を呈し，頸部から直線的に外反するものである。内外にハケ及びナデによる丁寧な調整が見られ，胎土も他の土器よりも精製された粘土を用いている。また，そのためか色調も明黄色に近いものである。

14は，鉢形土器の胴部から底部にかけての破片である。口縁部の形状については，定かでないが，平底の底部からゆるやかに内湾しながら立ち上がり，口縁部もこのまま内湾気味に収めるものではないかと思われる。造りは，11と同様に粗いもので，色調も胎土によるものであろうか，内外ともに黒褐色を呈する。

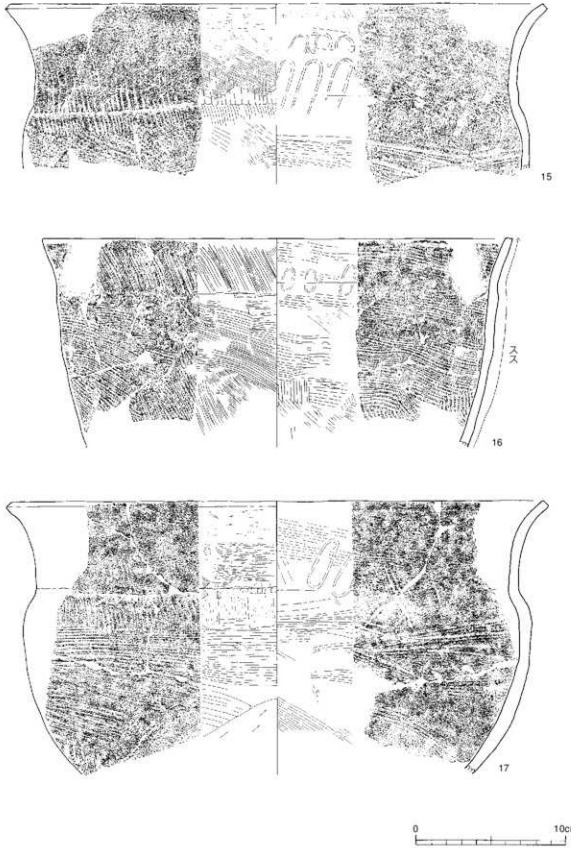
３号住居跡（第50図）

３・４号住居跡は，G－22・23区において，近接して検出されたものである。

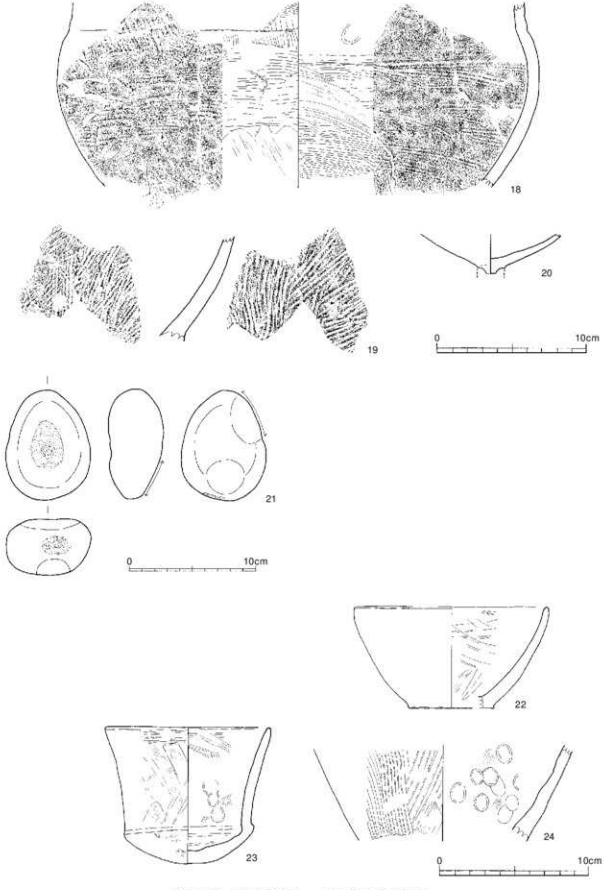
３号住居跡は，ほぼ半分が削平されている。残存部分から推測すると，本来は長軸を南北とし，２×４m程度の方形であったものと考えられる。残存部分からは，西側壁近くに２mの間隔で柱穴が検出された。また，北西部分には西側の柱穴よりもやや大きめのものが２個検出されている。

中央部には，１・２号住居跡と同様に窪みが検出された。図の鎖線部分は，貼床状の硬化面が見られる部分であり，この部分を中心に甕形土器の破片が多く出土した。

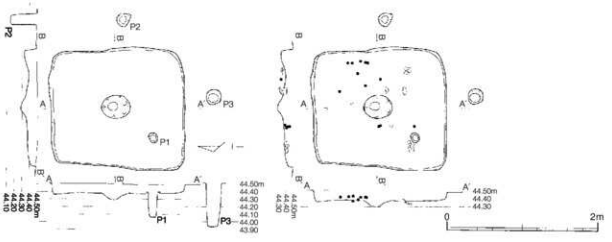
15～19は甕形土器の破片である。15，17，18は，頸部でゆるやかに彎曲し，外反しながら口縁端部へといたるものである。また，頸部を境にして，上下へしっかりとした板状工具を用いてかき上げ，かき下げの調整を行い，その後にナデによる調整を行っている。内面は，指頭ナデ及び外面と



第51図　古墳時代３号住居跡内遺物



第52図　古墳時代３・４号住居跡内遺物



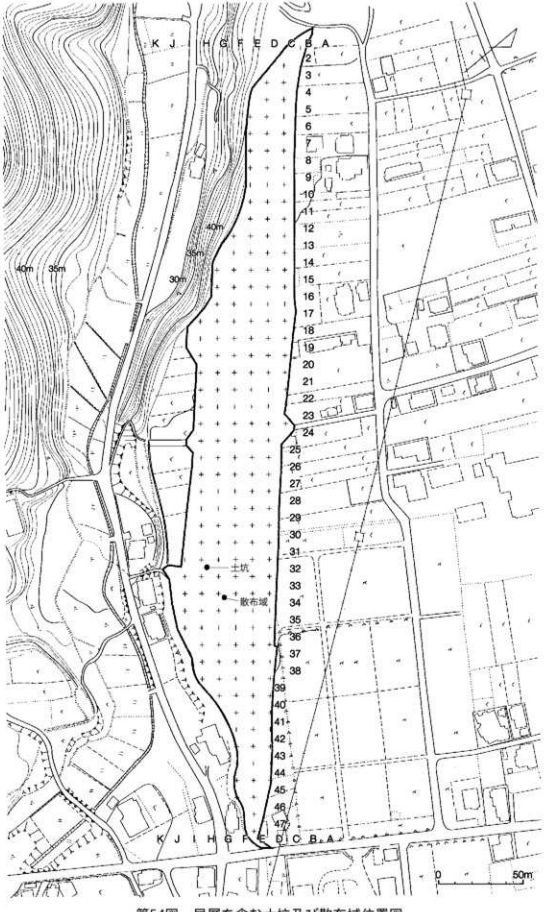
第53図　古墳時代４号住居跡

同じ板状工具による調整であるがやや粗い。16は頸部からやや外反する甕形土器で，他の甕形土器と同じような工具による調整と思われるが，その調整はやや粗い。19は，甕形土器の底部近くの破片，20は高坏の坏部の破片である。21は砂岩製の凹石で，磨石・叩石としても用いている。

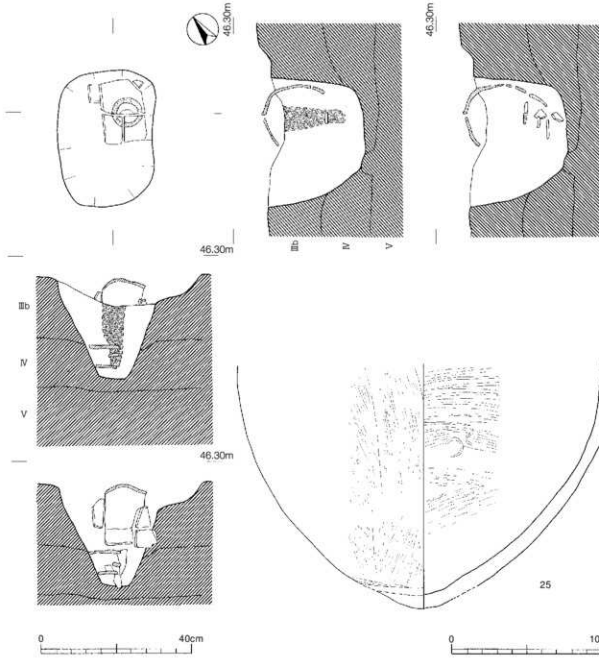
４号住居跡（第53図）

４号住居跡は，３号住居跡の北西数メートルの位置で検出されたもので，南北を軸とする約２×２ｍの方形に近い形状である。検出面から床面までの深さは，10～15cmと安定している。また，中央部には約20× 30cmの皿状の窪みが検出された。柱穴は，住居跡内の南西部に１個と住居跡外の西側と南側に各１個ずつ検出された。住居跡内の柱穴は，床面で検出されたもので，その深さは約35cmである。住居跡外の柱穴は，東側のものが約35cm，南側のものが約55cmである。

出土遺物は，東側に集中しており，その数は多くないが，床着に近いものである。22は，鉢形土器で，復元口縁径12cm，底部径６cm，器高７cm程度のものであり，平底の底部からゆるやかに内湾しながらそのまま口縁端部へと至るものである。23は坩形土器で，浅い丸底の胴部から頸部でやや屈曲し，ゆるやかに外湾しながら長めの口縁から端部へと至るものである。内外面にハケ及びナデ調整が観察される。24は，甕形土器の底部近くから胴部へかけての破片で，外面には，しっかりとした板状工具による調整，内面にはナデ及び指頭圧痕が観察される。



第54図　貝層を含む土坑及び散布域位置図



第55図　貝層を含む土坑及び遺構内遺物

2　貝層を含む土坑（第55図）

H－32区のⅢb層で検出された。36×25cmの隅丸方形の掘り込みで，検出面からの深さは約26cmを測る。脚台部分が接合部より破損した甕形土器の胴部が表面に覆い被さる様に投棄されている。その下に貝殻層が16cmの深さで縦に長く堆積する。遺構内埋土は濁黄色の砂質でⅢa層に似る。貝殻は約582ｇが検出された。下記の６科９種が確認された。

ニシキウスガイ科コマキアゲエビス・スハダシタダミ・ヒナカゴサンショウガイモドキ，タマガイ科ヌノメリスガイ，フジツガイ科ヒメミツカドボラ，アクキガイ科カスリボラ，スカシガイ科ハブタエスソキレ

この他，G－34区に小規模な貝の散布域がみられたが，図化しなかった。なおこれは弥生時代の遺構である可能性もある。

第２節　遺物

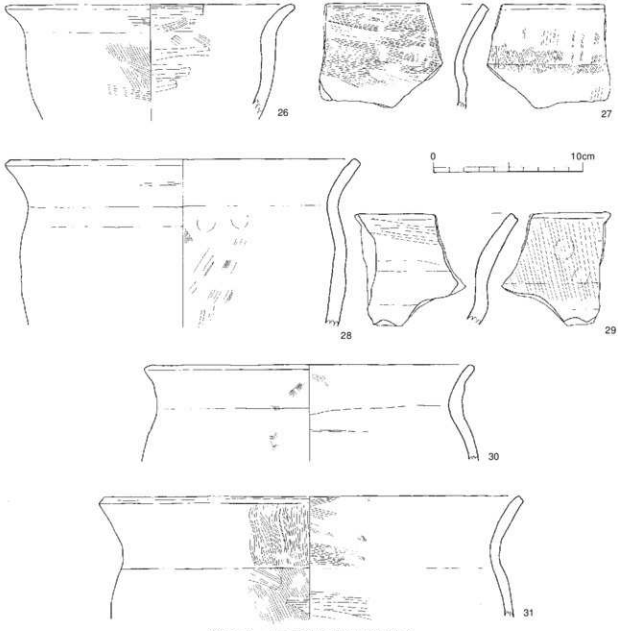
包含層で出土している古墳時代の遺物には，土師器と土製品・須恵器がある。

土師器

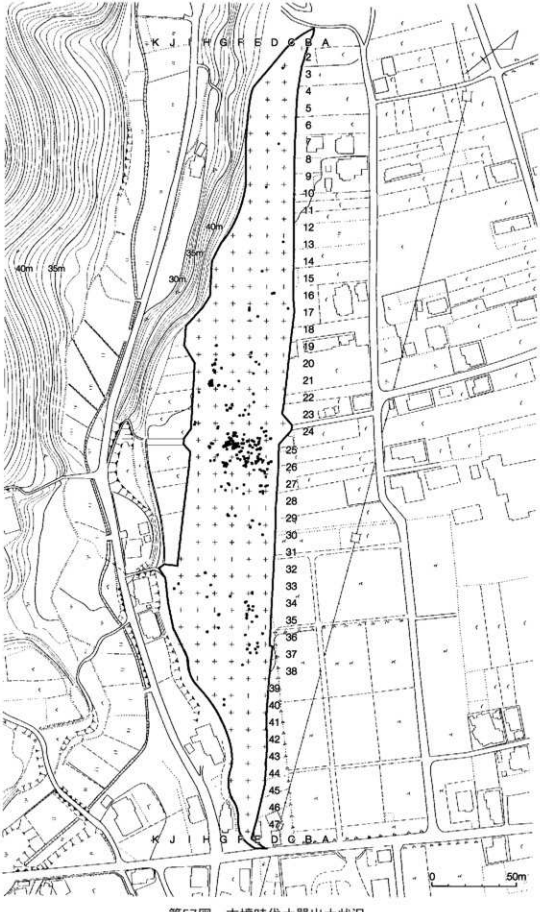
多くの土師器が出土しており，器種には甕形土器・壺形土器・小形壺形土器・鼓形土器・鉢形土器・高坏形土器・小形土器などがある。

甕形土器（第56図・第58図～第67図）

大きく分けて，器壁が厚くて脚台が付くものと，薄くて丸底になるものとに分かれるが，丸底のものは少量である。このほかに，器壁が厚い甕形土器で脚台が付かず，丸底になるものがある。脚台が付くものは，口縁部の形態によってくの字状に外反するものと，まっすぐ伸びるもの，内反するものの３種に分けられる。



第56図　古墳時代甕形土器（１）



第57図　古墳時代土器出土状況

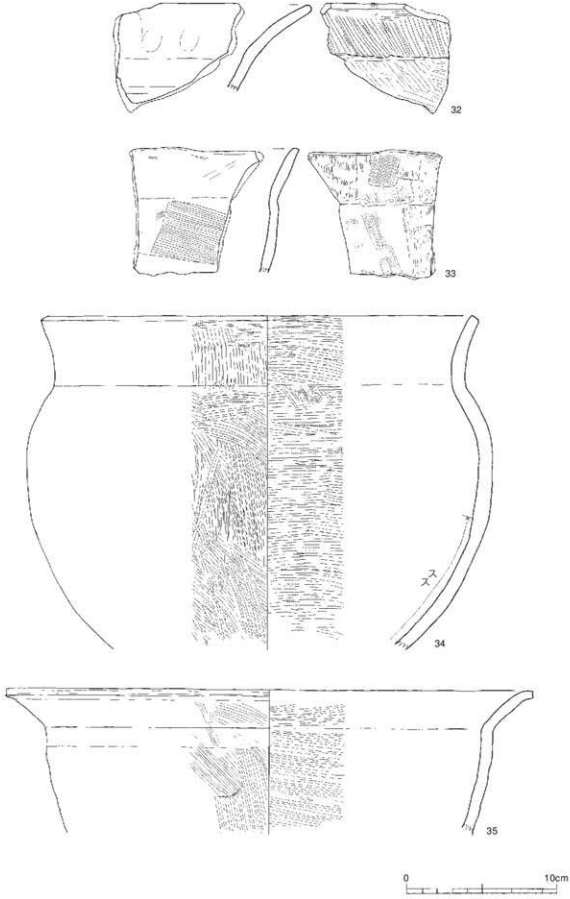
口縁部がくの字状に外反し，脚台が付くものも，頸部に突帯のないものとあるもの，口縁部の外反度がやや強いものと，直に近いものとがある。

26～46は頸部に突帯のないものだが，外反度がやや強いもの（26～39）と，直に近いもの（40～46）とがある。

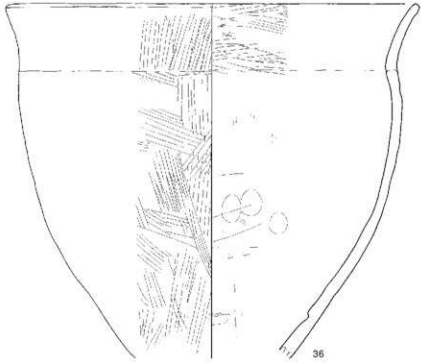
26は口縁直径が19.2cmと小形のものである。内外ともハケナデで仕上げているが，胴部内面はヘラナデで仕上げている。口唇部は丸みをおび，外面に炭化物が付着している。27～29は口唇部がコの字形を呈し，いずれも外面に炭化物が付着している。27は頸部外面で段をもっており，内外ともハケナデで仕上げているが，ハケ幅が上下で異なり，上部は狭くて，下部は広い。28は口縁直径が22.8cmで，やや強く外反しているが，内面の屈曲部はそれほど強くない。内外面ともヘラナデで仕上げているが，内面の下半部はケズリに近い。29は頸部でやや強く折れて，浅くなる形態をしている。30は口縁直径が21cmほどで，頸部で折れ，胴部は丸みをおびている。内外面ともヘラナデで仕上げている。31は口縁直径が27.5cmとやや大形のもので，ゆるやかな外反度であるが，外面の頸部は段をもつ。内外ともハケナデであり，口縁部はかき上げ整形となる。32は外へ強く反る口縁部で，外面はハケナデ，内面はヘラナデで仕上げている。外面はかき上げで，内面口縁の一部以外は黒く変色している。内蓋の可能性がある。33は口縁部外面をハケのかきナデで仕上げ，段となる。内面はハケナデのあと，ヘラナデで仕上げている。雑な作りである。34は口縁直径が28cmと大形で，胴部の最大径も30.8cmある。口縁部はゆるやかに外反しており，口唇部はコの字状を呈する。胴部は丸みをおびており，丸底の可能性もある。内外面ともハケナデ調整で，口縁外面は下からのかき上げである。内面下半部にはコゲが付着している。35は頸部から強く外反する口縁部で，直径が35cmある。口唇部はコの字状を呈するが，中央部がややくぼんでいる。内外ともハケナデである。36は口縁直径が27cmのゆるやかに外反する器形で，口唇部は丸みをおびている。なだらかな肩部から細くなって底部へ移っており，内外ともハケナデだが，内面胴部はヘラナデである。かき上げ口縁となる。外面に煤，内面にコゲが付着している。37は口縁部がやや強く外反しており，直径は24cmある。内外面ともヘラナデで，外面に炭化物が付着している。38・39はなだらかに外反する口縁部で，38の直径は17cmある。38はハケナデのあとヘラナデ，39はハケナデで仕上げ，ともにかき上げ口縁である。ともに外へ炭化物が付いている。

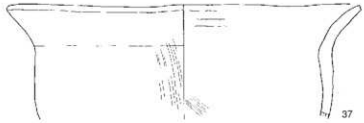
40～46は頸部に突帯のないもので，外反度の弱いものである。

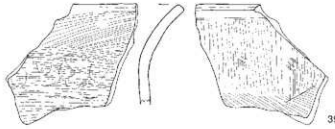
40は口縁部直径が31cm，高さが38cm，脚台直径が13cmある。脚台の高さは5cmほどである。外面はハケナデ，内面はヘラナデで仕上げており，内面には指押さえ痕が残っている。外面には炭化物がみられる。41・42は外に開く口縁部で，口唇部はコの字状を呈している。42の外面はハケナデで，口縁部はかき上げている。41と42の内面はヘラナデで仕上げている。42の外面には炭化物が付着している。43は口縁直径が32cmと大形で，底から外へ強く開いており，口縁部はゆるやかに外反している。外面の口縁部はハケのかき上げナデがされ，胴部との境を作っている。胴部は粗いハケナデである。内面の胴上半部から口縁部はハケナデ，胴下半部はケズリに近い粗いヘラナデで仕上げている。外面に炭化物が付着している。44は口縁直径が29cmで，口唇部はコの字形を呈し，内外ともハケナデで，内面はそのあとヘラナデをしている。45も内外ハケナデで仕上げているが，外面は縦方向，内面は横方向である。外面口縁はかき上げで，口唇部はコの字状である。46は口縁直径が



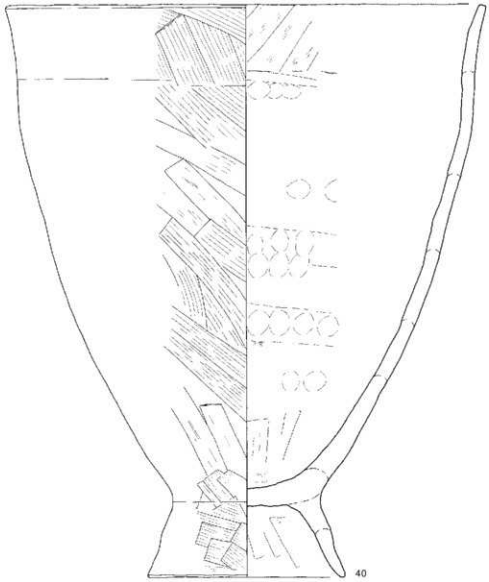
第58図　古墳時代甕形土器（2）

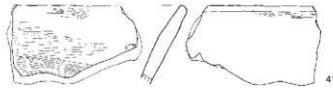


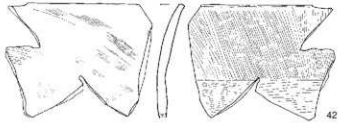




第59図　古墳時代甕形土器（3）

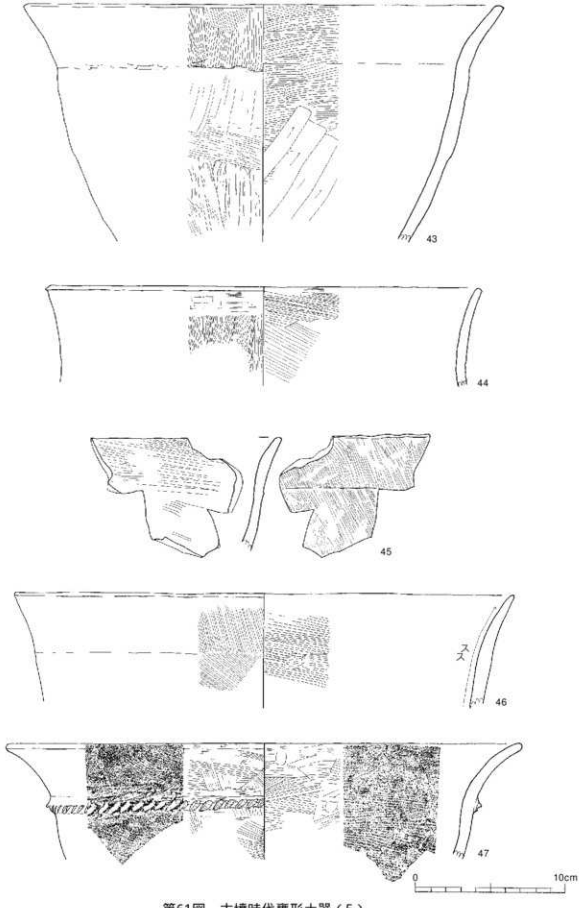






0 10cm

第60図　古墳時代甕形土器（4）



第61図　古墳時代槌形土器（5）

33cmと大形である。口縁端は細くなっており，口唇部は丸みをおびている。内外ともハケナデで仕上げているが，口縁部外面はかき上げである。内面にはコゲが付着しているが，口縁端近くにないことから内蓋の可能性がある。

47～54は外反する口縁部に突帯の付くものである。47は口縁直径が34cmあり，頸部から口縁部へ強く外反し，頸部のやや上部に三角突帯が貼り付けられている。三角突帯上に左下がりのヘラ押圧文が付されている。内外面ともハケナデのあとヘラナデが施され，内面には指頭圧痕もみられる。外面には炭化物が付着している。48は口縁直径が30cmの薄い作りである。口唇部は細くなり，丸みをおびている。頸部に幅広の突帯が貼り付けられ，突帯に斜格子状のこまかいヘラ押圧が施されている。内外面ともハケナデで仕上げ，外面には炭化物が付着している。49はゆるやかな外反度で，頸部に丸みをおびた突帯が貼り付けられ，左下がりのヘラ押圧がみられる。外面がハケナデ，内面がヘラナデで仕上げている。外面には炭化物が付着している。50は口縁直径が27cmあり，底部を欠いているが，高さが25cm残っている。細めの作りだが，底部付近は分厚い。外反度が弱くほぼまっすぐ開いているが，口縁下にヘラ押圧のされた三角突帯が貼り付けられている。内外面とも粗いハケナデで仕上げているが，下半部はヘラでナデている。51は口縁直径が26.5cmある外反度の弱いものである。頸部にやや幅広の突帯が貼り付けられ，その上に左下がりの幅広ヘラ押圧が付されている。突帯の内側はくぼんでいる。内外ともハケナデがされているが，部分的にヘラナデがされる。外面には炭化物が付着している。52は口縁直径が28.5cmあり，頸部にやや幅の広い突帯が貼り付けられ，その上には幅の広い左下がりのヘラ押圧がされる。突帯の内側には指頭圧痕が残る。口唇部は丸みのあるコの字状を呈している。外面は粗いハケナデ，内面はヘラナデで仕上げている。外面に煤が付着している。53・54とも頸部に三角突帯が貼り付けられ，そこに左下がりヘラ刻みが施されている。内外ともハケナデを主とするが，そのあとヘラナデを施している。ともに口唇部は丸みをおび，53・54とも外面には炭化物が付着している。

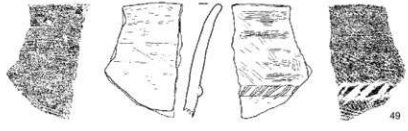
55～57は口縁部がやや丸みをもって立ち上がっている器形である。

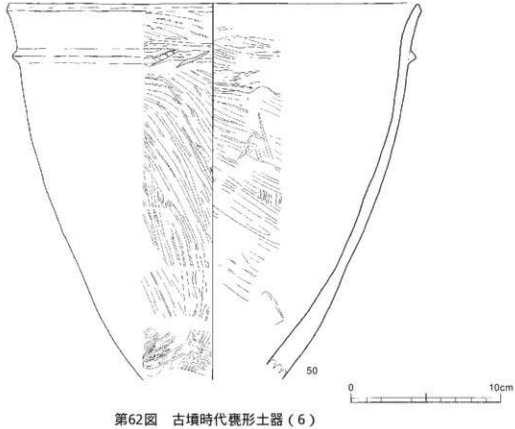
55は口縁直径が27cmほどあり，高さが24cm残っている。口唇部は丸みをおび，雑な作りのため，口縁端はゆるい波状を呈している。口縁下部に幅広の突帯が貼り付けられ，その上に左下がりのヘラ押圧が施される。内外ともハケナデで仕上げており，内面には指頭圧痕もみられる。外面に炭化物が付着している。56は口縁直径が30.5cmあり，口唇部はコの字形を呈している。口縁下部に突帯が貼り付けられ，その上に左下がりのヘラ刻みが施されている。内外ともヘラナデで仕上げられ，外面には炭化物が付着している。57の口唇部はやや丸みをおび，口縁下部に三角突帯が貼り付けられ，そこにヘラ押圧がみられる。内外ともこまかいハケナデだが，内面はそのあと一部ヘラナデで仕上げている。外面には炭化物が付着している。

58～60は強く内反するものである。

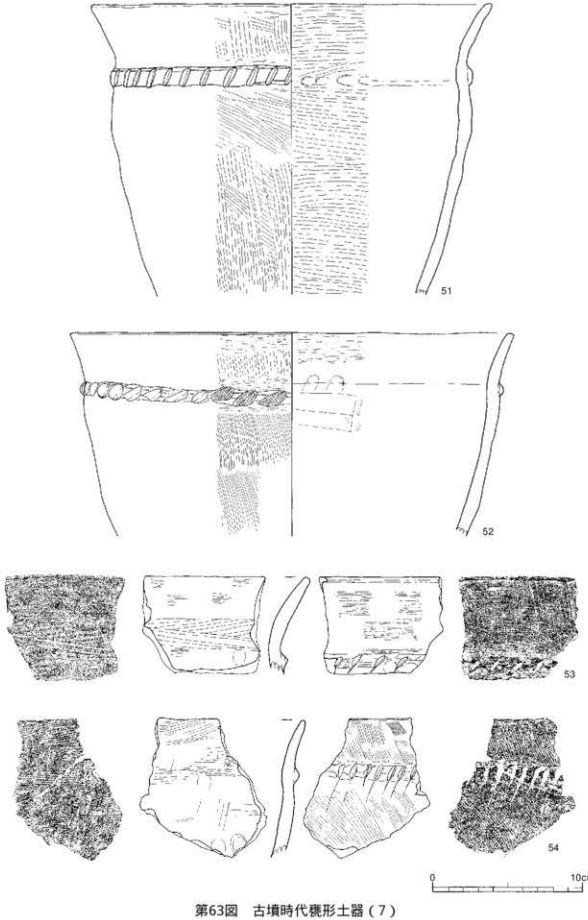
58は口縁直径が18.2cmあり，口縁部は粗い作りのため狭くなっている。内外面ともヘラナデである。59・60も内反し，口縁下に三角突帯が貼り付けられている。口唇部は丸みをおびており，内外面ともヘラナデ仕上げである。

61～78は底部から脚台である。脚台には高いものと低いものとがあり，概して手ずくね風の粗い作りのものが多い。

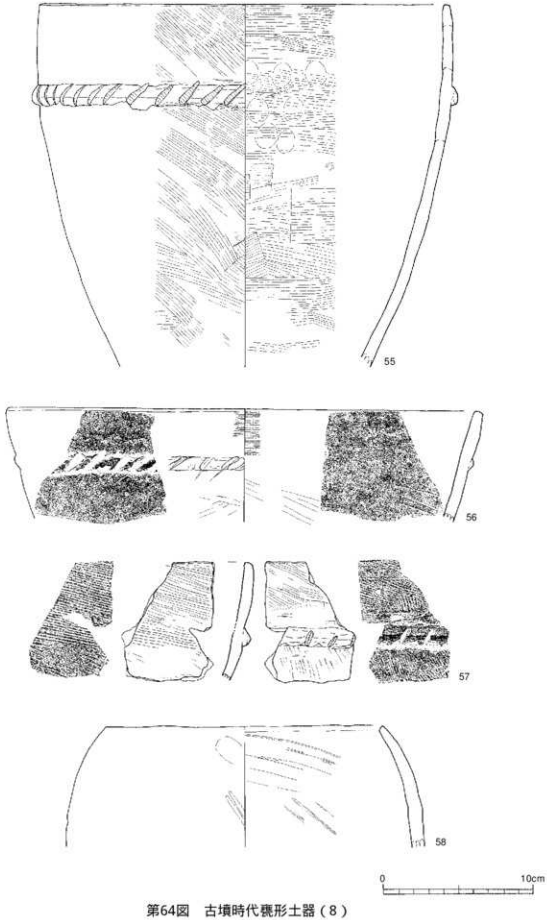




第62図　古墳時代甕形土器（6）

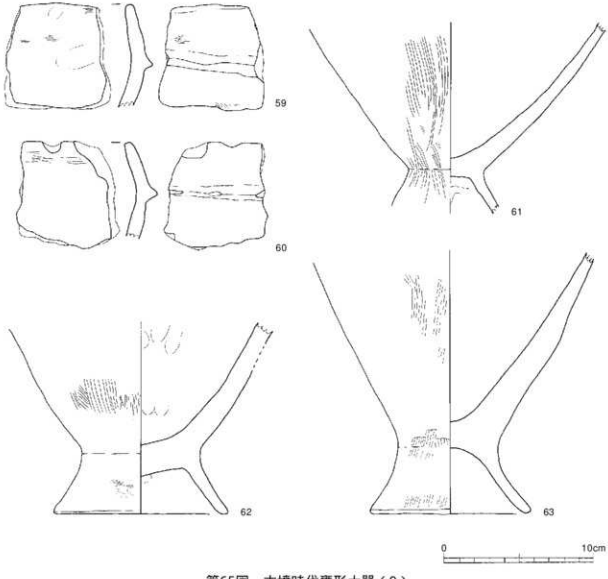


第63図　古墳時代甕形土器（7）

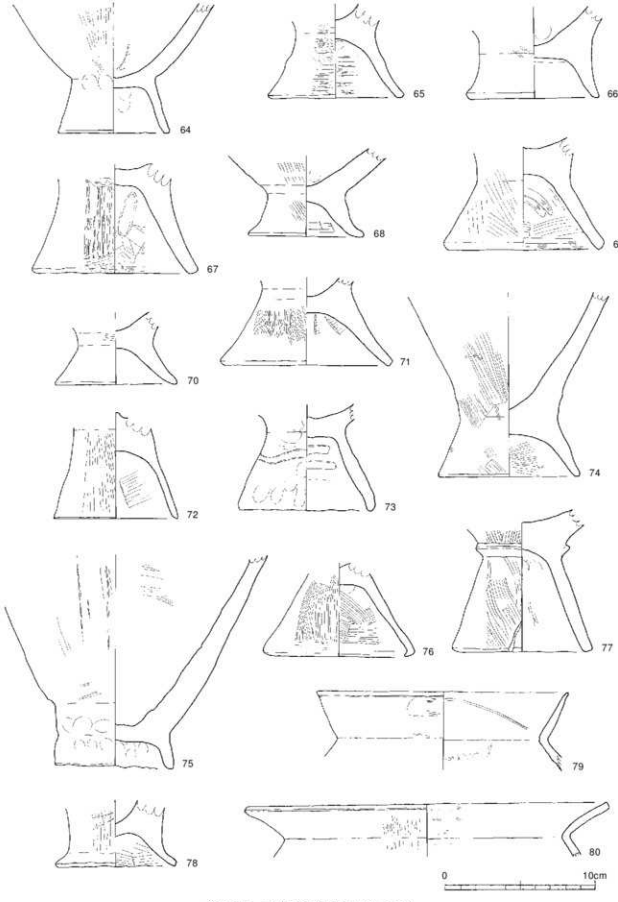


第64図　古墳時代甕形土器（８）

61は胴下半部から脚台にかけての破片だが，脚台端は欠けている。接着部は直径が５cmある。外面は幅広のハケナデだが，内面はヘラナデをし，脚台内はヘラナデである。62～64は胴下半部から脚台の破片である。62は分厚い胴部に高さ３cmほどの低い脚台が付き，脚台の直径は11.5cmである。脚台はハの字状に広がっている。外面はハケナデのあとヘラナデ，内面はヘラナデである。63は細めの胴部だが，底部付近は分厚い作りである。脚台は高さが５cm足らずで，直径が10cm余りある。外面はハケナデのあとヘラナデ，内面はヘラナデである。外面には炭化物が付着している。64は底部が丸みをおびており，脚台は直に近く立ち上がっている。脚台の高さは３cm余り，直径が７cm余りある。内・外面とも調整はヘラナデだが，指頭圧痕も残っている。65の脚台は高さが４cmほどと高く，直径が8.5cmある。66は分厚い底部に細い脚台が付いている。高さは３cmほどで，直径が8.5cmある。端がやや細くなっている。内面にコゲが付いている。67は脚台の高さが６cm余りと高く，ハの字状に開くがっしりした作りである。直径は10cmほどで，外面は幅広のハケナデ，内面はヘラナデである。68は脚台の裾がゆるやかに開く。高さが2.5cmほどと低く，直径が7.5cmある。69は高さが５cm余りあるもので，直径は10cmほどである。70は直径が８cm，高さが2.5cmある小さな脚台



第65図　古墳時代甕形土器（９）

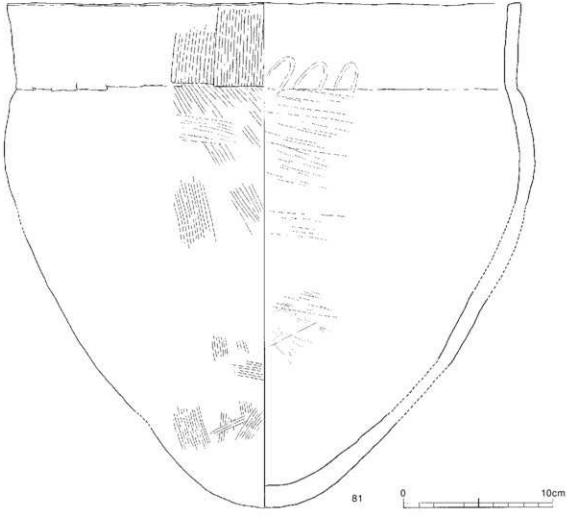


第66図　古墳時代甕形土器（10）

である。71はハの字状に強く外反する脚台で，高さが４㎝，直径が11㎝ほどである。端部はコの字状を呈する。72は高さが4.5㎝，直径が８㎝ほどの直に近く立ち上がるスラリとした薄い脚台である。脚台と胴部間には土塊が挿入されている。73は高さが５㎝，直径が8.5㎝ほどの高い脚台で，底部の厚さに比べると細い作りである。端部がやや内側に曲るような雑な作りである。74は胴部に高さ３㎝ほどのハの字状に開く脚台が付いてる。脚台の高さは３㎝ほどである。75は開いて立ち上がる胴部の底に高さ２㎝ほどの低い脚台が付いている。胴部は分厚い作りである。脚台は指頭圧痕の目立つ雑な作りで，直径が7.5㎝ある。直に近く立ち上がっている。76は直径が10㎝，高さが５㎝ほどのハの字状に開く薄い作りの脚台である。内外ともハケナデで仕上げ，端部が内側へ屈曲している。77は分厚い底部に高さ７㎝余り，直径7.8㎝の直に近いハの字状の脚台が付いている。底と脚台の接合部に三角突帯が貼り付けられている。脚台端はコの字状を呈している。78は外へ強く反る低い脚台で，高さが２㎝余り，直径が８㎝ほどである。

79・80は内面に稜を作るほど強く外へ屈曲する布留甕の口縁部で，在地の甕形土器に比べて薄い作りである。口縁直径は79が16.5㎝，80が24㎝で，80は頸部で強く屈曲している。口唇部は79が丸みをおびるのに対して，80はコの字形を呈している。内外ともヘラでナデている。

81は上半部が甕形で，底部が長胴形の壺形を呈する甕形土器である。口縁直径が34㎝，高さが



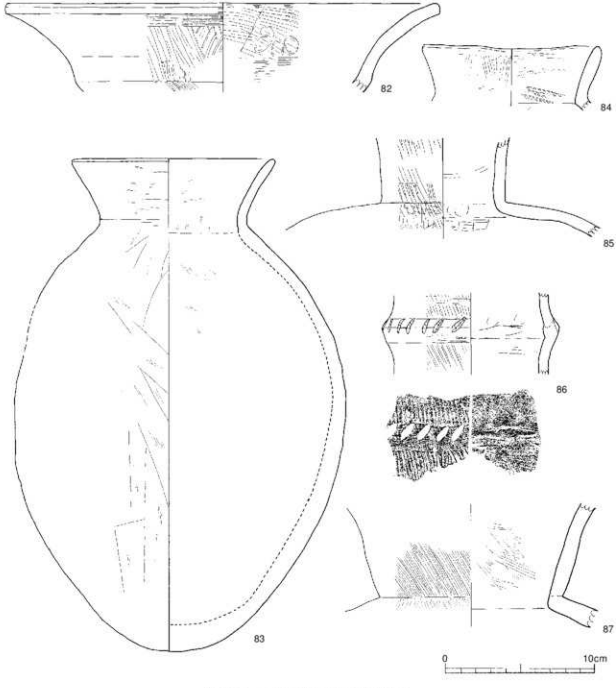
第67図　古墳時代甕形土器（11）

33.4cmで，口縁部は頸部からまっすぐ立ち上がり，口唇部はコの字状となる。肩が張り，そこからゆるやかに丸底の底部へ移る。外面は粗いハケナデで，口縁部はかき上げ状となる。ハケナデのあとヘラナデで仕上げている。内面はヘラナデで，頸部付近には指頭圧痕がみられる。外面は黄色っぽい淡茶褐色であるが，内面は口縁付近を除いて黒灰褐色を呈している。

壺形土器（第68図～第73図82～105）

形態・大きさなど多様なものがあり，時期的にも長期にわたっている可能性がある。

口縁部には二重口縁となるもの，外へまっすぐ開くもの，直に立ち上がるものなどがある。82はくびれた頸部から外へまっすぐ伸び，さらに外へ強く反る二重口縁となるものである。口縁直径は



第68図　古墳時代壺形土器（1）

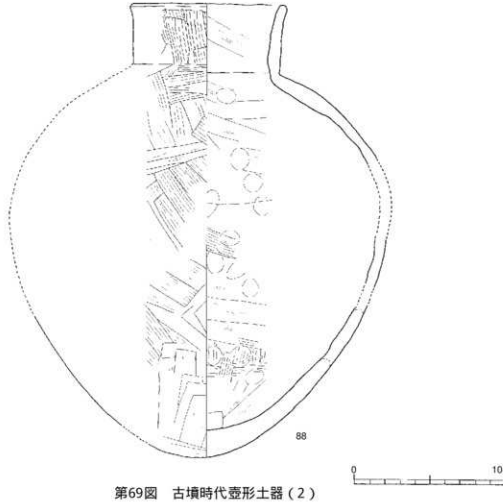
28.6cmと大きく，焼成度は良い。内外とも幅広のハケナデ，あるいはそのあとヘラナデで仕上げている。口唇部はコの字形を呈しているが，中央がやや突出している。83は口縁直径が13.5cm，高さが31.6cmある雑な作りをした丸底壺である。頸部は直径が10cm足らずとくびれており，ここから口縁部へは外へまっすぐ開いて伸び，口唇部は丸みをおびている。肩はナデ肩となる。外面は粗いヘラ縦ナデだが，胴下半部はさらに粗くヘラケズリに近い。内面はふつうのナデ整形で，底は分厚い。赤色の小石を多く含む粗い土を用いている。84は口縁直径が11.8cm，頸部直径が10cmの口縁部で，頸部からまっすぐ開いて口縁部へ至り，端部は丸みをおびている。内外面ともハケナデのあと，ていねいにヘラナデで仕上げている。85は口縁端を欠いているが，頸部からまっすぐ立ち上がる器形を呈し，肩部は強く張っている。頸部の直径は８cm強で，外面はハケナデ，内面はハケナデのあとヘラナデで仕上げている。86は頸部から外反して立ち上がり，中央で内反する二重口縁壺だが，口縁部・胴部とも欠けている。中央の最大径は12cm足らずだが，この屈曲部は分厚くなっており，左下がりのヘラ押圧痕がみられる。内面はヘラナデ，外面はハケ縦ナデで仕上げている。87は頸部直径が12cmと大型で，口縁部はまっすぐ外へ開き，肩の張る器形である。分厚い作りとなっている。外面はハケナデのあと，端部近くをヘラナデで仕上げ，内面は剥離が目立つが，ヘラナデ整形をしている。88はややいびつな器形を呈し，83とよく似た器形であるが，長胴でなく丸みをおびている。口縁直径が10cm，高さが30cmの丸底壺である。口縁はやや外へ開いているが，まっすぐ伸び，口唇部はコの字形を呈している。外面はハケナデだが，胴下部はヘラナデで仕上げ，一部は赤色化している。内面はヘラナデである。

胴部は器形に肩の張るものとナデ肩のもの，文様に凹線で文様をつけるものと突帯で文様をつけるものとがある。

89～98は肩部や腹部に凹線の圏線や短絡線などによる文様がつけられるものである。89・94・95は５条ほどの横方向圏線に左下がりの斜線のあるもので，89は細線だが，94・95は太線である。95は地文のハケナデが深く，沈線間に筋が残っている。90・91・93・98は７～８条の浅い横方向圏線に縦方向のヘラ刻みのあるもので，圏線に比べて縦方向刻みは深い。92・96・97は４～５条の横方向圏線にハの字状の鋸歯文が描かれている。92・96は２条沈線だが，97は１条幅が広い沈線である。腹部直径は97が30cm，98が29.5cmある。調整は内外面ともハケナデのあとヘラナデのものが多いが，ハケナデで仕上げているもの，ヘラナデだけのものもある。内面が剥脱しているものもあり，92～94は外面に炭化物が付着している。

99～101は突帯が帖り付けられるものである。99は直径が27.5cmの腹部のやや上部に半円形の突帯が貼り付けられ，突帯上には左下がりの板による押圧文がみられる。外面は縦方向のこまかいハケナデ，内面はヘラナデで仕上げている。100はかまぼこ形の突帯を貼り付けたあと，中央に横方向の凹線を一条巡らし，その上に左下がりのヘラ押圧文がみられる。101は直径34cmの腹部に幅広のコの字状突帯を貼り付けているが，突帯上に浅い凹線がみられる。

底部はいずれも丸底である。102の調整は内・外面ともヘラナデだが，底部付近には内・外面とも指頭あるいはヘラ押圧痕が残っている。103は薄い作りで，外面がこまかいハケ縦ナデ，内面がヘラナデである。104・105は内・外面ともハケナデのあとヘラナデである。104の内面は剥離が目立つ。

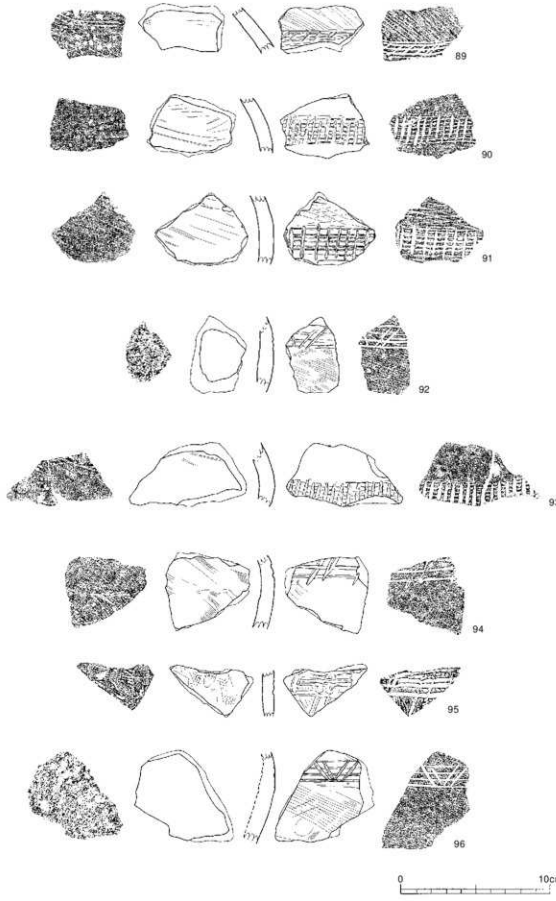


第69図　古墳時代壺形土器（２）

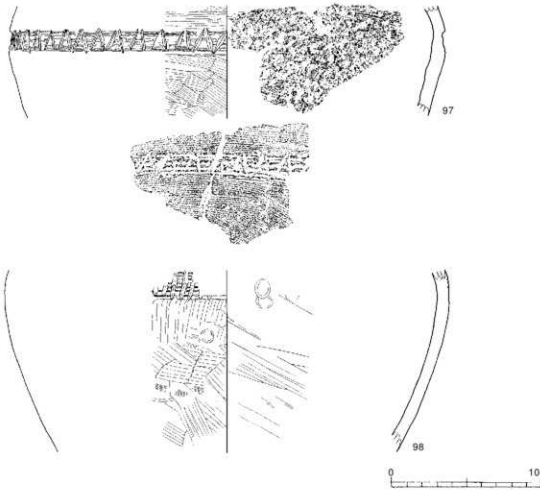
小形壺形土器（第74図106～116）

大きく分けて，小形丸底壺・中形丸底壺・小形平底壺の３種がある。

小形丸底壺（106～109・111）は口縁直径が6.5cmほどの小さいものから10cmほどのやや大きいものがあり，立ち上がりの角度も開くものと，まっすぐ立ち上がるものとがある。106は底を欠いているが，口縁直径が９㎝，高さが７㎝足らずである。底部に比べて口縁部が長く，口縁部は直径5.5cmの頸部から外へ開きながらまっすぐ伸びている。口唇部は丸みをおびて細い。底部は頸部のすぐ下に最大径があり，底は薄い。内外ともヘラでていねいに磨いている。107は口縁上部を欠いているが，口縁近くの直径が６㎝強，高さが５㎝強ある。直径5.5cmの頸部からやや開きぎみだが，直に近く立ち上がっている。底部は106と同じく，頸部のすぐ下に最大径があり，やや安定した丸底となるが，分厚い。内外ともていねいなヘラナデである。108も口縁上部を欠いている。口縁直径が７㎝強，高さは４㎝以上ある。口縁部は直径7.5cmほどの頸部から，やや内傾ぎみだがほぼまっすぐ立ち上がっている。底は頸部で凹線ぎみに段をもつが，ふくらまずにやや分厚い丸底となる。底部内面はしぼりぎみだが，内外ともていねいなナデ仕上げとなる。109は底部のみで，底が乳首状にふくらんでいる。内外ともていねいにナデている。111は口縁部のみで，直径10cmの頸部からやや内傾しているが，口縁端近くで逆に外反し，細く尖った口唇部へ至る。口縁直径は10cmある。内外ともていねいなナデ整形で，薄い作りのため軽い。



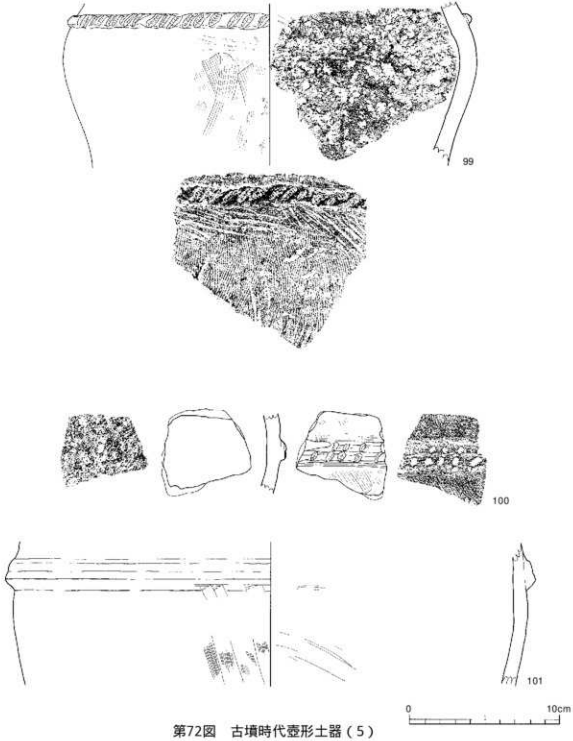
第70図　古墳時代壺形土器（３）



第71図　古墳時代壺形土器（４）

中形丸底壺（110・112）は口縁部と胴部がある。口縁部（110）は，頸部の接合部が剥離している。頸部から丸みをおびて外へ立ち上がり，口縁端で外反している。口唇部は丸みをおびたコの字形を呈しており，分厚い。内外ともていねいな横方向のヘラナデである。胴部（112）はやや上半に直径14.5cmの最大径があり，頸部直径が10cm強ある。底は丸底で，頸部で積み上げている。外面は縦あるいは斜方向のハケナデだが，下半部はヘラで粗くナデている。内面はヘラでていねいにナデているが，部分的に指頭圧痕がみられる。

小形平底壺（113～116）は最大径が下半部にあるものと，中央部にあるものとがある。113は最大径がやや下半部にあり，頸部直径が５cm，最大直径が7.5cmある。底部は直径が4.5cmの安定した平底で，内底部がしぼりでへこんでいる。内外ともていねいなナデで仕上げているが，内面には指頭圧痕が残っている。114は口縁直径が９cm，高さが10.5cm，頸部直径が7.2cm，底部直径が６cm足らずの平底をした坩である。口縁部は頸部からやや内湾ぎみに立ち上がり，最大直径は12.5cmで，胴部中央にある。底部はやや分厚くなり，胴部と頸部で貼り付けている。底部は分厚くなっており，内側はふくらみ，底の中央はややへこんでいる。内外ともハケナデで仕上げているが，内部には指頭圧痕が残っている。115は口縁部を欠いて胴部のみである。9.7cmある最大径は下半部にあり，底は分厚くどっしりとした底になっている。内外面ともていねいにナデているが，ほかの坩に比べて

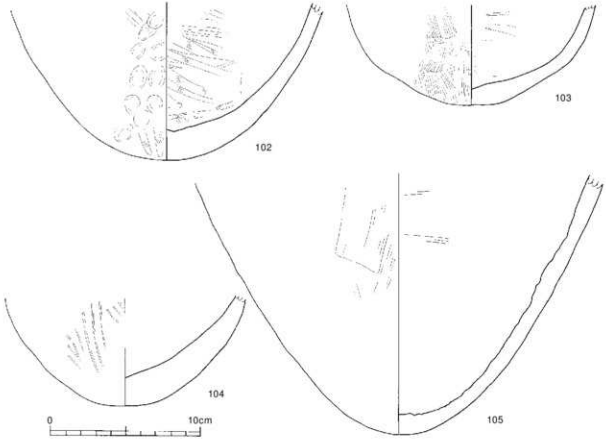


第72図　古墳時代壺形土器（５）

やや整形・作りとも粗い。116も同じような器形をしており，頸部直径が５㎝，最大直径が8.5㎝ある。底は115ほど厚くなく，広いが，不安定な平底となる。口縁部は頸部から強く外へ開いて伸びている。胴部は最大径の部分で貼り付けている。内外ともていねいにナデているが，内面には指頭圧痕があり，内底部はしぼりとなっている。

鑢形土器（第74図117）

小形壺形土器の肩部に直径１㎝ほどの円孔が焼成前に穿たれている。胴下部に直径13.8㎝の最大



第73図　古墳時代壺形土器（6）

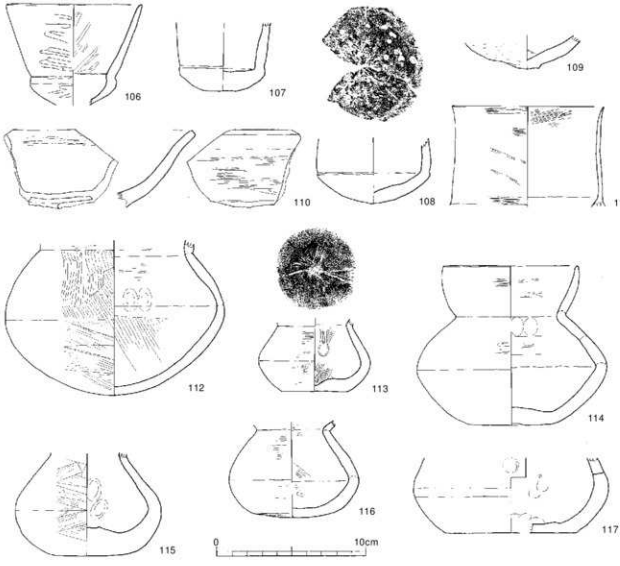
径があり，底は直径8.5cmの安定した平底である。内面は指ナデがみられ，外面はミガキに近いていねいなヘラナデである。

鉢形土器（第75図118～126）

平底のもの，脚台付きのものなど多様な器形がある。

118は口縁直径が16.5cm，高さが10cm，底径が4.5cmの胴部が丸みをおびた平底の鉢である。口唇部はコの字形を呈し，分厚い作りである。内面調整はヘラ横ナデ，外面調整は上部がハケナデ，下部と底部がヘラケズリである。119も丸みをおびた器形で，分厚く，口縁直径は11.5cmある。底部を欠いているため，平底か丸底か不明である。口唇部は丸みをおびており，内外ともヘラナデ調整だが，指頭圧痕が全体に残る粗い作りである。120は口縁直径が17cmある外へ開く器形を呈しているが，底を欠いているため平底か丸底か不明である。内面とも指押さえで仕上げる雑な作りである。口縁部もでこぼこしており，口唇部は丸みをおびている。

121～126は台付鉢形土器である。121は口縁直径が11cm，高さが12.5cm，脚台直径が9.4cmである。鉢部はゆるやかなくの字状口縁で，口唇部は丸みをおびている。脚台は高さが3.5cmある。外面はハケナデのあとヘラナデ，内面はヘラナデで，部分的に指頭圧痕が残っている。122は大型台付鉢形土器の鉢部である。丸みをおびた底部と外反する口縁部から成り，口縁直径が21cmある深鉢状である。口縁部と底部の接合部は段となり，口唇部はコの字形を呈する。内外ともケズリのあとヘラナデ整形をする粗い作りである。123～126は手づくね風の粗い作りの脚台で，端部は123・124が丸



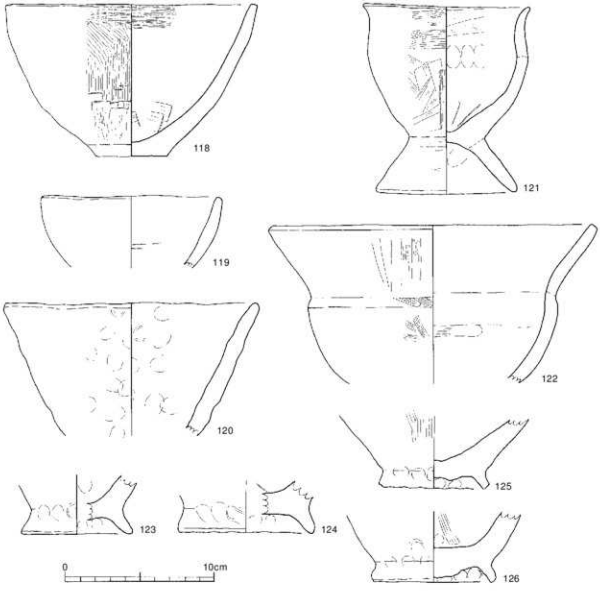
第74図　古墳時代小形土器，聰形土器

みをおびているのに対して，125・126はコの字状を呈しているが，いずれも低い。脚台の付着部は指頭圧痕が顕著で，脚台内面にも一部，指頭圧痕が残っている。鉢部の外面はハケナデのあと，ヘラナデで仕上げている。内面はヘラナデであるが，一部にはハケナデがある。

高坏形土器（第76図127～138）

坏部は，口縁部が外反するもの（127）と，内湾するもの（128～131）とがある。

127は丸みをおびた底部と，外反する口縁部から成る坏部で，口縁直径が19.5cmある。底部と口縁部を貼り付け接合している部分から口唇部へ向かって薄くなり，口唇部はとがり気味となる。内外ともナデ調整であるが，剥離が目立つ。他の高坏形土器が乳茶褐色を呈するのに対し，これはやや赤みがかった茶褐色を呈している。128は平らな底部と，内湾する口縁部から成る坏部で，口縁直径は17.8cmある。口唇部は丸みをおび，底部と口縁部の接合部は段となる。底部の接合部には剥離を防ぐためのヘラナデがみられる。129～131は底部で，口縁部との接合部で剥がれている。口縁部との境が段をもつことから，いずれも内湾する坏部の底と思われる。接合部は内側に粘土を貼り



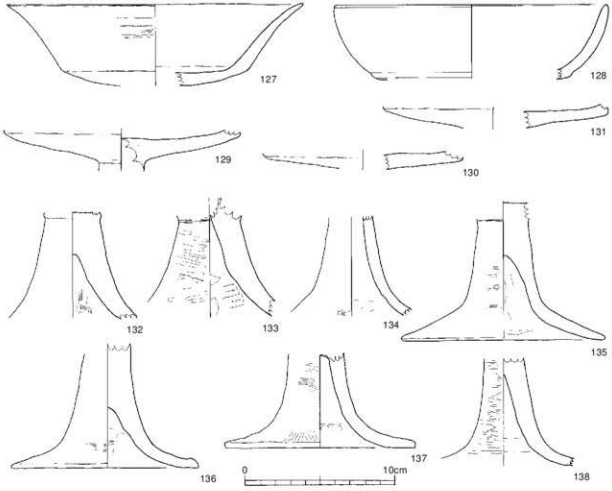
第75図　古墳時代鉢形土器

付けている。129は脚部へまっすぐおちており，中央に下から粘土塊を押し込んでいる。131は筒を坏部へ挿し込むようになっており，一部に内外面とも筋状の高まりがあることから補充の可能性もある。調整はいずれも内外ともていねいなミガキに近いヘラナデとなっている。

脚台は132～134・137・138のように筒部をもたずにゆるやかに広がるものと，135・136のように短い筒部からゆるやかに広がって裾へいくものとがある。坏部と脚台の接合は坏部に脚台を挿し込んでいる。脚台直径は135が13.5cm，136・137が12.5cmである。端部は135のように丸みをおびるものと，136・137のようにコの字に近いものとがある。筒部内面は空洞のものが多いが，136は詰まっている。調整は内外面ともていねいなヘラナデだが，138だけは丹塗りとなり，外面がヘラミガキである。

小形土器（第77図139～150）

この種の土器には139・140のように普通の大きさを小さくしただけのものと，141～150のように



第76図　古墳時代高坏形土器

手づくねのものとがある。

ミニチュア土器（第77図139～150）

139は外へ開きながら直立する口縁部に脚台が付く甕形土器のミニチュア土器である。分厚い作りで，口縁直径は10.5cmあり，頸部付近に左下がり方向ヘラ押圧のある幅広突帯がみられる。外面がハケナデのあとヘラナデ，内面がヘラナデである。140は口縁直径が5.5cm，高さが5.6cm，底部直径が3.4cmある分厚い平底の鉢形土器のミニチュア土器で，内外面ともヘラナデで仕上げ，特に外はていねいである。

141～150は指頭押圧で形を整える手づくね土器で，丸底・平底・台付の鉢形がある。141・142は丸底の鉢形である。141は口縁直径8.4cm，高さが5cmで，やや内反ぎみに立ち上がり，口唇部は丸みをおびている。142は口縁直径が6cm，高さが3.2cmで胴部中央に段をもち，口縁へはまっすぐ伸びている。底は尖りぎみで，分厚く，口唇部は丸みをおびている。指で調整したあと，141の底は外をヘラでケズったり，ナデたりしている。143・147は内湾ぎみに立ち上がり，胴部にヘラ刻みのある幅広突帯が付着される甕形である。143の口縁直径は5.8cmで，口唇部は丸みをおびたコの字形である。147は口縁直径が5cm足らず，高さが5.5cmの不安定な平底をした器形で，突帯は両側から指でつまみあげて三角突帯風に作っている。144は安定した分厚い平底で，底の直径は2cmほどで

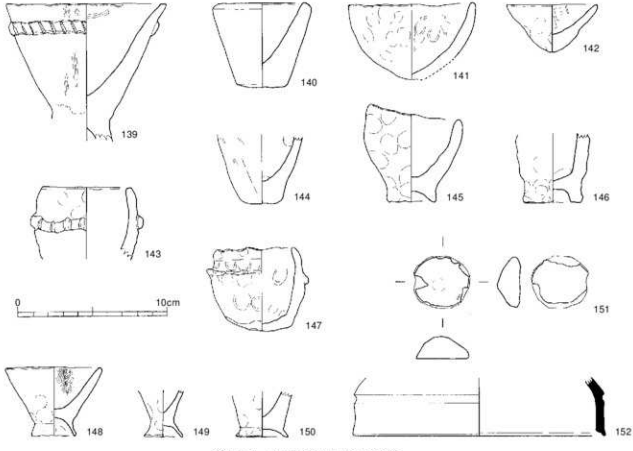
ある。やや外へ開いてまっすぐ伸びている。145・146は低い脚台の付くものである。145は口縁がひずんでやや内湾ぎみの器形をしたもので，口縁直径が6.5cm，高さが5.5～6.5cmの分厚い作りである。口唇部・脚台端とも丸みをおびており，脚台直径は3cm余りある。146は直径3.8cmのどっしりとした脚台をもち，胴部はやや開いてまっすぐ筒状に立ち上がっている。分厚い作りである。148～150は細い脚台が付くものである。148は口縁直径が6.4cm，高さが4.5cm，脚台直径が3cmで，外へまっすぐ伸びる分厚い鉢に，高さ1cm足らずの細い脚台が付く。149は脚台直径が2.5cmある細い作りのもので，脚台はハの字状に開いている。150は分厚い作りのまっすぐ立ち上がる鉢に，直径3.5cm，高さ0.5cmほどの低い脚台が付く。

土製品（第77図151）

直径が3.5cm× 3.7cmの略円形を呈し，下面が直になり，上面は円錐状を呈した土製品である。周辺は磨滅しているが，下面はていねいにヘラナデが施されている。上面は指頭によってていねいに整えられている。淡茶褐色を呈し，焼きは軟質である。白色石・石英などのこまかい土を用いている。用途は不明だが，図を上下逆にして高坏形土器の坏部と脚台の接合部分になる可能性もある。

須恵器（第77図152）

直径が13.5cmある蓋で，受け部内面は凹線風となりやや上がっている。天井部は丸みをおびて高くなり，まっすぐ立ち上がる受け部との間に幅広の凹線がみられる。内・外面とも白灰色を呈し，焼成度は良い。1点のみ出土の古式須恵器である。



第77図　古墳時代小形土器等

第Ⅷ章　古代から中世の調査

古代から中世の調査は，本来は単独で古代の章，中世の章としなければならないものである。しかし，本遺跡では，包含層であるⅡ層がわずかしか残存せず，層位的な把握ができなかったこと，遺構についても遺構内に時期を判別する遺物に乏しかったことから，古代か中世かの判別に苦慮するものが多かったために，古代から中世の調査として報告する。

ただし，時期が判別できる遺構についてはその時期を本文中に記した。

第１節　遺構

１　掘立柱建物跡

古代から中世の遺構として，６棟の掘立柱建物跡（掘立柱建物跡１～６）が検出された。Ｅ～Ｆ－17～19区に集中している。桁行はいずれも磁南北の方向とほぼ一致する。切り合い関係にあるものはないが，それぞれが非常に接近し合っているため多少の時期差が考えられる。柱穴の深さが30㎝以下のものも見られることから幾分か削平を受けているものと考えられる。各建物の計測値は計測表を参考にされたい。

また，発掘調査中は認識できなかったが実測図の整理，トレース作業中に気付いた，図上で柱が並び建物跡と見なしうる13棟（掘立柱建物跡７～19）も併せて掲載した。そしてこれらのうち，桁行方向で共通する幾つかの建物跡をひとまとまりにして，４群に分類した。

建物跡１群（１～６号）

掘立柱建物跡１（第80図）

Ｆ－17・18区で検出された。建物の規格は２間×３間で床面積は約15㎡である。梁行柱間は平均3.3m，行柱間は平均1.74m，最大梁間3.64m，最大桁行2.54mである。柱穴は検出面より深いもので78㎝，浅いもので24㎝，平均53.7㎝である。

掘立柱建物跡２（第80図）

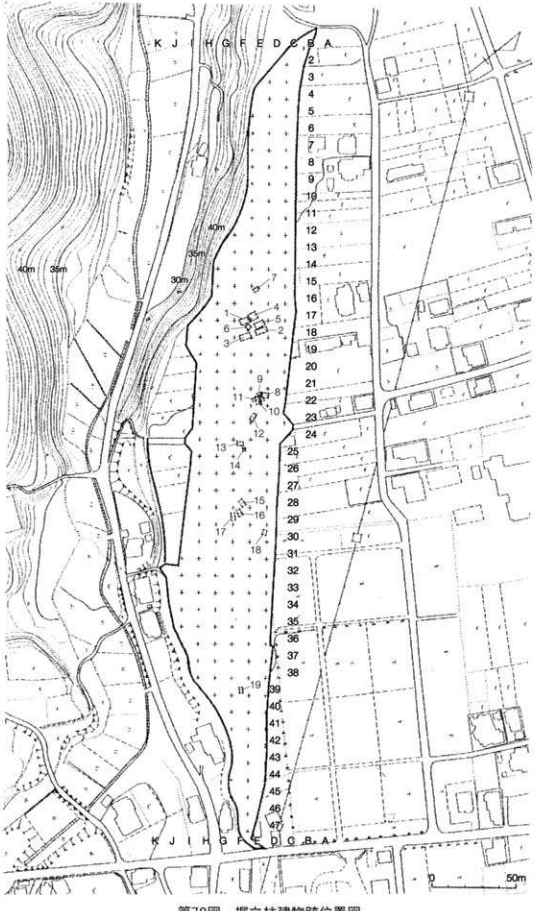
Ｅ－18区で検出された。建物の規格は２間×３間で桁行は6.83mで，６棟の中では最長である。床面積は約20㎡である。梁行柱間は平均2.74m，桁行柱間は平均2.28mで，最大梁間2.85m，最大桁行2.52mである。柱穴は検出面より深いもので82㎝，浅いもので25㎝，平均57.5㎝である。南側の中間にある柱穴は２基からなっているが，添柱があった可能性が考えられる。

掘立柱建物跡３（第81図）

Ｆ－18・19区で検出された。建物の規格は２間×３間で床面積は約19㎡である。梁行柱間は平均3.24m，桁行柱間は平均2.04mであり，最大梁間3.3m，最大桁行3.14mである。柱穴は検出面より深いもので67㎝，浅いもので22㎝，平均43.2㎝である。

掘立柱建物跡４（第81図）

Ｅ－17・Ｆ－17・18区で検出された。建物の規格は２間×３間で床面積は約19㎡である。梁行柱間は平均4.11m，桁行柱間は平均1.5mで，最大梁間4.25m，最大桁行1.85mであり，６棟の中では最も桁行が短い。柱穴は検出面より深いもので77㎝，浅いもので19㎝，平均48.8㎝である。



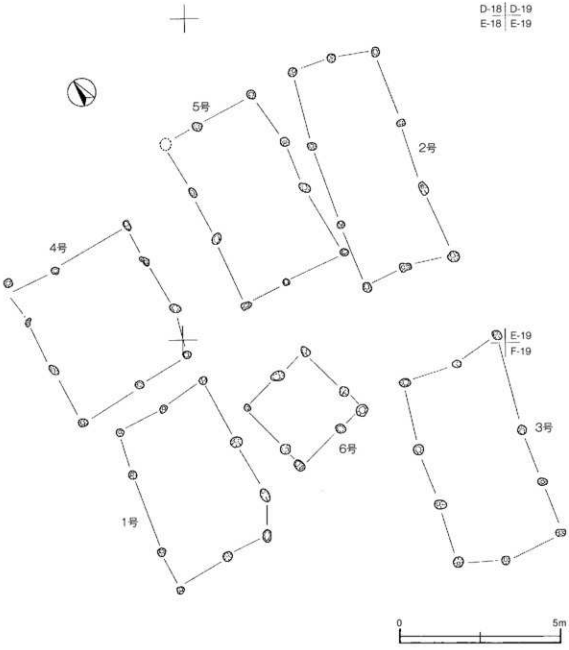
第78図　掘立柱建物跡位置図

掘立柱建物跡５（第82図）

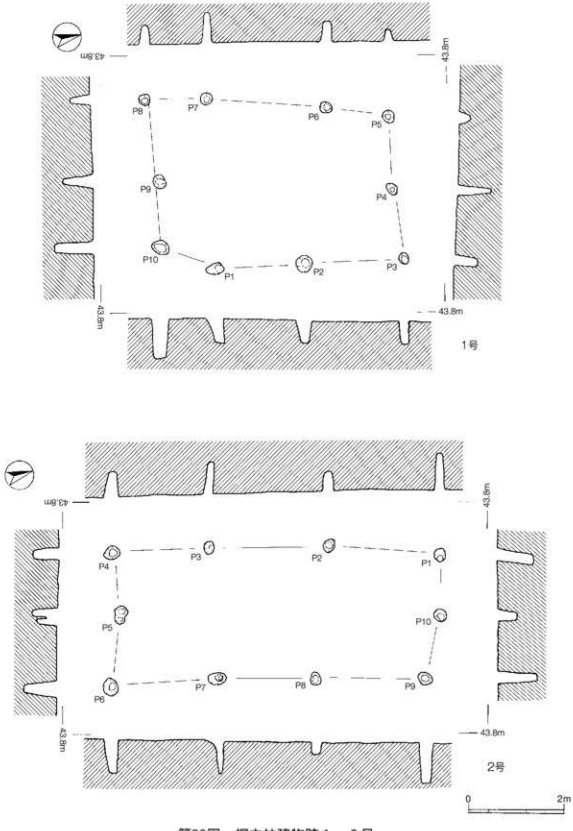
E－17・18区で検出された。南東隅の柱穴は確認トレンチにより切られているが，本来の建物の規格は２間×３間で床面積は約18㎡程度であると考えられる。梁行柱間は平均3.3m，桁行柱間は平均1.88mで，最大梁間3.46m，最大桁行2.28mである。柱穴は検出面より深いもので77㎝，浅いもので26㎝，平均48.8㎝である。

掘立柱建物跡６（第82図）

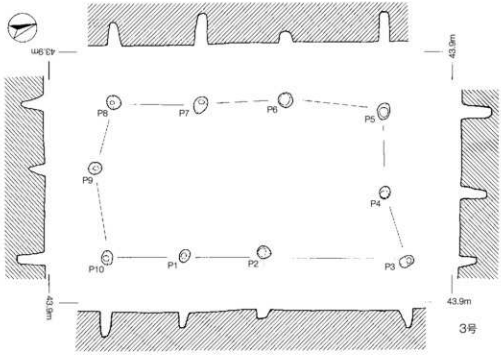
F－18区で検出された。規格が最も小さく，床面積は約７㎡である。他の５棟と異なる用途の建物跡であると推定される。梁行柱間は平均2.61m，桁行柱間は平均1.24mで最大梁間2.8m，最大桁行1.8mである。柱穴は検出面より深いもので94㎝，浅いもので22㎝，平均59.9㎝である。

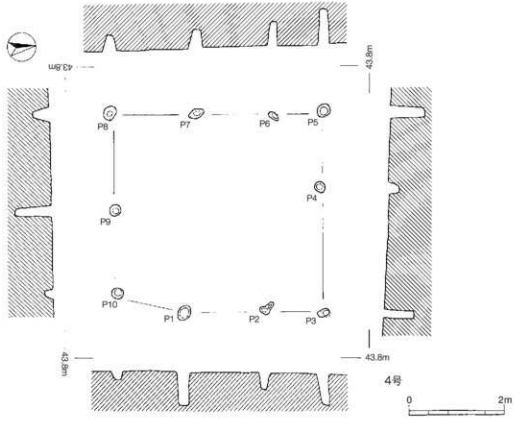


第79図　掘立柱建物跡位置図１～６号

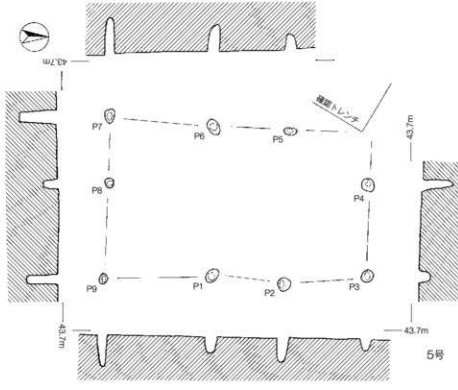


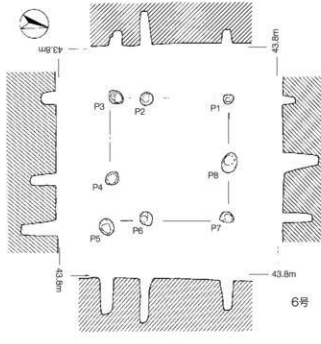
第80図　掘立柱建物跡１，２号



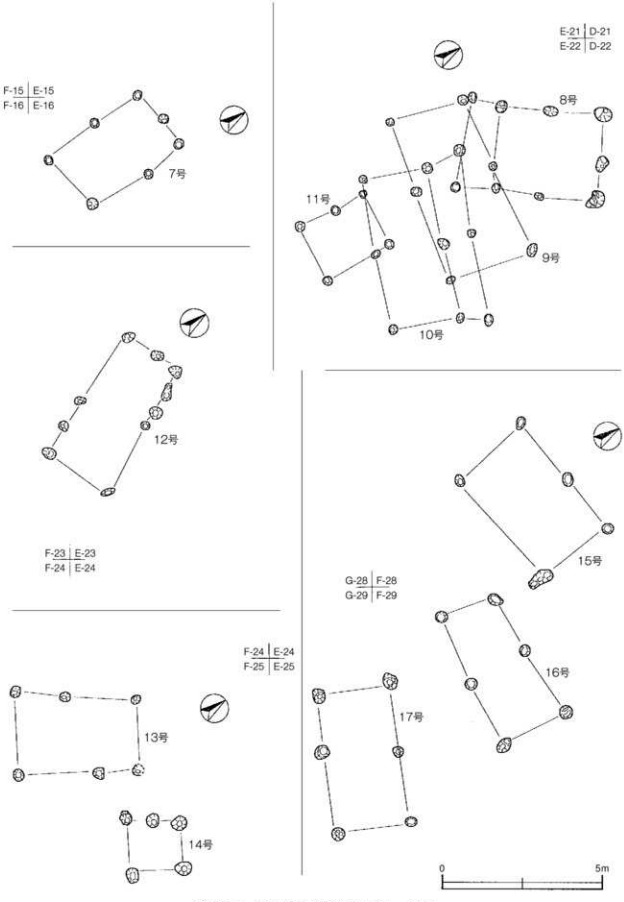


第81図　掘立柱建物跡３，４号

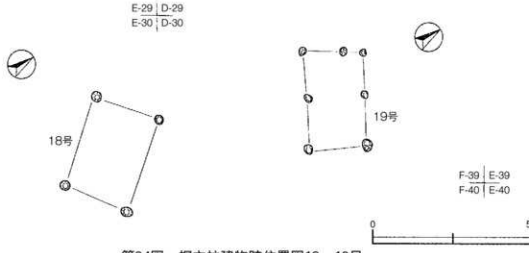




第82図　掘立柱建物跡５，６号



第83図　掘立柱建物跡位置図7 ~ 17号



第84図　掘立柱建物跡位置図18，19号

掘立柱建物跡７（第83図）

Ｅ－16区で検出された。建物の規格は２間×３間であると考えられる。

建物跡２群（８～11号）

掘立柱建物跡８（第83図）

Ｄ・Ｅ－22区で検出された。南西側に庇を設け，柱穴の並びがやや不規則であるが，建物の規格は２間×１間あるいは２間×２間であると考えられる。

掘立柱建物跡９（第83図）

Ｅ－22区で検出された。建物の規格は２間×３間であると考えられる。

掘立柱建物跡10（第83図）

Ｅ－22区で検出された。北側に庇を設け，規格は２間×１間であると考えられる。

掘立柱建物跡11（第83図）

Ｅ－22区で検出された。桁行がほぼ南北方向である。建物の規格は２間×１間であると考えられる。

掘立柱建物跡12（第83図）

Ｅ・Ｆ－23区で検出された。規格は２間×１間であると考えられる。桁行の柱穴の間にピットが見られることから，添柱か建て替えがあった可能性が考えられる。

建物跡３群（13・14号）

掘立柱建物跡13（第83図）

Ｆ－25区で検出された。柱穴の並びがやや不規則であるが，建物の規格は２間×１間であると考えられる。

掘立柱建物跡14（第83図）

Ｆ－25区で検出された。建物の規格は１間×１間であると考えられる。

建物跡４群（15～17号）

掘立柱建物跡15（第83図）

Ｆ－28区で検出された。建物の規格は２間×１間であるが，桁行の１基の柱穴が何らかの理由で確認できなかったものと考えられる。

掘立柱建物跡16（第83図）

F－29区で検出された。建物の規格は２間×１間であると考えられる。

掘立柱建物跡17（第83図）

F・G－29区で検出された。建物の規格は２間×１間であると考えられる。

掘立柱建物跡18（第84図）

D・E－30区で検出された。建物の規格は１間×１間であると考えられる。

掘立柱建物跡19（第84図）

F－39区で検出された。建物の規格は２間×１間あるいは２間×２間であると考えられる。

２　溝（第85図）

古代から中世の溝は，溝１～５の５条がⅢa・Ⅲb層の上面で検出された。

溝１号（第86図）

C～I－15～26区で検出された。幅は約0.8～２ｍで，深さは約0.3～0.57ｍ，検出された総延長は約150ｍである。南北に約30ｍ，東西に約120ｍの長さで調査区外へとのびる。底面は平坦，もしくは丸みをもつものがあり，ゆるやかに立ち上がる。

出土遺物（第87図１，２）

１は，土師器の埦である。内外共に横ナデの調整がなされている。２は白磁の丸碗である。型押しの磁器で近世のものと考えられ，埋土に紛れ込んだものと推察される。

溝２号（第86図）

C～G－16区で検出された。南北方向にほぼ一直線上にのびる。幅は約0.9～２ｍで，深さは約0.3～0.4ｍ，検出された総延長は約42ｍで，調査区を横断するものと考えられる。底面は平坦，もしくは丸みをもつものがあり，ゆるやかに立ち上がる。

出土遺物（第87図３～９）

３，４はそれぞれ土師器の埦で，内外共に横ナデの調整がなされている。３の高台は「ハ」の字状に強く張り出し，また先端部は太く外へ大きく張り出す。４には内外面全体にケズリの調整もやや見られる。５，６，７は内黒土師器の埦であり，７では，内面にヘラミガキの痕跡をみることができる。８は15世紀後半の白磁の碗であり，丸みを帯びながら内湾気味に立ち上がり，口縁部が反転し，先端部がやや外反する。胎土は堅緻である。９は唐銭の「開元通寶」であり，初鋳年は621年である。

溝３号（第86図）

D－I－19区で検出された。２号と並行するように南北方向にのびていて，幅は約１～1.5ｍ，深さが約0.3～0.7ｍ，総延長約47ｍと，２号に似通っている点が見られている。底面は平坦で，ゆるやかに立ち上がる。

出土遺物（第88図10，11）

10は，東播磨系須恵器の捏鉢である。内外横ナデの調整が見られ，粘土の接合痕も断面に見られる。11は瓦質擂鉢の胴部であり，外面が横ナデ，内面がハケメの調整が見られる。また，内面には６条の条線が施されている。

第１表　掘立柱建物跡計測表（1）

掘立柱建物跡１号　柱穴計測表・柱穴芯芯間計測表

柱穴番号	柱穴（単位：cm）		
	長径	短径	深さ
1	42	24	53
2	39	35	48
3	28	23	50
4	29	23	69
5	29	25	24
6	24	23	43
7	27	25	67
8	26	24	41
9	32	26	64
10	35	29	78
平均	31.1	25.7	53.7

柱穴番号	梁行柱間（m）	柱穴番号	桁行柱間（m）	桁行間（m）
P３～P５	3.05	P３～P２	2.1	5.27
P２～P６	3.37	P２～P１	1.83	
P１～P７	3.64	P１～P10	1.34	
P８～P10	3.15	P８～P７	1.32	5.19
		P７～P６	2.54	
		P６～P５	1.33	
平均	3.3		1.74	5.23

掘立柱建物跡２号　柱穴計測表・柱穴芯芯間計測表

柱穴番号	柱穴（単位：cm）		
	長径	短径	深さ
1	28	25	76
2	31	26	41
3	28	22	66
4	35	28	54
5	38	28	53
6	38	30	67
7	41	26	70
8	30	24	25
9	31	26	82
10	28	26	41
平均	32.8	26.1	57.5

柱穴番号	梁行柱間（m）	柱穴番号	桁行柱間（m）	桁行間（m）
P１～P９	2.54	P１～P２	2.4	6.99
P２～P８	2.85	P２～P３	2.52	
P３～P７	2.76	P３～P４	2.07	
P４～P６	2.82	P６～P７	2.3	6.68
		P７～P８	2.05	
		P８～P９	2.33	
平均	2.74		2.28	6.83

掘立柱建物跡３号　柱穴計測表・柱穴芯芯間計測表

柱穴番号	柱穴（単位：cm）		
	長径	短径	深さ
1	30	21	33
2	31	29	22
3	32	22	38
4	28	23	55
5	36	27	63
6	30	30	24
7	39	28	67
8	33	29	44
9	30	25	33
10	32	22	53
平均	32.1	25.6	43.2

柱穴番号	梁行柱間（m）	柱穴番号	桁行柱間（m）	桁行間（m）
P３～P５	3.17	P３～P２	3.14	6.46
P２～P６	3.24	P２～P１	1.68	
P１～P７	3.26	P１～P10	1.64	
P８～P10	3.3	P８～P７	1.9	5.76
		P７～P６	1.76	
		P６～P５	2.1	
平均	3.24		2.04	6.11

第２表　掘立柱建物跡計測表（2）

掘立柱建物跡４号　柱穴計測表・柱穴芯芯間計測表

柱穴番号	柱穴（単位：cm）		
	長径	短径	深さ
1	36	27	71
2	29	20	37
3	24	18	65
4	26	22	23
5	34	28	71
6	27	13	50
7	34	23	39
8	32	26	36
9	27	24	77
10	26	24	19
平均	29.5	22.5	48.8

柱穴番号	梁行柱間（m）	柱穴番号	桁行柱間（m）	桁行間（m）
P３～P５	4.26	P３～P２	1.3	4.5
P２～P６	4.15	P２～P１	1.72	
P１～P７	4.25	P１～P10	1.48	
P８～P10	3.78	P８～P７	1.85	4.51
		P７～P６	1.6	
		P６～P５	1.06	
平均	4.11		1.5	4.51

掘立柱建物跡５号　柱穴計測表・柱穴芯芯間計測表

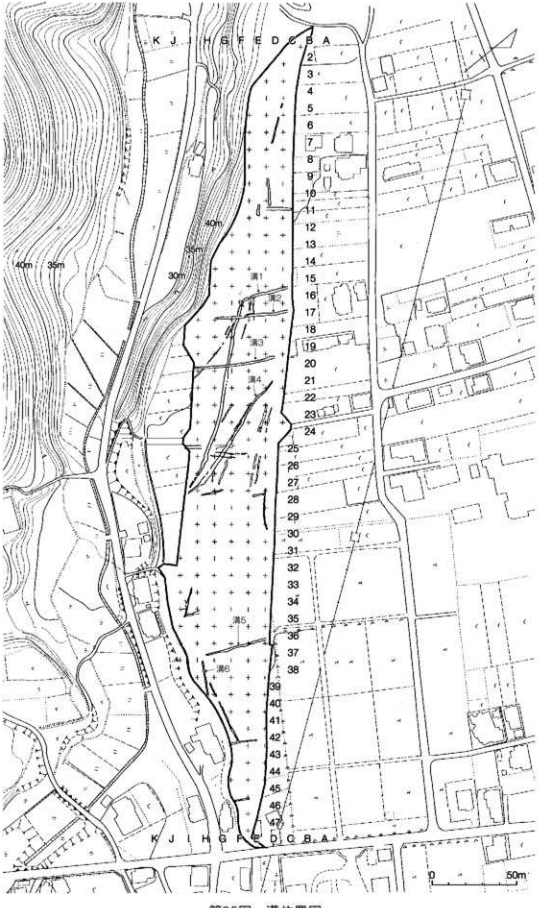
柱穴番号	柱穴（単位：cm）		
	長径	短径	深さ
1	36	23	35
2	32	27	52
3	27	25	26
4	31	27	62
5	29	16	38
6	38	24	55
7	32	23	77
8	22	18	30
9	25	18	64
平均	30.2	22.3	48.8

柱穴番号	梁行柱間（m）	柱穴番号	桁行柱間（m）	桁行間（m）
P２～P５	3.25	P３～P２	1.8	5.61
P１～P６	3.18	P２～P１	1.53	
P７～P９	3.46	P１～P９	2.28	
		P７～P６	2.22	
		P６～P５	1.61	
平均	3.3		1.88	

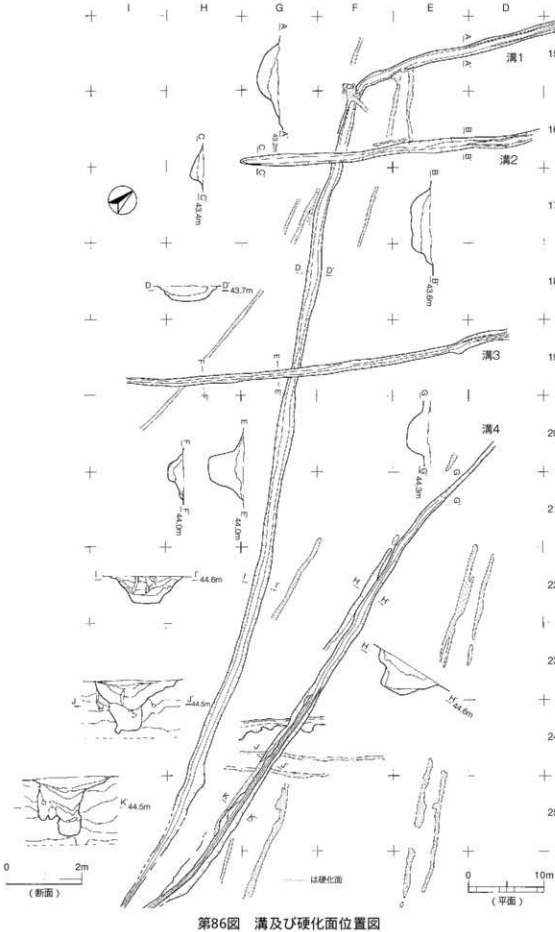
掘立柱建物跡６号　柱穴計測表・柱穴芯芯間計測表

柱穴番号	柱穴（単位：cm）		
	長径	短径	深さ
1	24	20	22
2	30	27	70
3	35	28	28
4	33	27	53
5	34	30	76
6	33	27	94
7	31	23	62
8	45	32	74
平均	33.1	26.8	59.9

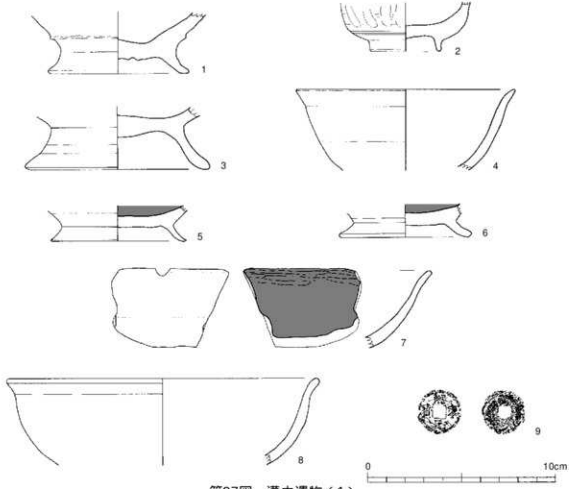
柱穴番号	梁行柱間（m）	柱穴番号	桁行柱間（m）	桁行間（m）
P１～P７	2.5	P７～P６	1.8	2.64
P２～P６	2.52	P６～P５	0.84	
P３～P５	2.8	P３～P２	0.57	2.33
		P２～P１	1.76	
平均	2.61		1.24	2.49


K J H G F E D C B A
40m
35m
30m
40m
35m
溝1
溝2
溝3
溝4
溝5
溝6
K J H G F E D C B A
0
50m

第85図　溝位置図



第86図　溝及び硬化面位置図



第87図　溝内遺物（1）

溝４号（第86図）

Ｄ－Ⅰ－ 20～27区で検出された。１号と重なり合うように南北にのび，硬化面も断続的に所々見られる。幅は約0.5～２ｍ，深さは約0.3ｍ～1.2ｍと幅広く点在し，総延長は約86ｍである。溝断面図から，断面によって埋土に違いがあり，崩落した後に入り込みがあったと考えられる。底面は，平坦なものと丸みを帯びたものに分かれ，段をもって立ち上がる箇所や，複雑な曲線を描きながら立ち上がる箇所などがみられる。

出土遺物（第88図）

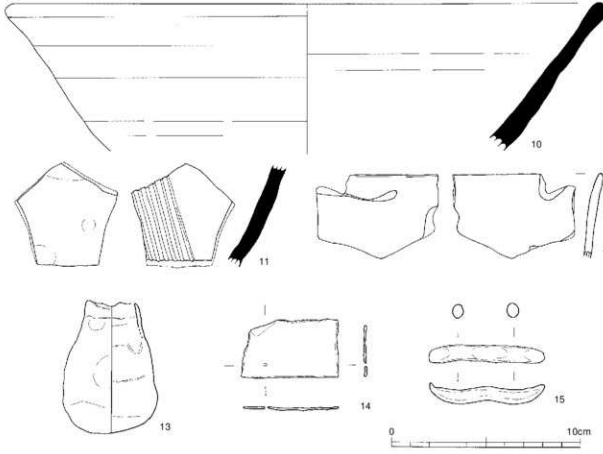
12は土師器の大型椀で，調整は内外共に横ナデである。13は弥生時代か古墳時代の手捏土器の蛸壺で，口径は2.1㎝あり，輪積み痕が残っている。

溝５号（第85図）

Ｈ－ 37～39区で検出された。遺跡の南部に位置し，東西に直線状にのびている。総延長は，約22ｍである。

出土遺物（第88図）

14は，銅製品である。厚さ約0.5㎜，縦約３㎝，横約５㎝の銅板に直径約1.5㎜の孔が人工的に施されている。また同じ場所から，長さ６㎝，太さ約７㎜の銅製の棒（15）が検出された。双方共に家具の金具か，近世品の混入かとも考えられる。



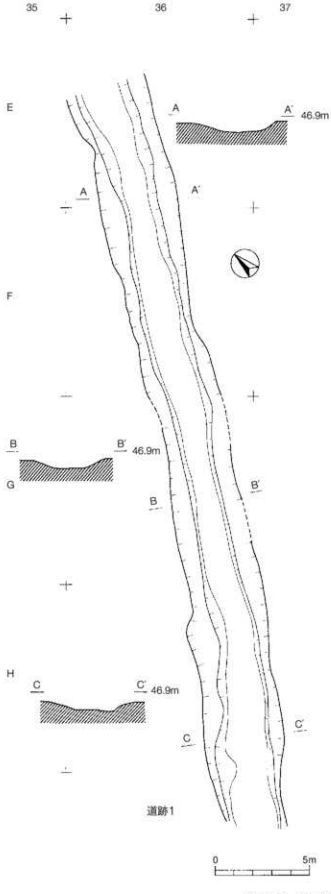
第88図　溝内遺物（２）

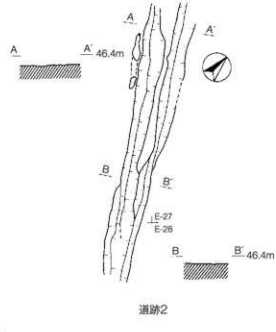
３　道跡（第89図）

道路状遺構が２条検出された。１号は，Ｅ～Ｉ－ 35～37区で検出された。断面がゆるやかな逆台形の形をしており，幅が約４ｍで，南北に直線状にのびている硬化面が所々に確認された。深さは約50cmと浅く，総延長は約40ｍである。２号は，Ｅ・Ｆ－ 27，28区で検出された。幅は約1.7～2.5ｍで，１号同様，南北に直線状にのびている硬化面が所々に確認された。道は全体的になだらかな平坦面で，深さはほとんど見られない。層位や埋土状況から判断して，古代から中世の時期に使用された道路跡と推定している。道路の建設と廃棄の時期は不明確であるが，近世以降には道路としての役割を終え，遺構が埋没したものとして考えている。埋土からは，土製品，土師器，土錘が出土した。

出土遺物（第90図）

16は，粗い土を用いた鞴の羽口である。灰色を呈しているが被熱のため，外面に黒緑色のガラス状の物質が熔着している。17は円筒形の土錘で，最大長7.0cm，直径２cm，孔径0.9cmである。外面には，ケズリの調整が施されている。18は，底部切離しが糸切りの土師器の坏であり，調整は内外共に横ナデである。





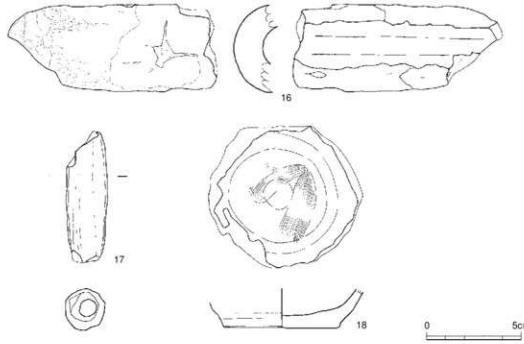
第89図　道跡１，２

4　焼土跡（第91図）

調査区内の所々に焼土跡らしき箇所が残されていたが，確実に焼土跡と認識されるものは少なかった。そこでミニトレンチや半裁を行い，Ⅲa・Ⅲb層で著しい痕跡があった10か所を掲載した。分布については，遺跡北部に４か所，中間部に４か所，南部に２か所，それぞれ点在している。

焼土跡１（第92図）

C－５区で検出された。約0.8m×0.7mの範囲に広がり，約12cmほどの窪みになっている。底面はほぼ平坦でゆるやかに立ち上がり，赤褐色砂質土や暗紫褐色砂質土が堆積している。



第90図　道跡出土遺物

焼土跡２（第92図）

D－７区で検出された。約１m×１mの範囲に広がり，約21cmほどの窪みになっている。底面はほぼ平坦で，ゆるやかに立ち上がる。暗紫褐色土，砂質土，茶褐色土，粘質土などに炭化物が多く含まれ，焼土は赤褐色で削れやすくなっている。

焼土跡３（第92図）

D－８区で検出された。約1.6m×1.1mの範囲に広がり，約30cmの窪みが見られる。東西に細長く，底面はほぼ平坦でゆるやかに立ち上がり，黒褐色砂質土と暗褐色砂質土から炭化物が検出された。土器や石鏃，黒曜石の破片など数点が出土したが，小片のため図化しなかった。

焼土跡４（第92図）

D－９区で検出された。他の焼土跡に比べて比較的大きいものであり，約2.1m×1.8mの範囲に広がり，約40cmの窪みがある。底面はほぼ平坦でゆるやかに立ち上がり，炭化物が多量に混じる焼土層が検出された。黒曜石の破片も数点出土したが，図化しなかった。

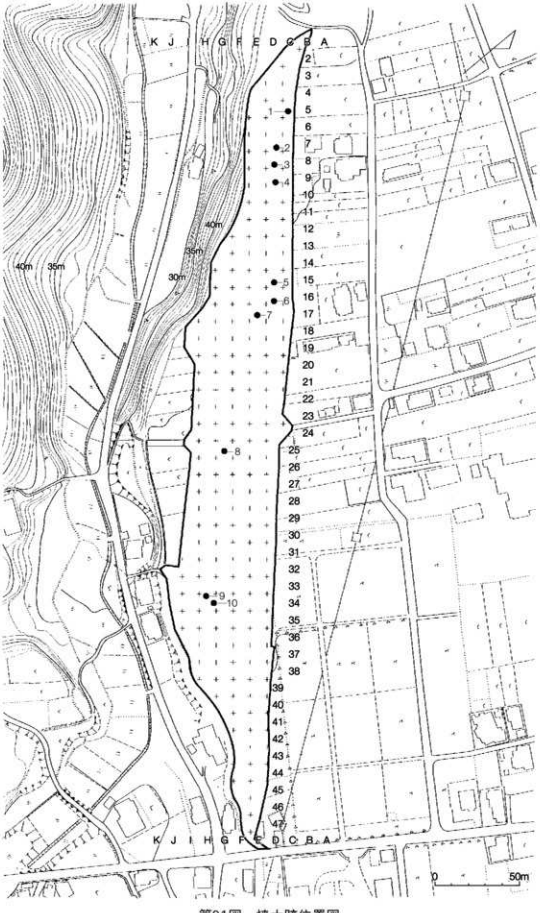
焼土跡５（第93図）

D－15区で検出された。約0.9m×1.1mの範囲に広がり，約20cmの窪みが見られ，深さ約30cmの樹根が重なり合っている。底面は楕円形を呈し，暗褐色土が混入した形跡が見られ，灰の掻きだし部の可能性もあるが不明である。埋土からは，土師器が数点出土した。

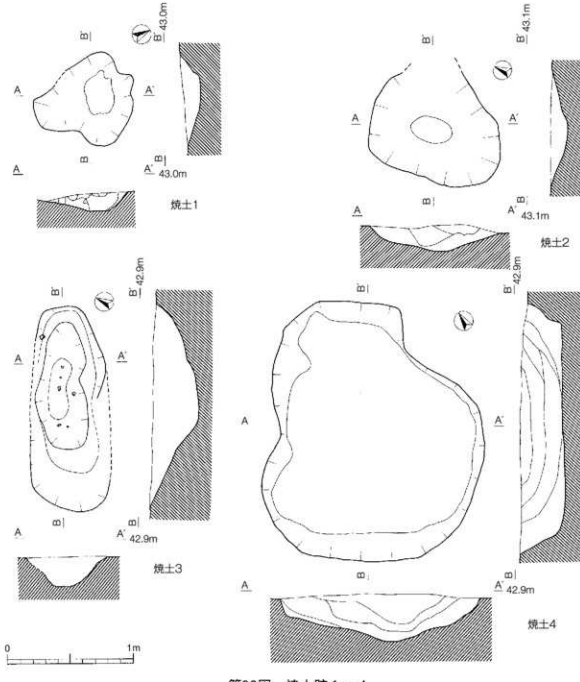
出土遺物（第94図）

19は，内黒土師器の椀もしくは坏の口縁部と考えられる。外面部に４条の稜線を有し，丸みを帯びながら内湾気味に立ち上がり，口縁部は反転しながら先端部は外反する。

20も椀もしくは坏の口縁部と考えられ，数条の稜線を有している。21は，土師器の椀底部で，内外面にナデ調整がなされている。



第91図　焼土跡位置図



第92図　焼土跡１～４

焼土跡６（第93図）

D－16区で検出された。約1.2m×0.9mの範囲に広がり，約30cmの窪みに樹根が二本，食い込んだ形となっている。底面には段差がみられ，焼土は桃橙色土であり，土器破片が検出されたが図化しなかった。堆積した暗茶褐色土には炭化物が多量に点在していた。

焼土跡７（第95図）

E－17区で，検出された。約2.1m×1.4mの範囲に広がり，平均して約20cmほどの窪みの中で，深さ約40cmのピットが樹根の食い込んだ形として検出されている。また，少し離れた箇所にも樹根の食い込みがみられている。底面は全体的になだらかであり，赤褐色砂質土である焼土から，土師器などが数点検出された。

出土遺物（第95図）

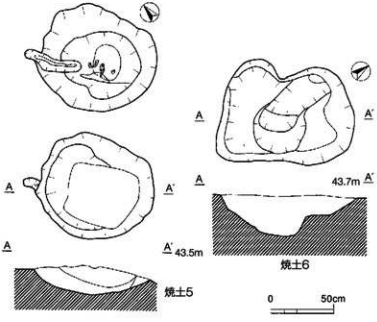
22は，内黒土師器の椀もしくは坏の口縁部である。19同様，丸みを帯びながら内湾気味に立ち上がり，先端部が外反している。23は土師器甕の口縁部であり，内外共にナデ調整がなされている。24は，土師器鉢の胴部から口縁部にわたるもので，薄手ではあるが，口径25cmで比較的，大型のものであるように思われる。内外共にナデ調整である。

焼土跡８（第96図）

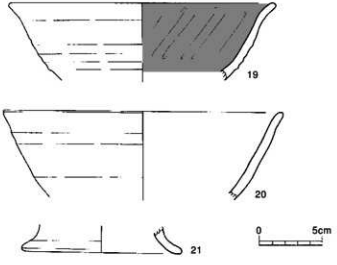
G－ 25区で検出された。約0.7m× 0.4mの範囲に広がり，窪みは約10cmほどと，比較的浅い。底面は平坦であり，焼土は赤茶色と黒茶色に分かれる。

焼土跡９（第96図）

H－ 33・34区で検出された。約0.9m× 0.6mの範囲に広がり，窪みは約20cmほどである。埋土には様々な質の土が混在していたが，そのうち多かったのが暗茶褐色土で，やや硬化で砂質であり，焼土粒を含んでいた。焼土は橙色を帯び，淡黒色土や赤色混じりの茶褐色土，黒色混じりの暗茶褐色土にも焼土粒や炭化物が多量に含まれていた。底面は楕円状を呈している。



第93図　焼土跡５，６



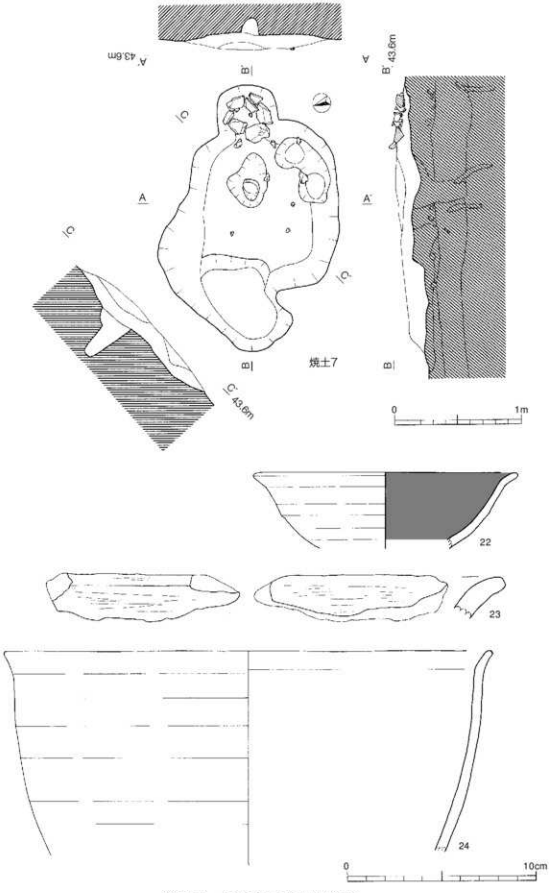
第94図　焼土跡５出土遺物

焼土跡10（第96図）

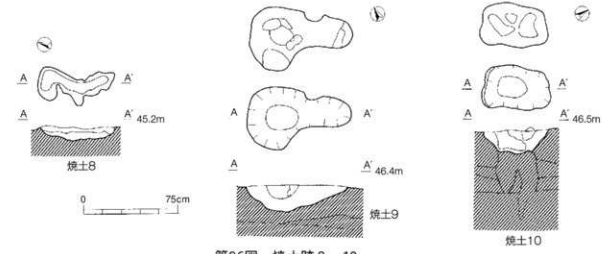
H・G－ 34区で，検出された。約0.5m× 0.4mの範囲に広がり，窪みは，約20cmほどである。焼土塊は何か所かに点在し，赤色で炭化質を含んでおり，硬質であるのが特徴である。炭化物は黒色土や暗茶褐色土などに含まれていた。底面は，なだらかな楕円状を呈している。全体を通して，焼土跡から遺物が出土したのは５，７のみであり，その他の遺構からは遺物が見あたらなかった。

５　土師皿埋納土坑（第97図）

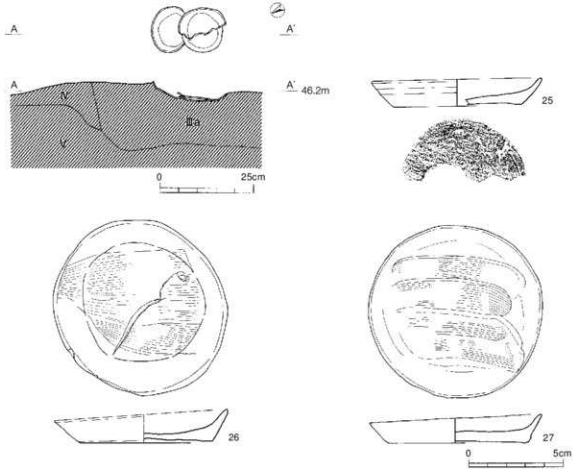
E－ 35区で検出された。長軸約86cmのⅢa層土を埋土とする楕円形の土坑の床面から約9.5cm上の



第95図　焼土跡７及び出土遺物

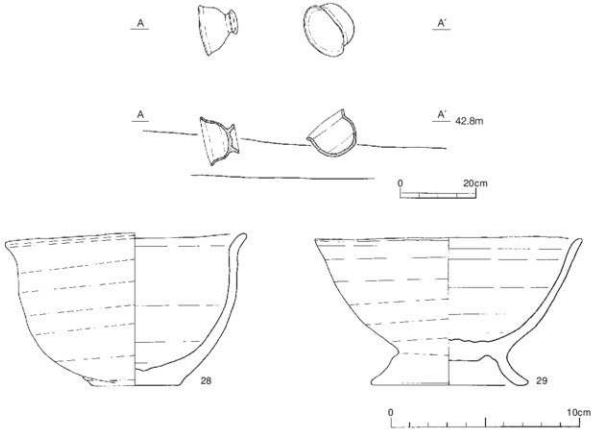


第96図　焼土跡8～10



第97図　土師器埋納土坑及び遺物

位置に，土師皿が1か所に3枚上向きに置かれていた。置かれた順番は，北側の皿（27）が最初で次にそれに接するように南側に皿を置き（26），最後に2番目の皿を押さえつけるように3番目の皿（25）が置かれている。3枚共，底面に糸切り痕が観察される。遺構の性格は，土層断面が切り崩されているものの，土坑墓の可能性が高いものと推定される。



第98図　古代土師器（1）鉢，**椀**

第２節　古代の遺物

主にⅢa・Ⅲbを包含層として土師器や須恵器等が出土している。土師器の中には，数点の墨書土器と籌書土器がみられ，本遺跡の特色といえる。

土師器

鉢・椀（第98図）

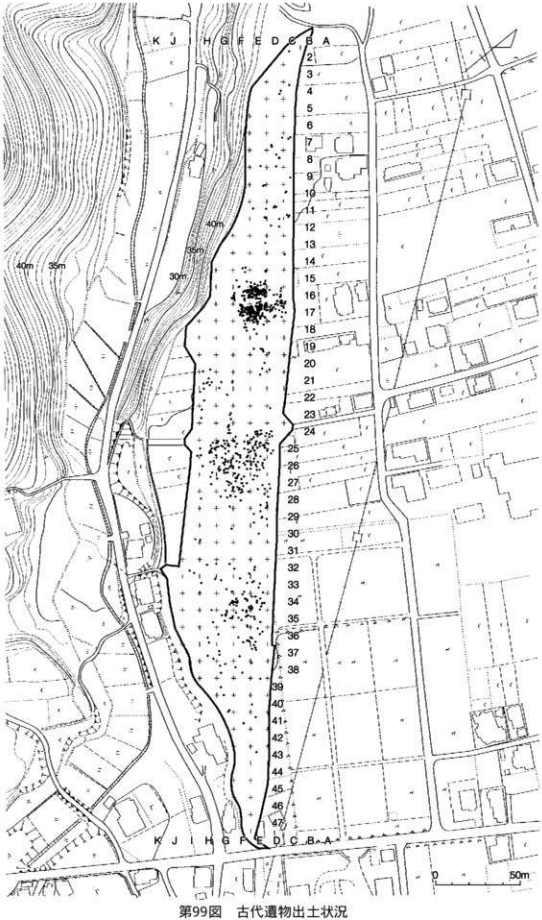
二つの完形の鉢と椀が約20cmの間隔を開けて，D－７区のⅢa層から出土した。28は，口縁部付近がやや急に外反し，29は，「ハ」の字状に広がる高台を持つ。双方共に丁寧なナデ調整が内外面共になされている。これらの遺物がほぼ同位置に並べられた理由や意図については，祭りでの使用，もしくは集落に魔物が侵入しないように塞の神への供献として行われたとも考えられるが，断定はできないものである。

椀（第100図～102図）

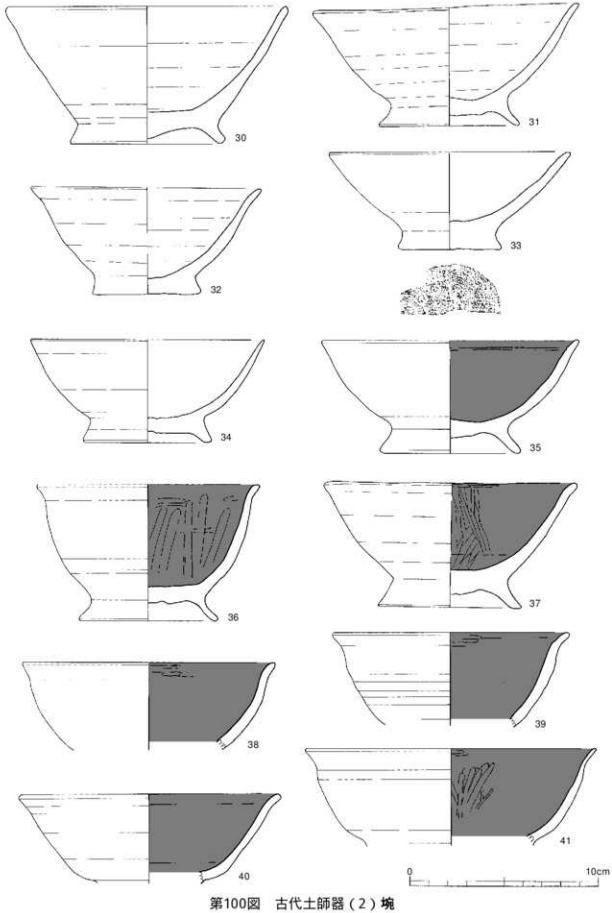
出土した椀を口径，器形，体部や底部及び高台の形状により，６種類に分類した。

椀Ⅰ類（30～37）　完形，もしくは完形に近い椀であり，口径は約12cm～14cm程度。

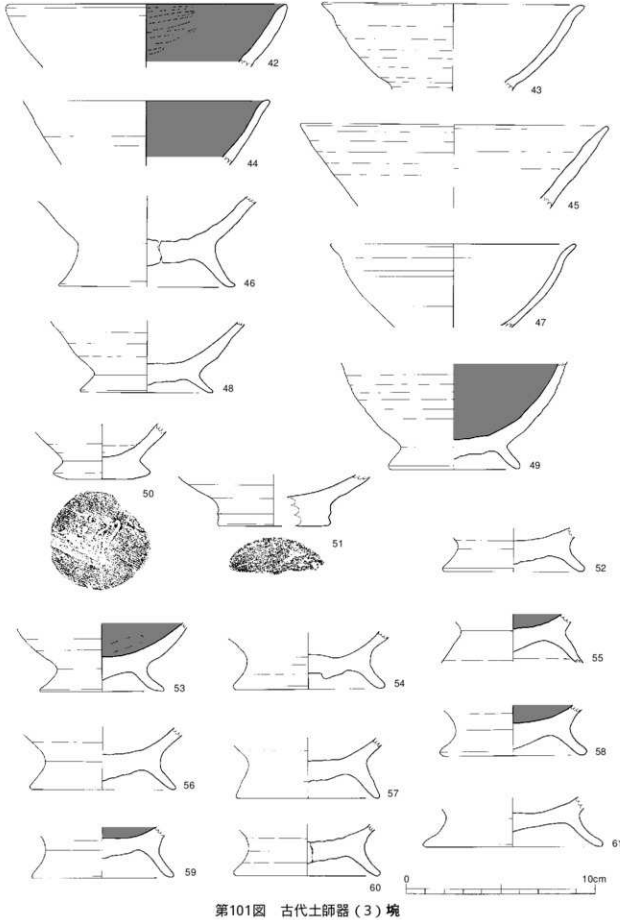
30～35は，断面が三角形の形をした高台を有している。32・33は，円柱状の高台を有する充実高台椀である。35～37は内黒土師器であり，内面にヘラミガキの調整がなされている。36・37は，口



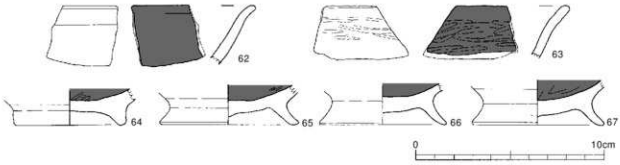
第99図　古代遺物出土状況



第100図　古代土師器（２）塊



第101図　古代土師器（3）塊



第102図　古代土師器（4）**埦**

縁部付近がやや緩やかに外反している。

埦Ⅱ類（38～45）　口縁部付近が外反するものが多い。口径は約13cm～16cm程度。

38から42・44までは，内黒土師器である。38・39・41・42には，内面にヘラミガキによる調整がなされ，41は口唇部がやや細めに仕上がっている。逆に42は，体部から口縁部にわたり厚みを帯びた形となっている。43は内外横ナデの調整がなされ，45は体部が直線状に大きく開き，内外面に炭化物が付着している。

埦Ⅲ類（46～51）　体部から底部にわたるもので，底径は，約5cm～9cm程度。

46は，底部中央にヒビ割れが見られるが，内外共に丁寧な横ナデ調整がなされ，ススが内外面に付着する。49は内黒土師器であり，50・51は，充実高台である。

埦Ⅳ類（52～61）　底部一括。

すべて「ハ」の字に開く高台をもつものであり，全体的に脚部が細めで高いのが特徴である。52は，やや厚めの底部を有し，53・55・58・59は内黒土師器で，内面がヘラミガキ，外面が横ナデによる調整である。54は，高台内の中央部付近が盛り上がる。60は，底部中央にヒビ割れが見られるが，46同様，内外共に丁寧な横ナデ調整がなされている。

埦Ⅴ類（62・63）口縁部から胴部にわたるもので，破片資料であるもの。

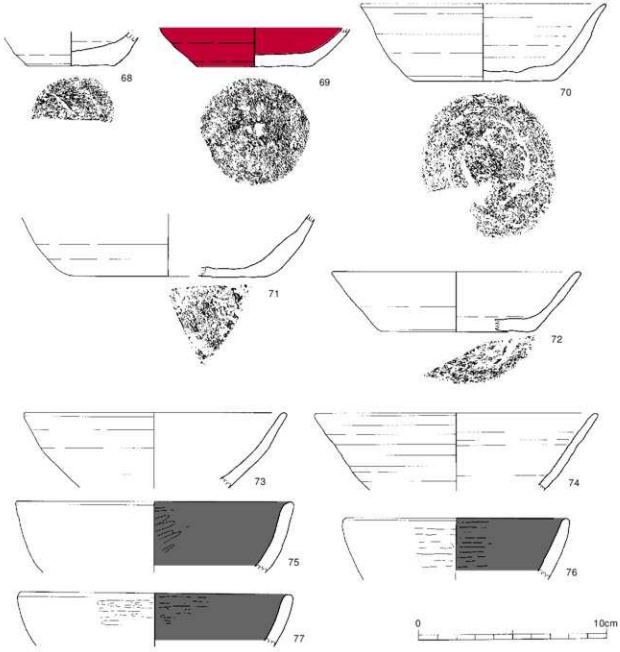
62，63ともに内黒土師器である。63については，内外共にヘラミガキが施されている。

埦Ⅵ類（64～67）内黒土師器の底部である。底形は，約5cm～7cm程度。

64は，やや低めで丸みを帯びた脚部である。65から67については，「ハ」の字に開く高台を有している。すべて内面にヘラミガキ調整が，外面に横ナデ調整が施されている。

坏（第103図）

68から72は底部から口縁部までのものであり，73から77までは口縁部から胴部までの破片資料である。68は，厚みのある底部を有している。69は，口縁部から胴部にかけてなだらかな曲線を描き，一見，皿を思わせるような坏底部である。内外面に赤色顔料が塗布されている。70は，底部表面にやや膨らみがみられ，ヘラ切り痕が残る。また，外面には炭化物付着もみられ，内外共に横ナデ調整がなされている。71は底径が10.6cmと，やや横ぱいな坏であり，二次焼成を受けている。72，74は，胴部が直線的に開くものである。73は，胴部が内湾気味に立ち上がる。75，76，77は，内黒土師器の坏の口縁部である。75は，内面がヘラミガキ，外面が横ナデの調整がなされ，76・77は，内外面共にヘラミガキの調整であり，やや厚めの口縁部を有していることが共通している。



第103図　古代土師器（５）坏

鉢（第104図）

鉢は５点のみの出土である。78は，内外面が横ナデ調整であり，器壁が底部に近づくにつれてやや厚めになっている。79は，内面が横ナデ，外面が横ナデ及びケズリの調整が施されている。器壁がやや垂直気味に開いている。80は，底部に厚みがあるのが特徴である。81は，底部をヘラ切りした後の調整がなく，比較的作りが雑なものである。82も，内外面共に横ナデ調整がなされているものの，81同様，調整がやや雑な作りである。

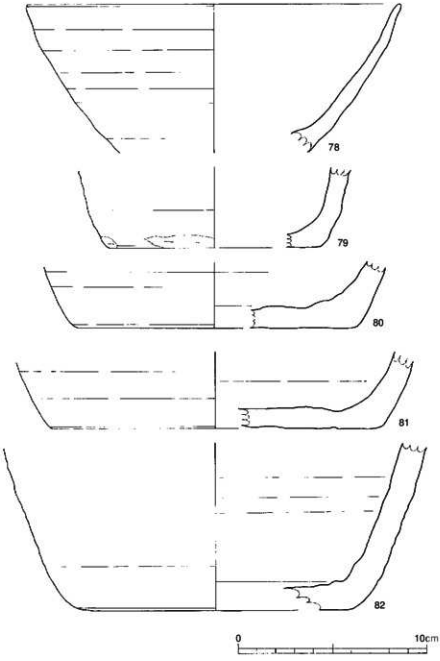
甕（第105図～107図）

甕は17点の出土である。

口径が出せなかったものあるため，口縁部及び胴部の形態などにより，４種類に分類した。

甕Ⅰ類（第105図83～86）

胴部が若干丸みを帯びながら膨らみ，頸部で内湾し，口縁部が「く」の字に外反するものである。いずれも器壁は口縁部から胴部までほぼ同じ厚さと推定され，頸部内面には稜線が残っている。口唇部はいずれも細く丸まっている。83は，外面に横位のナデ調整の他，斜位のハケ目による調整痕も見られ，内面は口縁部が横位のナデ調整，稜線より下部では斜位のケズリが施されている。84には，頸部外面にも稜線が残っており，調整は，外面がハケ目のち横ナデ調整がなされており，内面は稜線より下部で斜位のケズリが施されている。

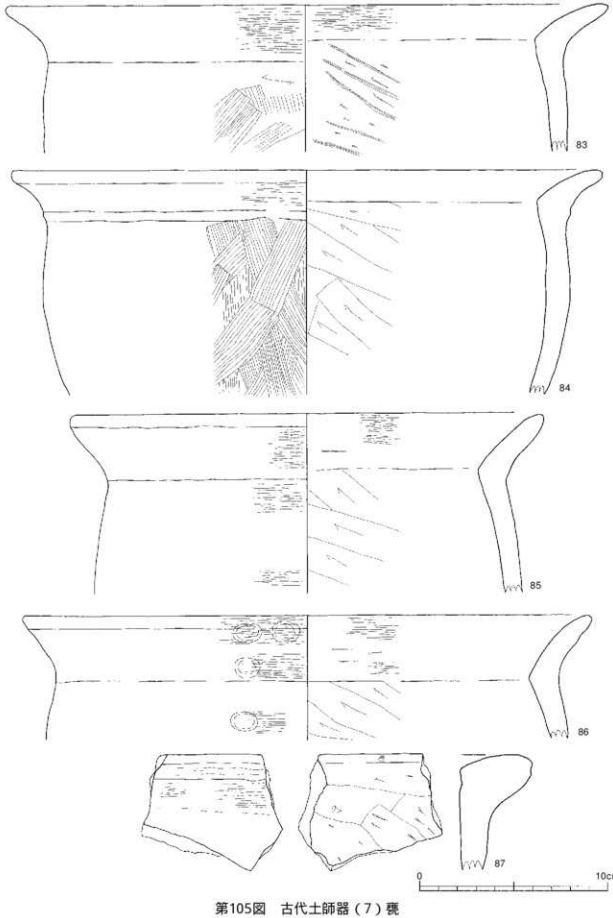


第104図　古代土師器（６）鉢

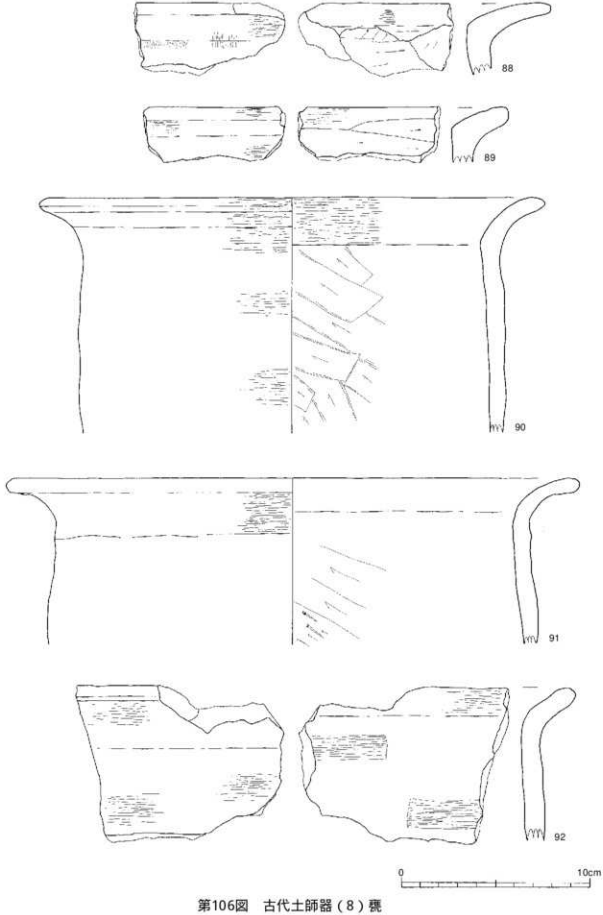
85は，外面に炭化物の付着がみられ，調整は外面が横位のナデ調整，内面は口縁部が横位のナデ調整，稜線より下部では斜位のケズリが施されている。86は，外面にケズリのち横ナデ調整がなされ，指頭痕をはっきり見ることができる。内面は口縁部が横ナデ及び若干のケズリが見られ，稜線より下部では斜位のケズリがみられる。

甕Ⅱ類（第105図87～第106図89）

口径が出せなかった口縁部の破片資料である。87は，口唇部がやや厚く，胴部が直線的に伸びるものである。外面は横位のナデ調整が，内面はナデ及び斜位のケズリが施されている。88は，内外面共に炭化物が付着し，外面が横位のナデ調整，内面が頸部の部分に横位もしくは斜位でケズリが



第105図　古代土師器（7）甕



第106図　古代土師器（8）甕

みられる。89は，外面にのみ炭化物が付着し，横位のナデ調整がみられ，内面には横ナデ及び横位のケズリが施されている。

甕Ⅲ類（第106図90・91）

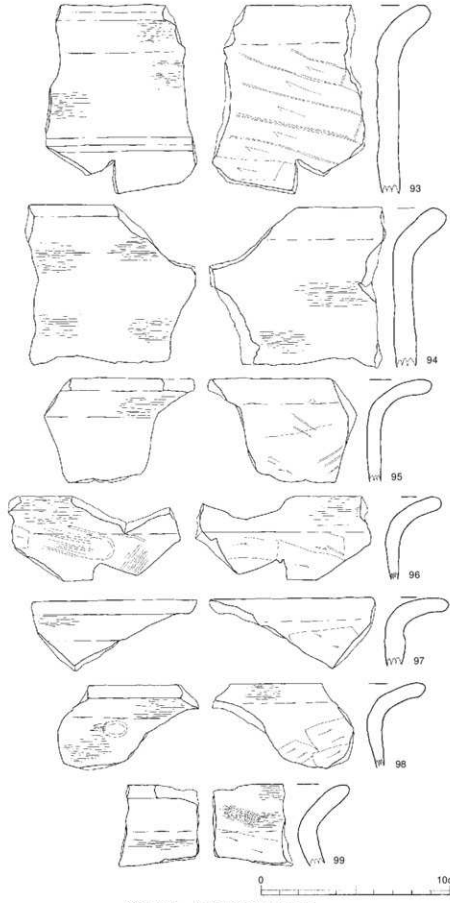
胴部が頸部まで直線的に伸び，口縁部で外反するものである。胴部が比較的長く延びると思われる。90は外面に炭化物が付着し，横ナデ調整がなされ，内面は稜線より上が横ナデ調整，下部が斜位のケズリを施している。

91は，内外面共にゆるやかな稜線が見られ，外面は横ナデ，内面は斜位のケズリが施されている。頸部付近がややくびれている点が特徴的である。

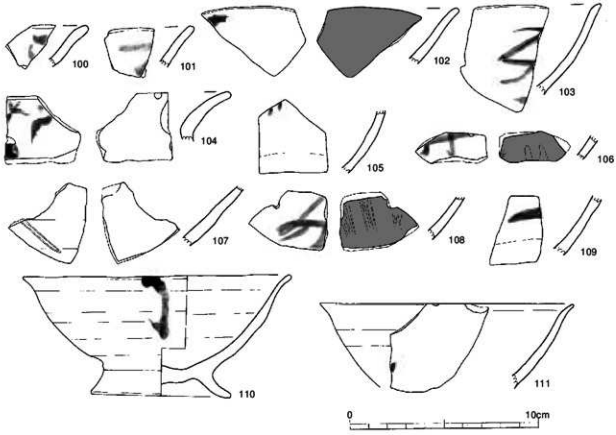
甕Ⅳ類（第106図92～第107図99）

Ⅱ類同様，口径が出せなかった口縁部の破片資料である。92～97は，胴部が頸部まで直線的に伸びるもので，98・99は胴部が丸みを帯びながら膨らみ，口縁部が「く」の字に外反するものである。

92は，外面に炭化物が付着し，内外面共に横ナデ調整が施されている。93も外面に炭化物が付着し，横ナデ調整がされる中で，下の方に三本の稜



第107図　古代土師器（9）甕

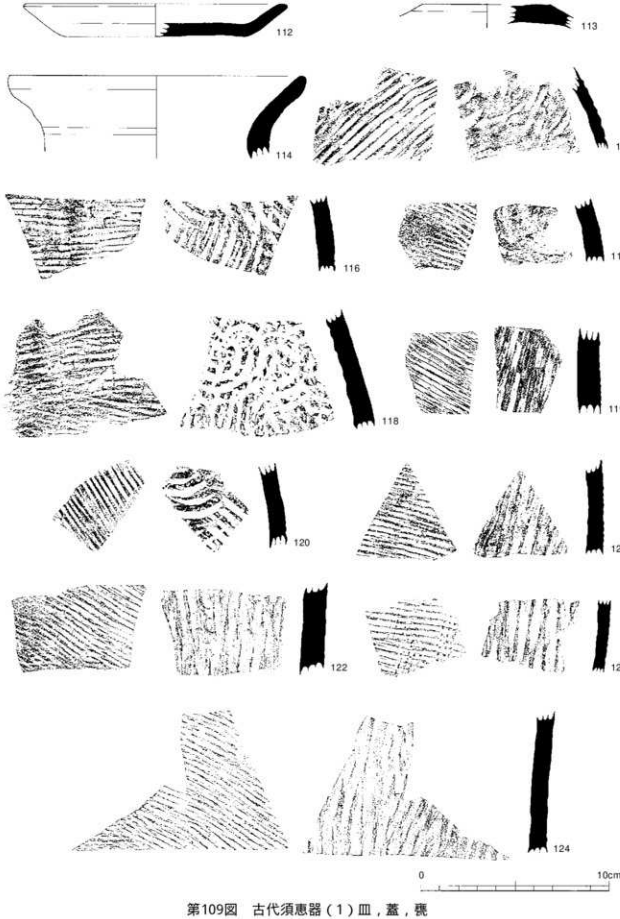


第108図　古代墨書，箆書土器

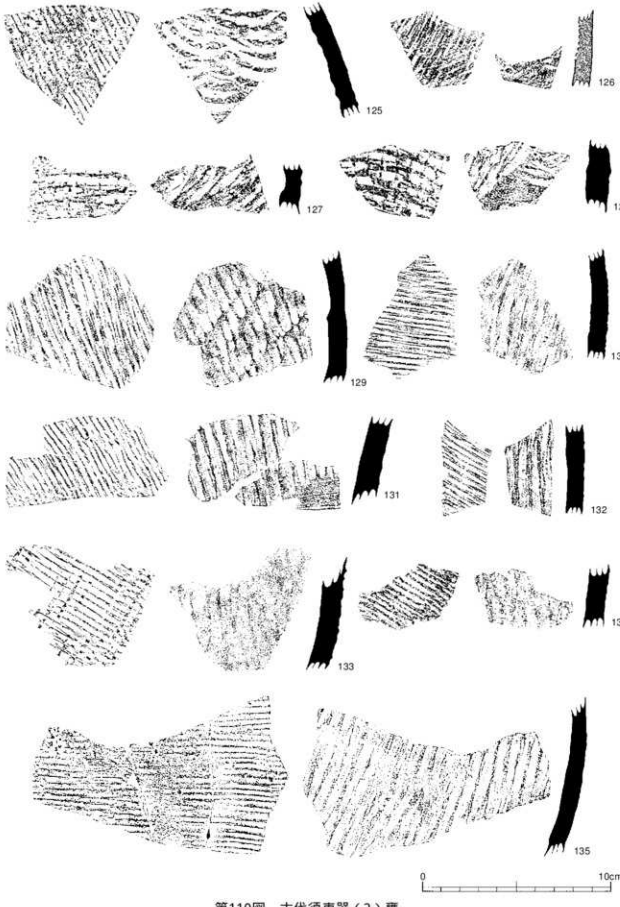
線がみられる。また，内面は斜位のケズリが施されている。94は口唇部断面が四角形を呈し，内外面に横ナデ調整がなされているが，炭化物は外面のみに付着している。95は，外面が横位のナデ調整，内面には一部にケズリがみられる。96は，外面がナデ及び一部ケズリの調整が施され，指頭痕がはっきりみられている。内面は，横位のナデ及びケズリである。97の外面は，若干ナデ調整が見られるが，詳しくは不明である。内面は下部に斜位のケズリが施されている。98は，外面に横ナデ調整がなされている中に，指頭痕がみてとれる。内面は稜線の上に横ナデ調整が施され，下部に斜位のケズリがみられる。99は，横ナデが内外面共にみられていて，内面に斜位のケズリもみてとれる。外面に炭化物が付着している。

墨書土器・箆書土器（第108図）

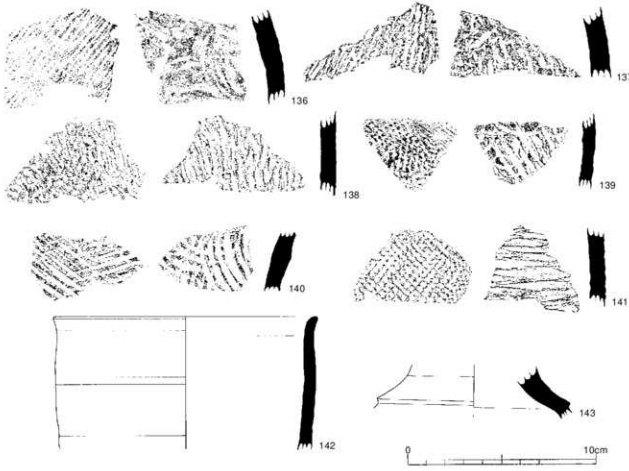
墨書土器が11点，箆書土器が１点（107）である。しかしながら，文字の全体が残る破片は１点もなかったので，判読はできなかった。103については，「万」もしくは「万万」と解読できる。おそらく吉祥文字として捉えられるものであろう。107の箆書土器については解読不能であり，何かの文字の一部分としか推定できない。その他の土器の特徴としては，全体的に内外面共に横ナデ調整であり，器種は椀もしくは坏と考えられ，102・106・108は内黒土師器である。また，110は，内外面に炭化物が付着している。



第109図　古代須恵器（1）皿，蓋，甕



第110図　古代須恵器（2）甕



第111図　古代須恵器（3）甕，鉢，壺

須恵器（第109図～111図）

皿・蓋・甕・鉢・壺が出土している。

皿・蓋（第109図112・113）

112は，口径が14cm，高さが1.75cm，底部直径が9.6cmの浅い皿であり，やや丸みをもった底から外へまっすぐと伸びるものである。113は，頂部の直径が6.4cmの蓋の天井部で，摘みのない倒坏状の蓋であると考えられる。

甕（第109図114～第111図141）

114は頸部から外反するもので，口径が15.8cmあり，焼成不良で酸化焼成されている。115～141は，外面に条痕・格子・平行タタキがみられ，内面には，条痕・同心円などの当て具痕がみられる。内外面共に，丁寧な作りが施されている。116と135は，同一個体である可能性がある。115は，外面に自然釉が掛かる。117は，焼成不良で酸化焼成されている。

鉢（第111図142）

口径14cmで，胴部は直線的に立ち上がり，内外面共に横ナデで仕上げている。

壺（第111図143）

壺の頸部で，口縁部が「く」の字状に屈曲し，二重口縁と思われる。器面は横ナデである。

第３節　中世の遺物

Ⅱ～Ⅲb層を包含層として遺物の出土がみられる。古代遺物と同様に３つのエリアに集中して出土している。これは遺構の位置と概ね一致する。

土師器（第113図～第115図）

埦（第113図144）

両黒で高台は低く外側に開く。

坏（第113図145～第114図158）

146は内面見込み部に指または工具ナデの調整痕が明瞭に残る。145・154はロクロから切り離す際にはみ出した底部側面の粘土の調整をしていない。糸切り痕以外の外底面に見られる特徴的なものとして146の外底面に板状の圧痕が，148の外底面に繊維状の圧痕が観察されるが，これらはロクロから糸で切り離した後，ナデ調整を加えた段階で下に敷いていたものが圧痕として残ったものと考えられる。

皿（第114図159～第115図183）

168はロクロから切り離す際にはみ出した底部側面の粘土の調整をしていない。175は仕上げのナデ調整がなされておらず，やや雑な感じ仕上がりである。177は内面見込み部に指または工具ナデの調整痕が明瞭に残る。179のように胴部の立ち上がりが外に張り出しているものが数個体確認できる。また坏と同様に糸切り痕以外の外底面に見られる特徴的なものとして，174の外底面に板状の圧痕が，160，173，177の外底面に繊維状の圧痕が観察されるが，これらはロクロから糸で切り離した後，ナデ調整を加えた段階で下に敷いていたものが圧痕として残ったものと考えられる。

須恵器（第116図・第118図198）

甕が殆どであり，樺万丈系と東擂磨系のもので占められる。184～186は口縁部付近である。頸部が「く」字状に大きく外反する。184は焼成温度が低かったためか土師質である。

瓦質土器（第117図～第118図）

焼成温度が低く，瓦質に分類されるもので，捏鉢と擂鉢が主な器種である。内外面ナデ調整が多く，いずれも胎土は軟質で粉っぽい。203は外面に花文のスタンプを押捺するいわゆる奈良火鉢である。

備前焼（第119図204）

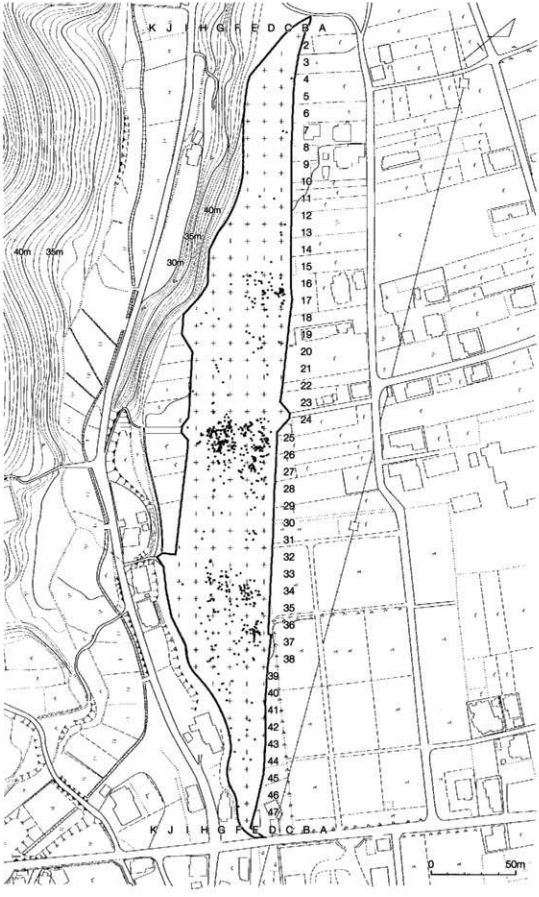
擂鉢である。内面は使用による摩滅が観察できる。

青磁（第119図205～第120図218）

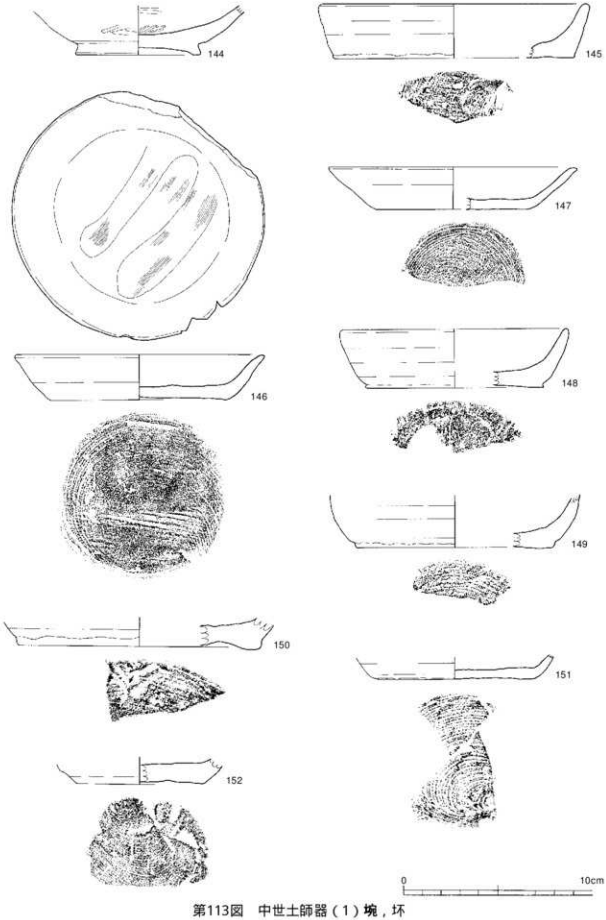
全て龍泉窯系のものである。205，209は内外面無文である。206～208は内面に片彫劃花文を有する。210～212は外面に鎬連弁文を有する。口縁形態は直口が僅かに外反する。これらは12世紀後半に編年される。213は口縁部が外側に屈折し，平坦面を形成する坏である。外面には鎬連弁文を有し，やや厚めの釉が掛かる。214・215は口縁部に輪花を有する稜花皿である。218は外面に沈線で省略化した連弁文を有する碗である。214～218は15世紀後半に編年される。

白磁（第120図219，220）

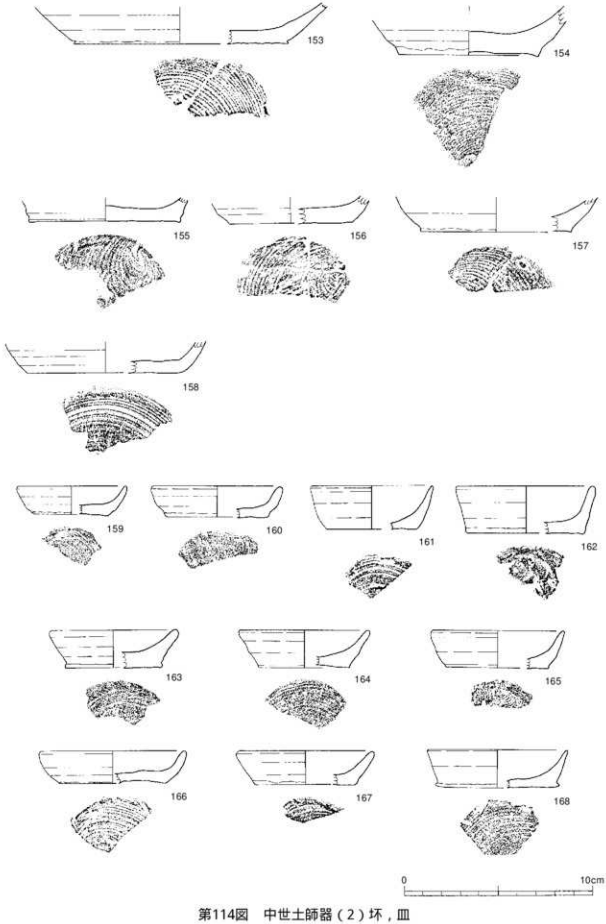
219は丸味を帯びた胴部を有する小碗である。高台内面に「井」字状の墨書がある。220も219と同種の小碗であると考えられる。15世紀後半～16世紀前半に編年される。



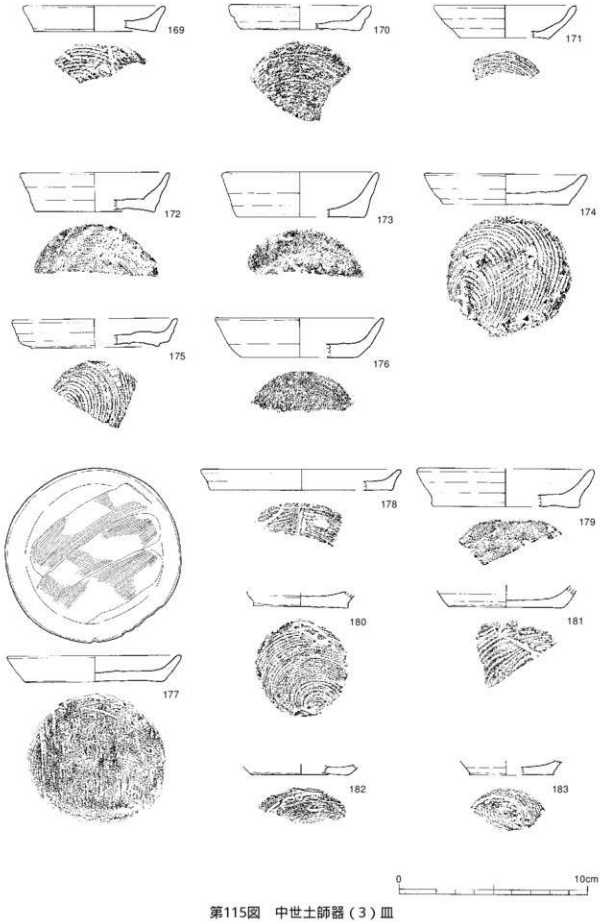
第112図　中世遺物出土状況



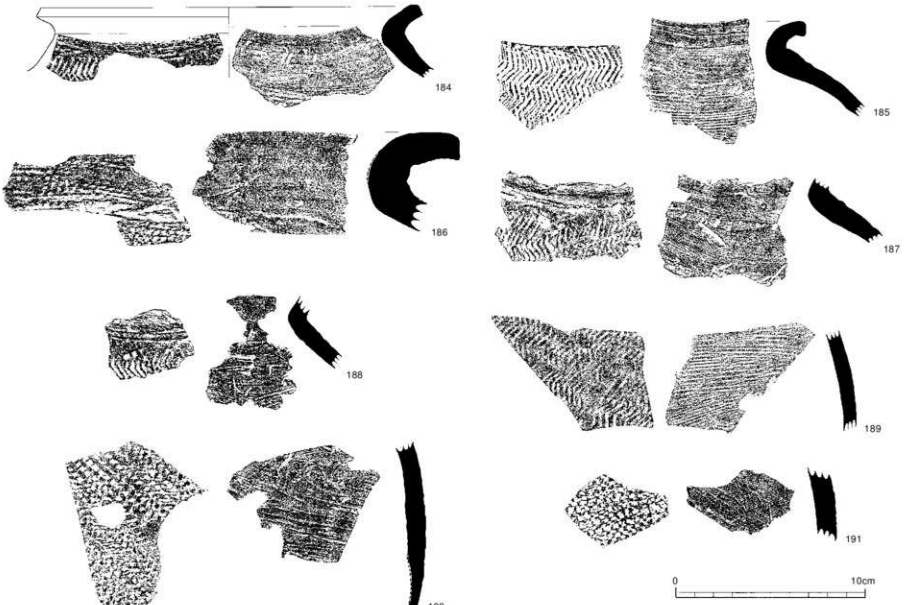
第113図　中世土師器（1）椀，坏



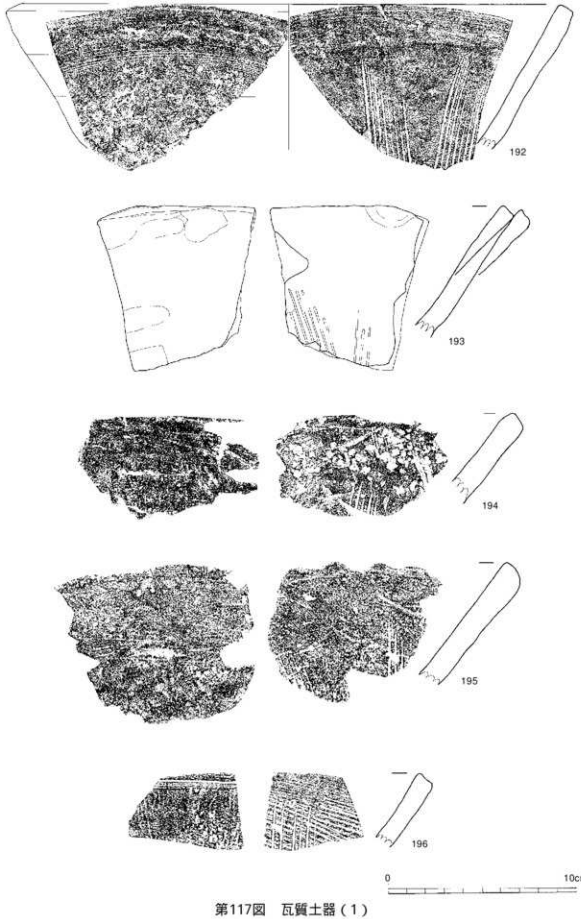
第114図　中世土師器（2）坏，皿



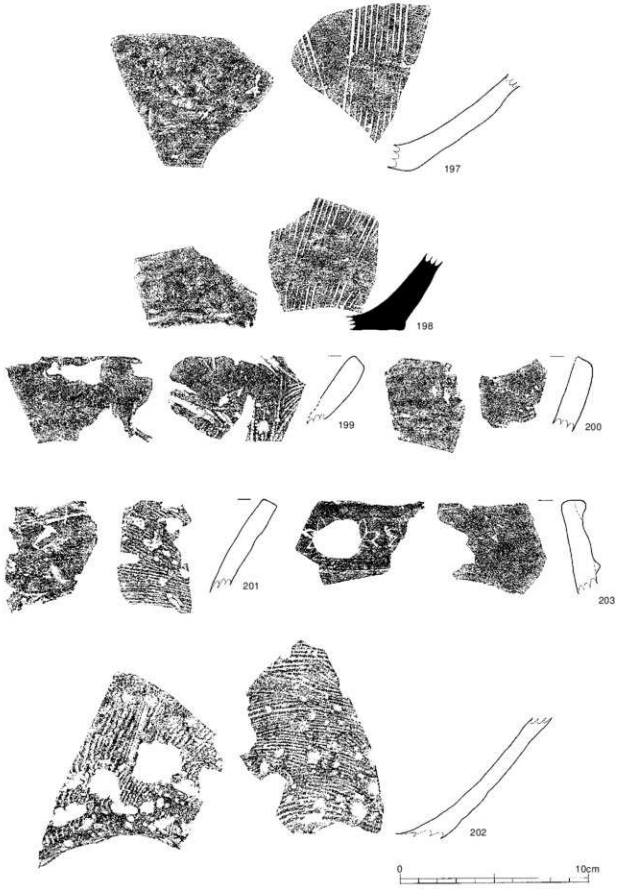
第115図　中世土師器（3）皿



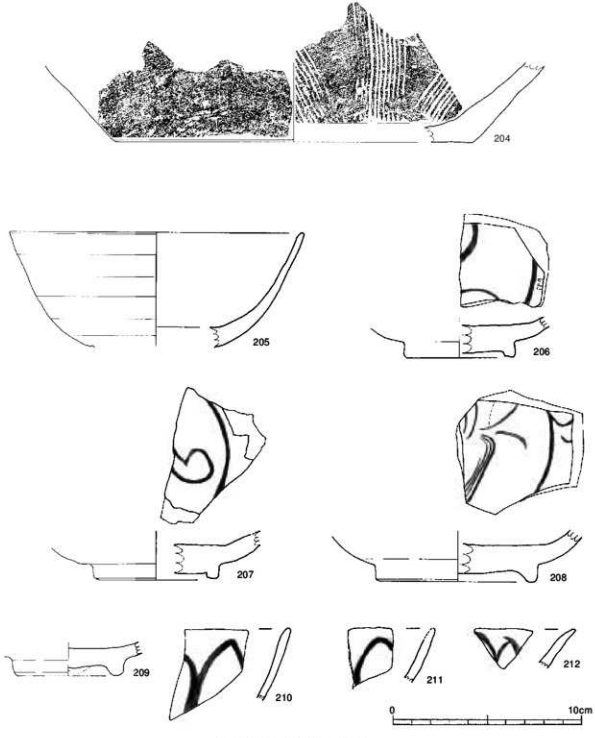
第116図　中世須恵器



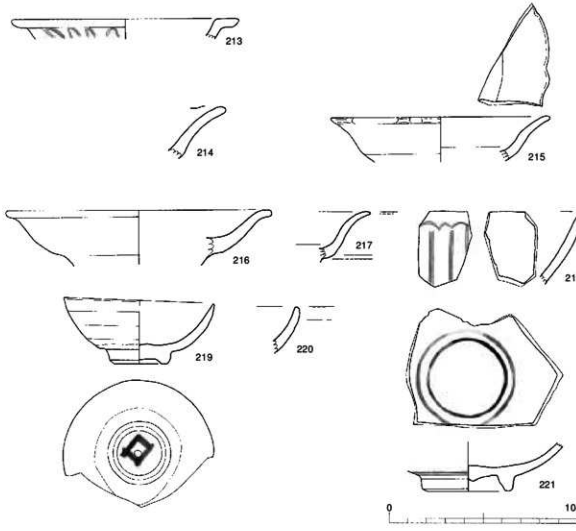
第117図　瓦質土器（1）



第118図　瓦質土器（2）



第119図　備前焼・青磁



第120図　青磁，白磁，青花

青花（第120図221）

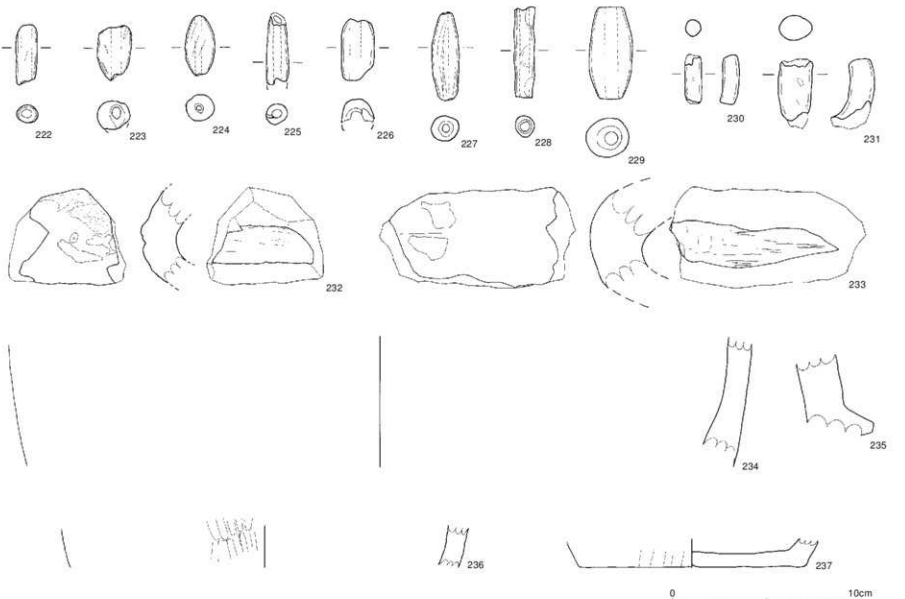
見込みと外面に呉須による２条の圏線を廻らせてあり，高台内面は露胎である。漳州窯系の皿であると考えられる。畳付に重ね焼の跡が残る。15世紀後半～16世紀前半に編年される。

土製品（第121図222～223）

所属時期は明らかではないが，ここにまとめて掲載した。古代から近世まで時期が広がることも考えておくべきかもしれない。土錘は全て紡錘状のものに穴を貫通させた管状土錘である。225は外面に赤色顔料を塗布する。230，231は用途不明の棒状土製品である。把手の形状に似る。232・233は鞴の羽口である。外面に熱により溶けたガラス状の物質が熔着している。

滑石製品（第121図234～237）

235は石鍋の鍔部である。237はケズリによる調整痕が明瞭に残る。



第121図　土製品，石製品

第４節　土坑・ピット群の調査

ここでは調査区内で検出された土坑とピット群を，土坑は各層毎に，ピットはすべてのものをエリア毎にまとめて掲載したい。共伴関係と考えられる遺構内遺物を殆ど伴わず，かつ層の堆積が薄く安定性を欠き，はっきりした時代の認定ができなかったためである。

１　土坑（第122図～142図）

調査で確認された土坑総数は69基で内訳はⅤ層で10基（土坑１～土坑10），Ⅳ層で２基（土坑11・12），Ⅲb層で20基（土坑13～32），Ⅲa層で18基（土坑33～50），Ⅲ層で18基（土坑51～68），Ⅰ層で１基（土坑69）である。

土坑69（第141図）

D－21区の表土近くで検出された。調査区境付近に位置していたため安全の問題上，完掘できず，全体形状は明らかでないが，東西～南東方向に約5.75mを測り，検出面からの深さは3.4mを残す。埋土がⅠ層土が２回にわたって堆積しているため近世～近・現代の遺構と判断した。壁面には手掘り痕かあるいは流水作用によると思われる窪みがいたる所で観察できる。内面の抉り部分は構築時のものかあるいはその後の崩落によってできたものと考えられる。北東側の中央付近は階段状を呈し，昇降用に使われたのではないかと考えられる。遺構内遺物として薩摩焼の擂鉢（238）を図化したが，遺構の時期を示しているかどうかは不明である。

２　ピット群（第143図～151図）

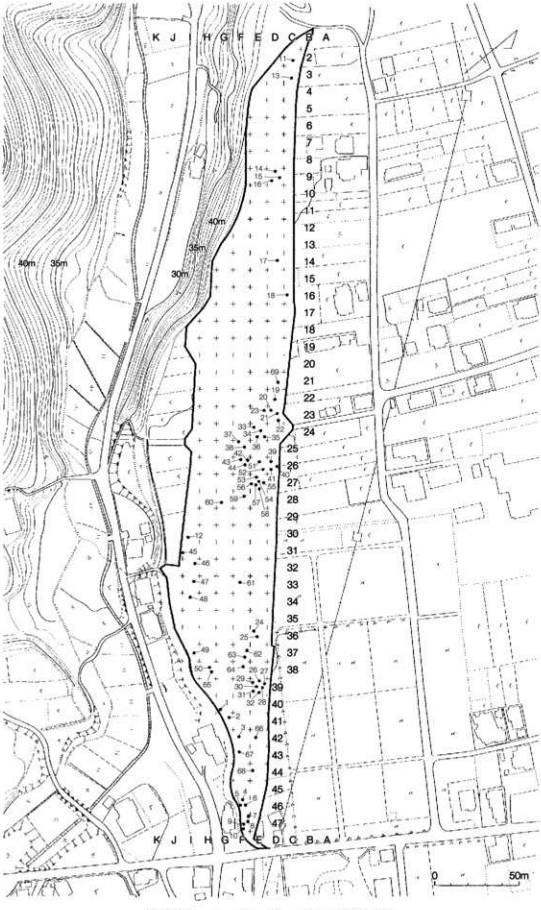
本遺跡の北西側の一部分を除き，ほぼ遺跡の全面から無数のピットが検出された（第143図）。これらのピットには柱痕跡や確実に共伴関係と考えられる遺物はほとんどなく，ピット内の遺物は後世の流れ込みと思われ，ひとつのピットに時期の違うものが出土するような場合が多かった。また，ピットの形状やその深さはまちまちであり，樹根と思われるものは，現場でも整理作業でも割愛したが，それでもかなりのピット数となった。

これらのピットの中で，発掘現場及び整理作業で19棟の掘立柱建物跡が認定できた。

ピットの分布を見ると，前述の空白地帯以外では，32～33列の部分の分布が薄い。この分布図と古代遺物分布図（第99図）及び掘立柱建物跡配置図を重ねると，ほぼ似たような分布を示すようである。

しかし，弥生時代及び古墳時代においては，合わせて８基の住居跡が検出されたことや，古代では焼土跡が検出されたこと，中世の遺物も出土していることから，この台地において，連綿と人びとの生活が営まれたことは明らかである。このことから，ピット群は弥生時代から中世にかけての複数の時期のものが混在していると考えられる。

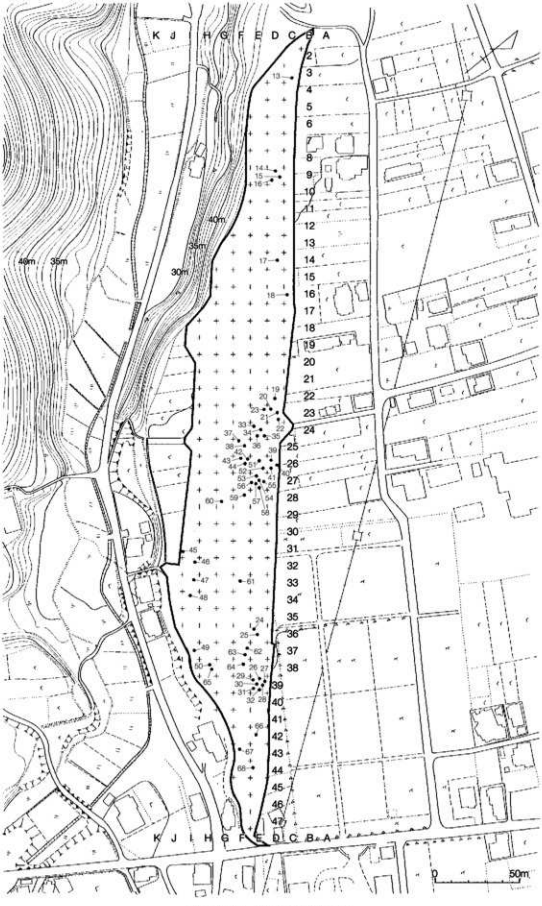
埋土による分類や形態と深さによる分類も試みたが，大きな違いはなく時期の判別には至らなかった。



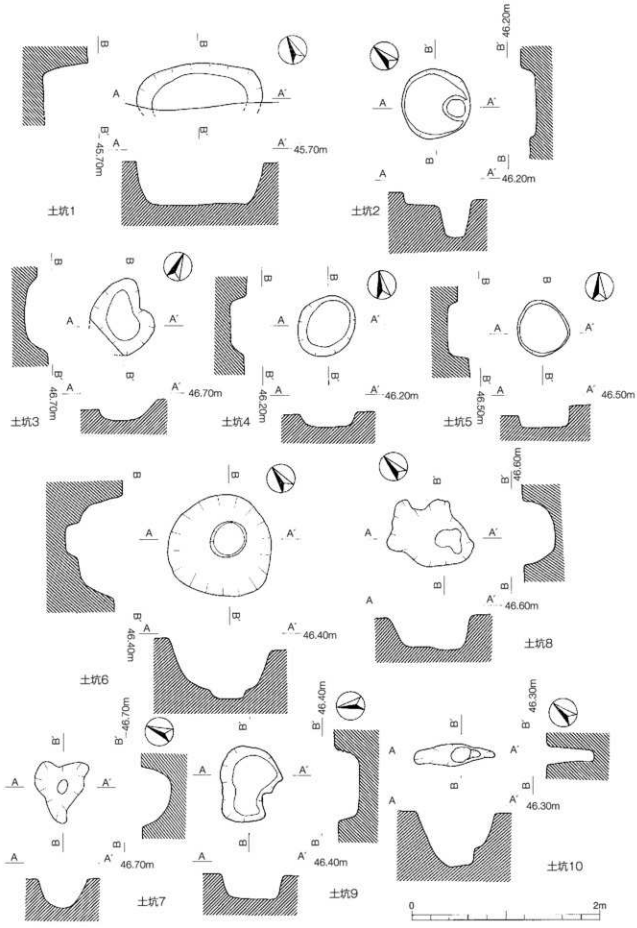
第122図　Ⅰ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ層土坑位置図

第123図　V層土坑位置図

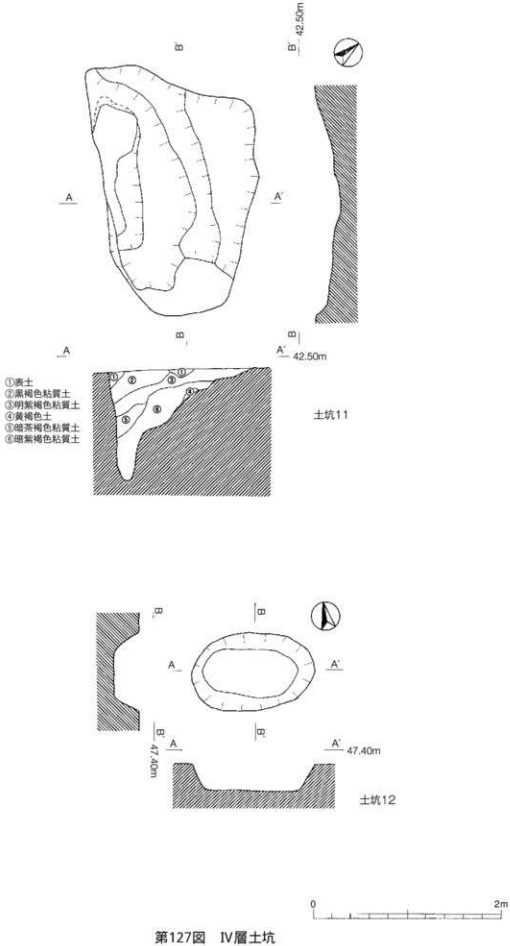
第124図　Ⅳ層土坑位置図



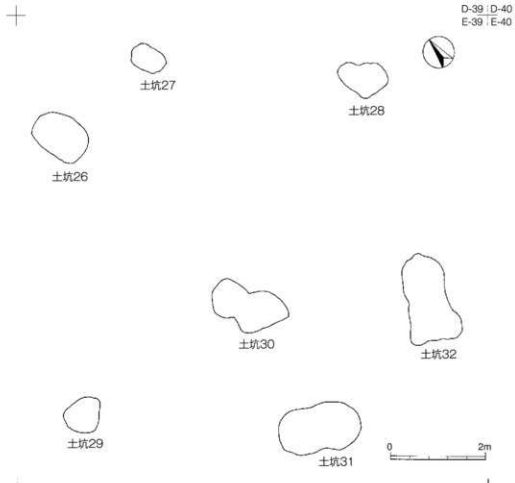
第125図　Ⅲ層土坑位置図


土坑1
45.70m
土坑2
46.20m
土坑3
46.70m
土坑4
46.20m
土坑5
46.50m
土坑6
46.40m
土坑7
46.70m
土坑8
46.60m
土坑9
46.40m
土坑10
46.30m
0
2m

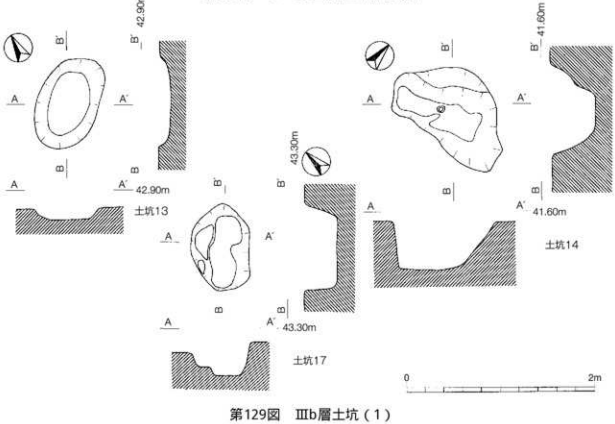
第126図　V層土坑


B'
B'
42.50m
A
A'
B
B
A
A'
42.50m
①表土
②黒褐色粘質土
③明紫褐色粘質土
④黄褐色土
⑤暗茶褐色粘質土
⑥暗紫褐色粘質土
土坑11
B'
B
A
A'
B'
B
A
A'
47.40m
47.40m
土坑12
0
2m

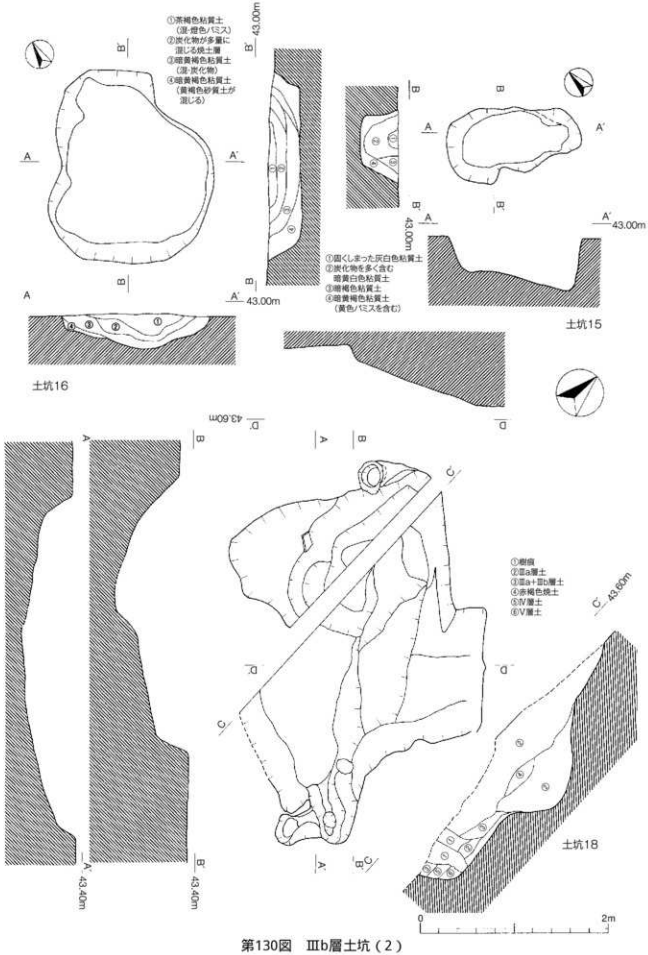
第127図　Ⅳ層土坑



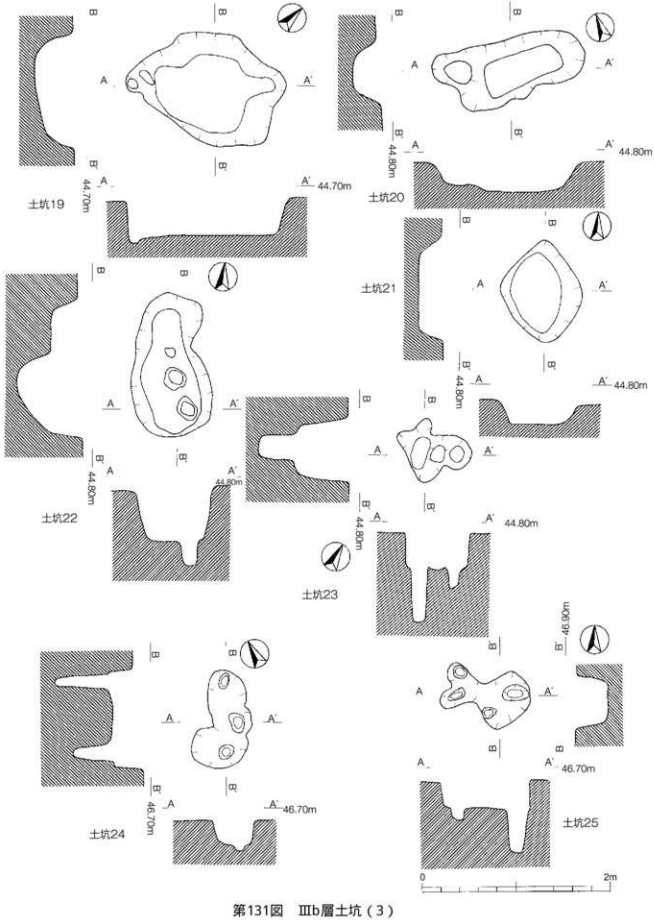
第128図　E－39Ⅲb層土坑位置図



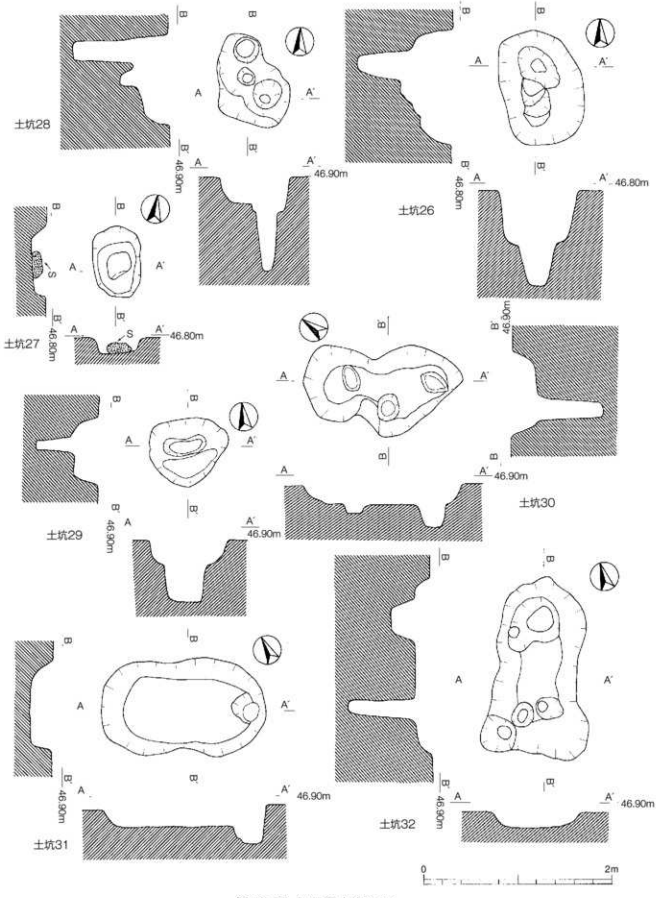
第129図　Ⅲb層土坑（1）



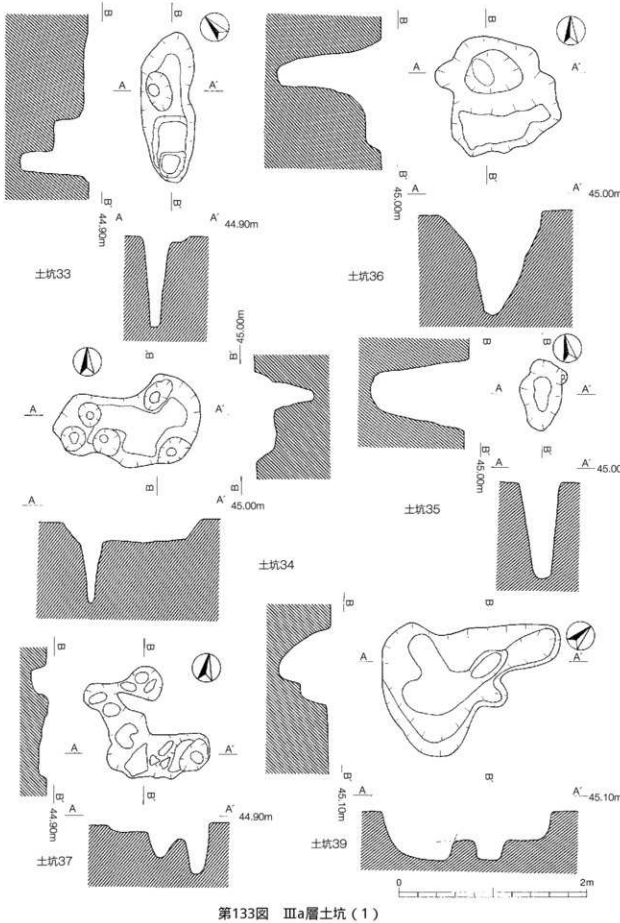
第130図　IIIb層土坑（2）



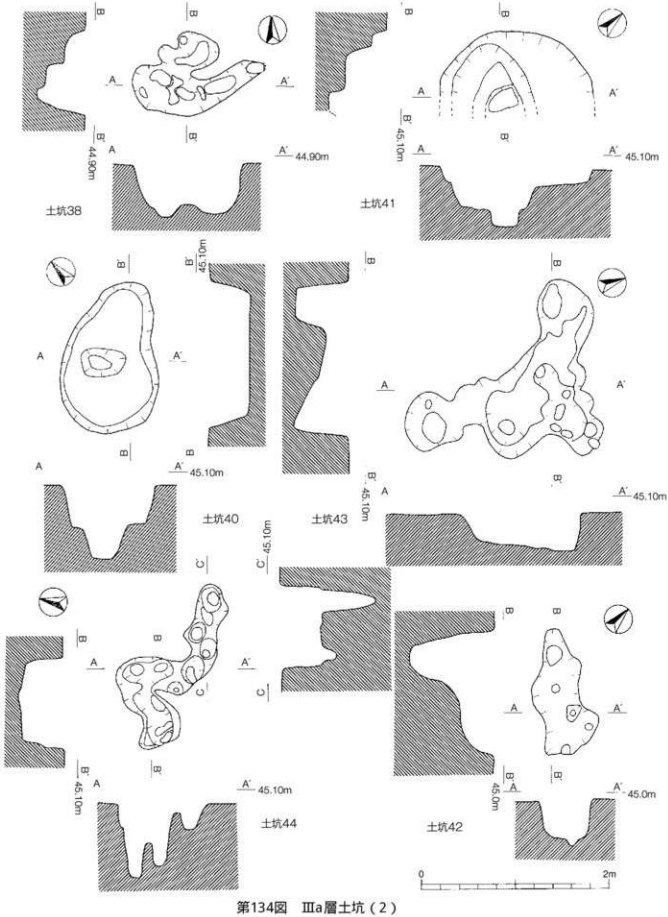
第131図　Ⅲb層土坑（3）



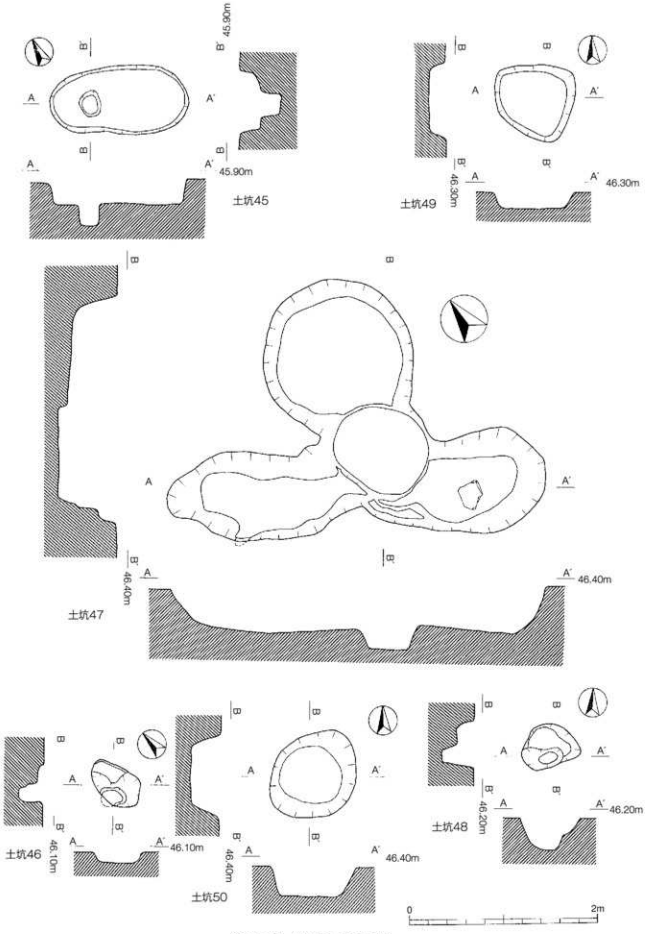
第132図　Ⅲb層土坑（4）



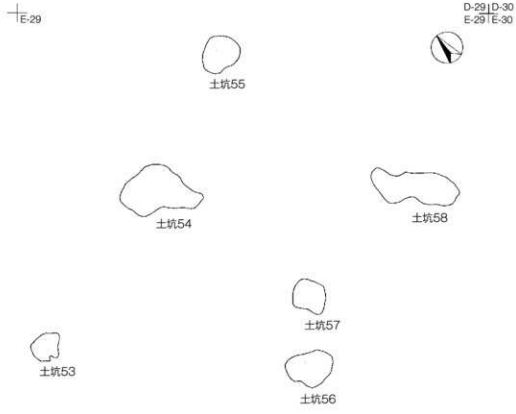
第133図　Ⅲa層土坑（1）



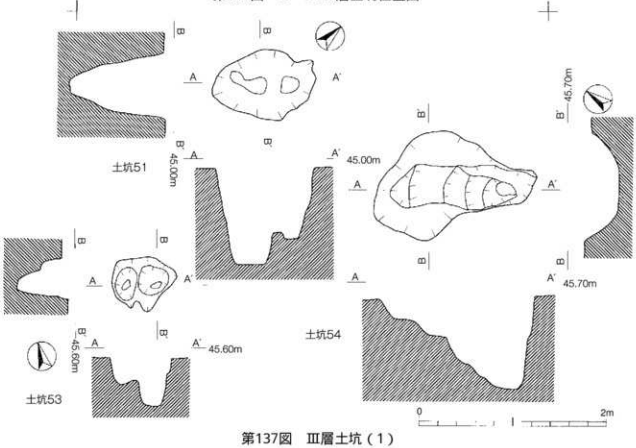
第134図　Ⅲa層土坑（2）



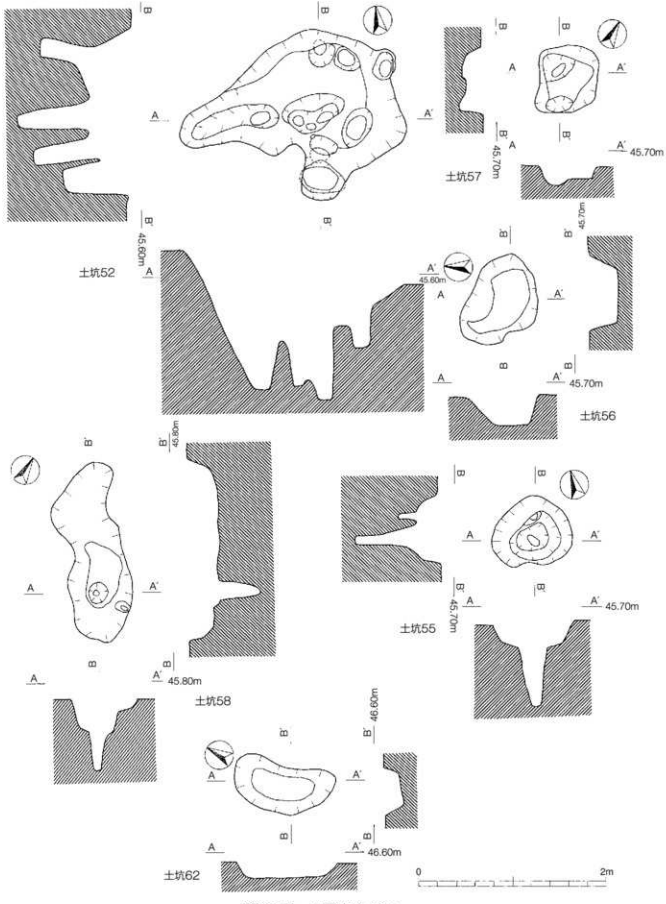
第135図　Ⅲa層土坑（3）



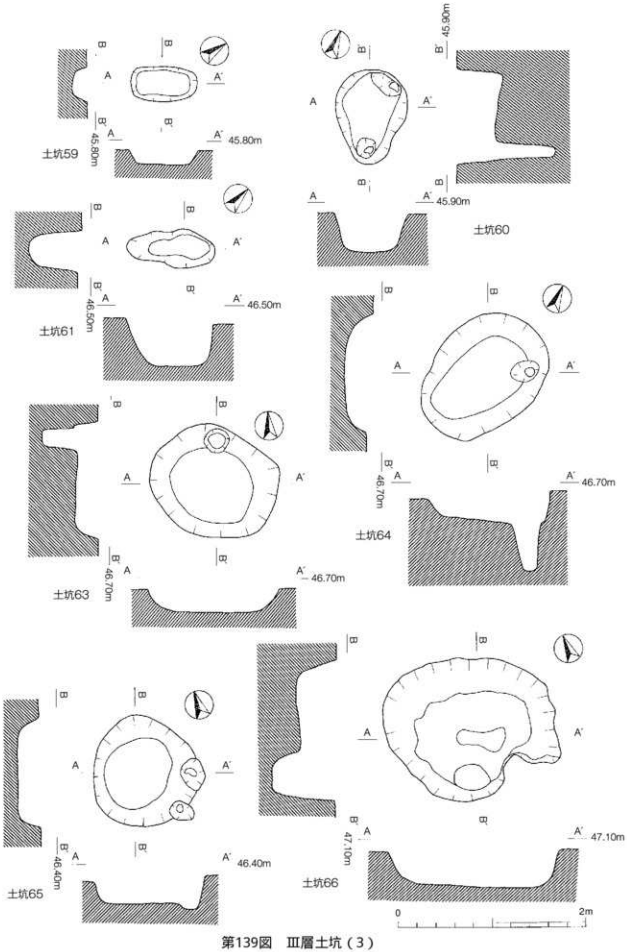
第136図　E－29Ⅲ層土坑位置図



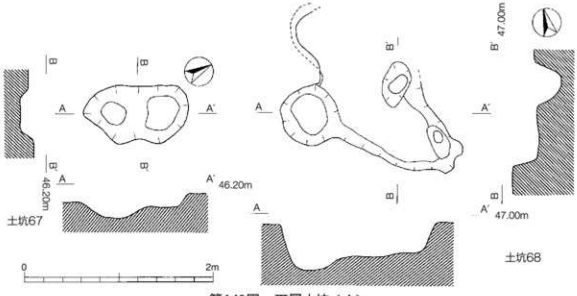
第137図　Ⅲ層土坑（1）


土坑52
45.60m
土坑57
45.70m
土坑56
45.70m
土坑58
45.80m
土坑55
45.70m
土坑62
46.60m
0
2m

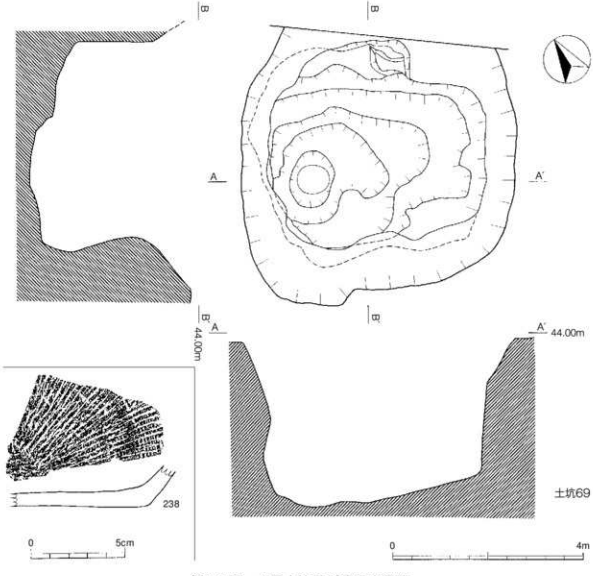
第138図　Ⅲ層土坑（2）


土坑59
45.80m
土坑60
45.90m
土坑61
46.50m
土坑63
46.70m
土坑64
46.70m
土坑65
46.40m
土坑66
47.10m
0
2m

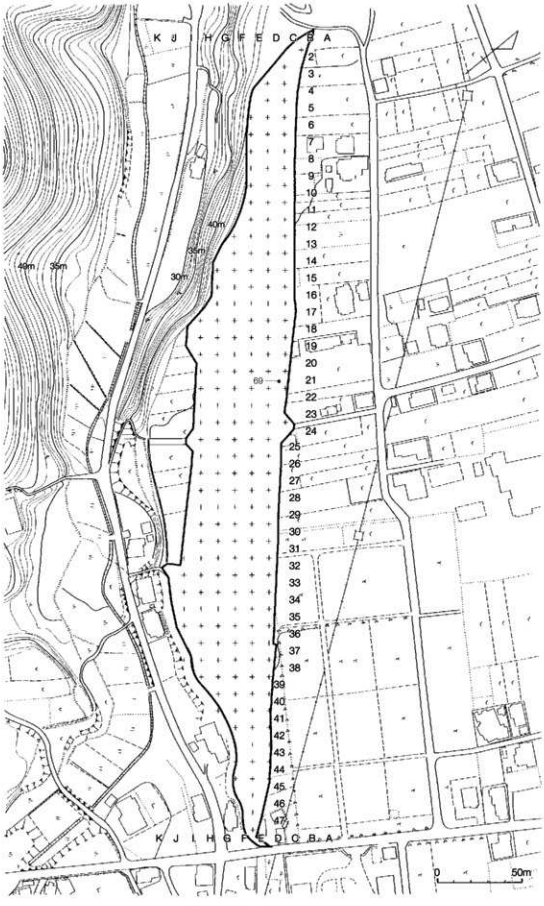
第139図　Ⅲ層土坑（3）



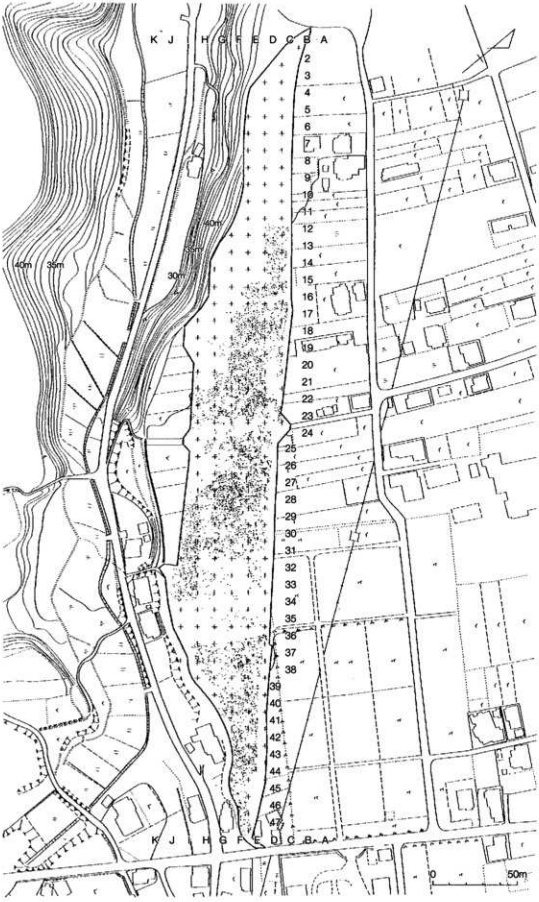
第140図　Ⅲ層土坑（4）



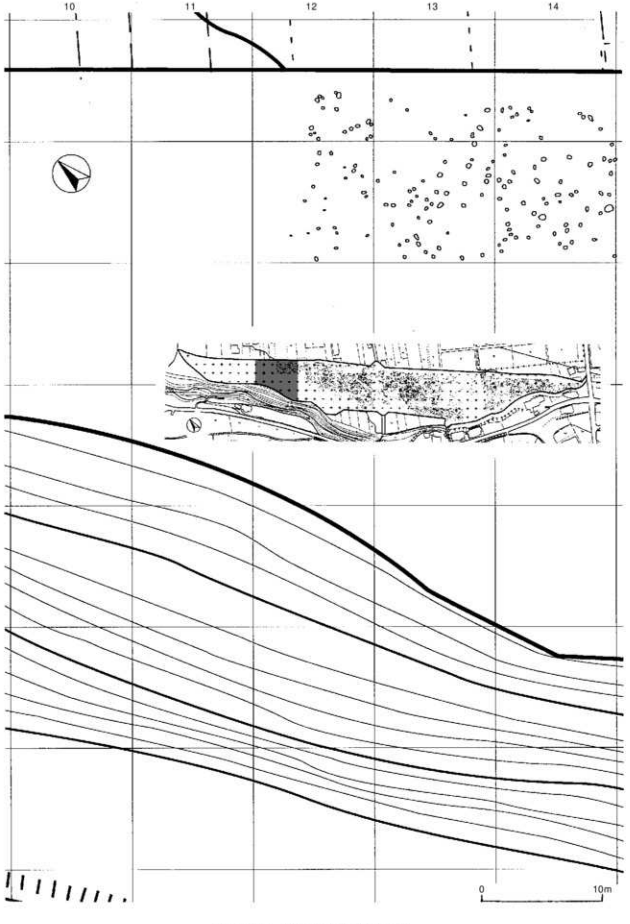
第141図　Ⅰ層土坑及び遺構内遺物



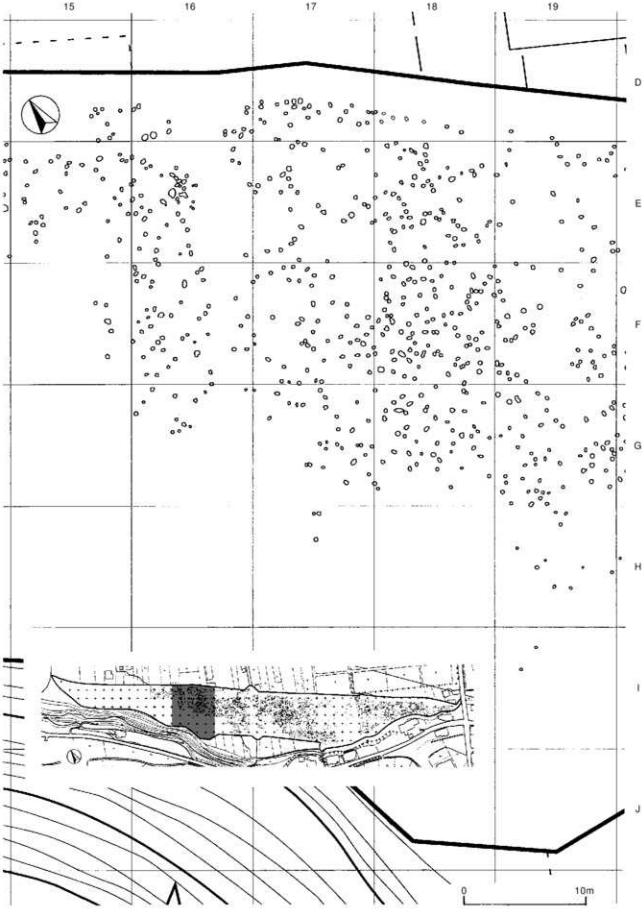
第142図　Ⅰ層土坑位置図



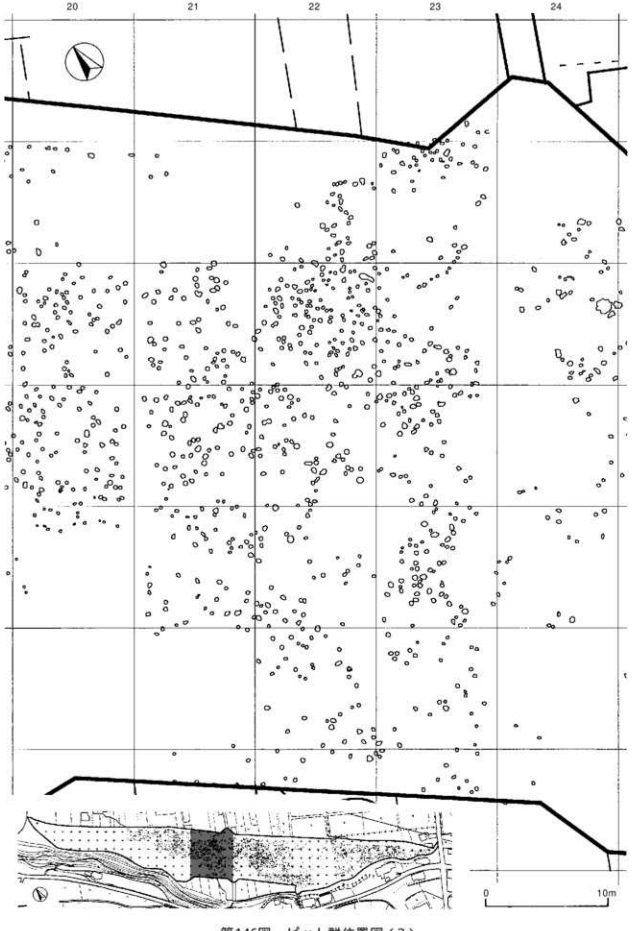
第143図　全ピット群位置図



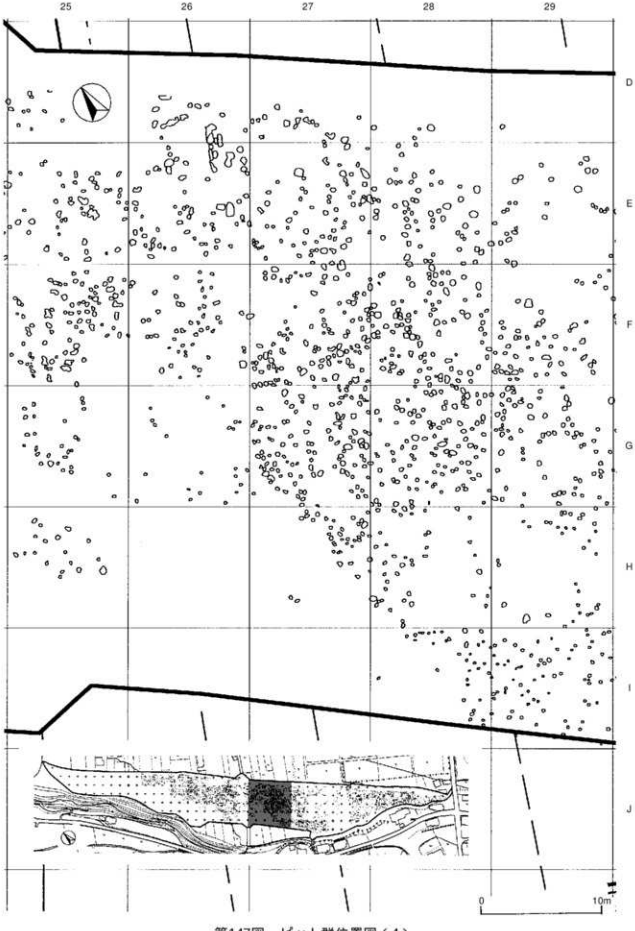
第144図　ピット群位置図（1）



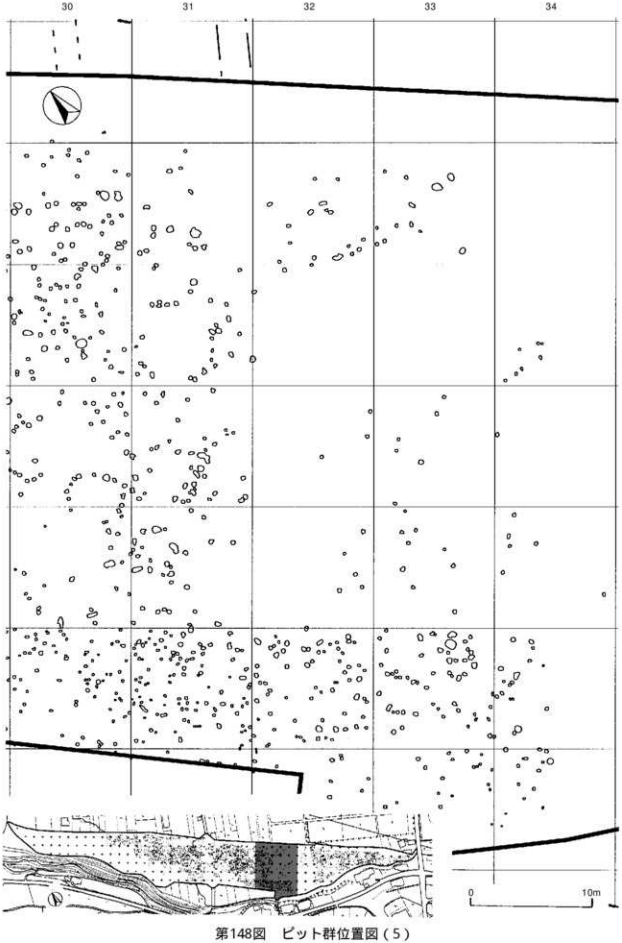
第145図　ピット群位置図（2）



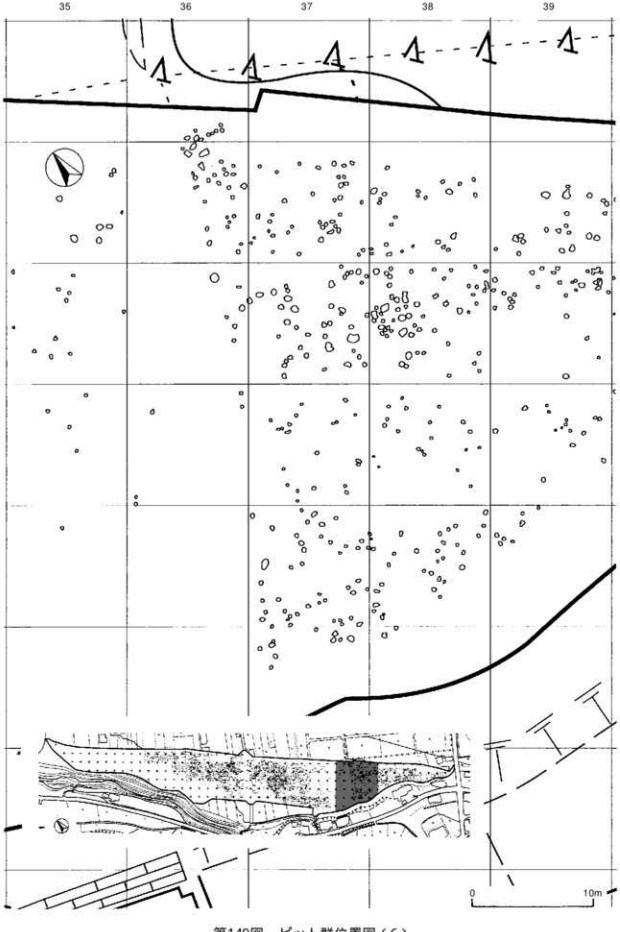
第146図　ピット群位置図（3）



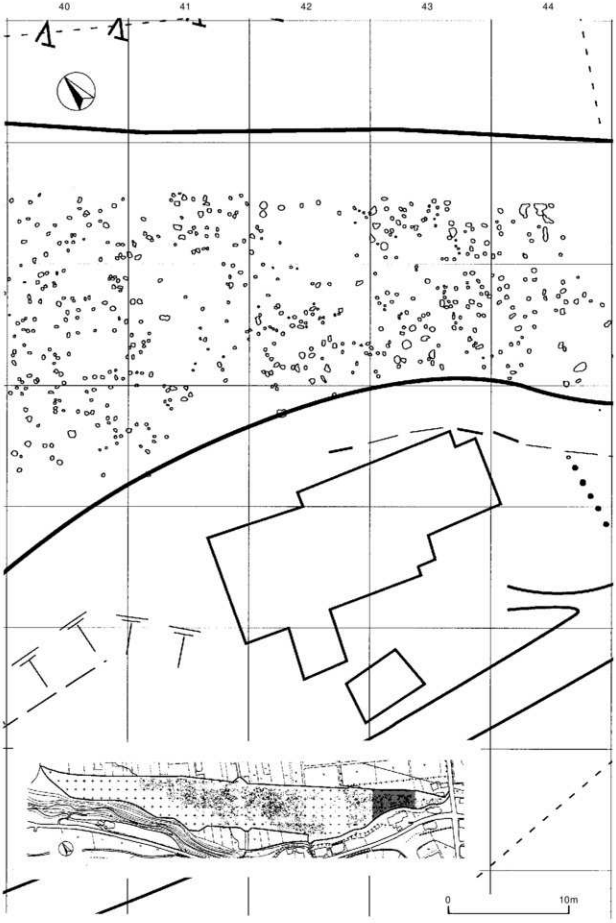
第147図　ピット群位置図（4）



第148図　ピット群位置図（5）



第149図　ピット群位置図（6）



第150図　ピット群位置図（7）

第151図　ピット群位置図（8）

第Ⅸ章　近世の調査

近世遺物の包含層であるⅠ・Ⅱ層がわずかしか残存していなかったため，古代・中世の調査と同様に層位的な把握ができなかった。遺構に関しても近世と断定できるものは検出されなかった。

第１節　遺物

近世遺物は大半が表層一括で取り上げたものである。掲載した遺物のほかに肥前系や在地系の染付や鉄滓も表層より出土しているが，いずれも小片のため図化していない。

碗（第152図１・２）

１の見込みは蛇の目釉剥ぎがなされ，高台内面に砂目が残る。２は17世紀後半期と考えられ，畳付には白色の目跡のような痕跡が看取される。

燭台（第152図３）

灯明具のなかの燭台である。受皿状の台にやや外反する円筒状の器体を結合したもので，受皿底面は糸による切離し痕がある。

土瓶蓋及び土瓶（第152図４～６）

蓋は共に外面に緑灰色の灰釉が掛けられている。６は土瓶の肩部で，肥前系のものであると考えられる。下位に黒釉が掛かる。

壺（第152図７・第153図11）

７は口径10.6㎝の小形の壺の肩部である。11の口唇部には貝目が残る。

徳利（第152図８・９）

頸部は細く縊れ，口縁部にかけてラッパ状に開き，端部は外側に折り返して断面三角形状を呈する。底面はやや上げ底である。胴部下半部に最大径を有し，底径との差が小さく，いわゆる「船徳利」の形状である。９は粘土紐を輪積みにし，内外をナデ仕上げにしている。17世紀後半に編年される。

鉢・擂鉢・片口（第153図10・12・13　第154図14～16）

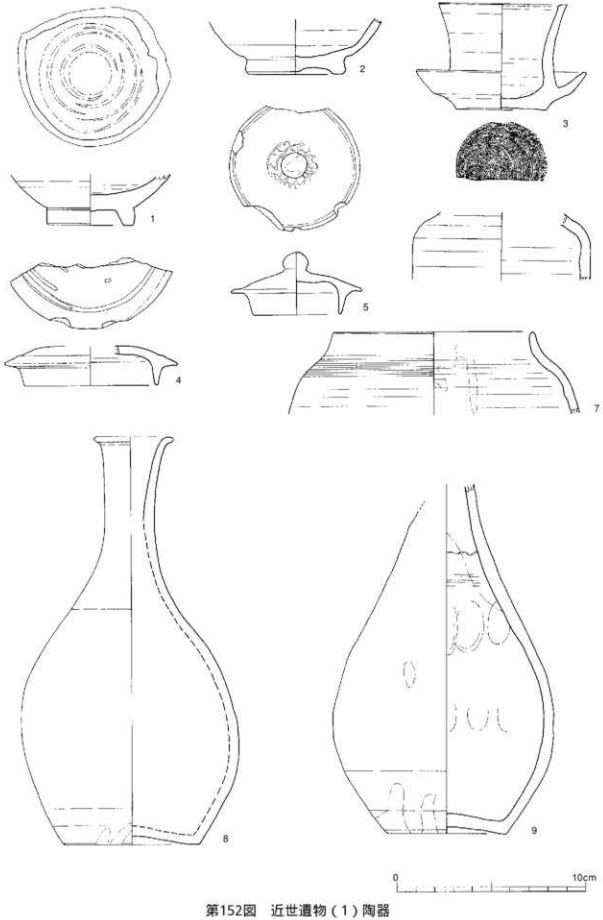
12は鉢である。全体形状が不明で，徳利であることも考えられる。擂鉢はいずれも内外面に鉄釉が掛かるものである。13の口唇部には貝目が残り，口縁部直下に退化した２条の突帯を廻らす。15の底面には貝目が残る。16は口縁部直下に半円状の粘土板を貼り付けて片口をつくりだしたもので，17世紀後半に編年される。

蓋（第154図17～第156図22）

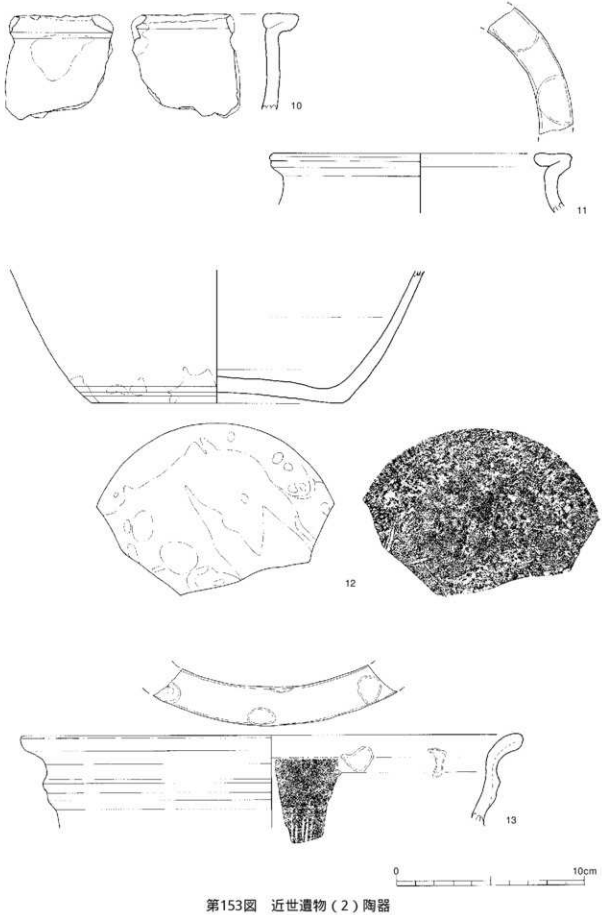
17は水注等に被せる小形で円板状のものである。無釉で中央部にアーチ状の小さなつまみがつくものと思われ，17世紀後半に編年される。18～22は甕・壺等に被せる浅鉢形のものであるが，あるいは鉢として利用されていたかもしれない。18と19は外反させた後内側に折り曲げるという口縁部形態を呈する。20の全体形状は不明であるが，上径と口径の差が大きいものと考えられる。21の口唇部には目跡が残る。推定目跡個数は16である。19世紀後半に編年される。22は上面に歪みが看取される。18～20・22は17世紀後半に編年される。

甕（第157図23～26）

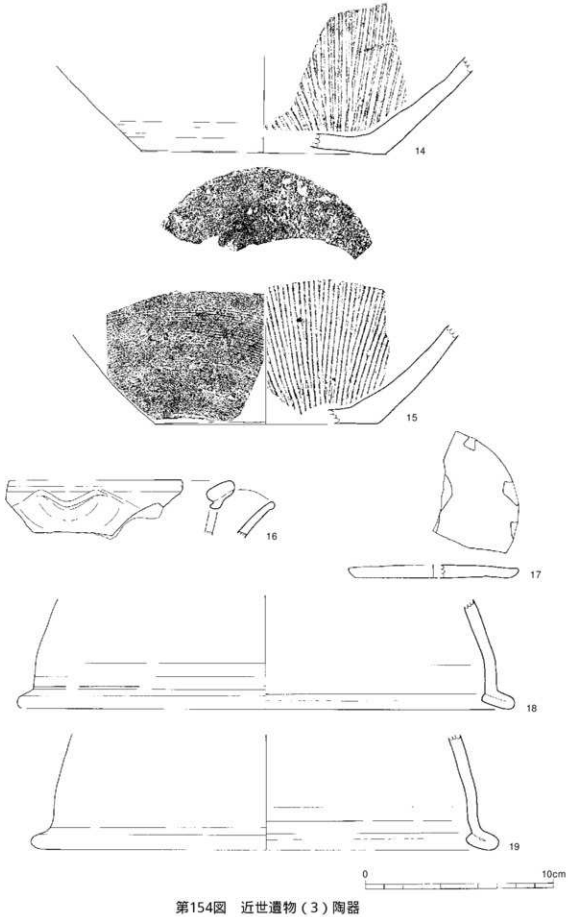
23の全体形状は不明であるが，胴部が丸味を帯び膨らむ器形を呈し，８条の沈線を有する。24の



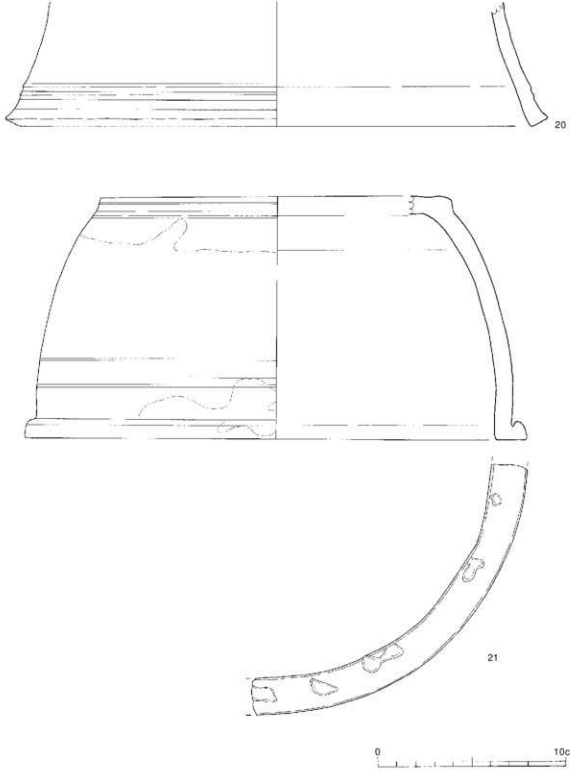
第152図　近世遺物（1）陶器



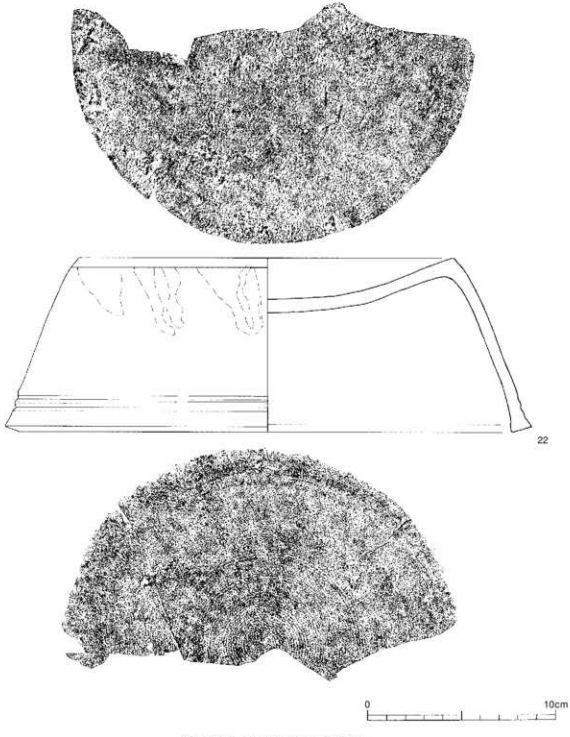
第153図　近世遺物（２）陶器



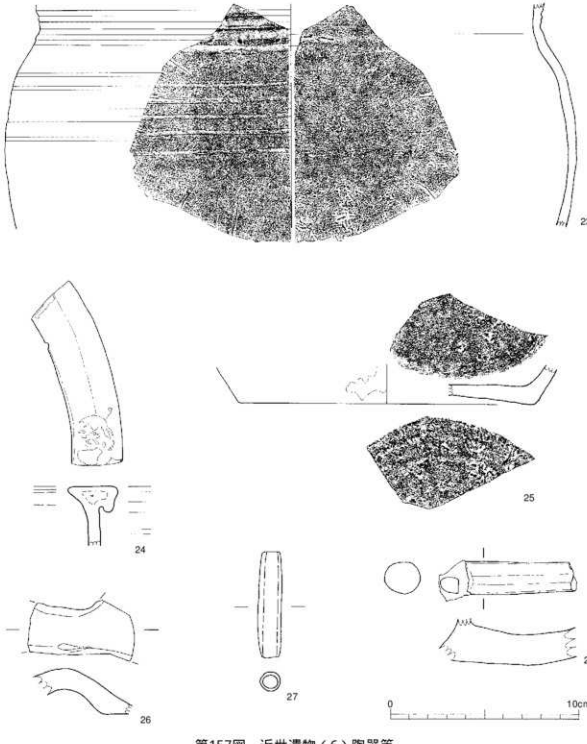
第154図　近世遺物（3）陶器



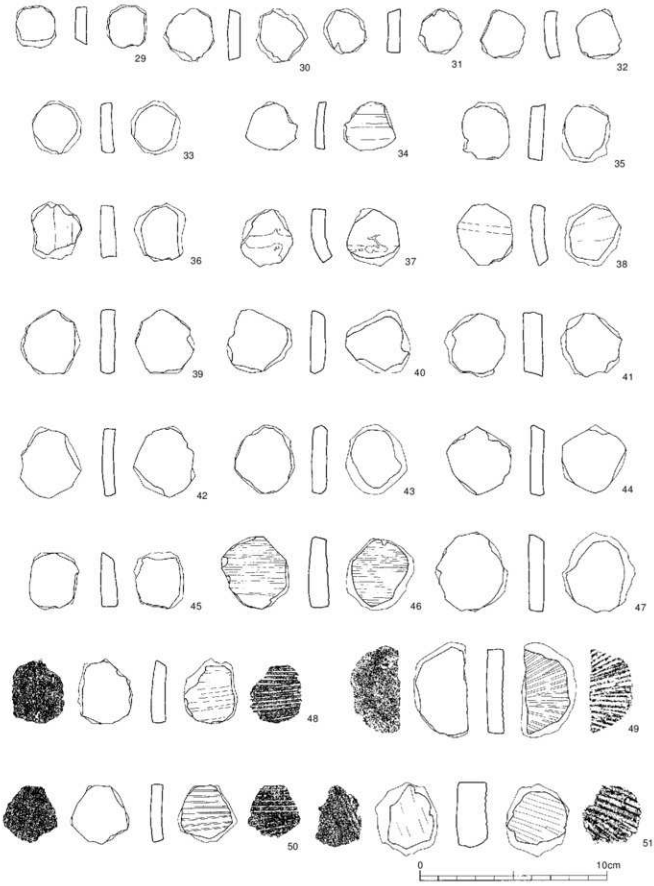
第155図　近世遺物（４）陶器



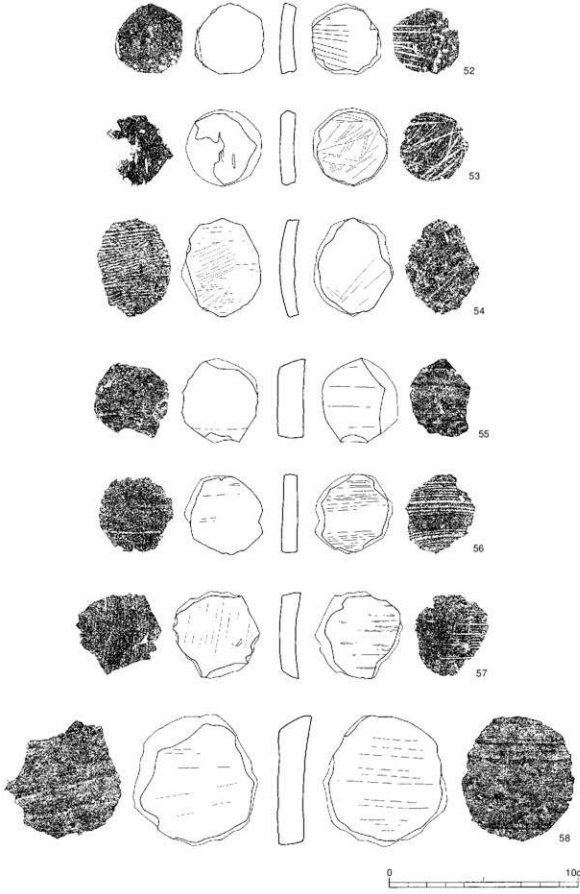
第156図　近世遺物（５）陶器



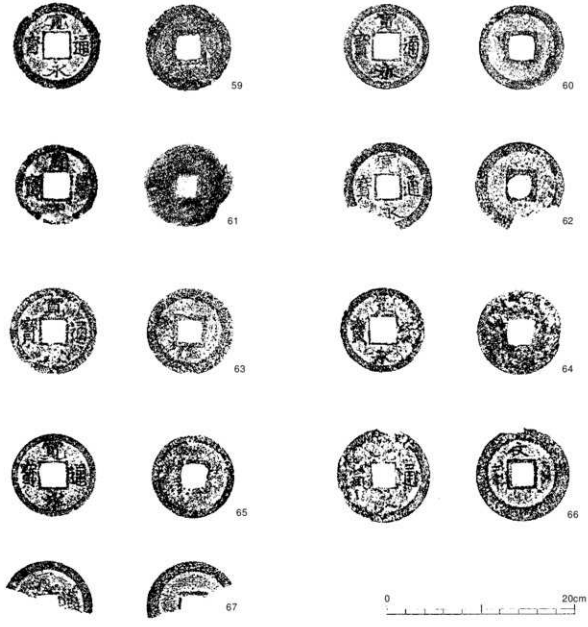
第157図　近世遺物（6）陶器等



第158図　近世遺物（７）陶製品



第159図　近世遺物（８）陶製品



第160図　近世遺物（９）銭貨

口唇部外側は釉が拭き取られ貝目が残る。23と24は17世紀後半に編年される。26は甕もしくは壺の横耳であると考えられる。

その他（第157図27～第159図58）

27は管状を呈する磁製品であるが用途は不明である。28は土瓶の把手の可能性が考えられる。29～58は円盤状を呈する通称“メンコ”である。詳しい用途は不明である。48，49，50，51，52，57は擂鉢を転用している。54は土器の転用であるので，中世のものである可能性が考えられる。55，58は大甕を転用している。

銭貨（第160図59～67）

出土銭貨の全てが1636（寛永13）年を初鋳年とする寛永通寶である。66は裏面に「文」字が見られるので，寛文年間に鋳造されたいわゆる新寛永である。

第X章　科学分析

第1節　放射性炭素年代測定結果　報告書
（AMS測定）
市ノ原遺跡第3地点

放射性炭素年代測定結果
（AMS測定）
市ノ原遺跡（第３地点）

㈱加速器分析研究所

（１）測定対象試料

市ノ原遺跡（第３地点）は，鹿児島県日置市東市来町湯田に所在する。測定対象試料は，F－31区の弥生２号住居跡から出土した炭化物（№１：IAAA-72600），弥生２号住居跡内の焼成域から出土した炭化物（№２：IAAA-72601），E－29区の古墳１号住居跡から出土した炭化物（№３：IAAA-72602），D・E－28区の古墳２号住居跡から出土した炭化物（№４：IAAA-72603），G－22区の古墳３号住居跡から出土した炭化物（№５：IAAA-72604），G－23区の古墳４号住居跡から出土した炭化物（№６：IAAA-72605），G－34区の貝殻散布域から出土した貝殻（№７：IAAA-72606），F－28区の貝殻入土坑内から出土した貝殻（№８：IAAA-72607），合計８点である。

（２）化学処理工程

１）メス・ピンセットを使い，根・土等の表面的な不純物を取り除く。

２）AAA（Acid Alkali Acid）処理。酸処理，アルカリ処理，酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では１Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後，超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001～1Nの水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。その後，超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では１Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後，超純水で中性になるまで希釈し，90℃で乾燥する。希釈の際には，遠心分離機を使用する。

３）試料を酸化銅１gと共に石英管に詰め，真空下で封じ切り，500℃で30分，850℃で２時間加熱する。

４）液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し，真空ラインで二酸化炭素（CO_2）を精製する。

５）精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し，グラファイトを作製する。

６）グラファイトを内径１㎜のカソードにハンドプレス機で詰め，それをホイールにはめ込み，加速器に装着し測定する。

（３）測定方法

測定機器は，3MVタンデム加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。134個の試料が装填できる。測定では，米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また，加速器により^{13}C/^{12}Cの測定も同時に行う。

（4）算出方法

1）年代値の算出には，Libbyの半減期5568年を使用した。

2）^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は，過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され，1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。この値は，$\delta^{13}C$によって補正された値である。

3）付記した誤差は，複数回の測定値についてχ^2検定が行われ，測定値が1つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値，みなせない場合には標準誤差から求めた値が用いられる。

4）$\delta^{13}C$の値は,通常は質量分析計を用いて測定されるが,AMS測定の場合に同時に測定される$\delta^{13}C$の値を用いることもある。$\delta^{13}C$補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。同位体比は，いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表した。

$$\delta^{14}C = [(^{14}A_S - {}^{14}A_R) / {}^{14}A_R] \times 1000 \qquad (1)$$

$$\delta^{13}C = [(^{13}A_S - {}^{13}A_{PDB}) / {}^{13}A_{PDB}] \times 1000 \qquad (2)$$

ここで，　$^{14}A_S$：試料炭素の^{14}C濃度：（$^{14}C/^{12}C$）または（$^{14}C/^{13}C$）

$^{14}A_R$：標準現代炭素の^{14}C濃度：（$^{14}C/^{12}C$）または（$^{14}C/^{13}C$）

$\delta^{13}C$は，質量分析計を用いて試料炭素の^{13}C濃度（$^{13}A_S = {}^{13}C/^{12}C$）を測定し，PDB（白亜紀のベレムナイト類の化石）の値を基準として，それからのずれを計算した。但し，加速器により測定中に同時に$^{13}C/^{12}C$を測定し，標準試料の測定値との比較から算出した$\delta^{13}C$を用いることもある。この場合には表中に〔加速器〕と注記する。

5）$\Delta^{14}C$は，試料炭素が$\delta^{13}C = -25.0$（‰）であるとしたときの^{14}C濃度（$^{14}A_N$）に換算した上で計算した値である。（1）式の^{14}C濃度を，$\delta^{13}C$の測定値をもとに次式のように換算する。

$$^{14}A_N = {}^{14}A_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}C / 1000)^2) \qquad (^{14}A_S\text{として}{}^{14}C/^{12}C\text{を使用するとき})$$

または

$$= {}^{14}A_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}C / 1000)) \qquad (^{14}A_S\text{として}{}^{14}C/^{13}C\text{を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}C = [(^{14}A_N - {}^{14}A_R) / {}^{14}A_R] \times 1000 \text{（‰）}$$

6）pMC（percent Modern Carbon）は，現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合を示す表記であり，$\Delta^{14}C$との関係は次のようになる。

$$\Delta^{14}C = (pMC / 100 - 1) \times 1000 \text{（‰）}$$

$$pMC = \Delta^{14}C / 10 + 100 \text{（\%）}$$

国際的な取り決めにより，この$\Delta^{14}C$あるいはpMCにより，^{14}C年代が次のように計算される。

$$T = -8033 \times \ln[(\Delta^{14}C / 1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln(pMC / 100)$$

7）^{14}C年代値と誤差は，1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。

8）暦年較正年代とは，年代が既知の試料の^{14}C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ，過去の^{14}C濃度変化などを補正し，実年代に近づけた値である。暦年較正年代の計算では，IntCal04データベース（Reimer et al 2004）を用い，OxCalv3.10較正プログラム（Bronk Ransey1995 Bronk Ransey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger2001）を使用した。暦年較正年代は，^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり，1σ＝68.2%）あるいは2標準偏差（2σ＝95.4%）で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は，下一桁を四捨五入しない^{14}C年代値である。

（5）測定結果

^{14}C年代は，F－31区弥生2号住居跡の炭化物（№1：IAAA－72600）が2160±30yrBP，同住居内焼成域の炭化物（№2：IAAA－72601）が2230±30yrBP，E－29区古墳1号住居跡の炭化物（№3：IAAA－72602）が1100±30yrBP，D・E－28区古墳2号住居跡の炭化物（№4：IAAA－72603）が1380±30yrBP，G－22区古墳3号住居跡の炭化物（№5：IAAA－72604）が1710±30yrBP，G－23区古墳4号住居跡の炭化物（№6：IAAA－72605）が1930±30yrBP，G－34区貝殻散布域の貝殻（№7：IAAA－72606）が2700±30yrBP，F－28区貝殻入土坑内の貝殻（№8：IAAA－72607）が2560±30yrBPである。

暦年較正年代（1σ）は，№1が360～290BC（35.2%）・230～160BC（33.0%），№2が380～350BC（12.8%）・300～200BC（55.4%），№3が895～925AD（25.5%）・940～985AD（42.7%），№4が640～670AD（68.2%），№5が250～300AD（22.3%）・320～390AD（45.9%），№6が25～40AD（7.7%）・50～90AD（46.2%）・100～125AD（14.3%）である。

№7・8は海産の貝殻であり，海洋リザーバー効果を考慮する必要がある。海洋中の^{14}C濃度は大気中の濃度と異なるため，同位体補正を行った^{14}C年代が実際の年代よりも古い値を示す。多くの場合，同位体補正をしないδ^{14}Cに相当する年代値が比較的よくその貝と同一時代の木片や木炭などの年代値と一致する傾向にある。このδ^{13}C補正無しの年代は№7が2210±30yrBP，№8が2210±30yrBPである。なお，海洋リザーバー効果を正確に補正するためには，時期と地域を限定し，多数の分析結果を蓄積した上で，陸生試料と海洋試料の暦年較正曲線の差によって補正する必要がある。

参考文献

Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, *Radiocarbon* 19, 355-363

Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37(2), 425-430

Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43(2A), 355-363

Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), 381-389

Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029-1058

IAA Code No.	試　　料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA−72600	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町湯田 市ノ原遺跡（第3地点） 試 料 形 態：炭化物 試料名(番号)：No.1	Libby Age(yrBP)：　2,160 ± 30 δ^{13}C(‰)、(加速器) = −23.94 ± 0.68 Δ^{14}C(‰) = −236.1 ± 3.2 pMC(%) = 76.39 ± 0.32
#2129−1	(参考)　　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C(‰) = −234.5 ± 3.1 pMC(%) = 76.55 ± 0.31 Age(yrBP)：　2,150 ± 30
IAAA−72601	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町湯田 市ノ原遺跡（第3地点） 試 料 形 態：炭化物 試料名(番号)：No.2	Libby Age(yrBP)：　2,230 ± 30 δ^{13}C(‰)、(加速器) = −29.80 ± 0.86 Δ^{14}C(‰) = −242.2 ± 2.8 pMC(%) = 75.78 ± 0.28
#2129−2	(参考)　　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C(‰) = −249.7 ± 2.4 pMC(%) = 75.03 ± 0.24 Age(yrBP)：　2,310 ± 30
IAAA−72602	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町湯田 市ノ原遺跡（第3地点） 試 料 形 態：炭化物 試料名(番号)：No.3	Libby Age(yrBP)：　1,100 ± 30 δ^{13}C(‰)、(加速器) = −24.71 ± 0.64 Δ^{14}C(‰) = −127.9 ± 3.1 pMC(%) = 87.21 ± 0.31
#2129−3	(参考)　　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C(‰) = −127.4 ± 2.9 pMC(%) = 87.26 ± 0.29 Age(yrBP)：　1,090 ± 30
IAAA−72603	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町湯田 市ノ原遺跡（第3地点） 試 料 形 態：炭化物 試料名(番号)：No.4	Libby Age(yrBP)：　1,380 ± 30 δ^{13}C(‰)、(加速器) = −24.71 ± 0.69 Δ^{14}C(‰) = −157.6 ± 2.9 pMC(%) = 84.24 ± 0.29
#2129−4	(参考)　　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C(‰) = −157.1 ± 2.6 pMC(%) = 84.29 ± 0.26 Age(yrBP)：　1,370 ± 30
IAAA−72604	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町湯田 市ノ原遺跡（第3地点） 試 料 形 態：炭化物 試料名(番号)：No.5	Libby Age(yrBP)：　1,710 ± 30 δ^{13}C(‰)、(加速器) = −25.56 ± 0.44 Δ^{14}C(‰) = −192.1 ± 2.9 pMC(%) = 80.79 ± 0.29
#2129−5	(参考)　　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C(‰) = −193.0 ± 2.8 pMC(%) = 80.70 ± 0.28 Age(yrBP)：　1,720 ± 30

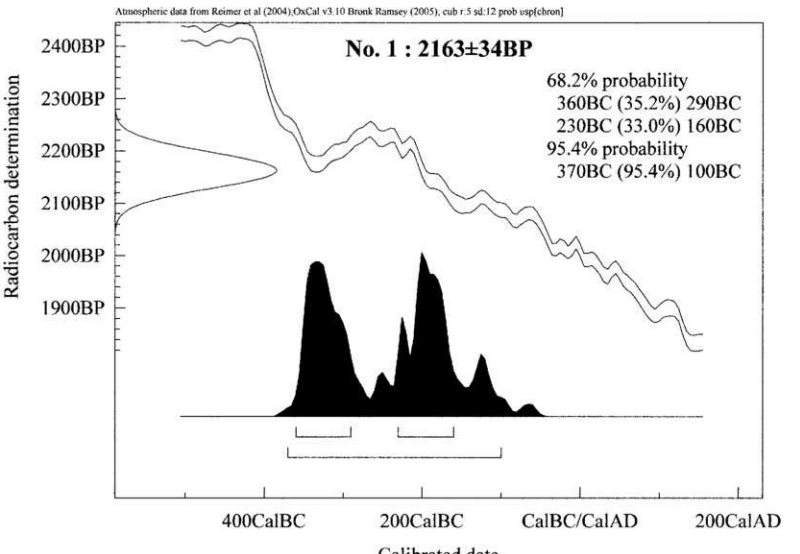
IAA Code No.	試　　料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA−72605	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町湯田 市ノ原遺跡（第3地点） 試 料 形 態：炭化物 試料名(番号)：No.6	Libby Age(yrBP)：　1,930 ± 30 δ^{13}C(‰)、(加速器) = −27.01 ± 0.47 Δ^{14}C(‰) = −213.8 ± 2.7 pMC(%) = 78.62 ± 0.27
#2129−6	(参考)　　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C(‰) = −217.0 ± 2.6 pMC(%) = 78.30 ± 0.26 Age(yrBP)：　1,970 ± 30
IAAA−72606	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町湯田 市ノ原遺跡（第3地点） 試 料 形 態：貝殻 試料名(番号)：No.7	Libby Age(yrBP)：　2,700 ± 30 δ^{13}C(‰)、(加速器) = 5.13 ± 0.54 Δ^{14}C(‰) = −285.7 ± 2.7 pMC(%) = 71.43 ± 0.27
#2129−7	(参考)　　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C(‰) = −240.9 ± 2.7 pMC(%) = 75.91 ± 0.27 Age(yrBP)：　2,210 ± 30
IAAA−72607	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町湯田 市ノ原遺跡（第3地点） 試 料 形 態：貝殻 試料名(番号)：No.8	Libby Age(yrBP)：　2,560 ± 30 δ^{13}C(‰)、(加速器) = −3.75 ± 0.46 Δ^{14}C(‰) = −273.0 ± 2.9 pMC(%) = 72.70 ± 0.29
#2129−8	(参考)　　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C(‰) = −241.0 ± 3.0 pMC(%) = 75.90 ± 0.30 Age(yrBP)：　2,210 ± 30

参考資料：暦年較正用年代

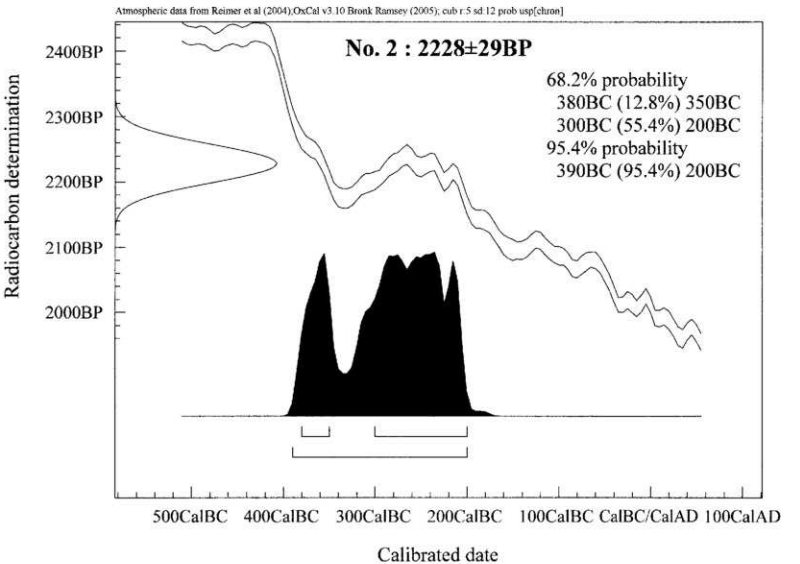
IAA Code No.	試料番号	Libby Age(yrBP)
IAAA−72600	No.1	2163 ± 34
IAAA−72601	No.2	2228 ± 29
IAAA−72602	No.3	1099 ± 28
IAAA−72603	No.4	1377 ± 27
IAAA−72604	No.5	1713 ± 29
IAAA−72605	No.6	1931 ± 27
IAAA−72606	No.7	2702 ± 30
IAAA−72607	No.8	2561 ± 32

ここに記載するLibby Age（年代値）と誤差は下1桁を丸めない値です。

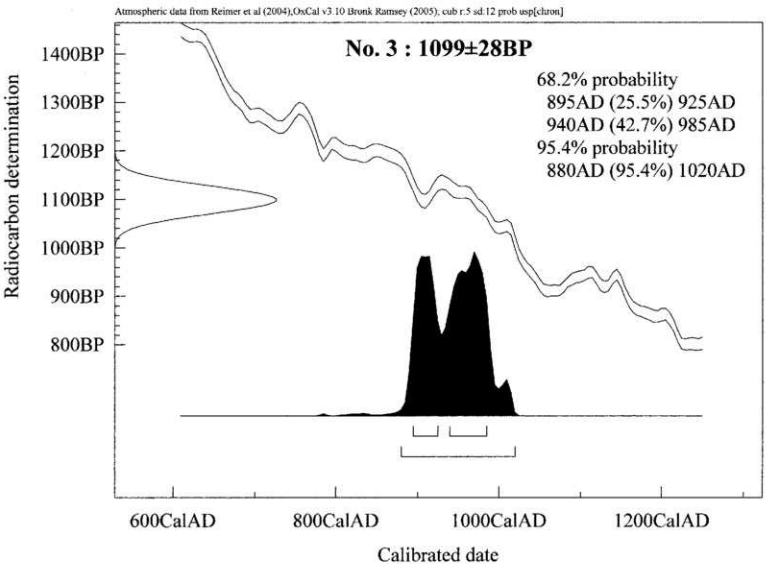
【参考値：暦年較正　Radiocarbon determination】



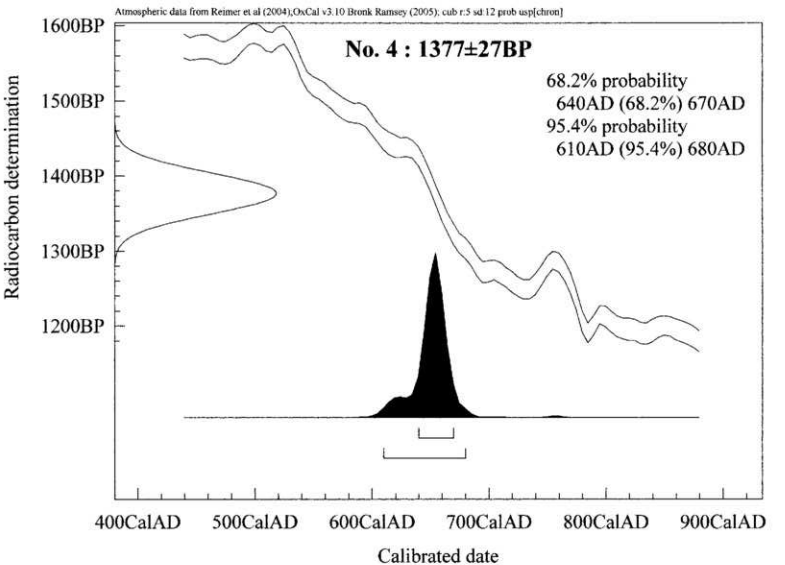
【参考値：暦年較正　Radiocarbon determination】



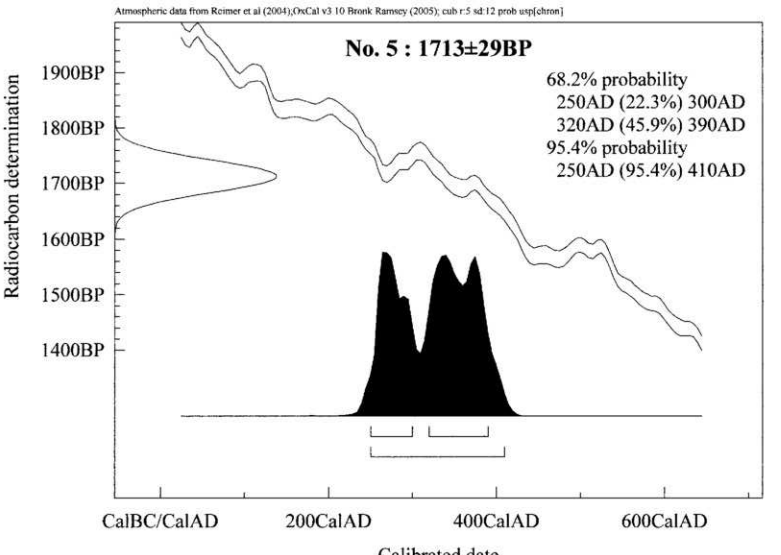
【参考値：暦年較正　Radiocarbon determination】



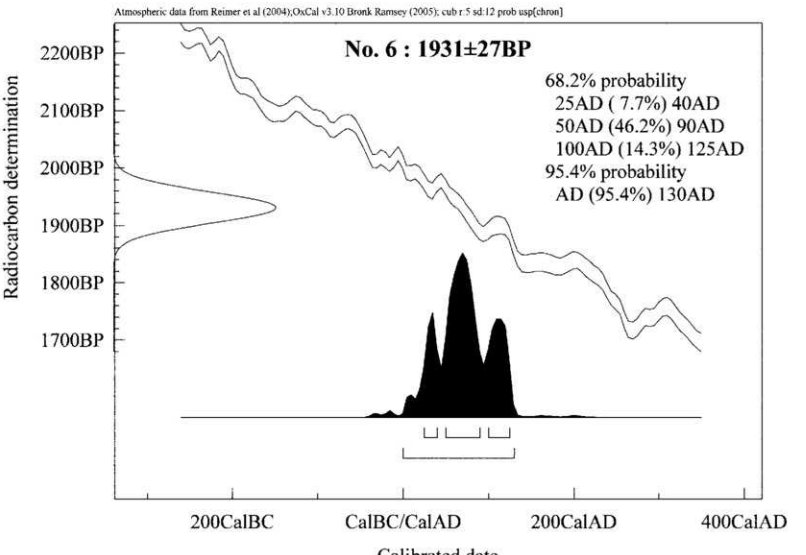
【参考値：暦年較正　Radiocarbon determination】



【参考値：暦年較正　Radiocarbon determination】



【参考値：暦年較正　Radiocarbon determination】



第２節 樹種同定調査　報告書

市ノ原遺跡第３地点

市ノ原遺跡第３地点出土炭化物の同定

㈱加速器分析研究所

はじめに

市ノ原遺跡では，古代の掘立柱建物群などの遺構が検出されており，施釉陶器や青磁，「万」の文字が書かれた墨書土器などが出土している。その他にも縄文時代から近世までの幅広い時代の遺構・遺物が検出されている。

本報告では，第３地点の住居跡から出土した炭化物の種類を明らかにするため，樹種同定および種実同定を実施する。

１．試料

試料は，住居跡覆土から出土した炭化物６点（試料番号１－６）である。いずれも複数片の炭化物が認められ，試料番号１，２には種実遺体も認められる。試料の詳細は結果とともに表１に示す。

２．分析方法

（１）樹種同定

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し，アルミ合金製の試料台にカーボンテープで固定する。実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し，その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については，島地・伊東（1982），Wheeler他（1998），Richter他（2006）を参考にする。各樹種の木材組織については，林（1991），伊東（1995，1996，1997，1998，1999）を参考にする。

（２）種実同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川（1994），中山ほか（2000）等との対照から，種実の種類と部位を同定し，個数を数えて表示する。分析後は，種類毎に容器に入れて返却する。

表１

1	F－31区	弥生２号住居	炭化材	針葉樹	微細片
				クリ	
				広葉樹	微細片
			種実	イチイガシ（子葉）	完形1個,破片8個
				コナラ属（子葉）	破片13個
2	F－31区	弥生２号住居内焼土域	炭化材	クリ	
			種実	イチイガシ（子葉）	破片２個
				コナラ属（子葉）	破片２個
				マメ類（種子）	破片１個
3	E－29区	古墳１号住居	炭化材	コナラ属アカガシ亜属	
4	D･E－28区	古墳２号住居	炭化材	コナラ属アカガシ亜属	
5	G－22区	古墳３号住居	炭化材	コナラ属アカガシ亜属	
			炭化材	ナツツバキ属	
6	G－23区	古墳４号住居	炭化材	クリ	

３．結果

同定結果を表１に示す。炭化材は，広葉樹３分類群（コナラ属アカガシ亜属・クリ・ナツツバキ属）に同定された。なお，試料番号１には，クリの他に針葉樹と散孔材の道管配列を有する広葉樹が認められたが，いずれも微細片であり，電子顕微鏡による観察ができないため，種類の同定には至らなかった。一方，試料番号１，２に認められた種実は，木本２分類群（広葉樹のイチイガシ，コナラ属）26個，草本で栽培植物のマメ類１個が同定された。

炭化材に認められた各分類群の解剖学的特徴と，種実に認められた各分類群の形態的特徴等を以下に記す。

＜炭化材＞

・コナラ属アカガシ亜属（*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*）　ブナ科

放射孔材で，管壁厚は中庸～厚く，横断面では楕円形，単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，１－ 10細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

環孔材で，孔圏部は２－ ３列，孔圏外で急激に管径を減じたのち，漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，１－ 20細胞高。

・ナツツバキ属（*Stewartia*）　ツバキ科

散孔材で，横断面では楕円形，ほぼ単独で散在し，年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し，壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性，１－ ２細胞幅，１－ 20細胞高で，時に上下に連結する。

＜種実＞

・イチイガシ（*Quercus gilva* Blume）　ブナ科コナラ属

炭化した子葉の完形個体１個（試料番号１），破片10個が検出された。長さ１－ 1.3cm，径0.7－１cm程度の楕円－ 広卵体。２枚からなる子葉は極端に不揃いで，合わせ目は球体表面を蛇行して一周する。幼根は頂端からずれた位置にある。表面には，１本の深い溝が基部から頂部に向かい2/3程度まで発達している。子葉は硬く緻密で，表面は縦方向に走る維管束の圧痕がみられる。合わせ目の表面は平滑で，正中線上は僅かに窪み，頂部には小さな孔（主根）がある。

岡本（1979）は，日本産ブナ科植物の子葉について，イチイガシには子葉の離れにくさ，著しい異形性，頂端が尖らず幼根の位置がずれている，中軸の圧痕が確認できるなどの特異性があることから，イチイガシのみが種まで同定できる場合があることを述べている。今回確認された11個は，これらの特徴を典型的に示していることから，イチイガシに同定されると判断した。なお，半分以下の破片15個にはイチイガシの特徴が確認されないため，コナラ属（*Quercus*）にとどめているが，おそらくイチイガシに由来すると思われる。

・マメ類（Leguminosae）　マメ科

種子の破片が検出された。炭化しており黒色，完形ならば長さ8.2㎜，径６㎜程度の長楕円体，破片は子葉の合わせ目に沿って半割している。種皮は薄く表面はやや平滑。子葉内面の幼痕や初生葉は不明瞭。

引用文献

林昭三，1991，日本産木材　顕微鏡写真集．京都大学木質科学研究所．

石川茂雄，1994，原色日本植物種子写真図鑑．石川茂雄図鑑刊行委員会，328p．

伊東隆夫，1995，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ．木材研究・資料，31，京都大学木質科学研究所，81-181．

伊東隆夫，1996，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ．木材研究・資料，32，京都大学木質科学研究所，66-176．

伊東隆夫，1997，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ．木材研究・資料，33，京都大学木質科学研究所，83-201．

伊東隆夫，1998，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ．木材研究・資料，34，京都大学木質科学研究所，30-166．

伊東隆夫，1999，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ．木材研究・資料，35，京都大学木質科学研究所，47-216．

中山至大・井之口希秀・南谷忠志，2000，日本植物種子図鑑．東北大学出版会，642p．

岡本素治，1979，遺跡から出土するイチイガシ．大阪市立自然史博物館業績，第230号，31− 39．

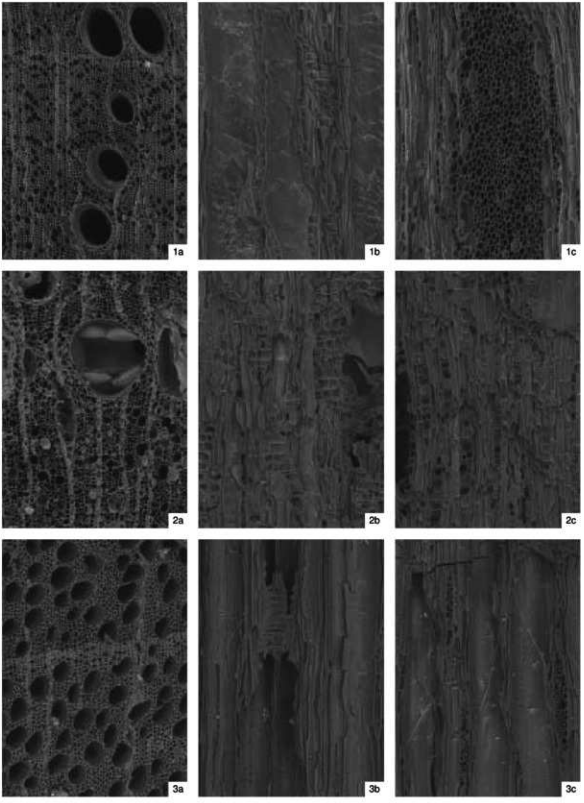
Richter　H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006，針葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト．伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘（日本語版監修），海青社，70p．[Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)*IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*].

島地謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998,広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト．伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩（日本語版監修），海青社，122p．[Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)*IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].

＊）本測定は，当社協力会社・パリノ・サーヴェイ㈱にて実施した。

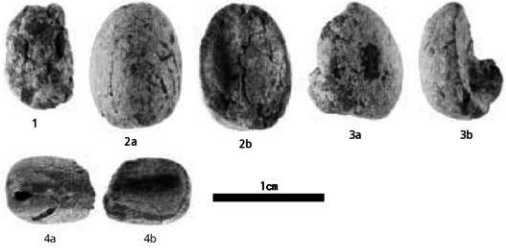
図版１　炭化材



1. コナラ属アカガシ亜属（試料番号4）
2. クリ（試料番号6）
3. ナツツバキ属（試料番号5）
　a：木口，b：柾目，c：板目

200 μm：a
200 μm：b，c

図版２　種実遺体



1．イチイガシ 子葉（試料番号1）
2．イチイガシ 子葉（試料番号1）
3．イチイガシ 子葉（試料番号1）
4．マメ類 種子（試料番号1）

市ノ原遺跡３地点出土の赤色顔料の分析結果について

内山伸明

本遺跡出土の縄文時代の土器に付着していた赤色顔料について，次のとおり走査型電子顕微鏡による形状視察とエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置による成分分析を行った。

1　資料

縄文時代早期土器（岩本式）　№22

縄文時代晩期土器　№765，766，768

2　観察・分析方法

（1）形状観察

走査型電子顕微鏡（日本電子製JSM-5300LV）による2,000～3,500倍観察を行った。

（2）蛍光Ｘ線分析

エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（堀場製作所製XGT-1000，Ｘ線管球ターゲット：ロジウム，Ｘ線照射径100μｍ）を使用し，次の条件により分析を行った。

Ｘ線管電圧：50kV　　電流：自動設定

測定時間：120S　　Ｘ線フィルタ：なし

試料セル：なし　　パルス処理時間：Ｐ３

定量補正法：スタンダードレス

なお，いずれの資料も付着部位の形状や残存量から非破壊での測定は困難であったため，電子顕微鏡観察用に作成した試料で測定を行った。

3　結果

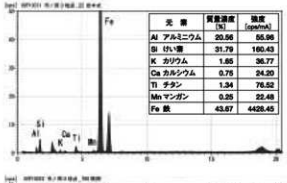
（1）形状観察

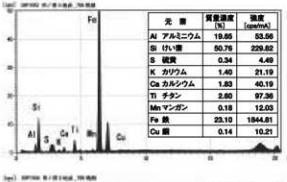
電子顕微鏡観察の結果，№22は鉄バクテリアLeptothrix属由来のいわゆる「パイプ状ベンガラ」（写真１）を確認した。県内では岩本式土器に付着したベンガラの分析例は岩本（指宿市），加栗山（鹿児島市），稲荷原・上山路山（いずれも日置市），ホケノ頭（鈴江町）の５遺跡の例があるが，いずれも「非パイプ状ベンガラ」であった。今回の例は，「パイプ状ベンガラ」の県内最古の事例と言える。

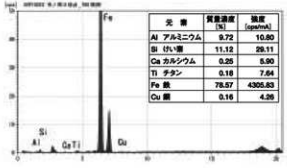
№765，766，768は，いずれも微細な粒子がみられ（写真２～４），当センターではこれまで「非パイプ状ベンガラ」として報告している。しかし，近年，鉄バクテリアの現地採取や分析・観察をしていく中で，鉄バクテリアが作り出す黄褐色沈殿物の中に，今回観察したものに類似する微細な球状の粒子が密集しているものを確認しており，「非パイプ状」ではあっても鉱物由来のものではない可能性も残る。この点については，今後さらに検討が必要である。

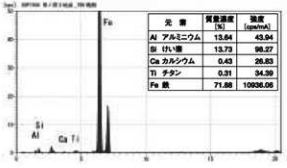
（2）蛍光Ｘ線分析

いずれも顕著な鉄（Ｆｅ）のピークがみられたことから，これらの赤色顔料は鉄を主成分とするベンガラと言える。№22および765は，アルミニウム（Ａｌ），けい素（Ｓｉ），鉄（Ｆｅ）の分析値がほかの２点やこれまでの当センターのベンガラの分析例と比較して若干異なるが，これは残存している顔料の層が非常に薄かったため，胎土の影響があったものと考えられる。









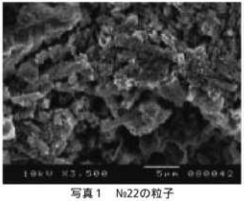


写真１　№22の粒子

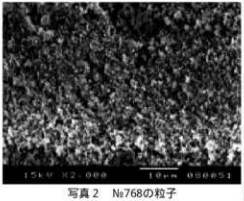


写真２　№768の粒子

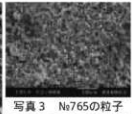


写真３　№765の粒子

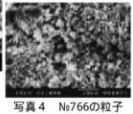


写真４　№766の粒子

第３表　旧石器時代石器観察表（1）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備　考
19	1	ナイフ形石器	F－28	Ⅳ	2.7	1.8	0.6	2.0	―
	2	ナイフ形石器	J－35	Ⅵ下	3.2	1.9	0.7	3.8	―
21	1	細石刃核	F－47	Ⅶ	1.8	1.1	1.6	2.8	Aブロック
	2	細石刃核	F－47	Ⅶ	1.6	1.6	1.6	3.3	Aブロック
	3	細石刃核	E－47	Ⅴ	2.4	1.6	1.7	6.1	Aブロック
	4	細石刃核	F－47	Ⅴ	1.6	1.6	2.6	5.1	Aブロック
	5	細石刃核	F－47	Ⅶ	2.9	1.6	2.4	7.4	Aブロック
	6	細石刃核	E－47	Ⅶ	1.8	1.5	2.0	4.3	Aブロック
	7	細石刃核	F－47	Ⅶ	1.6	1.1	0.7	0.6	Aブロック
22	8	細石刃核	F－47	Ⅴ	2.5	1.9	2.1	7.9	Aブロック
	9	細石刃核	F－47	Ⅴ	2.2	1.6	1.7	3.2	Aブロック
	10	細石刃核	F－47	Ⅳ	2.0	2.2	2.7	8.6	Aブロック
	11	細石刃核	F－47	Ⅲa	2.0	1.8	1.2	3.7	Aブロック
	12	細石刃核	F－47	Ⅲa	2.7	2.3	1.6	9.3	Aブロック
23	1	細石刃	F－47	Ⅴ	1.2	0.5	0.1	0.05	Aブロック
	2	細石刃	F－47	Ⅴ	1.5	0.5	0.1	0.15	Aブロック
	3	細石刃	F－47	Ⅶ	1.1	0.4	0.2	0.08	Aブロック
	4	細石刃	F－47	Ⅴ	1.2	0.6	0.1	0.09	Aブロック
	5	細石刃	F－47	Ⅶ	1.2	0.4	0.1	0.04	Aブロック
	6	細石刃	E－47	Ⅶ	1.0	0.4	0.1	0.05	Aブロック
	7	細石刃	F－47	Ⅶ	0.8	0.5	0.1	0.10	Aブロック
	8	細石刃	F－47	Ⅶ	1.1	0.6	0.1	0.05	Aブロック
	9	細石刃	E－47	Ⅶ	1.1	0.6	0.1	0.09	Aブロック
	10	細石刃	E－47	Ⅶ	0.8	0.5	0.1	0.04	Aブロック
24	1	両面加工尖頭器	F－43	Ⅶ	3.5	2.4	0.8	5.7	Bブロック
	2	両面加工尖頭器	F－43	Ⅶ	2.0	2.6	0.7	4.4	Bブロック
24	1	細石刃核	F－44	Ⅴ	2.0	0.9	1.4	3.0	Bブロック
	2	細石刃核	F－44	Ⅴ	1.7	1.4	1.5	3.3	Bブロック
	3	細石刃核	F－44	Ⅴ	2.0	1.8	1.7	5.3	Bブロック
	4	細石刃核	F－44	Ⅴ	2.2	1.4	1.8	4.7	Bブロック
	5	細石刃核	F－44	Ⅴ	2.0	1.2	1.9	4.2	Bブロック
	6	細石刃核	F－44	Ⅴ	2.2	1.1	1.8	4.2	Bブロック
	7	細石刃核	F－44	Ⅴ	2.6	1.8	1.4	5.0	Bブロック
	8	細石刃核	F－44	Ⅴ	1.6	1.1	0.7	1.3	Bブロック
25	9	細石刃核	F－44	Ⅳ	2.1	1.5	1.9	4.2	Bブロック
	10	細石刃核	F－44	Ⅳ	2.7	1.6	2.1	7.9	Bブロック
	11	細石刃核	F－43	Ⅳ	2.5	1.6	2.1	8.8	Bブロック
	12	細石刃核	F－43	Ⅳ	2.5	1.4	2.4	8.1	Bブロック
	13	細石刃核	F－44	Ⅳ	2.1	1.4	1.5	4.5	Bブロック
	14	細石刃核	F－44	Ⅴ	2.0	1.8	3.1	7.4	Bブロック
26	1	細石刃	F－44	Ⅴ	2.6	0.7	0.3	0.57	Bブロック
	2	細石刃	F－44	Ⅴ	2.2	0.5	0.2	0.19	Bブロック
	3	細石刃	F－44	Ⅴ	1.9	0.6	0.3	0.23	Bブロック
	4	細石刃	F－44	Ⅴ	2.1	0.5	0.2	0.16	Bブロック
	5	細石刃	F－44	Ⅴ	1.7	0.4	0.2	0.09	Bブロック
	6	細石刃	F－44	Ⅶ	1.6	0.4	0.1	0.14	Bブロック
	7	細石刃	F－44	Ⅴ	1.1	0.4	0.1	0.07	Bブロック
	8	細石刃	F－44	Ⅴ	1.1	0.5	0.2	0.07	Bブロック
	9	細石刃	F－44	Ⅴ	1.6	0.5	0.2	0.21	Bブロック
	10	細石刃	F－44	Ⅴ	1.4	0.5	0.1	0.10	Bブロック
	11	細石刃	F－44	Ⅴ	1.6	0.5	0.3	0.22	Bブロック
	12	細石刃	F－44	Ⅴ	1.4	0.4	0.2	0.17	Bブロック
	13	細石刃	F－44	Ⅴ	1.7	0.6	0.2	0.16	Bブロック
	14	細石刃	F－44	Ⅴ	1.3	0.3	0.1	0.04	Bブロック
	15	細石刃	F－44	Ⅴ	1.0	0.6	0.1	0.09	Bブロック
	16	細石刃	F－44	Ⅴ	0.9	0.4	0.1	0.03	Bブロック

第４表　旧石器時代石器観察表（2）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備　考
26	17	細石刃	F－44	Ⅴ	1.3	0.5	0.2	0.13	Bブロック
	18	細石刃	F－44	Ⅴ	0.9	0.5	0.1	0.04	Bブロック
	19	細石刃	F－44	Ⅴ	1.5	0.5	0.1	0.12	Bブロック
	20	細石刃	F－44	Ⅴ	1.0	0.4	0.1	0.06	Bブロック
	21	細石刃	F－44	Ⅴ	0.8	0.6	0.1	0.06	Bブロック
	22	細石刃	F－44	Ⅴ	1.2	0.4	0.1	0.05	Bブロック
	23	細石刃	F－44	Ⅴ	0.7	0.4	0.1	0.07	Bブロック
	24	細石刃	F－44	Ⅴ	0.9	0.5	0.1	0.09	Bブロック
	25	細石刃	F－44	Ⅴ	0.9	0.5	0.1	0.06	Bブロック
	26	細石刃	F－44	Ⅴ	0.8	0.6	0.2	0.08	Bブロック
	27	細石刃	F－44	Ⅴ	0.8	0.4	0.1	0.05	Bブロック
	28	細石刃	F－44	Ⅴ	0.4	0.3	0.1	0.01	Bブロック
	29	細石刃	F－44	Ⅴ	0.5	0.3	0.1	0.01	Bブロック
	30	細石刃	F－43	Ⅶ	1.2	0.4	0.1	0.04	Bブロック
	31	細石刃	F－43	Ⅶ	0.8	0.4	0.2	0.08	Bブロック
	32	細石刃	F－43	Ⅶ	1.1	0.5	0.2	0.08	Bブロック
	33	細石刃	F－43	Ⅶ	1.1	0.5	0.1	0.07	Bブロック
	34	細石刃	F－43	Ⅶ	0.7	0.3	0.1	0.05	Bブロック
	35	細石刃	F－44	Ⅶ	1.5	0.4	0.1	0.18	Bブロック
	36	細石刃	F－44	Ⅶ	1.1	0.4	0.1	0.08	Bブロック
	37	細石刃	F－44	Ⅶ	1.6	0.4	0.1	0.08	Bブロック
	38	細石刃	F－44	Ⅶ	1.6	0.5	0.1	0.13	Bブロック
	39	細石刃	F－44	Ⅶ	1.1	0.6	0.1	0.12	Bブロック
	40	細石刃	F－44	Ⅶ	1.8	0.5	0.1	0.18	Bブロック
	41	細石刃	F－44	Ⅶ	1.1	0.5	0.1	0.04	Bブロック
	42	細石刃	F－44	Ⅶ	1.3	0.7	0.1	0.12	Bブロック
	43	細石刃	F－44	Ⅶ	1.5	0.7	0.2	0.14	Bブロック
	44	細石刃	F－44	Ⅶ	0.8	0.5	0.1	0.06	Bブロック
	45	細石刃	F－44	Ⅲ	1.2	0.7	0.1	0.14	Bブロック
	46	細石刃	F－44	Ⅳ	1.0	0.5	0.1	0.10	Bブロック
	47	細石刃	F－43	Ⅳ	1.0	0.5	0.1	0.13	Bブロック
	48	細石刃	F－44	Ⅴ	1.4	0.5	0.2	0.11	Bブロック
	49	細石刃	F－44	Ⅴ	0.8	0.6	0.1	0.04	Bブロック
	50	細石刃	F－44	Ⅴ	1.0	0.5	0.1	0.06	Bブロック
	51	細石刃	F－44	Ⅴ	0.8	0.4	0.1	0.05	Bブロック
	52	細石刃	F－44	Ⅴ	1.1	0.6	0.1	0.06	Bブロック
	53	細石刃	F－44	Ⅴ	1.1	0.6	0.1	0.11	Bブロック
	54	細石刃	F－44	Ⅶ	0.8	0.5	0.2	0.09	Bブロック
27	55	細石刃	F－44	Ⅴ	0.8	0.6	0.1	0.04	Bブロック
	56	細石刃	F－44	Ⅴ	1.1	0.6	0.2	0.10	Bブロック
	57	細石刃	F－44	Ⅴ	0.9	0.5	0.1	0.05	Bブロック
	58	細石刃	F－44	Ⅴ	1.1	0.4	0.1	0.05	Bブロック
	59	細石刃	F－44	Ⅴ	0.9	0.4	0.1	0.04	Bブロック
	60	細石刃	F－44	Ⅴ	0.9	0.3	0.1	0.03	Bブロック
	61	細石刃	F－44	Ⅴ	1.2	0.4	0.1	0.08	Bブロック
	62	細石刃	F－44	Ⅴ	1.3	0.4	0.2	0.11	Bブロック
	63	細石刃	F－44	Ⅶ	1.3	0.5	0.2	0.13	Bブロック
	64	細石刃	F－44	Ⅶ	1.2	0.3	0.1	0.04	Bブロック
	65	細石刃	F－44	Ⅶ	1.0	0.4	0.1	0.03	Bブロック
	66	細石刃	F－44	Ⅶ	1.0	0.3	0.1	0.02	Bブロック
	67	細石刃	F－44	Ⅶ	1.1	0.4	0.1	0.06	Bブロック
	68	細石刃	F－44	Ⅶ	1.2	0.4	0.1	0.04	Bブロック
	69	細石刃	F－44	Ⅶ	1.0	0.3	0.2	0.07	Bブロック
	70	細石刃	F－44	Ⅶ	1.3	0.4	0.1	0.14	Bブロック
	71	細石刃	F－44	Ⅶ	1.1	0.5	0.1	0.06	Bブロック
	72	細石刃	F－44	Ⅶ	1.3	0.5	0.2	0.07	Bブロック

第５表　旧石器時代石器観察表（3）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備　考
27	73	細石刃	F－44	Ⅶ	1.1	0.3	0.2	0.06	Bブロック
	74	細石刃	F－44	Ⅶ	1.0	0.5	0.1	0.08	Bブロック
	75	細石刃	F－44	Ⅶ	1.3	0.3	0.2	0.09	Bブロック
	76	細石刃	F－44	Ⅶ	1.2	0.5	0.1	0.03	Bブロック
	77	細石刃	F－44	Ⅶ	0.5	0.3	0.1	0.02	Bブロック
	78	細石刃	F－43	Ⅴ	0.7	0.4	0.1	0.04	Bブロック
	79	細石刃	F－43	Ⅴ	1.2	0.5	0.1	0.14	Bブロック
	80	細石刃	F－43	Ⅴ	0.8	0.4	0.1	0.03	Bブロック
28	1	細石刃核	F－41	Ⅶ	1.6	1.3	1.7	4.2	Cブロック
	2	細石刃核	F－41	Ⅶ	2.5	1.6	1.1	4.8	Cブロック
	3	細石刃核	F－41	Ⅶ	2.0	1.1	2.2	5.7	Cブロック
	4	細石刃核	F－41	Ⅶ	1.7	0.9	0.9	1.6	Cブロック
	5	細石刃核	F－41	Ⅴ	1.8	1.8	1.2	3.3	Cブロック
	6	細石刃核	F－41	Ⅴ	2.2	1.4	1.1	4.0	Cブロック
	7	細石刃核	F－41	Ⅴ	1.9	1.3	1.7	3.1	Cブロック
	8	細石刃核	F－41	Ⅴ	2.0	1.4	1.5	4.8	Cブロック
	9	細石刃核	F－41	Ⅴ	1.4	1.2	1.3	1.9	Cブロック
	10	細石刃核	F－41	Ⅴ	1.9	1.4	2.7	7.5	Cブロック
	11	細石刃核	F－40	Ⅴ	3.1	1.9	3.0	14.2	Cブロック
29	12	細石刃核	F－40	Ⅴ	2.4	1.8	2.1	7.3	Cブロック
	13	細石刃核	F－40	Ⅴ	1.7	1.1	2.1	4.1	Cブロック
	14	細石刃核	F－40	Ⅳ	2.2	1.5	1.9	5.8	Cブロック
	15	細石刃核	F－40	Ⅳ	1.6	1.7	2.5	6.6	Cブロック
	16	細石刃核	F－40	Ⅳ	2.7	1.7	3.0	12.4	Cブロック
	17	細石刃核	G－40	Ⅳ	2.0	1.2	2.0	6.7	Cブロック
	18	細石刃核	F－41	Ⅶ	1.5	1.4	1.7	2.8	Cブロック
	19	細石刃核	F－42	Ⅴ	1.8	1.8	1.4	3.9	Cブロック
30	20	細石刃核	F－41	Ⅴ	1.8	1.3	2.0	4.6	Cブロック
	21	細石刃核	F－41	Ⅴ	2.0	0.8	1.1	2.0	Cブロック
	22	細石刃核	F－40	Ⅴ	2.5	1.7	2.5	11.2	Cブロック
	23	細石刃核	F－40	Ⅳ	2.4	1.8	1.8	6.9	Cブロック
	24	細石刃核	F－40	Ⅴ	2.3	1.6	2.7	8.7	Cブロック
	25	細石刃核	F－40	Ⅲb	1.9	1.7	2.0	5.9	Cブロック
31	1	細石刃	F－41	Ⅶ	1.4	0.4	0.2	0.13	Cブロック
	2	細石刃	F－41	Ⅶ	1.0	0.5	0.1	0.09	Cブロック
	3	細石刃	F－41	Ⅶ	1.9	0.3	0.1	0.10	Cブロック
	4	細石刃	F－42	Ⅶ	1.8	0.6	0.1	0.11	Cブロック
	5	細石刃	F－42	Ⅶ	1.1	0.6	0.2	0.06	Cブロック
	6	細石刃	F－41	Ⅶ	2.3	0.5	0.2	0.20	Cブロック
	7	細石刃	F－41	Ⅶ	0.8	0.4	0.1	0.04	Cブロック
	8	細石刃	F－42	Ⅶ	0.5	0.6	0.2	0.05	Cブロック
	9	細石刃	F－41	Ⅶ	0.7	0.3	0.1	0.05	Cブロック
	10	細石刃	F－42	Ⅶ	1.1	0.4	0.1	0.07	Cブロック
	11	細石刃	F－41	Ⅶ	0.7	0.4	0.1	0.02	Cブロック
	12	細石刃	F－42	Ⅶ	1.0	0.5	0.1	0.10	Cブロック
	13	細石刃	F－41	Ⅶ	0.8	0.4	0.1	0.05	Cブロック
	14	細石刃	F－41	Ⅶ	0.6	0.5	0.1	0.06	Cブロック
	15	細石刃	F－41	Ⅶ	1.3	0.4	0.1	0.12	Cブロック
	16	細石刃	F－41	Ⅶ	0.8	0.4	0.1	0.03	Cブロック
	17	細石刃	F－41	Ⅶ	1.6	0.6	0.2	0.07	Cブロック
	18	細石刃	F－41	Ⅶ	0.8	0.6	0.1	0.07	Cブロック
	19	細石刃	F－41	Ⅶ	1.1	0.5	0.2	0.08	Cブロック
	20	細石刃	F－42	Ⅶ	0.9	0.3	0.1	0.03	Cブロック
	21	細石刃	F－41	Ⅳ	1.5	0.5	0.2	0.16	Cブロック
	22	細石刃	F－41	Ⅳ	1.5	0.6	0.1	0.14	Cブロック
	23	細石刃	F－42	Ⅳ	1.2	0.5	0.1	0.11	Cブロック

第６表　旧石器時代石器観察表（4）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備　考
31	24	細石刃	F－40	V	1.5	0.5	0.1	0.07	Cブロック
	25	細石刃	F－41	V	1.0	0.5	0.1	0.05	Cブロック
	26	細石刃	F－40	V	1.3	0.5	0.1	0.06	Cブロック
	27	細石刃	F－40	V	1.6	0.3	0.2	0.10	Cブロック
	28	細石刃	F－41	V	0.8	0.4	0.1	0.04	Cブロック
	29	細石刃	F－41	V	1.5	0.6	0.2	0.19	Cブロック
	30	細石刃	F－41	V	1.5	0.5	0.1	0.13	Cブロック
	31	細石刃	F－41	V	1.1	0.4	0.1	0.07	Cブロック
	32	細石刃	F－41	V	1.7	0.7	0.2	0.23	Cブロック
	33	細石刃	F－41	V	1.0	0.6	0.2	0.13	Cブロック
	34	細石刃	F－41	V	1.3	0.7	0.2	0.10	Cブロック
	35	細石刃	F－41	V	1.6	0.6	0.1	0.11	Cブロック
	36	細石刃	F－40	V	2.0	0.6	0.2	0.25	Cブロック
	37	細石刃	F－41	V	0.9	0.4	0.1	0.04	Cブロック
	38	細石刃	F－41	V	1.2	0.4	0.1	0.11	Cブロック
	39	細石刃	F－41	V	1.5	0.5	0.2	0.13	Cブロック
	40	細石刃	F－42	V	1.0	0.4	0.2	0.07	Cブロック
	41	細石刃	F－42	Ⅳ	1.1	0.4	0.1	0.05	Cブロック
	42	細石刃	F－40	V	0.9	0.4	0.1	0.03	Cブロック
	43	細石刃	F－40	V	1.2	0.6	0.2	0.21	Cブロック
	44	細石刃	F－41	V	1.3	0.3	0.1	0.05	Cブロック
	45	細石刃	F－42	V	2.4	0.4	0.2	0.22	Cブロック
	46	細石刃	F－41	V	2.7	0.7	0.2	0.44	Cブロック
32	47	細石刃	F－41	V	1.5	0.5	0.2	0.16	Cブロック
	48	細石刃	F－41	V	0.9	0.5	0.1	0.05	Cブロック
	49	細石刃	F－41	V	0.8	0.3	0.1	0.04	Cブロック
	50	細石刃	F－41	V	1.3	0.4	0.1	0.05	Cブロック
	51	細石刃	F－41	V	1.6	0.5	0.2	0.16	Cブロック
	52	細石刃	F－41	V	0.4	0.4	0.1	0.01	Cブロック
	53	細石刃	F－41	V	0.7	0.4	0.1	0.05	Cブロック
	54	細石刃	F－41	V	1.1	0.5	0.1	0.07	Cブロック
	55	細石刃	F－41	V	0.8	0.5	0.2	0.08	Cブロック
	56	細石刃	F－41	V	1.0	0.4	0.1	0.03	Cブロック
	57	細石刃	F－42	V	1.5	0.5	0.1	0.12	Cブロック
33	1	細石刃核	G－40	V	1.6	1.7	3.0	9.1	Dブロック
	2	細石刃核	G－40	V	1.6	1.1	1.6	2.3	Dブロック
	3	細石刃核	G－40	Ⅲb	1.9	1.6	2.6	5.9	Dブロック
	4	細石刃核	G－40	Ⅲb	3.1	2.0	2.4	11.7	Dブロック
	5	細石刃核	G－40	Ⅶ	1.7	1.7	2.8	6.9	Dブロック
	6	細石刃核	G－40	V	2.1	1.1	1.4	3.4	Dブロック
	7	細石刃核	G－40	V	1.6	1.4	1.8	3.0	Dブロック
	8	細石刃核	G－40	Ⅲb	1.8	1.4	1.7	3.6	Dブロック
34	9	細石刃核	G－40	V	1.9	1.9	2.8	6.0	Dブロック
	10	細石刃核	G－40	V	2.0	1.7	1.8	5.5	Dブロック
	11	細石刃核	G－40	V	1.8	1.5	1.2	2.2	Dブロック
35	1	細石刃	G－40	Ⅶa	1.0	0.3	0.1	0.06	Dブロック
	2	細石刃	G－40	Ⅶa	1.0	0.3	0.1	0.02	Dブロック
	3	細石刃	G－40	Ⅶa	1.0	0.4	0.1	0.04	Dブロック
	4	細石刃	G－40	Ⅶa	1.5	0.4	0.1	0.08	Dブロック
	5	細石刃	G－40	Ⅶa	1.2	0.4	0.2	0.08	Dブロック
	6	細石刃	G－40	Ⅶa	2.7	0.4	0.1	0.24	Dブロック
	7	細石刃	G－40	V	0.9	0.5	0.1	0.07	Dブロック
	8	細石刃	G－40	V	1.2	0.6	0.2	0.13	Dブロック
	9	細石刃	G－40	V	0.8	0.5	0.1	0.05	Dブロック
	10	細石刃	G－40	V	1.0	0.4	0.1	0.07	Dブロック
	11	細石刃	G－40	V	1.5	0.6	0.2	0.16	Dブロック

第７表　旧石器時代石器観察表（5）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備　考
35	12	細石刃	G－40	Ⅴ	1.0	0.3	0.2	0.03	Dブロック
	13	細石刃	G－40	Ⅴ	0.7	0.4	0.1	0.04	Dブロック
	14	細石刃	G－40	Ⅴ	1.5	0.4	0.1	0.08	Dブロック
	15	細石刃	G－40	Ⅴ	0.9	0.5	0.1	0.29	Dブロック
	16	細石刃	G－40	Ⅴ	1.3	0.4	0.1	0.07	Dブロック
	17	細石刃	G－40	Ⅴ	1.1	0.4	0.2	0.13	Dブロック
	18	細石刃	G－40	Ⅳ	1.1	0.5	0.1	0.07	Dブロック
36	1	細石刃核	H－38	Ⅶ	3.3	2.0	1.8	8.2	Eブロック
	2	細石刃核	H－39	Ⅶa	2.9	1.2	2.1	4.6	Eブロック
	3	細石刃核	H－39	Ⅶa	1.6	1.5	1.7	3.6	Eブロック
	4	細石刃核	H－39	Ⅴ	1.9	1.3	1.6	4.4	Eブロック
	5	細石刃核	H－39	Ⅳ	2.8	1.7	1.8	7.9	Eブロック
	6	細石刃核	H－39	Ⅳ	1.7	2.5	2.0	6.6	Eブロック
	7	細石刃核	H－38	Ⅳ	2.4	1.3	1.9	5.3	Eブロック
	8	細石刃核	H－39	Ⅴ	2.7	2.6	1.7	9.4	Eブロック
37	9	細石刃核	H－39	Ⅴ	1.7	1.3	1.4	3.2	Eブロック
	10	細石刃核	H－39	Ⅳ	1.6	2.4	3.2	8.8	Eブロック
	11	細石刃核	H－39	Ⅳ	1.6	2.1	3.5	10.3	Eブロック
	12	細石刃核	H－39	Ⅲb	1.9	1.6	2.0	4.0	Eブロック
38	1	細石刃核	H－37	Ⅳ	1.4	1.4	2.1	4.5	Fブロック
39	1	細石刃	H－39	Ⅶa	1.6	0.7	0.2	0.15	Eブロック
	2	細石刃	H－39	Ⅶa	1.3	0.4	0.1	0.09	Eブロック
	3	細石刃	H－39	Ⅶa	1.1	0.5	0.1	0.05	Eブロック
	4	細石刃	H－39	Ⅶa	1.2	0.5	0.1	0.12	Eブロック
	5	細石刃	H－38	Ⅶ	2.4	0.9	0.2	0.58	Eブロック
	6	細石刃	H－38	Ⅶ	2.6	0.5	0.1	0.29	Eブロック
	7	細石刃	H－39	Ⅶa	1.0	0.4	0.1	0.09	Eブロック
	8	細石刃	H－38	Ⅶ	1.0	0.5	0.1	0.07	Eブロック
	9	細石刃	H－38	Ⅶ	1.4	0.5	0.1	0.11	Eブロック
	10	細石刃	H－38	Ⅶ	1.0	0.4	0.1	0.06	Eブロック
	11	細石刃	H－38	Ⅶ	0.6	0.5	0.1	0.05	Eブロック
	12	細石刃	H－38	Ⅶ	1.5	0.5	0.2	0.18	Eブロック
	13	細石刃	H－39	Ⅶa	0.6	0.4	0.1	0.02	Eブロック
	14	細石刃	H－38	Ⅶ	1.4	0.4	0.1	0.09	Eブロック
	15	細石刃	H－38	Ⅶ	0.7	0.6	0.1	0.06	Eブロック
	16	細石刃	H－39	Ⅶa	0.9	0.4	0.1	0.04	Eブロック
	17	細石刃	H－38	Ⅶ	1.2	0.4	0.2	0.07	Eブロック
	18	細石刃	H－39	Ⅶa	0.4	0.4	0.1	0.01	Eブロック
	19	細石刃	H－39	Ⅶa	1.1	0.6	0.2	0.12	Eブロック
	20	細石刃	H－38	Ⅴ	1.7	0.6	0.2	0.17	Eブロック
	21	細石刃	H－39	Ⅴ	1.9	0.7	0.2	0.27	Eブロック
	22	細石刃	H－38	Ⅴ	2.4	0.6	0.3	0.42	Eブロック
	23	細石刃	H－38	Ⅴ	0.9	0.5	0.1	0.10	Eブロック
	24	細石刃	H－38	Ⅴ	0.8	0.5	0.1	0.05	Eブロック
	25	細石刃	H－38	Ⅴ	0.7	0.6	0.2	0.10	Eブロック
	26	細石刃	H－38	Ⅴ	0.8	0.4	0.1	0.04	Eブロック
	27	細石刃	H－38	Ⅴ	0.8	0.5	0.1	0.05	Eブロック
	28	細石刃	H－38	Ⅲb	1.7	0.4	0.2	0.12	Eブロック
39	1	細石刃	H－37	Ⅶa	1.5	0.5	0.1	0.15	Fブロック
	2	細石刃	H－37	Ⅶa	1.3	0.5	0.1	0.08	Fブロック
	3	細石刃	H－37	Ⅶa	1.1	0.6	0.1	0.11	Fブロック

第８表　旧石器時代石器観察表（6）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備　考
40	1	細石刃核	G－37	Ⅶa	2.5	1.7	2.8	10.0	環状分布内
	2	細石刃核	F－37	Ⅴ	1.7	1.2	2.4	6.1	環状分布内
	3	細石刃核	G－37	Ⅴ	1.7	1.7	2.7	5.6	環状分布内
	4	細石刃核	F－37	Ⅶa	1.5	2.2	3.5	8.6	環状分布内
	5	細石刃核	F－37	Ⅴ	1.1	1.5	2.1	3.4	環状分布内
	6	細石刃核	F－36	Ⅶa	1.7	1.3	2.0	3.5	環状分布内
	7	細石刃核	G－37	Ⅶa	1.8	1.5	3.2	8.6	環状分布内
	8	細石刃核	F－37	Ⅴ	1.9	1.4	2.2	6.9	環状分布内
41	9	細石刃核	F－36	Ⅶa	1.3	2.2	2.6	4.8	環状分布内
	10	細石刃核	F－37	Ⅶa	1.6	1.5	1.6	4.1	環状分布内
	11	細石刃核	F－36	Ⅲb	2.2	1.7	1.6	5.7	環状分布内
	12	細石刃核	F－37	Ⅳ	2.4	1.0	1.7	3.7	環状分布内
	13	細石刃核	F－37	Ⅳ	1.7	1.3	1.3	3.1	環状分布内
	14	細石刃核	F－37	Ⅴ	1.4	1.2	1.3	1.7	環状分布内
	15	細石刃核	F－37	Ⅴ	1.9	1.1	1.7	2.8	環状分布内
	16	細石刃核	F－37	Ⅶa	1.9	0.9	0.9	1.5	環状分布内
42	1	細石刃核	E－43	Ⅴ	2.3	1.9	2.9	11.0	ブロック外
	2	細石刃核	E－41	Ⅴ	2.3	1.7	2.9	9.6	ブロック外
	3	細石刃核	F－39	Ⅶa	1.7	1.0	2.1	2.8	ブロック外
	4	細石刃核	G－38	Ⅶ	1.7	1.2	3.0	6.1	ブロック外
	5	細石刃核	E－43	Ⅲb	2.4	2.0	2.4	10.5	ブロック外
	6	細石刃核	F－38	Ⅳ	2.4	1.9	2.7	9.5	ブロック外
	7	細石刃核	E－39	Ⅲb	2.2	1.5	1.6	5.4	ブロック外
	8	細石刃核	G－38	Ⅶa	2.4	1.7	1.9	6.6	ブロック外
	9	細石刃核	G－38	Ⅴ	2.0	1.2	1.7	3.6	ブロック外
	10	細石刃核	G－39	Ⅶa	1.9	1.1	1.6	2.6	ブロック外
43	11	細石刃核	E－39	Ⅳ	2.0	1.4	1.7	3.7	ブロック外
	12	細石刃核	H－40	Ⅴ	2.6	1.5	1.7	5.7	ブロック外
	13	細石刃核	G－39	Ⅶa	1.5	0.7	1.8	1.6	ブロック外
	14	細石刃核	G－38	Ⅶ	1.4	1.2	1.3	1.8	ブロック外
	15	細石刃核	G－39	Ⅲb	1.2	1.7	1.4	3.5	ブロック外
	16	細石刃核	G－39	Ⅶb	1.5	1.8	2.1	5.6	ブロック外
	17	細石刃核	F－39	Ⅳ	1.6	1.3	1.2	2.1	ブロック外
	18	細石刃核	E－41	Ⅴ	1.6	1.1	1.1	1.7	ブロック外
	19	細石刃核	E－42	Ⅶ	1.9	1.4	1.6	4.3	ブロック外
	20	細石刃核	E－43	Ⅴ	1.8	2.0	1.7	3.3	ブロック外
	21	細石刃核	G－42	Ⅳ	1.6	1.2	0.9	1.6	ブロック外
	22	細石刃核	E－40	Ⅴ	2.7	1.8	1.4	1.1	ブロック外
44	23	細石刃核	G－39	Ⅶa	3.2	2.1	2.1	12.2	ブロック外
	24	細石刃核	G－38	Ⅳ	2.7	1.6	2.2	8.1	ブロック外
	25	細石刃核	E－41	Ⅴ	1.9	1.9	1.6	6.2	ブロック外
	26	細石刃核	F－38	Ⅶa	2.3	2.4	1.9	7.4	ブロック外
	27	細石刃核	F－38	Ⅴ	1.8	1.8	0.9	2.7	ブロック外
	28	細石刃核	G－29	Ⅶa	2.3	1.4	1.0	3.3	ブロック外
	29	細石刃核	E－40	Ⅴ	2.4	1.7	2.6	9.2	ブロック外
	30	細石刃核	E－43	Ⅴ	2.6	1.8	1.2	4.0	ブロック外
	31	細石刃核	E－44	Ⅳ	2.1	1.4	1.5	2.9	ブロック外
	32	細石刃核	G－41	Ⅴ	1.9	1.2	1.6	2.9	ブロック外

第９表　旧石器時代石器観察表（7）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備　考
45	33	細石刃核	G－38	Ⅶ	1.9	1.4	2.5	7.0	ブロック外
	34	細石刃核	G－33	Ⅳ	2.0	1.5	2.4	5.9	ブロック外
	35	細石刃核	F－42	Ⅴ	2.1	1.9	2.7	10.7	ブロック外
	36	細石刃核	G－38	Ⅳ	1.5	1.9	2.5	7.3	ブロック外
	37	細石刃核	E－40	Ⅴ	1.7	1.0	2.2	3.4	ブロック外
	38	細石刃核	E－40	Ⅴ	1.8	1.2	2.0	5.6	ブロック外
	39	細石刃核	G－39	Ⅶa	2.5	1.9	1.7	6.6	ブロック外
	40	細石刃核	F－39	Ⅶa	2.1	1.2	1.9	5.1	ブロック外
46	41	細石刃核	I－38	Ⅶa	2.7	2.0	2.0	9.5	ブロック外
	42	細石刃核	E－42	Ⅳ	2.9	1.4	1.6	5.2	ブロック外
	43	細石刃核	G－39	Ⅴ	2.4	1.3	1.7	6.0	ブロック外
	44	細石刃核	J－33	Ⅳ	1.3	1.6	2.1	3.5	ブロック外
	45	細石刃核	G－38	Ⅶ	2.5	1.7	1.1	4.7	ブロック外
	46	細石刃核	F－42	Ⅴ	2.0	1.4	1.5	3.7	ブロック外
	47	細石刃核	G－47	Ⅲ	2.1	1.3	1.6	3.9	ブロック外
	48	細石刃核	E－40	Ⅴ	2.2	1.0	1.7	4.0	ブロック外
	49	細石刃核	G－39	Ⅶa	1.8	1.3	1.2	2.3	ブロック外
	50	細石刃核	I－38	Ⅶa	1.8	1.6	1.0	3.0	ブロック外
47	51	細石刃核	E－41	Ⅴ	1.6	1.2	1.1	1.7	ブロック外
	52	細石刃核	G－38	Ⅳ	1.3	1.6	1.0	1.6	ブロック外
	53	細石刃核	E－40	Ⅳ	2.1	1.2	1.7	3.5	ブロック外
	54	細石刃核	F－42	Ⅴ	1.8	1.6	1.3	4.0	ブロック外
	55	細石刃核	G－37	Ⅲa	2.2	1.5	1.3	3.4	ブロック外
	56	細石刃核	F－38	Ⅶa	1.7	1.6	1.0	3.4	ブロック外
	57	細石刃核	E－41	Ⅴ	1.2	1.3	1.5	1.7	ブロック外
	58	細石刃核	G－37	Ⅶa	1.8	1.1	1.3	1.9	ブロック外
	59	細石刃核	F－42	Ⅴ	2.0	0.7	0.8	0.9	ブロック外
48	1	細石刃	G－37	Ⅶa	0.9	0.4	0.1	0.04	環状分布内
	2	細石刃	G－37	Ⅶa	1.3	0.4	0.1	0.04	環状分布内
	3	細石刃	G－37	Ⅶa	1.2	0.5	0.2	0.11	環状分布内
	4	細石刃	G－37	Ⅶa	0.9	0.5	0.1	0.09	環状分布内
	5	細石刃	F－36	Ⅶa	0.9	0.4	0.1	0.05	環状分布内
	6	細石刃	G－37	Ⅶa	0.7	0.3	0.1	0.04	環状分布内
	7	細石刃	G－37	Ⅳ	1.7	0.5	0.1	0.17	環状分布内
	8	細石刃	G－37	Ⅶa	1.0	0.4	0.1	0.06	環状分布内
	9	細石刃	G－37	Ⅶb	1.0	0.5	0.1	0.04	環状分布内
	10	細石刃	G－37	Ⅶa	1.8	0.6	0.2	0.21	環状分布内
	11	細石刃	I－37	Ⅶa	2.0	0.5	0.2	0.28	環状分布内
49	1	細石刃	F－38	Ⅶa	1.7	0.6	0.1	0.20	ブロック外
	2	細石刃	G－41	Ⅶ	1.6	0.7	0.2	0.13	ブロック外
	3	細石刃	G－39	Ⅶa	1.7	0.6	0.2	0.19	ブロック外
	4	細石刃	F－39	Ⅴ	1.5	0.6	0.2	0.15	ブロック外
	5	細石刃	F－39	Ⅶa	1.4	0.4	0.1	0.13	ブロック外
	6	細石刃	F－39	Ⅴ	0.9	0.6	0.1	0.08	ブロック外
	7	細石刃	F－39	Ⅶa	1.1	0.4	0.1	0.06	ブロック外
	8	細石刃	G－39	Ⅶa	1.4	0.4	0.1	0.07	ブロック外
	9	細石刃	J－35	Ⅶ	1.1	0.3	0.1	0.12	ブロック外
	10	細石刃	G－39	Ⅶ	1.7	0.4	0.1	0.12	ブロック外
	11	細石刃	G－39	Ⅶa	0.9	0.5	0.2	0.04	ブロック外
	12	細石刃	I－37	Ⅶa	1.7	0.3	0.1	0.11	ブロック外
	13	細石刃	I－37	Ⅶa	1.3	0.4	0.1	0.05	ブロック外
	14	細石刃	I－37	Ⅶa	1.1	0.3	0.1	0.05	ブロック外
	15	細石刃	E－42	Ⅶ	1.4	0.7	0.2	0.17	ブロック外
	16	細石刃	I－38	Ⅶa	1.4	0.4	0.1	0.08	ブロック外
	17	細石刃	E－41	Ⅶ	1.0	0.5	0.1	0.08	ブロック外
	18	細石刃	G－39	Ⅶa	1.0	0.5	0.1	0.04	ブロック外

第10表　旧石器時代石器観察表（8）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備　考
49	19	細石刃	F－38	Ⅶa	0.5	0.7	0.1	0.05	ブロック外
	20	細石刃	F－39	Ⅳ	1.7	0.6	0.2	0.24	ブロック外
	21	細石刃	F－39	Ⅶa	1.2	0.6	0.1	0.11	ブロック外
	22	細石刃	E－40	Ⅳ	1.5	0.7	0.1	0.20	ブロック外
	23	細石刃	I－37	Ⅶa	0.5	0.2	0.1	0.01	ブロック外
	24	細石刃	I－37	Ⅶa	1.2	0.5	0.1	0.06	ブロック外
	25	細石刃	G－38	Ⅶ	0.9	0.5	0.1	0.04	ブロック外
	26	細石刃	G－41	Ⅴ	0.8	0.5	0.1	0.09	ブロック外
	27	細石刃	E－25	Ⅳ	1.0	0.8	0.2	0.09	ブロック外
	28	細石刃	G－39	Ⅴ	1.7	0.5	0.2	0.17	ブロック外
	29	細石刃	E－40	Ⅴ	2.1	0.6	0.1	0.19	ブロック外
	30	細石刃	G－39	Ⅴ	2.8	0.5	0.2	0.43	ブロック外
	31	細石刃	G－38	Ⅴ	1.4	0.5	0.1	0.09	ブロック外
	32	細石刃	I－38	Ⅴ	1.1	0.4	0.1	0.07	ブロック外
	33	細石刃	F－49	Ⅴ	0.8	0.3	0.1	0.04	ブロック外
	34	細石刃	F－38	Ⅶa	0.5	0.4	0.1	0.02	ブロック外
	35	細石刃	G－41	Ⅴ	0.5	0.3	0.1	0.02	ブロック外
50	36	細石刃	E－42	Ⅴ	1.6	0.6	0.2	0.30	ブロック外
	37	細石刃	E－42	Ⅴ	1.5	0.6	0.2	0.14	ブロック外
	38	細石刃	E－42	Ⅴ	2.2	0.6	0.1	0.17	ブロック外
	39	細石刃	E－42	Ⅴ	1.9	0.5	0.1	0.17	ブロック外
	40	細石刃	G－39	Ⅴ	1.2	0.5	0.1	0.07	ブロック外
	41	細石刃	G－39	Ⅴ	1.2	0.5	0.1	0.13	ブロック外
	42	細石刃	G－35	Ⅳ	1.7	0.5	0.2	0.39	ブロック外
	43	細石刃	E－40	Ⅴ	1.1	0.5	0.2	0.09	ブロック外
	44	細石刃	E－40	Ⅴ	0.9	0.4	0.1	0.09	ブロック外
	45	細石刃	G－41	Ⅴ	1.2	0.5	0.2	0.17	ブロック外
	46	細石刃	G－41	Ⅴ	0.8	0.5	0.2	0.10	ブロック外
	47	細石刃	G－41	Ⅳ	1.3	0.4	0.2	0.08	ブロック外

第11表　縄文時代遺構内遺物観察表

挿図	番号	器種	出土区	遺　構	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備　考
18	1	石皿	D－6	24号集石	安山岩	31.5	33.7	13.9	15800	
19	2	台石	D－6	24号集石	安山岩	43.4	30.7	14.4	26400	
45	3	敲石	E－33	71号集石	安山岩	10.8	8.6	4.2	600	
	4	敲石	E－33	71号集石	安山岩	10.0	8.2	5.9	760	

第12表　縄文時代土器観察表（1）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調		胎土				焼成	調整		備考
						外面	内面	石英	長石	角閃石	その他		内面	外面	
48	1	Ⅲb	H－37	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	
50	2	Ⅳ	H－39	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
51	3	Ⅴ・Ⅵa	H－38	深鉢形土器	口縁～胴部	明赤褐	にぶい橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	
	4	Ⅳ	H－38	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい黄褐	にぶい橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕後ナデ	条痕	
	5	Ⅳ	E－36	深鉢形土器	口縁部	黒褐	にぶい橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
	6	Ⅳ	H－34	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	条痕後ナデ	
52	7	Ⅳ	H－38	深鉢形土器	口縁部	黒褐	にぶい赤褐	○	○		輝石・白片岩	良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	外面に炭化物付着
	8	Ⅲb	I－37	深鉢形土器	口縁部	明黄褐	明黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	9	Ⅳ	I－29	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	条痕	
	10	Ⅴ	H－38	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	明黄褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	11	—	—	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	橙	○	○		輝石・白片岩	良	条痕	条痕後ナデ	
	12	Ⅳ	H-37・38	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕後ナデ	条痕	
	13	Ⅳ	H－38	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	浅黄	○	○	○	茶粒・輝石	良	条痕後ナデ	条痕	
	14	Ⅳ	H－38	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	にぶい赤褐	○	○		茶粒・輝石	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
	15	Ⅲb・Ⅳ	H－28	深鉢形土器	口縁部	明赤褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	
	16	Ⅲb	G－35	深鉢形土器	口縁部	明褐灰	明褐灰	○	○		輝石・白片岩	良	縦整不可能	条痕	
	17	Ⅲa	H－39	深鉢形土器	口縁部	明赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕後ナデ	条痕	
	18	Ⅲb	H－30	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	条痕	条痕	
	19	Ⅴ	I－29	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	黄褐	○	○		茶粒・輝石	良	条痕	条痕	
53	20	Ⅲb	H－29	深鉢形土器	口縁部	明褐灰	明褐灰	○	○		輝石	良	条痕	条痕	
	21	Ⅳ	I－36	深鉢形土器	口縁部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	条痕	
	22	Ⅲb	H－28	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○		輝石	良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	内面に赤色顔料塗布
	23	Ⅳ	J－34	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕後ナデ	条痕	
	24	Ⅲb	H－32	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	明褐	○	○	○	輝石・白片岩	不良	ナデ	条痕	
	25	Ⅲb	E－29	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	条痕	
	26	Ⅴ	F－34	深鉢形土器	口縁部	黒褐	黒褐	○	○		—	良	工具ナデ	縦整不可能	内外面に炭化物付着
	27	Ⅳ	I－27	深鉢形土器	口縁部	黄灰	暗灰黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	
	28	Ⅳ	I－29	深鉢形土器	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	—	良	条痕	条痕	
	29	Ⅳ・Ⅴ	F－35	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	灰褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕後ナデ	条痕	外面に炭化物付着
	30	Ⅲb	I－19	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	
	31	Ⅳ	I－31	深鉢形土器	口縁部	褐灰	黒褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ後ミガキ	条痕	
	32	Ⅵ	F－31	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	橙	○	○		輝石・白片岩	良	条痕後ナデ	条痕	
54	33	Ⅵ	F－30	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	条痕	
	34	Ⅳ	H－38	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	赤褐	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	条痕	
	35	Ⅳ	F－34	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	横ナズリ後ナデ	条痕	
	36	Ⅳ	H-37・38	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	条痕	工具ナデ後条痕	
	37	Ⅳ	I－29	深鉢形土器	胴部	暗灰黄	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕後ナデ	外面に炭化物付着
	38	Ⅳ	H－20	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	
	39	Ⅳ	I－34	深鉢形土器	胴部	明黄褐	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	条痕後ナデ	
	40	Ⅲb	H－29	深鉢形土器	胴部	橙	灰黄褐	○	○		輝石	良	ナデ	条痕後ナデ	
	41	Ⅳ	G－36	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	

第13表　縄文時代土器観察表（2）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
55	42	Ⅳ・Ⅴ	Ⅰ－29	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	条痕	
	43	Ⅲb	E－35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	明黄褐	○	○	○	輝石	良	条痕後ナデ	条痕	
	44	Ⅲb	Ⅰ－33	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○		輝石	良	ナデ	条痕	
	45	Ⅲb	G－33	深鉢形土器	口縁部	橙	明赤褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	条痕	
	46	Ⅲb	F－32	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕後ナデ	条痕	
	47	表一括	—	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	条痕	
	48	表一括	—	深鉢形土器	口縁部	橙	橙	○	○		輝石・白片岩	良	工具ナデ	条痕	
	49	Ⅲa	G－33	深鉢形土器	口縁部	暗灰黄	橙		○		輝石・白片岩	良	ナデ	条痕	
	50	Ⅲb	E－31	深鉢形土器	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕後ナデ	条痕	
	51	Ⅲb	E－34	深鉢形土器	口縁部	黒褐	黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	
	52	表一括	—	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ後条痕	条痕	
	53	表一括	—	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・白片岩	良	工具ナデ	条痕	
57	54	Ⅲb	F－32	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○		輝石・茶粒	良	条痕後ナデ	条痕	
	55	Ⅴ	E－34	深鉢形土器	口縁部	黒褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	条痕	
	56	Ⅲb	Ⅰ－33	深鉢形土器	口縁部	橙	にぶい黄褐	○	○		輝石・白片岩	良	工具ナデ	条痕	
	57	Ⅲa	E－34	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○	白片岩・茶粒	良	工具ナデ	条痕	
	58	Ⅳ	D－15	深鉢形土器	口縁部	黄橙	黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	条痕	
	59	Ⅲb	G－27	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	条痕	
	60	Ⅲb	C－5	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	明褐	○	○		白片岩・茶粒	良	ナデ	条痕	
	61	Ⅲa	E－33	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	橙	○	○	○	白片岩	良	工具ナデ	条痕	
	62	Ⅳa	D－6	深鉢形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	条痕	
	63	Ⅳ	E－33	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	橙	○	○		輝石・白片岩	良	工具ナデ	条痕	
	64	Ⅳ	G－34	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	条痕	
	65	Ⅲb	G－32	深鉢形土器	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	条痕	
	66	Ⅲb	G－33	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石	良	ケズリ後ナデ	条痕	
	67	表一括	—	深鉢形土器	口縁部	褐灰	黒褐	○	○		輝石・白片岩	良	工具ナデ	条痕	
58	68	Ⅳ	E－33	深鉢形土器	口縁部	橙	にぶい黄	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ	条痕	
	69	Ⅳb	C－6	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○		輝石	良	ナデ	条痕	
	70	Ⅲb	G－32	深鉢形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	条痕	
	71	Ⅳ	E－31	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	条痕	
	72	Ⅳ	E－32	深鉢形土器	口縁部	橙	明赤褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	条痕	
	73	Ⅳ	E－33	深鉢形土器	口縁部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	条痕	
	74	Ⅳ	Ⅰ－32	深鉢形土器	胴部	明黄褐	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	75	表一括	—	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	条痕	
	76	表一括	—	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	77	Ⅳ	H－31	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい黄褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	条痕	
	78	Ⅳ	H－32	深鉢形土器	胴部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	条痕	
	79	Ⅲa	G－32	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	灰黄褐	○	○		輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
59	80	Ⅳ	Ⅰ－33	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	輝石	良	ケズリ	条痕	
	81	Ⅳ	Ⅰ－30	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ	条痕	
	82	Ⅶ	H－32	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	輝石	良	工具ナデ	条痕	
	83	Ⅲb	H－28	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい赤褐	○	○		茶粒・輝石	良	ナデ	条痕	
	84	Ⅳ	H－27	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○		輝石	良	ナデ	条痕	
60	85	Ⅲ	J－32	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	条痕	
	86	Ⅳ	G－31	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ後ナデ	条痕	
	87	Ⅲb	Ⅰ－30	深鉢形土器	口縁部	褐灰	灰黄褐	○	○	○	輝石	良	ケズリ後ナデ	条痕	
	88	Ⅳ	Ⅰ－32	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	明褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	条痕	
	89	Ⅳ・Ⅶ	H－32・33	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○	茶粒・白片岩	良	工具ナデ	条痕	
	90	Ⅲb・Ⅴ	H－33	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	91	Ⅶ	H－32	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい黄褐	○		○	茶粒・赤片岩	良	ケズリ	刺突	
	92	Ⅲb	G－32	深鉢形土器	口縁部	灰褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ	条痕	
61	93	Ⅳ	Ⅰ－30	深鉢形土器	口縁部	褐灰	にぶい黄橙	○		○	茶粒	良	工具ナデ	工具ナデ	
	94	Ⅳ	Ⅰ－33	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ	条痕	
	95	Ⅳ	G－32	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ	口縁部刺突・条痕	
	96	Ⅳ	Ⅰ－29	深鉢形土器	口縁部	灰褐	黒褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	97	Ⅳ	G－30	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○	白片岩	良	ケズリ	刺突	
	98	Ⅲa・Ⅲb	H－30・32	深鉢形土器	口縁～胴部	橙	明黄褐	○	○		茶粒・輝石	良	ケズリ	条痕	
	99	Ⅲb	G－29	深鉢形土器	口縁部	褐灰	灰褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	100	Ⅳ	G－29	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	白片岩	良	ケズリ	条痕	

第14表　縄文時代土器観察表（3）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
62	101	Ⅳ・Ⅴ	G-32/I-31	深鉢形土器	口縁～胴部	灰赤	にぶい赤褐	○	○		茶粒・輝石	良	ケズリ	条痕	
	102	Ⅲb・Ⅳ	I－30	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい褐	にぶい橙	○	○		茶粒・輝石	良	ケズリ後ナデ	条痕	
63	103	Ⅲb・Ⅳ	H－29	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ後ナデ	条痕	
64	104	Ⅳ	G－30	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい赤褐	明赤褐	○	○		茶粒・輝石	良	ケズリ後ナデ	条痕	
	105	Ⅲb・Ⅳ	G-30/I-30	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい赤褐	明赤褐	○	○		茶粒・輝石	良	ケズリ後ナデ	条痕	
65	106	Ⅲb・Ⅳ	G－32	角筒深鉢	口縁部	橙	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ	条痕	
	107	Ⅲb	G－31	角筒深鉢	口縁部	にぶい黄褐	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ	条痕	
	108	Ⅳ	G－32	深鉢形土器	口縁部	浅黄	灰黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ	条痕	
	109	表	G－32	角筒深鉢	胴部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	110	Ⅳ	H－33	深鉢形土器	口縁部	褐灰	にぶい黄橙	○	○	○	輝石	良	ケズリ	条痕	
	111	Ⅳ	I－31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・白片岩	良	ケズリ後ナデ	条痕	
	112	Ⅳ	F－28	角筒深鉢	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	113	Ⅲb・Ⅳ	F－29	角筒深鉢	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ	条痕	外面に炭化物付着
	114	Ⅳ	F－29	角筒深鉢	胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
66	115	Ⅳ	I－30	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ後ナデ	条痕	
	116	Ⅳ	H－32	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	117	Ⅴ	J－34	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ後ナデ	条痕	
	118	Ⅴ	J－34	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ後ナデ	条痕	
	119	Ⅳ・Ⅴ	H-1-29	深鉢形土器	胴部	灰黄褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ	条痕	
67	120	Ⅳ	F－29	角筒深鉢	胴部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ	条痕	
	121	Ⅳ	I－32	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		輝石	良	ケズリ	条痕	
	122	Ⅳ	H－26	角筒深鉢	胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○		輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	123	Ⅳ	F-29/G-30	角筒深鉢	胴部	にぶい黄橙	浅黄	○		○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	124	Ⅳ	I－33	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○		茶粒・輝石	良	ケズリ	条痕	
	125	Ⅳ	H－30	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ	条痕	
	126	Ⅲb	G－31	深鉢形土器	胴部	明黄褐	にぶい橙	○		○	赤片岩・輝石	良	ケズリ	条痕	
	127	Ⅴ	I－34	深鉢形土器	胴部	にぶい赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	金雲母・赤片岩	良	ケズリ	条痕	
	128	Ⅴ	G－33	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	129	Ⅴ	I－34	深鉢形土器	胴部	褐灰	褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ	条痕	
	130	Ⅳ	H－32	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	橙	○	○		茶粒・輝石	良	ケズリ	条痕	
	131	Ⅳ	I－30	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい褐	○	○		茶粒・輝石	良	ケズリ	条痕	
68	132	Ⅳ	E－31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	133	Ⅲb	E－31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	134	Ⅳ	E－31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	ケズリ	条痕	
	135	Ⅲb	G－30	角筒深鉢	胴部	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○	○	火山ガラス	良	ケズリ	条痕	
	136	Ⅲb	G－30	角筒深鉢	胴部	橙	黒褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ後ナデ	条痕	
	137	Ⅳ	G－30	深鉢形土器	底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石	良	ナデ	条痕	
	138	Ⅲb	F－30	角筒深鉢	胴部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ	条痕	
	139	Ⅲb・Ⅳ	E-29/F-29	深鉢形土器	底部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	140	Ⅲb	G－28	深鉢形土器	底部	にぶい黄橙	黒	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ後ナデ	条痕	
	141	Ⅲb	F－29	深鉢形土器	底部	橙	灰	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ後ナデ	条痕	
	142	Ⅲb	F－28	深鉢形土器	底部	明黄褐	暗灰	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
69・70	143	Ⅲb・Ⅳ	H－22	深鉢形土器	口縁～胴部	橙	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	条痕後刺突	
71	144	Ⅳ	H－22	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ・貝殻刺突	
72	145	Ⅲb・Ⅳ	F-40/G-40	深鉢形土器	口縁～胴部	明褐	明褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	条痕	内外面に炭化物付着
73	146	Ⅲa・Ⅳ	G-23/H-22	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい褐	明褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	147	Ⅳ	E－33	角筒深鉢	口縁部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	148	Ⅴ	F－40	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	褐	○	○	○	輝石	良	ケズリ	条痕	
	149	Ⅳ	E-38/F-40	角筒深鉢	胴部	橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
74	150	Ⅲb・Ⅳ	H－22	深鉢形土器	底部	にぶい褐	明褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕後ナデ	内面に炭化物付着
75	151	Ⅲb・Ⅳ	D-22/E-22	深鉢形土器	口縁～胴部	明褐	明褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ後ナデ	条痕	
	152	Ⅲb	E－39	角筒深鉢	口縁部	橙	明赤褐	○	○	○	輝石	良	ケズリ	条痕後ナデ	
	153	Ⅲa	E－39	角筒深鉢	胴部	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	154	Ⅳ	F－39	角筒深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	155	表	—	角筒深鉢	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○		輝石・火山ガラス	良	ケズリ	条痕	
	156	Ⅲb	E-39/F-40	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	ケズリ後ナデ	条痕	
	157	Ⅳ	F－41	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○		○	輝石・茶粒	良	ケズリ	条痕	

第15表　縄文時代土器観察表（4）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
76	158	Ⅲa・Ⅳ	H－22	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	明褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ	条痕	
	159	Ⅲb・Ⅳ	F－40	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	褐灰	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	160	Ⅲb・Ⅳ	F-40-G-40	深鉢形土器	胴部	明黄褐	明黄褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ	条痕後ナデ	
	161	Ⅳ	F－40	角筒深鉢	胴部	橙	明黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	162	Ⅲb・Ⅳ	G－39-40	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ミガキ	条痕	
	163	Ⅲb	G－40	深鉢形土器	底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ナデ	条痕	
	164	Ⅲb	F－40	深鉢形土器	底部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	茶粒・白片岩	良	ケズリ	条痕	
	165	Ⅳ	G－22	深鉢形土器	底部	橙	橙	○		○	茶粒・白片岩	良	ケズリ	ミガキ	
78	166	Ⅳ・Ⅶ	E-47-H-27	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい赤褐	灰褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	刺突	
	167	Ⅳ	E－27	深鉢形土器	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○	輝石	良	ナデ	条痕	
	168	Ⅶ	E－47	深鉢形土器	口縁部	暗赤褐	にぶい赤褐	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	押引き	
79	169	Ⅳ・Ⅶ	E-47-I-27	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ・刺突	内外面に炭化物付着
	170	Ⅶ	E－47	深鉢形土器	胴部	明赤褐	にぶい褐	○	○		輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ・刺突	
	171	Ⅳ	H－27	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	黄褐	○	○	○	輝石	良	ケズリ	刺突・条痕	
	172	Ⅳ	I－28	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○		輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ・刺突	内面に炭化物付着
	173	Ⅶ	E－47	深鉢形土器	胴部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○		輝石	良	ナデ	ナデ・刺突	内外面に炭化物付着
	174	Ⅲa・Ⅳ	G-28-H-27	深鉢形土器	口縁～胴部	灰褐	黒褐	○	○	○	金雲母・茶粒	良	ナデ	条痕・刺突	
	175	Ⅳ	I－28	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○		輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ・刺突	
	176	Ⅳ	I－28	深鉢形土器	口縁部	黒褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	刺突	
	177	Ⅶ	I－28	深鉢形土器	口縁部	暗赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	刺突	
	178	Ⅲb	H－29	深鉢形土器	口縁部	暗赤褐	明褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	刺突	
80	179	Ⅳ	H－27	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		輝石	良	ナデ	刺突・押引き	
	180	Ⅲb・Ⅳ	H－27	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○		輝石	良	ナデ	条痕刺突	
	181	Ⅳ	H－27	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	工具ナデ	押引き	
	182	Ⅲa	H－26	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ・刺突	
	183	Ⅲb	G－26	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石	良	ナデ	刺突	
	184	Ⅳ	H－27	深鉢形土器	口縁部	浅黄橙	にぶい橙	○	○	○	輝石	良	ナデ	条痕・押引き	
	185	Ⅳ・Ⅶ	E-47-H-28	深鉢形土器	底部	にぶい橙	橙	○	○	○	茶粒	良	ナデ	ナデ	
	186	Ⅲb	I－34	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○	○		白片岩・茶粒	良	ナデ	条痕	
	187	Ⅲb	H－31	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	条痕	
	188	Ⅳ	I－31	深鉢形土器	口縁部	明黄褐	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	条痕	
	189	Ⅳ	I－30	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ	条痕後ナデ	
81	190	—	—	深鉢形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石	良	ケズリ後ナデ	条痕	
	191	Ⅲa・Ⅳb	D－4・5	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○			輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	条痕	
	192	—	—	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石	良	ケズリ後ナデ	条痕	
	193	Ⅳ	E－11	深鉢形土器	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○	—	良	ケズリ	条痕	
	194	Ⅲ	J－32	深鉢形土器	胴部	橙	橙	○	○		輝石・火山ガラス	良	ナデ	条痕	
82-83	195	Ⅲb・Ⅳ	F-38-G-38	深鉢形土器	口縁～胴部	明赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ後ナデ	条痕	
85	196	Ⅳ	F-39-G-39	深鉢形土器	口縁～胴部	明褐	明褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	ナデ	外面に炭化物付着
	197	Ⅲb・Ⅳ	F－38	深鉢形土器	口縁部	褐灰	にぶい褐	○	○		輝石・白片岩	良	工具ナデ	短条痕	
86	198	Ⅲa	F－39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ミガキ	短条痕	
	199	Ⅳ	I－38	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ミガキ	短条痕	
	200	Ⅳ	H－38	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	短条痕	
	201	Ⅲb	F－39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	短条痕	
	202	Ⅲ	F－37	深鉢形土器	口縁部	黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ミガキ	短条痕	
	203	Ⅲb	G－37	深鉢形土器	口縁部	暗灰黄	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ミガキ	短条痕	
	204	Ⅴ	F－37	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶粒・白片岩	良	ミガキ	短条痕	
	205	—	—	深鉢形土器	口縁部	明黄褐	にぶい黄褐	○		○	茶粒・白片岩	良	ミガキ	短条痕	
	206	—	E－38	深鉢形土器	口縁部	明黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ナデ	短条痕	
	207	Ⅲb	E－33	深鉢形土器	口縁部	明褐	明褐	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ミガキ	短条痕	
	208	Ⅲb	G-38-40	深鉢形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ナデ	条痕	
	209	Ⅲb	F－38	深鉢形土器	口縁部	明褐	明褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	短条痕	
	210	Ⅲb・Ⅳ	F-38-G-38	深鉢形土器	口縁部	橙	明褐	○	○	○	茶粒・白片岩	良	工具ナデ	短条痕	
	211	Ⅲ・Ⅲb	F-39-G-37	深鉢形土器	口縁部	褐灰	にぶい褐	○	○		輝石・白片岩	良	工具ナデ	短条痕	

第16表　縄文時代土器観察表（5）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
87	212	Ⅳ	G－38	深鉢形土器	口縁部	褐灰	褐灰	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	短条痕	
	213	Ⅲb	I－38	深鉢形土器	胴部	橙	明赤褐	○	○	○	輝石・赤片岩	良	工具ナデ	短条痕	
	214	Ⅲ	G－38	深鉢形土器	胴部	明赤褐	橙	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ミガキ	短条痕	
	215	Ⅳ	I－38	深鉢形土器	胴部	明褐	明褐	○	○	○	茶粒・白片岩	良	ミガキ	短条痕	
	216	Ⅳ	G－38	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	短条痕	
	217	Ⅲb	F－37	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ミガキ	短条痕	
	218	Ⅲb	I－38	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○		○	茶粒・白片岩	良	ミガキ	短条痕	
	219	Ⅴ	G－37	深鉢形土器	胴部	橙	明赤褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	短条痕	
	220	Ⅳ	G－38	深鉢形土器	胴部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ミガキ	短条痕	
	221	Ⅲb	F－39	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	褐	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ミガキ	短条痕	
	222	Ⅳ	F－39	深鉢形土器	胴部	橙	明褐	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	工具ナデ	短条痕	
	223	Ⅴ	F－37	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ミガキ	短条痕	
	224	Ⅳ	G－38	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶粒・白片岩	良	ナデ	短条痕	
	225	Ⅶ	G－37	深鉢形土器	胴部	黄褐	にぶい黄褐	○		○	茶粒・輝石	良	ミガキ	短条痕	
	226	Ⅳ	E－38	深鉢形土器	胴部	明赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	短条痕	
88	227	Ⅲb・Ⅳ	G－39	深鉢形土器	胴部	明赤褐	黄褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	短条痕	
	228	Ⅳ	G－39	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	短条痕	
	229	Ⅲa・Ⅳ	G-38・39	深鉢形土器	胴部	明赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	短条痕	
	230	Ⅳ	H-39・I-39	深鉢形土器	胴部	明赤褐	黄褐	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	短条痕	
	231	—	攪乱	深鉢形土器	胴部	明赤褐	明黄褐	○	○		白片岩・赤片岩	良	ナデ	短条痕	
	232	Ⅲ・Ⅲa	G-37・F-38	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい黄褐	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	短条痕	
	233	Ⅲa	G－38	深鉢形土器	胴部	明赤褐	明黄褐	○	○		輝石	良	ナデ	短条痕	
89	234	Ⅳ	G－38	深鉢形土器	胴部	明褐	にぶい黄褐	○	○		白片岩・赤片岩	良	ナデ	短条痕	
	235	Ⅲa・Ⅳ	G－38	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい黄褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	短条痕	
	236	Ⅲ	G－39	深鉢形土器	胴部	橙	灰褐	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	短条痕	
	237	Ⅲa・Ⅳ	E-38・F-38	深鉢形土器	胴部	明褐	明黄褐	○	○	○	輝石	良	ミガキ	短条痕	
	238	Ⅳ	I－32	深鉢形土器	胴部	明赤褐	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・白片岩	良	ミガキ	短条痕	
	239	Ⅲb・Ⅳ	G-38・39	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○		輝石・白片岩	良	工具ナデ	短条痕	
	240	Ⅲa・Ⅳ	F-38・39	深鉢形土器	胴部	明赤褐	黄褐	○	○		茶粒・輝石	良	ナデ	短条痕	
	241	Ⅳ	I－38	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石	良	ミガキ	条痕	
90	242	Ⅲ・Ⅳ	F-36・G-38	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ後ナデ	短条痕	
91	243	Ⅲb・Ⅳ	H－28	深鉢形土器	口縁～胴部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ミガキ	
92	244	Ⅳ	I－33	深鉢形土器	口縁部	にぶい赤褐	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	条痕	
	245	Ⅴ	I－33	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	条痕	
	246	Ⅳ	H－34	深鉢形土器	胴部	橙	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ミガキ	条痕	
	247	Ⅳ・Ⅴ	H－33	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石	良	ナデ	条痕	
	248	Ⅳ・Ⅴ	H－33	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ミガキ	条痕	
	249	Ⅳ・Ⅴ	H-33・34	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	橙	○		○	輝石・茶粒	良	ナデ	条痕	
93	250	表	—	深鉢形土器	口縁部	灰褐	橙		○	○	白片岩・赤片岩	良	ケズリ後ナデ	条痕	
	251	Ⅲb	E－47	深鉢形土器	口縁部	褐灰	にぶい褐		○	○	金雲母・白片岩	良	ケズリ後ナデ	条痕	
	252	Ⅲb	F－47	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐		○	○	金雲母・白片岩	良	丁寧なナデ	条痕	
	253	Ⅲb	F－47	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐		○	○	金雲母・白片岩	良	丁寧なナデ	条痕	
	254	Ⅱb・Ⅲ	F-43・46	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい褐	にぶい褐	○		○	金雲母・白片岩	良	ケズリ後ナデ	条痕	内外面に炭化物付着
	255	Ⅳ・Ⅴ	H－33	深鉢形土器	口縁部	橙	明赤褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	条痕	
94	256	表	E－44	深鉢形土器	口縁部	灰褐	にぶい橙	○	○		金雲母・輝石	良	ケズリ後ナデ	楕円押型	
	257	Ⅳ	F－43	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい褐	○	○		金雲母・輝石	良	ケズリ後ナデ	楕円押型	
	258	Ⅳ	F－43	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○		金雲母・輝石	良	ナデ	楕円押型	
	259	Ⅳ	F－43	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○		輝石・火山ガラス	良	工具ナデ	楕円押型	
	260	Ⅱ	E－44	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい橙		○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	楕円押型	
	261	Ⅳ	F－43	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	楕円押型	
	262	Ⅳ	F－44	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○		金雲母・輝石	良	ナデ	楕円押型	

第17表　縄文時代土器観察表（6）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
96	263	Ⅲa	F－44	深鉢形土器	底部	明赤褐	にぶい黄褐	○	○		白片岩・火山ガラス	良	ナデ	梅円押型	
	264	Ⅳ	F－43	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○	金雲母・白片岩	良	ナデ	梅円押型	
	265	Ⅱ	E－44	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○		金雲母・輝石	良	ナデ	梅円押型	
	266	Ⅲa	F－44	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		金雲母・輝石	良	ナデ	梅円押型	
	267	Ⅳ	F－43	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○		○	金雲母	良	ナデ	梅円押型	
	268	Ⅳ	F－44	深鉢形土器	胴部	明赤褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	梅円押型	
	269	Ⅳ	E－44	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい褐		○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	梅円押型	
	270	Ⅳ	E－44	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○	○	金雲母・輝石	良	ナデ	梅円押型	
	271	Ⅳ	E－44	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	黒		○	○	輝石	良	ナデ	梅円押型	
	272	Ⅳ	E－44	深鉢形土器	底部	にぶい橙	にぶい橙		○		輝石・白片岩	良	ナデ	梅円押型	
	273	表	—	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	梅円押型	
97	274	Ⅳ	E-43-F-44	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○			金雲母・輝石	良	ミガキ	山形押型	
	275	Ⅲb・Ⅳ	F－44	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		輝石・白片岩	良	工具ナデ	山形押型	
98	276	—	—	深鉢形土器	口縁部	褐灰	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・茶殻	良	工具ナデ	山形押型	
	277	Ⅳ	F－41	深鉢形土器	口縁部	褐灰	にぶい褐	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	山形押型	
	278	Ⅲb	F－44	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	にぶい黄橙	○		○	金雲母・輝石	良	工具ナデ	山形押型	
	279	Ⅲb・Ⅴ	F－44	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	にぶい黄橙	○			金雲母・火山ガラス	良	ミガキ	山形押型	
	280	Ⅳ	F－44	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	赤片岩・輝石	良	ナデ	山形押型	
	281	Ⅲa	F－44	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	山形押型	
	282	Ⅲb	F－44	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい黄褐	○	○	○	赤片岩・輝石	良	ナデ	山形押型	
	283	Ⅳ	E－42	深鉢形土器	胴部	明茶褐	茶褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	
99	284	Ⅲa・Ⅳa	D－7	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	条縄押型	
100	285	Ⅲa・Ⅲb	D－7	深鉢形土器	口縁部	橙	灰褐	○	○	○	輝石・茶殻	良	工具ナデ	山形押型	
	286	Ⅳa	D－7	深鉢形土器	口縁～頸部	橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・茶殻	良	工具ナデ	山形押型	
	287	Ⅲb・Ⅴ	G-34-I-31	深鉢形土器	口縁～胴部	橙	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	山形押型	
101	288	Ⅳ	E－44	深鉢形土器	口縁～胴部	橙	浅黄橙	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	菱形文	外面に炭化物付着
102	289	Ⅱ	J－33	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい黄褐	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	山形押型	
	290	Ⅱ	J－33	深鉢形土器	胴部	明赤褐	にぶい橙	○	○		茶殻・輝石	良	ナデ	山形押型	
104	291	Ⅲb	G－39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	292	Ⅳ	G-37-H-36	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ後条痕	
	293	Ⅲb	I－35	深鉢形土器	口縁部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	294	Ⅲb	D－17	深鉢形土器	口縁部	橙	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	295	Ⅲb	I－35	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	296	Ⅳ	I－33	深鉢形土器	頸部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	297	Ⅳ	H－38	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	298	Ⅲb	F－41	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	条痕	
	299	Ⅳ	H－38	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	300	Ⅳ	E－38	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	黒	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	
	301	Ⅲa	E－37	深鉢形土器	胴部	明褐	黒褐	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
105	302	Ⅲb	E－37	深鉢形土器	胴部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	303	Ⅳ	E－37	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	暗灰黄	○			輝石・火山ガラス	良	工具ナデ	ナデ	
	304	Ⅳ	E－37	深鉢形土器	胴部	橙	灰黄褐	○	○		火山ガラス・茶殻	良	ケズリ	ナデ	
	305	Ⅲb	C－7	深鉢形土器	胴部	にぶい浅黄橙	暗灰黄	○	○		輝石	良	ナデ	ナデ	
	306	Ⅲb	E－37	深鉢形土器	胴部	橙	褐灰	○	○	○	輝石	良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	307	Ⅳ	H－38	深鉢形土器	胴部	褐	褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	308	Ⅲb	G-33-H-33	壺形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		金雲母・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
108	309	Ⅲb	I－35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	310	Ⅴ	G－39	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	灰黄褐	○		○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	311	Ⅲb	G－40	深鉢形土器	口縁部	灰褐	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	横ナデ	ナデ	
	312	Ⅲa・Ⅳ	H-33-34	深鉢形土器	口縁～頸部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
109	313	Ⅳ	I－35	深鉢形土器	口縁～頸部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	314	Ⅲb・Ⅳ	F-34-I-34	深鉢形土器	口縁～頸部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ	
110	315	Ⅳ	I－35	深鉢形土器	口縁～頸部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ	
	316	Ⅲb・Ⅳ	I－35	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ	
	317	Ⅲb	I－33	深鉢形土器	口縁～頸部	にぶい橙	にぶい橙	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	318	Ⅲb	F－39	深鉢形土器	頸部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	
	319	Ⅳ	I－34	深鉢形土器	頸部	橙	明赤褐	○	○		輝石・金雲母	良	ナデ	ナデ	
	320	Ⅳ	I－35	深鉢形土器	口縁部	灰褐	灰褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	321	Ⅲb	I－35	深鉢形土器	口縁部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	322	Ⅲb	D－17	深鉢形土器	口縁部	にぶい赤褐	灰褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	条痕	

第18表　縄文時代土器観察表（7）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
111	323	Ⅳ	I－35	深鉢形土器	頸部	橙	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	324	Ⅲb	G－36	深鉢形土器	頸部	にぶい黄橙	浅黄橙	○	○		輝石	良	ナデ	ナデ	
	325	Ⅲa	C－7	深鉢形土器	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	ナデ	
	326	Ⅲb	D－17	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	暗灰黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	327	Ⅴ	I－35	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	白片岩	良	ナデ	ナデ	
	328	Ⅲb	D－17	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	329	Ⅲb	C－5	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	330	Ⅲb・Ⅳ	D－7	深鉢形土器	胴部	橙	黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	331	Ⅳ	I－32	深鉢形土器	胴部	橙	橙	○	○	○	茶粒・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	332	Ⅳ	I－32	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	333	Ⅲb	E－10	深鉢形土器	胴部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	334	Ⅲa	E－10	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	335	Ⅲb	E－10	深鉢形土器	胴部	浅黄	暗灰黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	336	Ⅳ	I－33	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	337	—	—	深鉢形土器	胴部	橙	明黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
112	338	Ⅲb	E－10	深鉢形土器	底部	にぶい黄橙	灰黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	339	Ⅲa	E－10	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	340	Ⅲ・Ⅳ	I－32	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ	ナデ	
	341	Ⅲb	D－8	深鉢形土器	口縁～底部	灰黄褐	灰黄褐	○	○		輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
114	342	Ⅲ・Ⅳ	I－32	深鉢形土器	口縁～胴部	橙	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ後ナデ	ナデ	
115	343	Ⅲb・Ⅴ	F－27-28	深鉢形土器	口縁～胴部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	344	Ⅲb・Ⅳ	E-28-I-29	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ケズリ後ナデ	ナデ	
116	345	Ⅲb	H－31-32	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○	赤片岩・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	346	Ⅲb	H－30	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	
	347	Ⅳ	H－32	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	赤片岩・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	348	—	—	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	赤片岩・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	349	Ⅳ	C－13	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	赤片岩・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	350	Ⅲb	H－31	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐		○	○	白片岩・茶粒	良	工具ナデ	ナデ	
	351	Ⅲ	J－32	深鉢形土器	口縁部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ナデ	ナデ	
	352	Ⅳ	I－32	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○	赤片岩・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	353	Ⅲb	H－30	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	354	Ⅲa	H－39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	工具ナデ	
	355	Ⅲb	G-32-H-31	深鉢形土器	口縁部	浅黄橙	浅黄橙	○		○	白片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	
	356	Ⅳ	I－32	深鉢形土器	口縁～頸部	橙	にぶい黄褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
117	357	Ⅲb・Ⅳ	G-32-H-31	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○	白片岩・輝石	良	ナデ	工具ナデ	
	358	Ⅲb	E－8	深鉢形土器	頸部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	
	359	Ⅲb	E－8	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	360	Ⅲb	E－8	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	
118	361	Ⅲb	E－8	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	条痕	
119	362	Ⅲb・Ⅳ	G-34-I-3	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	363	Ⅳ	I-31-32	深鉢形土器	口縁～頸部	にぶい褐	橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	工具ナデ	ナデ	
120	364	Ⅲa・Ⅳ	H-30-31	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	黒褐	○	○		茶粒・輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	365	Ⅳ	J-32-33	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	工具ナデ	ナデ	
	366	Ⅲa	H－30	深鉢形土器	口縁部	褐灰	灰黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	367	Ⅲb	H－31	深鉢形土器	頸部	にぶい黄褐	褐灰	○	○	○	輝石・白片岩	良	ヨコナデ	ナデ	
121	368	Ⅲ・Ⅳ	J－32	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	白片岩・輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	369	Ⅲa	H－30	深鉢形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	
	370	Ⅲb	H－30	深鉢形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	371	Ⅲb	I－37	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	372	Ⅳ	I-31-J-34	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	浅黄橙	○	○	○	赤片岩・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	373	Ⅲa	E－31	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	工具ナデ	工具ナデ	
122	374	Ⅳ	H－31	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○			輝石	良	ナデ	ナデ	
	375	Ⅲb・Ⅳ	H－32	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○			輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	376	Ⅳ	J－32	深鉢形土器	胴部	黒褐	にぶい橙	○	○		輝石・白片岩	良	工具ナデ	工具ナデ	下部接合部分で破損
	377	Ⅲb	G－29	深鉢形土器	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	378	Ⅳ	I-31-32	深鉢形土器	頸部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	379	—	I－32	深鉢形土器	頸部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	赤片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	
	380	Ⅲa	D－6	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	381	Ⅲb	D－17	深鉢形土器	頸部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	382	Ⅳ	I－32	深鉢形土器	頸部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○		輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	

第19表　縄文時代土器観察表（8）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 黒色石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
123	383	Ⅳ	Ⅰ－32	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	384	Ⅳ	Ｊ－32	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	385	Ⅲ	Ⅰ-31･32	深鉢形土器	胴部	橙	橙	○	○		茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	386	Ⅲａ	Ｇ-Ⅰ-31	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	387	Ⅳ	Ｃ－13	深鉢形土器	胴部	明赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	388	Ⅲ	Ｊ－31	深鉢形土器	胴部	橙	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	389	Ⅲ・Ⅲｂ	Ⅱ-31･32	深鉢形土器	胴部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	ナデ	
124	390	Ⅲ・Ⅳ	Ⅰ－31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	391	Ⅲｂ・Ⅳ	Ｆ-36･Ⅰ-33	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○		輝石・茶粒	良	工具ナデ	工具ナデ	
	392	Ⅲｂ・Ⅳ	Ⅰ－32	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	暗褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ヨコナデ	ナデ	
	393	Ⅳ	Ⅰ－32	深鉢形土器	胴部	黒褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	394	Ⅳ	Ⅰ－29	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい褐	○	○		輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	395	Ⅳ	Ｊ－32	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	396	Ⅲｂ	Ⅰ-30･31	深鉢形土器	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	397	Ⅲ	Ｊ－32	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	
	398	Ⅲ	Ｅ－８	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石、赤片岩	良	ナデ	ナデ	
125	399	Ⅳ	Ｊ－32	深鉢形土器	胴部	浅黄橙	淡黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	400	Ⅲｂ	Ｈ－31	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○		輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	401	Ⅲｂ	Ⅰ-30･31	深鉢形土器	頸～胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○		輝石・茶粒	良	粗いナデ	ナデ	
	402	Ⅲｂ	Ｈ－32	深鉢形土器	胴部	明褐	灰褐	○	○	○	白片岩・輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	403	Ⅳ	Ⅰ－31	深鉢形土器	胴部	明赤褐	赤褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	404	Ⅲ	Ｊ－31	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○		輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	405	Ⅳ	Ｊ－32	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	白片岩・輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	406	Ⅲ	Ⅰ－31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		輝石・茶粒	良	工具ナデ	ナデ	
	407	Ⅲｂ	Ｈ－32	深鉢形土器	胴部	橙	灰褐	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	
	408	Ⅳ	Ⅰ－31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○		輝石・赤片岩	良	工具ナデ	ナデ	
126	409	Ⅳａ	Ｅ－８	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい褐		○		茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	410	Ⅲｂ・Ⅳ	Ⅰ-31･32	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○	輝石・茶粒	良	工具ナデ	ナデ	
	411	Ⅳ	Ⅰ－32	深鉢形土器	胴部	明赤褐	灰黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	412	Ⅲｂ	Ⅱ-Ⅰ-31	深鉢形土器	胴部	黒褐	黒褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	413	Ⅲｂ・Ⅳ	Ⅱ－31	深鉢形土器	胴部	にぶい赤褐	褐灰	○	○		輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
127	414	Ⅲｂ	Ⅱ－31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	415	Ⅳ	Ｆ－35	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい褐		○		輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	416	Ⅳ	Ⅰ－31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	内面に指頭圧痕
	417	Ⅴ	Ⅰ－30	深鉢形土器	胴部	黒褐	黒褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	工具ナデ	外面に炭化物付着
	418	Ⅲ	Ⅰ-29･32	深鉢形土器	胴部	黄橙	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	419	Ⅲｂ・Ⅳ	Ⅱ－32	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	420	Ⅳ	Ⅰ－32	深鉢形土器	胴部	黄橙	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	未貫通補修孔
	421	Ⅳ	Ｆ－29	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	422		Ⅰ－31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	423	Ⅳ	Ｊ－32	深鉢形土器	胴部	明黄褐	明黄褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	424	Ⅳ	Ⅰ－28	深鉢形土器	胴部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
128	425	Ⅲｂ・Ⅳ	Ⅰ－32	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ後ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
129	426	Ⅲ・Ⅳ	Ⅰ-Ｊ-32	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○	○	輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	427	Ⅲｂ・Ⅳ	Ⅱ-31･32	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	
	428	Ⅲ・Ⅲｂ	Ⅱ-Ⅰ-32	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	
	429	Ⅳ	Ⅰ－31	深鉢形土器	底部	橙	にぶい橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	430	Ⅲｂ	Ⅰ－30	深鉢形土器	胴部	明褐	にぶい褐	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	
	431	Ⅳ	Ⅰ－29	深鉢形土器	頸部～胴部	橙	明褐	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	
	432	Ⅳ	Ｃ-Ⅰ-13	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
130	433	Ⅲｂ	Ｃ－５	深鉢形土器	口縁部	褐	褐	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	
	434	Ⅲｂ	Ｃ－５	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	
	435	Ⅴ	Ｆ－43	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○		輝石	良	ナデ	ナデ	
	436	Ⅴ	Ｆ－43	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○			輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
132	437	Ⅳ	Ⅱ－21	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい褐	褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ・ケズリ	条痕	外面に炭化物付着

第20表　縄文時代土器観察表（9）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
134	438	Ⅱa～Ⅲ	G-30-II-28	深鉢形土器	口縁～胴部	明赤褐	灰褐	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	工具ナデ	ナデ後条痕	
	439	Ⅲ	J～33	深鉢形土器	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○	輝石	良	ナデ	条痕	
	440	Ⅲb	I～32	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	条痕	
	441	Ⅲa	H～38	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	条痕	
	442	Ⅳ	I～32	深鉢形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	条痕	
	443	Ⅲb	H～36	深鉢形土器	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○	輝石	良	工具ナデ	条痕	
135	444	Ⅳ	I～32	深鉢形土器	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	条痕	
	445	Ⅲb・Ⅳ	E-31-I-31	深鉢形土器	胴部	にぶい赤褐	赤灰	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	条痕	
	446	Ⅳ	I～32	深鉢形土器	胴部	橙	灰褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	条痕	
136	447	Ⅳ	H～37	深鉢形土器	口縁部	橙	橙	○	○		茶粒・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
	448	Ⅲb	H～35	深鉢形土器	口縁部	明赤褐	にぶい褐	○	○		茶粒・輝石	良	ヨコナデ	短条痕	
	449	Ⅲb	H～36	深鉢形土器	口縁部	明黄褐	橙	○	○		茶粒・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
	450	Ⅲb・Ⅳ	E-36-I-4	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		茶粒・輝石	良	工具ナデ	短条痕	
	451	Ⅳ	H～37-38	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	白片岩・輝石	良	工具ナデ	短条痕	
	452	Ⅲ	G～37	深鉢形土器	口縁部	明黄褐	明黄褐	○	○		茶粒・輝石	良	工具ナデ	条痕	外面に炭化物付着
	453	Ⅲb	H～37	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		白片岩・輝石	良	工具ナデ	短条痕	
	454	Ⅲa	H～37	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	灰褐	○	○		茶粒・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
	455	Ⅳ	H～37	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナデ	短条痕	
	456	Ⅲa	H～36	深鉢形土器	口縁部	赤褐	にぶい赤褐	○	○		白片岩・茶粒	良	工具ナデ	条痕	外面に炭化物付着
	457	Ⅲa	I～37	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○	○		茶粒・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
137	458	Ⅲb	I-32-33	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○		白片岩・赤片岩	良	工具ナデ	条痕	外面に炭化物付着
	459	Ⅳ	H～35	深鉢形土器	胴部	褐	明赤褐	○	○	○	白片岩・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
	460	Ⅳ	H～35	深鉢形土器	胴部	褐	にぶい褐	○	○		白片岩・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
	461	Ⅲb	H～34	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	明黄褐	○	○		茶粒・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
	462	Ⅲa	H～37	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		輝石	良	工具ナデ	短条痕	
	463	Ⅲa	H～35	深鉢形土器	胴部	明褐	にぶい黄橙	○	○		茶粒・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
	464	Ⅲb	H～35	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
	465	Ⅲb	H～35	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石	良	工具ナデ	短条痕	
	466	Ⅲb	H～35	深鉢形土器	胴部	赤褐	橙	○	○		茶粒・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
	467	Ⅲa	G～25	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○		輝石・白片岩	良	条痕後ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	468	Ⅳa	C～8	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石	良	工具ナデ	条痕	
	469	Ⅲb	I～32	深鉢形土器	胴部	橙	褐灰	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	条痕	
138	470	Ⅲb	H～31	深鉢形土器	胴部	橙	灰褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	条痕	
	471	Ⅲb・Ⅳa	C～8	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	褐灰	○	○	○	輝石	良	ナデ	条痕	
	472	Ⅲa・Ⅳ	D-9-23	深鉢形土器	口縁～胴部	赤	赤	○			金雲母・火山ガラス	良	工具ナデ	ナデ後条痕	
	473	Ⅲ	J～31	深鉢形土器	底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	474	Ⅲ	J～33	深鉢形土器	底部	褐灰	灰褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	条痕	
139	475	Ⅴ	G～32	深鉢形土器	底部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	476	―	―	深鉢形土器	底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	477	Ⅳ	F～32	深鉢形土器	底部	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	剥落	
	478	Ⅲb	H-29-33	深鉢形土器	底部	褐灰	褐灰	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	条痕	
	479	Ⅳ	H～32	深鉢形土器	底部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	
	480	Ⅳ	G-26-II-27	深鉢形土器	底部	灰褐	にぶい褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	条痕	
140	481	Ⅲa・Ⅲb	H-20-21	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・輝石	良	条痕	条痕	
142	482	Ⅲa・Ⅲb	F・G～20	深鉢形土器	口縁部	黒褐	黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	
	483	Ⅲa	C～9	深鉢形土器	口縁部	黒褐	黒褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
	484	Ⅲb	E～38	深鉢形土器	胴部	にぶい赤褐	暗赤褐	○	○		輝石	良	条痕後ナデ	条痕	
	485	Ⅲb	G・H～20	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
144	486	Ⅲb	E～9	深鉢形土器	口縁～底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	ナデ	外面に炭化物付着
145	487	Ⅳ	G～35	深鉢形土器	口縁部	灰黄	浅黄	○	○		輝石・白片岩	良	条痕	条痕	
	488	Ⅲb	G～35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄	浅黄	○	○		輝石・白片岩	良	条痕	条痕	内外面に炭化物付着
	489	Ⅲb・Ⅳ	G-34-35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄	浅黄	○	○		輝石・白片岩	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
	490	Ⅲb・Ⅳ	G～35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		輝石・茶粒	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
	491	Ⅲa	F～37	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄	灰黄	○	○		輝石・白片岩	良	条痕	ナデ	
	492	Ⅲb	G～35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		輝石・白片岩	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
	493	Ⅲb	G～34	深鉢形土器	口縁部	灰黄	にぶい黄	○	○		輝石・白片岩	良	条痕	条痕	内外面に炭化物付着
	494	Ⅳ	G～35	深鉢形土器	胴部	にぶい黄	にぶい黄	○	○		輝石・白片岩	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
146	495	Ⅲa	E～15	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○		輝石・白片岩	良	条痕	条痕	
	496	Ⅲa・Ⅲb	D～18	深鉢形土器	胴部	褐	オリーブ黒	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	
	497	Ⅲa・Ⅲb	G-20-II-21	深鉢形土器	胴部	赤褐	黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	

第21表　縄文時代土器観察表（10）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 雲母	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
148	498	Ⅲa・Ⅲb	F－28	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	灰黄褐			○	輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	499	Ⅲb	F-28-G-35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	500	Ⅲa	G－40	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○			基粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	501	Ⅲa	G－40	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	502	Ⅲb	G－31	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	
149	503	Ⅲb・Ⅳ	E－32	深鉢形土器	口縁～胴部	褐灰	にぶい褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	口唇刺突
	504	Ⅲa・Ⅳa	F-23-G-28	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	505	Ⅲa	G－40	深鉢形土器	口縁部	黒褐	にぶい褐	○		○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	506	Ⅲb	I－36	深鉢形土器	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	507	Ⅲb	E－27	深鉢形土器	口縁部	黒褐	黒褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	508	Ⅲa	E－27	深鉢形土器	口縁部	黒褐	灰黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	509	Ⅲb	G－23	深鉢形土器	口縁部	褐	黄褐	○	○		輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
150	510	Ⅲa・Ⅲb	E－35	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい黄	浅黄	○		○	白片岩・赤片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	511	Ⅲa・Ⅲb	F-34-G-32	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
151	512	Ⅲb	E－32	深鉢形土器	口縁部	褐灰	灰黄褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	
	513	Ⅲb	F－32	深鉢形土器	口縁部	褐	褐	○	○		輝石	良	ナデ	ナデ	
	514	Ⅲb	E－27	深鉢形土器	口縁部	黒褐	にぶい黄橙	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	515	Ⅲb	E－33	深鉢形土器	口縁部	黒褐	黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	516	Ⅲ・Ⅲb	F－36	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	灰黄褐	○		○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	517	Ⅳ	H－32	深鉢形土器	口縁部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	518	Ⅲb	E－25	深鉢形土器	口縁部	黒	にぶい黄橙	○		○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	519	Ⅳ	G－31	深鉢形土器	口縁部	明赤褐	にぶい橙	○	○	○	輝石	良	横ナデ	ナデ	
	520	Ⅲa	G－38	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	521	Ⅳ	I－25	深鉢形土器	口縁部	褐	暗褐	○	○		金雲母・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	522	Ⅲa	E－35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○	○	白片岩	良	ナデ	ナデ	
	523	Ⅲb・Ⅳa	F-34-H-22	深鉢形土器	口縁部	褐灰	灰黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
152	524	Ⅲb	H－26	深鉢形土器	口縁～胴部	明黄褐	明黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	条痕・ナデ	条痕	外面に炭化物付着
153	525	Ⅲa・Ⅲb	G－25	深鉢形土器	胴部	黒褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	526	Ⅲa	G－27	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	基粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	527	Ⅲa・Ⅲb	F-G－35	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	528	Ⅲb	H－33	深鉢形土器	胴部	暗褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	529	Ⅲa・Ⅲb	H－25	深鉢形土器	胴部	黒褐	褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	530	Ⅲa	G－27	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	531	—	E－40	深鉢形土器	胴部	灰褐	明褐	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
154	532	Ⅲb	F－29	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	533	Ⅲa・Ⅳb	F-G－34	深鉢形土器	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	534	Ⅲa・Ⅲb	H－32	深鉢形土器	胴部	褐灰	にぶい黄橙	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	535	Ⅲb・Ⅳ	G－26	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	536	Ⅲa	G-H－26	深鉢形土器	口縁部	褐	にぶい褐	○	○	○	基粒・輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
155	537	Ⅲa	F-35-G-27	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	
	538	Ⅲb	F－36-37	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい褐	明黄褐	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	横ナデ	ナデ	
	539	Ⅲa	F－26	深鉢形土器	口縁部	橙	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	540	Ⅲb	F－28	深鉢形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	541	Ⅲa	G－35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	明黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	542	Ⅲb	F-G－29	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	不良	ナデ	ナデ	
	543	Ⅲb	G－28	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	544	Ⅲb	F－34	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
156	545	—	—	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	546	Ⅲa・Ⅲb	F－26	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	547	Ⅲa・Ⅲb	G-35-36	深鉢形土器	口縁～胴部	灰	灰	○	○	○	輝石・白片岩	不良	ナデ	ナデ	
157	548	Ⅲb	F－34	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	549	Ⅲa	E－27	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	550	Ⅲb	H－30	深鉢形土器	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	内面に指圧痕
	551	Ⅲb	E－35	深鉢形土器	口縁部	にぶい赤褐	赤褐	○	○	○	基粒・輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	552	Ⅲb	H－27	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	灰黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	553	—	—	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	554	Ⅱb・Ⅳ	F-G－26	深鉢形土器	口縁部	明赤褐	にぶい褐	○	○		輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	555	Ⅲa	F－26	深鉢形土器	口縁部	明赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	556	Ⅲa	F－33	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	

第22表　縄文時代土器観察表（11）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
158	557	—	—	深鉢形土器	口縁部	灰褐	灰褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	558	Ⅲa	G－37	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	横ナデ	
	559	Ⅲb	F－35	深鉢形土器	口縁部	黒褐	褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	560	Ⅲb	G－27	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい橙	褐灰	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	561	Ⅲa	G－27	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○		茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
159	562	Ⅲa-Ⅲb	G-35·36	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	563	Ⅲa-Ⅲb	F-35·G-35	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	564	Ⅲa	F－27	深鉢形土器	胴部	黄褐	にぶい黄橙	○			輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
160	565	Ⅲa-Ⅲb	F·G－40	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○		火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	566	Ⅲa	G－40	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい褐	○	○		輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	567	Ⅲa-Ⅲb	G－40	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○		白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	内外面に炭化物付着
161	568	Ⅳ	I－34	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○		輝石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	
	569	Ⅲa	H-35·36	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	黄灰	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	570	Ⅲb	I－34	深鉢形土器	胴部	褐	黒褐	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	ナデ	内面に炭化物付着
	571	Ⅲb	H－31	深鉢形土器	胴部	黒褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	572	Ⅲa-Ⅲb	F－28	深鉢形土器	胴部	黒褐	にぶい赤褐	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	573	Ⅲa-Ⅲb	G－40	深鉢形土器	胴部	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
162	574	Ⅲb	H－36	深鉢形土器	胴部	黒褐	暗灰黄	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	575	Ⅲa	G－40	深鉢形土器	胴部	黒	にぶい黄橙	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	576	Ⅲa	G－40	深鉢形土器	胴部	明赤褐	黒褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	577	Ⅲb	E－36	深鉢形土器	狐部	黒褐	黄褐	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	578	Ⅲa	F－32	深鉢形土器	胴部	褐灰	にぶい黄橙	○	○		輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	579	Ⅲb	H－33	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	暗褐	○		○	輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
沿州	580	Ⅲa-Ⅲb	F·G－35	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	条痕	外面に炭化物付着
165	581	Ⅲb-Ⅳ	H－36	深鉢形土器	口縁～胴部	黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
166	582	Ⅲa-Ⅲb	I－32	深鉢形土器	口縁部	赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	条痕・ナデ	工具ナデ	
167	583	Ⅲb	H－32	深鉢形土器	口縁部	暗灰黄	黄褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	
	584	Ⅲb	H－32	深鉢形土器	口縁部	黄灰	にぶい黄	○	○		輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	585	Ⅲb	H－32	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	
	586	Ⅲb	D－28	深鉢形土器	口縁部	黒褐	にぶい黄褐	○	○		輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	587	Ⅲa-Ⅲb	H-31·32	深鉢形土器	口縁部	暗灰黄	にぶい黄	○	○		輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	588	Ⅲa-Ⅲb	E－35	深鉢形土器	口縁～胴部	褐灰	にぶい黄橙	○	○	○	白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	589	Ⅲa	G－38	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	590	Ⅲa	E－35	深鉢形土器	口縁部	褐灰	にぶい黄橙	○	○		輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
168	591	Ⅲa-Ⅲb	E－35	深鉢形土器	口縁部	黄褐	浅黄	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	592	Ⅲb	I－34	深鉢形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	593	Ⅲa-Ⅳ	F－40	深鉢形土器	口縁部	黒褐	暗赤褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	
	594	Ⅲb	F－40	深鉢形土器	口縁部	灰褐	褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	595	Ⅲa	F－40	深鉢形土器	口縁部	灰褐	灰褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	
	596	Ⅲb	E-26·27	深鉢形土器	口縁部	黒褐	黒褐	○	○		火山ガラス・輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	597	Ⅲb	E-26·27	深鉢形土器	口縁部	黒褐	褐灰	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ナデ	ナデ	
169	598	Ⅲa-Ⅲb	G－35	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	橙	○	○		輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	599	Ⅲa-Ⅲb	G－35	深鉢形土器	口縁部	褐	明褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	600	Ⅲa-Ⅲb	G－35	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	橙	○	○		輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	601	Ⅲb	E－27	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい赤褐	黒褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
170	602	Ⅲa	G－31	深鉢形土器	口縁部	褐灰	灰褐	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	603	Ⅲ	I－34	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	604	Ⅲb	E－11	深鉢形土器	口縁部	褐	にぶい褐	○	○		輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	605	Ⅲa	D－10	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	工具ナデ	ナデ	
	606	Ⅲb	F－37	深鉢形土器	口縁部	灰褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	607	Ⅲ	F－37	深鉢形土器	口縁部	褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	608	Ⅲb	G－36	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	白片岩・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	609	Ⅲa	E－38	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	灰褐	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	610	Ⅲa	E－38	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
171	611	Ⅲa	G－40	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	612	Ⅲb	F－40	深鉢形土器	口縁部	赤灰	赤灰	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	613	Ⅲa	F－40	深鉢形土器	口縁部	灰褐	灰褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	614	Ⅲb	H－33	深鉢形土器	口縁部	黒褐	褐灰	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	615	Ⅲa	F－40	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	

第23表　縄文時代土器観察表（12）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
172	616	Ⅳ・Ⅴ	G－35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	617	Ⅲa・Ⅲb	F－29	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	618	Ⅲb・Ⅳ	G-36/I-38	深鉢形土器	胴部	灰褐	黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	619	Ⅲa・Ⅲb	G－36	深鉢形土器	胴部	黄褐	にぶい黄	○	○		輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
173	620	撹	I－33	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	褐	○	○		火山ガラス・輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	621	撹	E-26/-27	深鉢形土器	胴部	褐灰	黒褐	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	622	Ⅲa・Ⅲb	E-26/-27	深鉢形土器	胴部	褐灰	黒褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	623	Ⅲa	F－40	深鉢形土器	胴部	灰褐	灰褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	624	Ⅲa	E－28	深鉢形土器	胴部	黄褐	褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	625	撹	H－39	深鉢形土器	胴部	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	626	撹	H－26	深鉢形土器	胴部	褐	灰黄褐	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
174	627	Ⅲa	G－37	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	628	Ⅲa・Ⅳ	D－24	深鉢形土器	胴部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	火山ガラス・茶粒	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
175	629	撹	E－29	深鉢形土器	底部	褐灰	にぶい黄橙	○		○	輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	630	Ⅲa・Ⅲb	F－28	深鉢形土器	底部	にぶい褐	黒	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	外底面に光沢感
	631	Ⅲa	E－37	深鉢形土器	底部	にぶい黄橙	にぶい黄	○		○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	
	632	撹	G－33	深鉢形土器	底部	褐	暗灰黄	○		○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	633	—	—	深鉢形土器	底部	橙	橙	○			輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	内面に炭化物付着
	634	Ⅲ	J－33	深鉢形土器	底部	灰黄褐	黒褐	○			輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	内面に炭化物付着
	635	Ⅲa・Ⅲb	G-36/I-25	深鉢形土器	底部	灰黄褐	にぶい黄褐	○			輝石・白片岩	不良	ナデ	ナデ	
	636	Ⅲa	G－37	深鉢形土器	底部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○		○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	637	Ⅲa	E－36	深鉢形土器	底部	明黄褐	灰黄褐	○			輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	638	Ⅲa	D－26	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐	褐灰	○		○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	内底面アバタ状剥離
	639	撹	G－25	深鉢形土器	底部	褐灰	灰黄褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
176	640	Ⅲa・Ⅲb	G－26	深鉢形土器	底部	褐	黒	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	641	撹	E－35	深鉢形土器	底部	にぶい黄橙	黄橙	○		○	輝石	良	ナデ	ナデ	内面に炭化物付着
	642	撹	H－36	深鉢形土器	底部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	643	Ⅲa	H－33	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	644	Ⅲa	E－35	深鉢形土器	底部	褐	にぶい黄褐	○		○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	645	撹	F－36	深鉢形土器	底部	橙	明褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	
178	646	Ⅲa・Ⅳ	F-G-37	深鉢形土器	口縁～胴部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
	647	Ⅲa	F－39	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	条痕	条痕	
179	648	Ⅲa・Ⅲb	F－36	深鉢形土器	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	条痕後ナデ	条痕	外面に炭化物付着
	649	Ⅲa・Ⅲb	G－33	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	明黄褐	○			赤片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	650	Ⅲa・Ⅲb	E－29	深鉢形土器	口縁部	黄褐	にぶい黄褐	○	○		輝石・茶粒	良	ナデ	条痕	
	651	撹	G－39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	黒褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	652	Ⅲa	F－39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○		○	赤片岩・輝石	良	条痕	工具ナデ	
181	653	Ⅲa・Ⅲb	G-37/-38	深鉢形土器	口縁～胴部	赤褐	褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	
182	654	Ⅲa	D－9/-10	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	条痕	条痕	
183	655	Ⅲa・Ⅲb	F-38/-G-37	深鉢形土器	胴部	黒褐	赤褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ後条痕	
184	656	Ⅳ	F－40	深鉢形土器	口縁部	暗灰黄	黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ヨコナデ	外面に炭化物付着
	657	Ⅲa	F－40	深鉢形土器	口縁部	オリーブ黒	オリーブ黒	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	ナデ	外面に炭化物付着
	658	Ⅲa・Ⅲb	E-37/-40	深鉢形土器	頸部	にぶい黄褐	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	659	撹	G－37	深鉢形土器	頸部	明赤褐	明赤褐	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	660	Ⅲ・Ⅲb	F－37	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	明褐	○	○		輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	661	撹	G-37/-38	深鉢形土器	頸部	にぶい黄褐	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	662	撹	F－37	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	663	表	E-39/F-40	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	灰黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕後ナデ	条痕	
	664	撹	G－37	深鉢形土器	口縁部	褐灰	褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	条痕後ナデ	外面に炭化物付着
185	665	Ⅲa	E－40	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	条痕後ナデ	ナデ	
	666	撹	F－38	深鉢形土器	胴部	暗灰黄	明褐	○		○	輝石・白片岩	良	条痕後ナデ	条痕	
	667	撹	F－38	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	条痕	条痕	内外面に炭化物付着
	668	Ⅲa	F－40	深鉢形土器	胴部	黒褐	にぶい褐	○	○		輝石・茶粒	良	条痕	条痕	
186	669	Ⅲa・Ⅲb	F－42	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○		輝石・白片岩	良	ケズリ後ナデ	条痕	内外面に炭化物付着
	670	Ⅲa・Ⅲb	F-37/-G-37	深鉢形土器	胴部	にぶい黄	にぶい黄橙	○	○		輝石・火山ガラス	良	条痕後ナデ	条痕	外面に炭化物付着

第24表　縄文時代土器観察表（13）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 黒色粒	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
187	671	Ⅲa	F－40	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	赤片岩	良	条痕	条痕後ナデ	外面に炭化物付着
	672	Ⅲa	E－39	深鉢形土器	胴部	灰黄褐	灰黄褐	○	○	○	輝石	良	工具ナデ	ナデ	内面に炭化物付着
	673	Ⅲb・Ⅳ	E-37・G-35	深鉢形土器	口縁部	黒褐	にぶい褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	条痕後ナデ	ナデ	
	674	—	—	深鉢形土器	口縁部	灰褐	褐	○	○	○	輝石	良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	675	Ⅲa	F－38	深鉢形土器	口縁部	黒	黒褐	○	○	○	輝石・白片岩	不良	条痕	ナデ	外面に炭化物付着
	676	—	E－40	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	灰黄褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	条痕	条痕	
	677	Ⅲb	E－38	深鉢形土器	口縁部	褐灰	灰褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	条痕後ナデ	外面に炭化物付着
	678	Ⅲa	F－38	深鉢形土器	口縁部	黒褐	灰黄褐	○	○		輝石・茶粒	良	条痕	条痕	内外面に炭化物付着
	679	Ⅲa	F-38・E-37	深鉢形土器	口縁部	灰褐	暗赤褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
188	680	Ⅲa	F－40	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	暗褐	○	○		輝石・白片岩	良	ケズリ	条痕	外面に炭化物付着
	681	Ⅲa	F－39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	外面に炭化物付着
	682	Ⅲa	E－34	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	明黄褐	○	○	○	輝石	良	ケズリ後ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	683	Ⅲa・Ⅲb	D-39・E-39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	灰黄褐	○			白片岩・赤片岩	良	条痕後ナデ	条痕	外面に炭化物付着
	684	Ⅲb	E－39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	685	—	—	深鉢形土器	口縁部	黒褐	褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	686	Ⅲ・Ⅲb	E－40・41	深鉢形土器	口縁部	黒	褐	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	条痕	外面に炭化物付着
189	687	Ⅲa・Ⅲb	F－38	深鉢形土器	口縁～胴部	褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
190	688	Ⅲa・Ⅳ	E-39・F-35	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	外面に炭化物付着
	689	Ⅲb・Ⅳ	E－38・39	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	690	Ⅲb	F－38	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	外面に炭化物付着
	691	Ⅲa	E－38	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	外面に炭化物付着
191	692	Ⅲa・Ⅲb	E－38	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	赤片岩・火山ガラス	良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	693	Ⅲa	E－39	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	内外面に炭化物付着
192	694	Ⅲa	E－36	深鉢形土器	口縁部	黒褐	にぶい黄褐	○	○		輝石・赤片岩	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
	695	Ⅲa・Ⅳ	E-36・37	深鉢形土器	口縁～胴部	褐	橙	○	○		輝石・茶粒	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
	696	Ⅲa・Ⅲb	E－38	深鉢形土器	胴部	黒褐	にぶい赤褐	○	○		輝石	良	条痕後ナデ	条痕	
193	697	Ⅲb	E－38	深鉢形土器	胴部	にぶい赤褐	明赤褐	○		○	輝石	良	条痕後ナデ	条痕	
	698	Ⅲ・Ⅲb	F－36	深鉢形土器	胴部	黄灰	暗灰黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	外面に炭化物付着
	699	Ⅲb	D－11	深鉢形土器	口縁部	黒	暗灰黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
	700	Ⅲb	D－13	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	褐灰	○	○	○	輝石	良	条痕	条痕	内外面に炭化物付着
	701	Ⅲb	D－18	深鉢形土器	口縁部	褐灰	にぶい褐	○	○	○	輝石	良	条痕	条痕	
	702	Ⅲa	D－13	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	暗灰黄	○	○	○	輝石・茶粒	良	条痕	条痕後ナデ	
194	703	Ⅲa・Ⅲb	F-G－16	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	内外面に炭化物付着
	704	Ⅲb	H－20	深鉢形土器	口縁～胴部	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
	705	Ⅳ	E－40	深鉢形土器	胴部	黒褐	にぶい赤褐	○	○		輝石・茶粒	良	条痕	条痕	
195	706	Ⅳ	E－39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	—	—	
196	707	Ⅲb・Ⅳ	E－39	深鉢形土器	底部	にぶい黄橙	浅黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	内面に炭化物付着
197	708	Ⅲb	E－36	深鉢形土器	底部	にぶい黄橙	にぶい黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
198	709	Ⅲa・Ⅲb	F－37	深鉢形土器	口縁部	明褐	明褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	
201	710	Ⅲa・Ⅲb	E-38・F-37	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ・条痕	内面に炭化物付着
202	711	Ⅲb・Ⅳ	E-36・F-37	深鉢形土器	口縁～胴部	黒褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	内外面に炭化物付着
203	712	Ⅲa・Ⅲb	F－17	深鉢形土器	口縁部	橙	明褐	○	○	○	赤片岩・火山ガラス	良	ナデ	工具ナデ	内外面に炭化物付着
	713	Ⅲa	F－36	深鉢形土器	口縁部	暗褐	にぶい黄褐				茶粒・金雲母	良	ナデ	ナデ	
	714	Ⅲa	E－38	深鉢形土器	口縁部	褐	にぶい褐	○	○		輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	715	Ⅲa	E－24	深鉢形土器	口縁部	褐	明黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	716	Ⅴ	H－26	深鉢形土器	口縁部	明褐	橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	横ナデ	内外面に炭化物付着
	717	Ⅳ	E－43	深鉢形土器	口縁部	橙	黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
204	718	Ⅲa・Ⅲb	F－16	深鉢形土器	口縁～胴部	褐	褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	工具ナデ	粗いナデ	
	719	Ⅲb	E－38	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	720	Ⅲb	H－39	深鉢形土器	口縁部	暗茶褐	暗茶褐		○	○	輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	721	Ⅲ	B－1	深鉢形土器	口縁部	明茶褐	明茶褐	○	○		輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
205	722	Ⅲa	E－35	浅鉢形土器	口縁部	灰黄	褐灰			○	輝石・白片岩	良	ミガキ	ミガキ	
	723	Ⅲb	F－32	浅鉢形土器	口縁部	淡黄	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	724	Ⅲb	G－32	浅鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄		○	○	茶粒・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	725	Ⅲa	D-7・8	深鉢形土器	胴部	浅黄	浅黄	○	○		火山ガラス・輝石	良	ミガキ	ミガキ	
	726	Ⅲa	H－37	浅鉢形土器	口縁部	暗オリーブ褐	褐灰	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ・ミガキ	ケズリ・ナデ	
	727	Ⅲa	G－37	浅鉢形土器	口縁部	暗オリーブ褐	灰褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ・ミガキ	ケズリ・ナデ	

第25表　縄文時代土器観察表（14）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
206	728	Ⅲa・Ⅲb	C－9	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	浅黄	○	○	○	茶粒・輝石	良	ミガキ	ミガキ	
	729	Ⅲa	D－8・9	深鉢形土器	口縁部	明黄褐	にぶい黄褐	○	○		火山ガラス・輝石	良	ミガキ	ナデ	
	730	Ⅲa	D－8	深鉢形土器	口縁部	明黄褐	褐灰	○	○		火山ガラス	良	ミガキ	ナデ	
	731	Ⅲa	D－9	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	褐灰	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ミガキ	ナデ	外面に炭化物付着
	732	Ⅲa	D－8・9	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	褐灰	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ミガキ	ナデ	
	733	Ⅲa	H－35	浅鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	灰褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	734	Ⅲa	D－9	深鉢形土器	口縁部	黄灰	黄灰	○	○		火山ガラス・輝石	良	ミガキ	ミガキ	
	735	Ⅲb	H－36	浅鉢形土器	口縁部	黒褐	黒褐	○	○		火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	736	Ⅲb	G－36	浅鉢形土器	口縁部	褐灰	褐灰	○		○	茶粒・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	737	Ⅲa	H－26	浅鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○	金雲母・輝石	良	ミガキ	ミガキ	
	738	Ⅲa	E－35	深鉢形土器	口縁部	褐灰	黄灰	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	ミガキ	外面に炭化物付着
208	739	Ⅱ	E－24	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ケズリ	ケズリ	
	740	Ⅲa	F－25	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	工具ナデ	外面に炭化物付着
	741	Ⅲa	F－25	深鉢形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	742	Ⅲa	E－25	深鉢形土器	口縁部	褐灰	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	工具ナデ	工具ナデ	
209	743	Ⅲa	G－26	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	浅黄	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	条痕後ミガキ	条痕	
	744	Ⅲa	F－25	深鉢形土器	口縁部	黒褐	褐灰	○	○		白片岩・火山ガラス	良	ナデ	条痕後ナデ	
	745	Ⅲa・Ⅳ	F－25	深鉢形土器	口縁部	橙	橙	○		○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	
210	746	Ⅲa	H－37	浅鉢形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ・ナデ	
	747	Ⅲa	E－25	浅鉢形土器	口縁部	にぶい橙	黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	748	Ⅲa	C－9	浅鉢形土器	口縁部	浅黄	褐灰	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	749	Ⅱ	H－35	浅鉢形土器	口縁部	灰黄	褐灰	○	○		茶粒・火山ガラス	良	ナデ・ミガキ	ミガキ	
	750	Ⅲa	F－25	浅鉢形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	751	Ⅲa	F－25	浅鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	752	Ⅲa	F－35	浅鉢形土器	口縁部	にぶい橙	褐灰		○	○	輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	753	Ⅲa	E－20	浅鉢形土器	胴部	灰黄	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ	ケズリ	
	754	Ⅲb	E－26	浅鉢形土器	口縁部	灰黄	黄灰	○	○	○	輝石	良	ミガキ	ミガキ	
	755	Ⅲa	F－26	浅鉢形土器	胴部	オリーブ黒	にぶい褐	○		○	茶粒・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	756	Ⅲa	H－34	浅鉢形土器	口縁部	灰黄	明褐灰	○	○	○	輝石・茶粒	良	ミガキ	ミガキ	
	757	Ⅲa	E－34	浅鉢形土器	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○	火山ガラス	良	一部ミガキ	ミガキ	
211	758	Ⅲa	F－47	深鉢形土器	胴部	黒褐	にぶい黄	○	○		雲母・輝石	良	ミガキ	ミガキ	
	759	Ⅲa	F-36・G-37	深鉢形土器	胴部	黄灰	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	粗いミガキ後ナデ	
	760	Ⅲb	I－37	深鉢形土器	口縁部	黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	貝殻条痕後ナデ	ミガキ・ケズリ	
212	761	Ⅲa	F－47	深鉢形土器	口縁～胴部	黒褐	にぶい黄褐	○	○	○	雲母・輝石	良	ナデ	ミガキ	内外面に炭化物付着
	762	Ⅲa	E－24	深鉢形土器	底部	にぶい橙	黄灰	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ	ケズリ	
	763	Ⅲa	F－5	深鉢形土器	底部	にぶい黄橙	にぶい黄	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	—	—	
	764	Ⅲa・Ⅳ	F－26	深鉢形土器	底部	にぶい橙	褐灰	○	○	○	輝石・赤片岩	良	—	横ケズリ	
	765	Ⅲa	D－25	浅鉢形土器	口縁部	黒褐	黒褐	○	○	○	白片岩	良	ミガキ後ナデ	ミガキ	
	766	Ⅲa	E－25	浅鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	黄灰	○	○	○	輝石・白片岩	良	一部ミガキ	ミガキ後ナデ	
	767	Ⅲa	D－8	浅鉢形土器	口縁部	黄灰	灰黄	○		○	茶粒・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	768	Ⅲb	D－25	浅鉢形土器	口縁部	灰黄褐	黄灰	○	○	○	金雲母・火山ガラス	良	ミガキ後ナデ	ミガキ	

第26表　出土石器観察表（1）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
214	1	磨製石斧	E－32	Ⅲa	12.3	5.1	2.3	243.0
	2	磨製石斧	G－30	Ⅲb	6.9	4.1	1.3	53.9
	3	磨製石斧	F－37	Ⅲ	7.0	3.1	1.1	28.8
215	4	磨製石斧	F－16	Ⅲa	12.5	5.4	2.7	292.0
	5	磨製石斧	F－37	Ⅲa	6.5	4.5	1.3	36.0
216	6	磨製石斧	F－18	Ⅲa	11.9	5.2	2.1	198.0
	7	磨製石斧	E－36	Ⅲb	6.9	3.9	1.3	46.2
	8	磨製石斧	—	表	6.7	3.0	1.1	26.4
217	9	磨製石斧	E－23	Ⅲa	12.8	2.6	1.8	95.0
	10	磨製石斧	G－26	Ⅲa	10.9	2.8	2.3	97.5
	11	磨製石斧	E－38	Ⅳ	6.1	3.5	1.2	37.3
218	12	磨製石斧	F－17	Ⅲa	(11.5)	7.5	4.1	562.0
	13	磨製石斧	E－39	Ⅲa	(6.7)	(5.8)	2.2	117.2
219	14	磨製石斧	G－35	Ⅲa	(10.8)	6.6	3.6	448.0
	15	磨製石斧	F－39	Ⅳ	(9.1)	9.0	1.7	90.0
220	16	磨製石斧	G－32	Ⅲb	10.2	5.3	3.3	250.0
	17	磨製石斧	F－34	Ⅲb	(7.4)	5.8	2.8	180.0
221	18	磨製石斧	H－34	Ⅲb	(11.8)	5.2	3.5	350.0
	19	磨製石斧	—	道路	(5.5)	(6.5)	1.4	71.5
222	20	磨製石斧	D－10	Ⅳ上	(8.6)	5.3	2.6	160.0
	21	磨製石斧	F－14	Ⅲa	(6.2)	(6.1)	2.1	102.1
223	22	磨製石斧	G－36	Ⅳ	(8.9)	7.7	3.8	290.0
	23	磨製石斧	E－36	Ⅲb	(5.0)	(2.6)	0.7	13.7
	24	磨製石斧	F－25	Ⅲa	3.8	5.7	(2.3)	34.8
	25	磨製石斧	F－43	Ⅴ	6.1	8.1	1.6	90.0
224	26	磨製石斧	E－39	Ⅲa	18.9	7.0	4.3	780.0
225	27	磨製石斧	D－10	Ⅲa	(17.3)	5.8	3.2	440.0
226	28	磨製石斧	E－34	Ⅲa	(11.2)	5.8	3.8	340.0
	29	磨製石斧	H－35	Ⅲa	(7.3)	5.2	2.8	140.0
227	30	磨製石斧	—	横転	10.1	5.2	2.8	220.0
	31	磨製石斧	F－43	Ⅶ	10.9	4.5	1.6	170.0
	32	磨製石斧未製品	E－28	Ⅲa	(6.9)	5.4	2.7	126.0
228	33	磨製石斧未製品	D－27	Ⅲa	(7.8)	(4.9)	2.9	166.0
	34	磨製石斧未製品	G－39	Ⅲa	(7.7)	(5.7)	1.3	72.2
229	35	磨製石斧未製品	G－33	Ⅲb	(8.0)	(4.6)	2.8	120.0
	36	磨製石斧未製品	G－35	Ⅲa	(7.0)	5.6	3.3	210.0
230	37	磨製石斧未製品	D－28	Ⅲa	10.5	6.4	2.1	175.0
	38	磨製石斧未製品	E－41	Ⅲa	9.8	4.3	2.3	129.0
231	39	磨製石斧未製品	D－7	Ⅳa	18.0	9.1	2.2	455.0
232	40	磨製石斧未製品	D－16	Ⅲa	18.2	9.3	2.1	522.0
233	41	磨製石斧未製品	E－23	Ⅲa	(14.2)	6.1	3.9	451.0
	42	磨製石斧未製品	E－25	Ⅲa	(9.7)	5.6	2.1	160.0
234	43	磨製石斧未製品	H－34	Ⅲb	14.9	6.2	2.5	350.0
	44	磨製石斧未製品	E－29	Ⅲb	7.9	5.6	1.1	61.8
235	45	磨製石斧未製品	D－25	Ⅲa	9.9	5.3	2.9	235.0
	46	磨製石斧未製品	D－12	Ⅲb	(10.3)	5.7	2.8	205.0
236	47	磨製石斧未製品	F－37	Ⅲb	(8.5)	5.5	3.0	196.9
237	48	打製石斧	E－24	Ⅲa	14.5	6.9	1.5	198.0
	49	打製石斧	G－33	Ⅲb	(7.2)	6.1	2.3	89.9
238	50	打製石斧	D－25	Ⅲa	12.4	9.1	1.7	205.0
	51	打製石斧	E－28	Ⅲa	(9.1)	(6.1)	1.7	117.5
239	52	打製石斧	—	表	11.9	6.8	1.5	165.0
	53	打製石斧	F－35	Ⅲb	8.8	5.6	1.8	93.1
240	54	打製石斧	E－28	Ⅲb	12.6	8.0	1.8	180.0
	55	打製石斧	E－34	Ⅲa	(10.6)	8.7	1.9	190.0

第27表　出土石器観察表（2）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
241	56	打製石斧	G－47	Ⅲa	(11.8)	7.6	2.1	210.0
	57	打製石斧	E－28	Ⅲa	(7.5)	(8.2)	2.0	151.0
	58	打製石斧	F－33	Ⅲa	(5.5)	(7.9)	1.5	69.4
242	59	打製石斧	—	Ⅰb	12.2	6.7	2.1	230.0
	60	打製石斧	D－17	Ⅲa	(6.6)	(5.7)	2.0	76.6
	61	打製石斧	F－32	Ⅲa	(5.5)	(7.1)	1.7	86.0
243	62	打製石斧	G－33	Ⅲb	(8.0)	5.9	2.4	108.4
	63	打製石斧	D－24	Ⅲa	(6.8)	8.0	1.5	93.7
	64	打製石斧	E－27	Ⅱ	(6.7)	6.3	1.9	89.8
244	65	打製石斧	H－33	Ⅳ	14.4	4.6	3.0	630.0
245	66	打製石斧	T－41	Ⅰb	(16.0)	13.0	2.0	450.0
246	67	打製石斧	H－27	Ⅲa	(9.8)	10.1	2.8	345.0
	68	打製石斧	E－36	Ⅲa	(6.0)	(7.5)	1.5	92.5
247	69	打製石斧	G－33	Ⅲa	(13.2)	(9.8)	1.4	172.0
248	70	打製石斧	E－35	Ⅲa	(9.3)	8.2	2.2	231.0
	71	打製石斧	C－9	Ⅳ上	(9.8)	7.6	1.3	100.0
249	72	打製石斧	E－34	Ⅲa	(7.9)	(7.3)	1.4	82.7
	73	打製石斧	F－47	Ⅲa	(5.7)	7.8	1.7	100.1
	74	打製石斧	F－35	Ⅲa	(7.3)	(6.3)	2.0	102.4
250	75	打製石斧	E－23	Ⅰb	(6.3)	5.1	1.5	88.3
	76	打製石斧	E－35	Ⅲa	(7.4)	(6.7)	2.2	128.0
	77	打製石斧	G－33	Ⅲa	(5.8)	(5.7)	1.5	72.3
251	78	打製石斧	E－24	Ⅱ	13.4	6.8	1.6	189.0
	79	打製石斧	E－36	Ⅲa	8.5	7.8	1.6	121.0
252	80	打製石斧	E－34	Ⅲa	(13.7)	6.9	1.8	200.0
	81	打製石斧	D－17	Ⅲa	(8.9)	(7.2)	1.1	131.0
253	82	打製石斧	G－40	Ⅲb	(10.5)	8.8	2.4	298.0
	83	打製石斧	F－28	Ⅲa	7.0	6.0	2.6	160.0
254	84	打製石斧	F－33	Ⅲa	(8.4)	8.5	1.5	114.0
	85	打製石斧	H－39	Ⅳ	9.1	4.9	(1.2)	60.7
	86	打製石斧	E－35	Ⅲa	(3.9)	6.5	1.4	23.6
255	87	打製石斧	H－32	Ⅲa	(7.5)	(5.7)	1.6	73.4
	88	打製石斧	E－35	Ⅲb	(5.1)	(8.5)	1.4	59.5
	89	打製石斧	F－38	Ⅲa	(5.3)	(4.7)	1.5	50.6
256	90	打製石斧	D－25	Ⅲa	7.6	7.6	1.5	124.0
	91	打製石斧	D－27	Ⅲa	6.6	3.8	1.1	23.0
	92	打製石斧	E－10	Ⅳa	6.8	5.4	1.3	72.5
257	93	打製石斧	F－34	Ⅲa	(7.2)	6.1	2.0	90.2
	94	打製石斧	E－35	Ⅲa	(7.2)	(6.1)	1.8	101.6
	95	打製石斧	H－34	Ⅲa	(7.2)	(5.8)	2.2	87.5
258	96	打製石斧	H－36	Ⅲb	(9.3)	7.2	2.3	205.0
259	1	石匙	H－34	Ⅲb	11.2	5.7	0.8	32.7
	2	石匙	D－19	Ⅲa	3.0	1.0	0.4	1.0
	3	石匙	G－33	Ⅲb	5.0	2.6	0.7	8.1
	4	石匙	G－36	Ⅲb	7.7	2.8	1.5	24.2
	5	石匙	G－34	Ⅲb	7.0	4.0	0.9	20.7
	6	石匙	G－36	Ⅲb	8.0	2.5	0.7	15.1
	7	石匙	H－34	Ⅲa	7.1	3.5	1.0	17.4
260	8	石匙	E－28	Ⅲb	8.3	4.2	0.7	17.6
	9	石匙	F－43	Ⅲb	5.5	3.0	0.8	12.5
	10	石匙	H－27	Ⅲa	7.3	4.0	1.3	27.0
	11	石匙	E－35	Ⅲa	5.7	2.8	0.7	8.8
	12	石匙	G－39	Ⅲa	5.0	4.0	1.0	18.2
	13	石匙	F－38	Ⅲb	5.5	2.5	0.6	6.2
	14	石匙	C－23	Ⅲa	3.0	2.1	0.5	3.1
	15	石匙	H－38	Ⅳ	4.2	3.2	0.7	4.9

第28表　出土石器観察表（3）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
261	16	石匙	D－10	Ⅲb	4.6	3.4	0.9	11.8
	17	石匙	H－33	Ⅲa	5.9	3.8	1.0	17.8
	18	石匙	F－30	Ⅲb	6.0	2.6	1.0	13.1
	19	石匙	I－33	Ⅲa	5.5	2.7	0.8	13.2
	20	石匙	G－39	Ⅳ	4.5	2.8	0.7	7.8
	21	石匙	I－34	Ⅲb	5.2	3.4	0.7	13.3
	22	石匙	I－35	Ⅳ	4.8	1.7	0.8	5.7
	23	石匙	G－32	Ⅲb	5.8	3.2	1.3	18.3
262	24	石匙	H－31	Ⅲa	5.8	3.5	0.7	14.8
	25	石匙	F－30	Ⅲb	5.9	3.5	1.0	24.1
	26	石匙	E－32	Ⅲb	5.3	2.5	0.8	8.1
	27	石匙	E－38	Ⅲa	5.2	3.5	1.0	13.7
	28	石匙	G－33	Ⅲb	5.0	2.7	0.8	8.8
	29	石匙	F－19	Ⅲa	5.5	2.5	0.9	7.6
	30	石匙	D－25	Ⅲb	6.8	5.8	1.2	33.2
263	31	石匙	D－27	Ⅲb	4.9	1.8	0.8	6.3
	32	石匙	E－38	Ⅲa	(4.3)	(2.9)	1.0	9.0
	33	石匙	G－34	Ⅲb	5.3	2.2	0.7	6.8
	34	石匙	I－32	Ⅲb	4.8	3.3	1.1	10.2
	35	石匙	E－34	Ⅲa	5.9	3.0	0.6	8.7
	36	石匙	横転4	—	6.1	3.3	1.3	20.1
	37	石匙	H－40	—	4.0	2.3	0.6	5.1
	38	石匙	H－38	Ⅲa	4.9	2.7	0.8	8.3
264	39	石匙	E－35	Ⅲa	4.0	3.2	0.8	8.3
	40	石匙	D－6	Ⅲa	3.9	(4.3)	1.1	13.2
	41	石匙	F－25	Ⅲa	4.1	3.5	0.9	11.7
	42	石匙	H－33	Ⅳ	(4.0)	2.6	0.5	4.5
	43	石匙	F－17	Ⅲa	3.3	2.3	0.8	6.0
	44	石匙	F－38	Ⅳ	4.4	2.2	0.6	6.1
	45	石匙	F－35	Ⅰ	5.1	3.0	0.8	10.0
	46	石匙	F－39	Ⅲb	5.4	3.6	1.6	22.1
265	47	石匙	横転5	—	4.3	3.7	0.4	4.2
	48	石匙	—	一括	(2.7)	(2.0)	0.8	3.4
	49	石匙	F－34	Ⅲb	5.7	3.5	1.0	14.0
	50	石匙	I－31	Ⅲb	(2.3)	(2.2)	0.4	2.3
	51	石匙	F－35	Ⅳ	(1.8)	(1.8)	0.5	1.2
	52	石匙	G－37	Ⅲa	(1.3)	(1.8)	0.5	1.4
	53	石匙	I－34	Ⅳ	3.4	4.5	0.8	9.7
	54	石匙	F－37	Ⅲb	2.8	(3.0)	0.7	4.8
	55	石匙	F－37	Ⅲ	2.5	4.2	0.8	4.8
	56	石匙	F－28	Ⅲb	2.2	3.2	0.7	4.4
	57	石匙	F－36	Ⅲb	2.8	4.1	0.4	4.4
	58	石匙	E－36	Ⅲb	2.5	(2.9)	0.6	2.9
266	59	石匙	F－36	Ⅲb	3.3	4.0	0.6	6.2
	60	石匙	E－28	Ⅲb	2.7	3.5	0.8	3.6
	61	石匙	H－33	Ⅲb	3.1	4.5	0.7	7.2
	62	石匙	E－39	Ⅲa	2.4	(2.7)	0.6	2.3
	63	石匙	F－37	Ⅲa	2.2	3.5	0.3	3.4
	64	石匙	H－36	Ⅲb	3.7	5.8	1.0	17.0
	65	石匙	F－35	Ⅰ	3.7	3.9	0.4	5.2
	66	石匙	F－41	Ⅲ	4.1	5.7	1.0	12.4
	67	石匙	F－38	Ⅲa	1.6	(2.5)	0.5	1.1
	68	石匙	G－35	Ⅲb	1.5	1.9	0.4	0.6
	69	石匙	—	—	2.5	6.3	1.0	10.8

第29表　出土石器観察表（4）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
267	70	石匙	G－39	Ⅲa	2.1	3.5	0.4	2.8
	71	石匙	F－38	Ⅲa	2.4	4.9	0.7	5.1
	72	石匙	F－40	Ⅲb	1.8	4.1	0.5	2.6
	73	石匙	E－36	Ⅲa	2.0	4.3	0.4	2.6
	74	石匙	F－39	Ⅳ	1.6	2.6	0.5	1.3
	75	石匙	C－14	Ⅲa	3.1	4.7	0.9	7.2
	76	石匙	E－27	Ⅳ	2.2	3.4	0.7	3.6
	77	石匙	G－39	Ⅲa	2.7	4.8	0.7	6.8
	78	石匙	E－42	Ⅲa	2.0	2.5	0.6	2.0
	79	石匙	I－33	Ⅲa	3.2	4.7	0.9	8.3
	80	石匙	F－40	Ⅲb	3.8	4.5	0.8	8.5
	81	石匙	G－35	Ⅲa	2.6	4.4	0.9	7.1
268	82	石匙	F－38	Ⅲb	3.5	6.3	0.8	15.1
	83	石匙	E－10	Ⅲa	2.9	6.7	0.9	12.2
	84	石匙	E－38	Ⅳ	3.4	6.0	1.0	11.8
	85	石匙	G－31	Ⅲb	2.9	6.4	0.8	10.5
	86	石匙	E－26	Ⅲa	3.3	6.1	1.0	15.4
	87	石匙	D－25	溝7	1.7	4.7	0.5	2.9
269	88	石匙	F－30	Ⅲa	7.0	11.9	1.0	52.2
	89	石匙	D－15	Ⅲb	4.2	8.0	1.3	34.8
	90	石匙	G－33	Ⅲb	6.0	7.1	1.4	41.3
	91	石匙	E－37	Ⅳ	4.1	7.2	0.6	15.8
270	92	石匙	E－36	Ⅲ	3.7	4.7	0.9	13.1
	93	石匙	G－35	Ⅲb	3.6	5.9	1.0	21.8
	94	石匙	E－32	Ⅲb	4.6	5.7	0.7	18.1
	95	石匙	I－32	Ⅲb	4.3	5.4	0.7	18.2
	96	石匙	H－36	Ⅲa	3.7	5.2	1.1	17.2
271	97	石匙	F－39	Ⅲa	3.1	4.6	0.7	7.7
	98	石匙	E－26	Ⅲa	5.2	7.0	1.0	20.8
	99	石匙	G－35	Ⅳ	3.1	5.9	0.6	9.3
	100	石匙	F－18	Ⅲa	3.4	6.0	0.6	8.4
	101	石匙	F－30	Ⅲb	5.6	4.7	1.1	29.6
272	102	石匙	I－33	Ⅲa	7.6	10.7	0.8	53.3
	103	石匙	G－26	Ⅲa	3.0	4.2	0.4	5.3
	104	石匙	F－35	Ⅲa	3.5	3.2	0.8	9.7
	105	石匙	F－36	Ⅳ	3.7	4.1	0.7	12.9
	106	石匙	H－35	Ⅲb	5.0	4.5	0.5	11.7
	107	石匙	F－40	Ⅲb	4.7	3.0	0.7	9.4
	108	石匙	E－30	Ⅲb	4.4	5.6	1.0	25.1
273	109	石匙	G－34	Ⅲa	3.2	2.8	0.8	7.5
	110	石匙	G－28	Ⅲb	(4.8)	(4.4)	1.1	22.1
	111	石匙	H・J－35・36	—	4.3	3.2	0.8	13.2
	112	石匙	E－39	Ⅲa	4.1	3.0	0.6	7.0
	113	石匙	F－36	表	4.1	3.7	0.9	11.6
	114	石匙	E－40	Ⅶ	3.3	(3.2)	0.7	6.1
	115	石匙	G－26	Ⅲb	4.1	3.5	1.3	15.6
	116	石匙	C－19	Ⅲa	3.7	1.9	0.6	6.7
	117	石匙	G－40	Ⅶ	2.4	1.6	0.6	1.6

第30表　出土石器観察表（5）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
274	1	石槍	I－37	Ⅳ	6.5	2.3	0.9	13.3
	1	組合せ式石鋸	H－33	Ⅲb	(2.3)	1.2	0.3	0.9
	1	石鋸	G－35	Ⅲa	(4.6)	(1.8)	0.7	5.7
	2	石鋸	D－23	Ⅲa	(4.4)	1.2	0.5	2.4
	3	石鋸	H－32	Ⅲa	3.1	1.2	0.7	2.5
	4	石鋸	G－33	Ⅲb	(3.0)	1.2	0.8	2.2
	5	石鋸	G－35	Ⅲb	2.9	2.2	0.8	4.3
	6	石鋸	E－40	Ⅲb	2.5	2.2	0.9	3.6
	7	石鋸	H－40	Ⅳ	(3.2)	(2.0)	1.0	3.9
	8	石鋸	E－40	Ⅴ	1.9	2.0	0.7	2.0
	9	石鋸	F－39	Ⅲa	2.0	2.2	0.9	3.5
	10	石鋸	H－38	Ⅲb	2.2	1.9	0.6	2.1
	11	石鋸	G－37	Ⅲb	2.3	1.6	0.6	2.0
	12	石鋸	F－37	Ⅲb	1.9	1.9	0.8	2.2
	13	石鋸	G－20	Ⅳ	2.2	2.0	0.8	2.9
275	14	石鋸	E－10	Ⅲa	2.5	(1.7)	0.6	3.2
	15	石鋸	G－33	Ⅲa	2.7	2.2	0.5	2.0
	16	石鋸	F－43	Ⅲb	2.9	(1.7)	0.6	2.2
	17	石鋸	F－43	Ⅳ	1.6	1.8	0.5	1.4
	18	石鋸	F－38	Ⅲb	(2.4)	(1.9)	(0.6)	2.2
	19	石鋸	I－36	Ⅲb	2.6	1.6	0.4	1.4
	20	石鋸	F－43	Ⅴ	(2.0)	(1.5)	0.5	1.0
	21	石鋸	E－10	Ⅲa	2.3	1.9	0.8	2.8
	22	石鋸	E－29	Ⅲa	2.4	1.4	(0.4)	1.2
	23	石鋸	E－36	Ⅲb	1.5	(1.5)	0.4	0.3
	24	石鋸	F－43	Ⅴ	2.5	1.7	0.6	1.8
	25	石鋸	F－44	Ⅶ	(1.9)	(1.7)	0.4	0.9
	26	石鋸	E－17	Ⅲa	2.1	1.6	0.4	1.4
	27	石鋸	F－36	Ⅳ	(1.5)	(1.0)	0.4	0.3
	28	石鋸	E－37	Ⅲb	(2.5)	(1.2)	0.6	1.2
	29	石鋸	I－25	Ⅳ	2.4	1.8	0.4	1.1
	30	石鋸	H－38	Ⅲa	(1.7)	(1.5)	0.6	1.1
	31	石鋸	C－7	Ⅳa	(2.1)	(1.3)	0.5	0.9
	32	石鋸	H－35	Ⅲb	1.9	1.3	0.4	0.7
	33	石鋸	E－39	Ⅳ	2.2	(1.3)	0.6	1.3
	34	石鋸	H－37	Ⅳ	2.4	(1.7)	0.8	2.4
	35	石鋸	H－31	Ⅲb	2.1	1.0	0.4	0.4
	36	石鋸	J－33	Ⅲ	1.5	1.3	0.4	0.5
	37	石鋸	G－35	Ⅲa	1.7	1.7	0.4	1.1
	38	石鋸	H－36	Ⅲa	1.6	(1.2)	0.2	0.4
	39	石鋸	F－43	Ⅴ	(1.7)	1.4	0.3	0.6
	40	石鋸	D－8	Ⅳa	1.7	(1.4)	0.4	1.0
	41	石鋸	F－32	Ⅲb	1.7	(1.7)	0.5	1.0
	42	石鋸	E－14	Ⅳa	1.7	1.6	0.3	0.6
	43	石鋸	F－42	Ⅲb	1.3	1.2	0.3	0.4
276	44	石鋸	C－8	Ⅲa	1.3	1.3	0.3	0.3
	45	石鋸	F－38	Ⅲb	1.9	1.6	0.4	0.9
	46	石鋸	—	一括	1.8	1.3	0.5	0.7
	47	石鋸	F－33	Ⅲb	1.4	1.8	0.5	1.1
	48	石鋸	H－38	Ⅴ	(1.2)	(1.0)	0.4	0.3
	49	石鋸	F－37	Ⅲb	(1.2)	(1.2)	0.3	0.3
	50	石鋸	G－30	Ⅳ	(1.3)	(1.2)	0.4	0.5
	51	石鋸	F－44	Ⅴ	1.4	1.4	0.4	0.5
	52	石鋸	—	—	(1.3)	1.3	0.3	0.3
	53	石鋸	F－47	Ⅶ	(1.6)	1.5	0.3	0.6
	54	石鋸	C－7	Ⅴa	(1.3)	1.3	0.5	0.7

第31表　出土石器観察表（6）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
	55	石鏃	F－34	Ⅲb	(1.2)	(1.7)	0.4	0.7
	56	石鏃	D－26	Ⅲ	(1.7)	1.5	0.4	0.8
	57	石鏃	F－36	Ⅲa	(1.3)	1.5	0.5	1.1
	58	石鏃	E－38	Ⅳ	(1.3)	(1.5)	0.3	0.5
	59	石鏃	G－36	Ⅲa	(1.4)	1.6	0.4	0.8
	60	石鏃	G－24	Ⅱ	(1.4)	(1.3)	0.3	0.6
	61	石鏃	G－29	Ⅳ	(2.0)	1.5	0.6	1.4
	62	石鏃	E－25	Ⅲa	(1.3)	(1.7)	0.5	0.8
	63	石鏃	G－39	Ⅳ	(0.8)	1.6	0.3	0.4
276	64	石鏃	H－38	Ⅲb	(1.7)	(1.6)	(0.4)	1.1
	65	石鏃	C－7	Ⅴa	(1.2)	1.4	0.4	0.6
	66	石鏃	F－38	Ⅲb	(1.8)	(1.4)	0.3	0.7
	67	石鏃	C－9	Ⅳa	(1.2)	1.3	0.4	0.5
	68	石鏃	E－34	Ⅲa	(1.9)	2.2	0.5	1.6
	69	石鏃	H－39	Ⅳ	(1.5)	2.3	0.8	2.0
	70	石鏃	E－37	Ⅲa	2.3	2.0	0.8	3.9
	71	石鏃	E－38	Ⅲa	(3.2)	(1.9)	0.6	2.7
	72	石鏃	E－38	Ⅲb	(2.4)	(2.1)	0.8	4.8
	73	石鏃	E－43	Ⅲb	(1.6)	1.8	0.5	1.6
	74	石鏃	—	表	2.7	1.9	0.4	1.1
	75	石鏃	G－26	Ⅳ	1.5	(1.7)	0.3	0.5
	76	石鏃	G－33	Ⅴ	(1.7)	(1.5)	0.4	0.7
	77	石鏃	H－22	Ⅳ	(1.7)	1.0	0.3	0.4
	78	石鏃	D－9	Ⅲa	2.5	1.9	4.0	1.3
	79	石鏃	F－35	Ⅳ	2.0	(1.5)	0.4	0.8
	80	石鏃	F－43	Ⅳ	1.5	1.5	0.4	0.6
	81	石鏃	F－41	Ⅳ	1.4	1.3	0.3	0.4
	82	石鏃	D－25	Ⅲa	1.8	1.6	0.3	0.5
	83	石鏃	E－24	Ⅲa	1.9	1.7	0.3	0.7
	84	石鏃	G－39	Ⅴ	(2.0)	(1.7)	0.3	0.8
	85	石鏃	E－26	Ⅲa	1.2	1.3	0.3	0.3
	86	石鏃	G－37・40	表	2.0	1.5	0.3	0.7
	87	石鏃	E－25	Ⅲa	(1.7)	(1.2)	0.3	0.4
	88	石鏃	E－24	Ⅲa	1.7	1.5	0.4	0.6
	89	石鏃	E－15	Ⅲa	(1.4)	0.9	0.3	0.3
277	90	石鏃	F－44	Ⅴ	(2.2)	(1.5)	0.4	1.3
	91	石鏃	F－46	Ⅲb	2.0	1.9	0.4	1.2
	92	石鏃	H－21	Ⅲa	1.8	1.5	0.4	0.6
	93	石鏃	F－38	Ⅲa	1.6	(1.2)	0.3	0.8
	94	石鏃	E－26	Ⅲa	2.3	(1.9)	0.4	1.0
	95	石鏃	I－32	Ⅲb	1.7	1.6	0.4	0.5
	96	石鏃	F－44	Ⅶ	1.4	1.4	0.4	0.4
	97	石鏃	E－29	Ⅲa	1.7	(1.4)	0.2	0.4
	98	石鏃	D－27	Ⅲb	1.7	1.7	0.5	0.7
	99	石鏃	F－43	表	1.7	(1.5)	0.4	0.6
	100	石鏃	E・F－39・40	表	(1.6)	1.5	0.6	1.6
	101	石鏃	E－24	Ⅱ	1.7	(1.2)	0.3	0.4
	102	石鏃	G－26	Ⅲa	2.1	1.7	0.3	0.9
	103	石鏃	E－17	Ⅲa	2.0	(1.3)	0.4	0.6
	104	石鏃	I－32	Ⅲb	2.1	1.6	0.5	0.9
	105	石鏃	E－10	—	1.1	(0.9)	0.2	0.2

第32表　出土石器観察表（7）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
278	106	石鏃	H－30	Ⅲb	1.7	1.4	0.4	0.5
	107	石鏃	G－32	Ⅲb	1.8	1.4	0.5	0.7
	108	石鏃	F－38	Ⅲa	1.9	1.6	0.5	1.1
	109	石鏃	I－32	Ⅲb	1.3	1.1	0.2	0.2
	110	石鏃	G－29	Ⅲb	1.6	1.4	0.4	0.6
	111	石鏃	E－37	Ⅲb	1.7	(2.0)	0.7	1.9
	112	石鏃	H－38	Ⅲb	2.1	2.1	0.5	1.2
	113	石鏃	F－35	Ⅲa	1.5	(1.2)	0.3	0.3
	114	石鏃	D－9	Ⅲa	1.5	(1.4)	0.3	0.4
	115	石鏃	H－37	Ⅲa	1.8	(1.6)	0.3	0.4
	116	石鏃	H－32	Ⅲa	2.5	1.6	0.6	1.7
	117	石鏃	G－28	Ⅲb	1.2	1.2	0.3	0.2
	118	石鏃	F－23	Ⅲa	1.4	1.4	0.3	0.4
	119	石鏃	F－35	Ⅲa	(1.6)	(1.3)	0.4	0.5
	120	石鏃	E－39	Ⅲa	(2.4)	1.9	0.8	2.7
	121	石鏃	E－34	Ⅲa	(0.9)	(1.0)	0.3	0.2
	122	石鏃	D－9	Ⅲb	1.3	1.3	0.4	0.4
	123	石鏃	G－38	Ⅶ	1.5	1.3	0.3	0.5
	124	石鏃	E－33	Ⅲb	1.9	1.6	0.4	0.7
	125	石鏃	F－39	Ⅲa	1.3	(1.1)	0.2	0.1
	126	石鏃	E－16	Ⅲa	1.7	(1.4)	0.3	0.5
	127	石鏃	—	—	(2.1)	1.4	0.4	1.0
	128	石鏃	G－32	Ⅲb	1.9	1.5	0.3	0.5
	129	石鏃	—	Ⅰb	(1.7)	1.3	0.3	0.5
	130	石鏃	D－10	Ⅲa	2.2	(1.4)	0.3	0.5
	131	石鏃	F－34	Ⅲa	1.6	(1.2)	0.4	0.5
	132	石鏃	G－32	—	(2.7)	1.5	0.3	0.5
	133	石鏃	F－25	Ⅲa	2.0	(1.3)	0.3	0.5
	134	石鏃	—	表	1.7	(1.5)	0.3	0.5
	135	石鏃	G－32	—	(2.1)	(1.5)	0.3	0.6
	136	石鏃	F－42	Ⅲb	(1.4)	1.6	0.3	0.4
	137	石鏃	H－22	Ⅲa	2.2	(1.3)	0.3	0.5
279	138	石鏃	C－11	Ⅲa	(2.8)	1.1	0.4	1.4
	139	石鏃	G－22	Ⅳ	(1.7)	(1.3)	0.3	1.1
	140	石鏃	I－35	Ⅲb	2.0	1.7	0.5	1.3
	141	石鏃	D－9	Ⅳa	1.2	0.9	0.3	0.2
	142	石鏃	I－34	Ⅲb	2.6	1.8	0.6	2.2
	143	石鏃	H－33	Ⅲb	1.5	1.6	0.4	0.7
	144	石鏃	D－29	Ⅲb	1.9	1.6	0.4	0.6
	145	石鏃	D－24	Ⅳ	(1.4)	(1.1)	0.3	0.2
	146	石鏃	G－39	Ⅴ	(1.8)	(1.5)	0.4	0.7
	147	石鏃	G－36	Ⅲb	1.8	1.4	0.4	0.5
	148	石鏃	G－16	Ⅲb	1.8	(1.3)	0.6	0.7
	149	石鏃	E－37	Ⅲb	1.4	1.1	0.3	0.4
	150	石鏃	F－35	Ⅲb	1.3	1.3	0.4	0.7
	151	石鏃	F－36	Ⅲb	1.5	1.5	0.2	0.3
	152	石鏃	E－26	Ⅲb	1.3	1.4	0.3	0.4
	153	石鏃	D－7	Ⅳa	1.2	1.3	0.4	0.3
	154	石鏃	F－35	Ⅲb	1.3	1.8	0.6	0.7
	155	石鏃	E－27	Ⅲb	1.9	(1.2)	0.4	0.5
	156	石鏃	H－34	Ⅳ	2.2	1.5	0.4	0.9
	157	石鏃	G－38	Ⅲb	1.3	1.3	0.3	0.3
	158	石鏃	E－36	Ⅳ	1.8	1.6	0.5	0.7
	159	石鏃	F－19	Ⅳ	2.0	1.7	0.4	1.4
	160	石鏃	D－7	Ⅳa	1.6	1.2	0.4	0.6
	161	石鏃	E－8	Ⅳa	(1.4)	1.4	0.3	0.4

第33表　出土石器観察表（8）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
279	162	石鏃	C－9	Ⅲa	2.0	2.1	0.3	0.9
	163	石鏃	G－41	Ⅴ	2.4	1.9	0.3	0.9
	164	石鏃	D－4	Ⅲb	1.2	1.5	0.3	0.3
	165	石鏃	G－31	表	(1.5)	(1.3)	0.3	0.4
280	166	石鏃	C－16	Ⅲa	1.7	1.4	0.4	0.5
	167	石鏃	E－27	Ⅲb	1.7	(1.6)	0.3	0.6
	168	石鏃	—	表	2.0	(1.5)	0.4	0.6
	169	石鏃	G－33	Ⅲa	1.6	(1.0)	0.2	0.3
	170	石鏃	F－43	Ⅴ	(1.6)	(1.3)	0.3	0.5
	171	石鏃	F－44	Ⅴ	(2.2)	(1.5)	0.4	1.0
	172	石鏃	F－34	Ⅲa	1.8	(1.6)	0.4	0.8
	173	石鏃	H－29	Ⅲa	1.7	(1.4)	0.3	0.4
	174	石鏃	E－33	Ⅲa	(1.1)	(1.5)	0.3	0.5
	175	石鏃	I－32	Ⅲb	1.7	(1.5)	0.4	0.6
	176	石鏃	D－9	Ⅲa	(1.0)	(1.1)	0.2	0.2
	177	石鏃	F－30	Ⅲb	1.5	(1.0)	0.2	0.2
	178	石鏃	H－35	Ⅳ	1.5	(1.2)	0.2	0.4
	179	石鏃	F－35	Ⅲb	1.6	(1.3)	0.2	0.4
	180	石鏃	C－8	Ⅲa	(1.0)	1.1	0.3	0.2
	181	石鏃	F－35	Ⅲa	1.2	(1.0)	0.2	0.2
	182	石鏃	C－9	Ⅲa	1.2	(1.1)	0.3	0.3
	183	石鏃	E－32	Ⅲb	1.6	1.5	0.2	0.3
	184	石鏃	F－27	Ⅲb	(1.6)	(1.7)	0.3	0.7
	185	石鏃	G－40	Ⅲb	1.4	(1.2)	0.4	0.4
	186	石鏃	E－37	Ⅲa	2.2	(1.5)	0.4	1.0
	187	石鏃	C－10	Ⅲa	1.3	(1.2)	0.3	0.2
	188	石鏃	F－23	Ⅲa	(1.7)	(1.4)	0.4	0.7
	189	石鏃	H－33	Ⅲb	(1.4)	(1.3)	0.3	0.3
	190	石鏃	E－37	Ⅲ	2.0	(1.7)	0.6	1.3
	191	石鏃	G－40	Ⅳ	(2.2)	(1.7)	0.6	2.0
	192	石鏃	E－48	Ⅴ	(1.3)	1.6	0.4	0.6
	193	石鏃	F－30	Ⅲb	1.3	(1.2)	0.3	0.4
	194	石鏃	F－43	Ⅶ	(2.3)	(1.5)	0.3	0.6
	195	石鏃	E－38	Ⅲa	(1.6)	1.6	0.4	0.9
	196	石鏃	F－36	Ⅲa	(2.0)	(1.3)	0.3	0.4
	197	石鏃	H－25	Ⅲb	(1.5)	(1.2)	0.3	0.3
281	198	石鏃	G－35	Ⅲa	(1.7)	(1.0)	0.3	0.4
	199	石鏃	E－24	Ⅱ	(1.8)	(1.7)	0.3	0.6
	200	石鏃	F－44	Ⅴ	(2.2)	(2.4)	0.4	0.7
	201	石鏃	E－38	Ⅲb	1.9	(1.1)	0.3	0.2
	202	石鏃	E－36	Ⅲb	(1.8)	(1.1)	0.3	0.5
	203	石鏃	G－37	Ⅲb	2.1	(1.4)	0.3	0.8
	204	石鏃	F－43	Ⅴ	(2.1)	(1.2)	0.4	0.8
	205	石鏃	F－43	Ⅴ	2.3	(1.6)	0.4	1.0
	206	石鏃	F－43	Ⅶ	(1.9)	(1.3)	0.3	0.5
	207	石鏃	E－28	Ⅲb	1.1	1.6	0.3	0.5
	208	石鏃	F－37	Ⅲb	(1.8)	(1.6)	0.3	0.7
	209	石鏃	G－34	Ⅲb	1.4	(1.4)	0.3	0.4
	210	石鏃	D－7	Ⅳa	2.3	(1.4)	0.6	1.5
	211	石鏃	E－47	Ⅴ	(1.7)	(1.1)	0.3	0.4
	212	石鏃	H－39	Ⅴ	(1.6)	2.2	0.6	1.7
	213	石鏃	G－27	Ⅲa	(1.5)	1.4	0.4	0.8
	214	石鏃	D－6	Ⅳa	(2.0)	1.8	0.4	0.9
	215	石鏃	H－31	Ⅲb	(1.6)	(1.7)	(0.4)	0.9
	216	石鏃	D－9	Ⅳb	(1.7)	(1.9)	0.5	1.1
	217	石鏃	G－32	Ⅲb	(1.7)	(1.2)	0.4	0.5
	218	石鏃	F－32	Ⅲ	(1.7)	1.8	0.4	0.9
	219	石鏃	E－9	Ⅵa	(1.6)	(1.1)	0.2	0.3
	220	石鏃	G－40	Ⅲb	(1.5)	2.2	0.4	1.1

第34表　出土石器観察表（9）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
281	221	石鏃	E－37	Ⅲb	(1.9)	(1.3)	0.4	0.8
	222	石鏃	C－8	Ⅳb	(1.7)	(1.7)	0.5	1.3
	223	石鏃	I－27	Ⅳ	(1.5)	1.9	0.3	0.5
	224	石鏃	F－33	Ⅲb	(1.5)	2.2	0.6	1.3
	225	石鏃	G－26	Ⅲb	(1.3)	1.5	0.3	0.4
	226	石鏃	I－35	Ⅳ	(1.3)	1.7	0.3	0.7
	227	石鏃	H－32	Ⅲb	(1.3)	(1.4)	0.3	0.6
	228	石鏃	I－36	Ⅶa	(1.2)	(0.9)	0.2	0.2
	229	石鏃	D－31	Ⅳ	(1.0)	1.4	0.3	0.8
	230	石鏃	H－32	Ⅲb	(1.3)	(1.3)	0.3	0.5
282	231	石鏃	F－28	Ⅲb	3.3	2.1	0.4	1.7
	232	石鏃	G－32	—	(2.6)	(1.6)	0.4	0.8
	233	石鏃	F－43	Ⅳ	(2.5)	2.1	0.4	1.4
	234	石鏃	I－31	Ⅳ	(2.7)	1.6	0.6	1.5
	235	石鏃	F－16	Ⅲa	(2.3)	1.9	0.3	1.1
	236	石鏃	H－34	Ⅲb	(2.0)	2.2	0.4	1.7
	237	石鏃	F－37	Ⅲb	2.7	(1.9)	0.3	1.0
	238	石鏃	D－6	Ⅳa	(2.5)	1.9	0.6	2.0
	239	石鏃	E－30	Ⅲb	(2.1)	2.3	0.3	1.0
	240	石鏃	J－34	Ⅴ	(3.3)	(2.3)	0.4	2.6
	241	石鏃	F－28	Ⅲa	3.0	(2.0)	0.4	1.3
	242	石鏃	E－10	Ⅲb	(2.5)	(2.0)	0.3	1.0
	243	石鏃	D－24	Ⅴ	2.2	1.7	0.4	1.1
	244	石鏃	E－37	Ⅲb	1.9	1.5	0.3	0.6
	245	石鏃	E－40	Ⅲb	1.9	1.6	0.4	0.7
	246	石鏃	E－36	Ⅳ	(1.6)	(1.2)	0.2	0.2
	247	石鏃	E－38	Ⅲa	2.2	1.7	0.3	0.7
	248	石鏃	E－36	Ⅲb	1.9	1.5	0.3	0.5
	249	石鏃	E－38	Ⅲb	1.7	1.5	0.3	0.6
	250	石鏃	D－8	Ⅲb	(2.0)	1.7	0.5	1.1
	251	石鏃	E－34	Ⅲa	2.3	2.2	0.4	0.9
	252	石鏃	C－13	Ⅲa	2.9	1.3	0.5	1.6
	253	石鏃	D－16	Ⅲa	(1.8)	1.2	0.3	0.4
	254	石鏃	F－39	Ⅳ	1.7	1.3	0.3	0.4
283	255	石鏃	H－21	Ⅲa	(2.0)	(1.6)	0.4	0.8
	256	石鏃	E－38	Ⅲa	2.1	1.6	0.4	0.8
	257	石鏃	G－24	Ⅲa	1.5	(1.7)	0.4	0.5
	258	石鏃	F－36	Ⅲb	1.9	1.4	0.4	0.5
	259	石鏃	F－37	Ⅲa	1.9	1.5	0.6	1.2
	260	石鏃	E－38	Ⅲa	2.3	(1.5)	0.5	0.7
	261	石鏃	F－39	Ⅳ	2.3	1.8	0.4	1.0
	262	石鏃	I－32	Ⅲa	2.6	1.7	0.6	1.7
	263	石鏃	E－30	Ⅳ	(2.3)	(1.9)	0.4	1.3
	264	石鏃	E－38	Ⅳ	1.7	1.1	0.3	0.3
	265	石鏃	F－37	Ⅳ	1.8	1.4	0.3	0.4
	266	石鏃	F－28	Ⅲa	1.6	1.5	0.3	0.7
	267	石鏃	F－43・44	表	2.6	2.1	0.5	1.7
	268	石鏃	I－32	Ⅳ	2.0	1.5	0.4	0.6
	269	石鏃	E－40	Ⅲb	2.1	(1.6)	0.4	0.7
	270	石鏃	E－37	Ⅲa	1.8	(1.4)	0.4	0.6
	271	石鏃	C－2	—	(1.6)	1.7	0.3	0.6
	272	石鏃	F－44	Ⅴ	2.1	1.5	0.4	1.1
	273	石鏃	F－29	Ⅲb	1.8	1.7	0.3	0.4
	274	石鏃	F－38	Ⅲb	2.4	1.5	0.4	0.9
	275	石鏃	F－39	Ⅲa	1.8	1.6	0.3	0.5
	276	石鏃	F－37	Ⅲb	1.7	1.4	0.4	0.4
	277	石鏃	D－23	Ⅲa	1.2	1.5	0.3	0.6
	278	石鏃	G－33	Ⅲb	1.6	1.5	0.3	0.4
	279	石鏃	—	Ⅰb	(1.9)	1.0	0.2	0.2
	280	石鏃	E－37	Ⅲb	1.3	(1.3)	0.4	0.4

第35表　出土石器観察表（10）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
283	281	石鏃	G－39	Ⅴ	(1.4)	(1.5)	0.3	0.4
	282	石鏃	H－38	Ⅶa	1.4	1.5	0.3	0.3
	283	石鏃	F－35	Ⅲa	1.4	1.2	0.3	0.3
	284	石鏃	E－36	Ⅳ	1.3	1.1	0.3	0.3
	285	石鏃	D－26	Ⅲa	1.5	1.3	0.4	0.4
	286	石鏃	E－31	Ⅲb	1.3	1.5	0.3	0.4
284	287	石鏃	C－4	Ⅲa	3.9	2.0	0.5	2.2
	288	石鏃	F－25	Ⅲa	2.4	1.8	0.4	1.2
	289	石鏃	I－32	Ⅲb	2.1	(1.5)	0.3	0.6
	290	石鏃	G－20	Ⅳ	(2.2)	1.6	0.4	0.8
	291	石鏃	G－35	Ⅳ	2.2	1.9	0.4	1.1
	292	石鏃	E－38	Ⅳ	1.9	1.3	0.4	0.7
	293	石鏃	C－6	Ⅳa	2.2	1.8	0.5	1.1
	294	石鏃	F－37	Ⅳ	1.7	1.5	0.3	0.5
	295	石鏃	E－10	住居跡	2.2	1.7	0.3	0.8
	296	石鏃	H－32	Ⅲb	1.7	1.2	0.3	0.4
	297	石鏃	C－7	Ⅳa	1.4	1.2	0.4	0.3
	298	石鏃	I－34	Ⅲb	1.7	1.4	0.3	0.5
	299	石鏃	—	表	(1.7)	1.2	0.3	0.5
	300	石鏃	E－41	Ⅲb	1.6	1.7	0.3	0.6
	301	石鏃	F－40	Ⅲb	1.8	1.6	0.5	0.8
	302	石鏃	G－37	Ⅲb	1.5	1.5	0.3	0.3
	303	石鏃	E－10	Ⅲb	0.1	1.6	0.4	0.6
	304	石鏃	H－35	Ⅲb	1.5	1.3	0.3	0.4
	305	石鏃	D－27	Ⅲa	1.8	1.6	0.4	0.7
	306	石鏃	F－38	Ⅲa	1.6	(1.0)	0.3	0.2
	307	石鏃	E－39	Ⅲa	2.1	1.5	0.4	0.6
	308	石鏃	—	表	(2.3)	1.8	0.4	0.9
	309	石鏃	E－39	Ⅳ	(2.2)	1.7	0.3	0.7
	310	石鏃	I－32	Ⅳ	(1.3)	1.4	0.3	0.4
	311	石鏃	E－36	Ⅲa	2.1	(1.3)	0.3	0.5
	312	石鏃	E－38	Ⅲa	2.2	(1.1)	0.3	0.4
	313	石鏃	D－10	Ⅲa	2.2	(1.4)	0.4	0.7
	314	石鏃	E－38	Ⅲa	1.6	(1.4)	0.3	0.4
	315	石鏃	G－36	Ⅲa	1.5	(1.5)	0.2	0.3
	316	石鏃	H－34	Ⅲb	1.9	(1.5)	0.3	0.5
	317	石鏃	E－40	Ⅳ	1.8	(1.4)	0.3	0.4
	318	石鏃	G－37	Ⅲa	1.9	(1.4)	0.4	0.5
285	319	石鏃	—	表	(1.8)	(1.5)	0.3	0.5
	320	石鏃	E－39	Ⅲb	(2.0)	(1.3)	0.3	0.5
	321	石鏃	E－17	Ⅲa	2.1	(1.6)	0.3	0.7
	322	石鏃	F－32	Ⅲb	1.6	(1.5)	0.3	0.5
	323	石鏃	E－39	Ⅲb	1.7	1.3	0.3	0.5
	324	石鏃	E－16	Ⅲb	2.2	(1.3)	0.5	0.9
	325	石鏃	E－36	Ⅳ	(2.6)	(1.5)	0.4	0.8
	326	石鏃	E－36	Ⅲb	(1.4)	1.3	0.4	0.6
	327	石鏃	F－37	Ⅲb	(1.6)	1.1	0.4	0.5
	328	石鏃	C－17	Ⅲa	2.0	(1.1)	0.3	0.4
	329	石鏃	G－21	Ⅲa	2.2	(1.5)	0.3	0.6
	330	石鏃	E－43	Ⅳ	(2.6)	(1.2)	0.3	0.9
	331	石鏃	G－32	Ⅲb	1.9	(1.3)	0.3	0.5
	332	石鏃	H－33	Ⅲb	(1.2)	1.4	0.3	0.4
	333	石鏃	E－38	Ⅳ	(1.7)	(1.4)	0.3	0.6
	334	石鏃	D－36	Ⅲa	(2.6)	(1.7)	0.5	1.0
	335	石鏃	I－32	Ⅲb	2.0	(1.4)	0.4	0.9
	336	石鏃	E－39	Ⅳ	2.0	(1.7)	0.4	0.9
	337	石鏃	F－40	Ⅲb	1.5	(1.0)	0.3	0.2
	338	石鏃	E－10	Ⅲb	(1.1)	1.5	0.3	0.3
	339	石鏃	G－31	Ⅲb	(1.7)	(1.3)	0.3	0.5
	340	石鏃	F－35	Ⅲb	1.4	1.4	0.3	0.3

第36表　出土石器観察表（11）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
285	341	石鏃	E－38	Ⅲb	1.6	1.4	0.4	0.7
	342	石鏃	D･E－30･35	表	(1.6)	1.2	0.3	0.3
	343	石鏃	E－26	Ⅲa	1.5	1.4	0.2	0.3
	344	石鏃	E－10	Ⅲa	2.0	1.2	0.5	0.8
	345	石鏃	E－41	Ⅲb	1.9	1.8	0.4	0.7
	346	石鏃	G－34	Ⅲa	1.4	(1.4)	0.4	0.4
	347	石鏃	E－33	Ⅲa	2.1	1.5	0.3	0.6
	348	石鏃	F－35	Ⅲb	(1.2)	(1.2)	0.3	0.3
	349	石鏃	E－29	Ⅲa	(1.7)	(1.3)	0.3	0.5
	350	石鏃	E－39	Ⅲ	1.6	(1.3)	0.2	0.3
286	351	石鏃	H－33	表	(2.3)	(1.5)	0.3	0.6
	352	石鏃	G－28	Ⅲa	1.7	(1.3)	0.3	0.3
	353	石鏃	E－35	Ⅲb	1.9	(1.5)	0.3	0.5
	354	石鏃	E－40	Ⅲb	2.2	(1.6)	0.3	0.7
	355	石鏃	F－44	Ⅴ	(2.5)	(1.4)	0.4	0.8
	356	石鏃	H－33	Ⅳ	1.7	(1.3)	0.3	0.5
	357	石鏃	E－38	Ⅲb	(2.3)	(1.3)	0.4	0.5
	358	石鏃	E－38	Ⅲa	1.7	(1.5)	0.4	0.5
	359	石鏃	H－37	Ⅳ	2.1	(1.3)	0.4	0.5
	360	石鏃	F－24	Ⅱ	2.0	(1.3)	0.3	0.6
	361	石鏃	F－38	Ⅲa	1.7	(1.3)	0.3	0.4
	362	石鏃	E－38	Ⅲb	2.0	(1.3)	0.3	0.5
	363	石鏃	H－39	Ⅴ	(2.2)	(1.5)	0.4	0.9
	364	石鏃	E－39	Ⅲb	(2.1)	1.7	0.3	0.8
	365	石鏃	F－38	Ⅳ	(1.7)	(1.3)	0.3	0.4
	366	石鏃	F－39	Ⅲa	(1.7)	(1.5)	(0.3)	0.6
	367	石鏃	G－41	Ⅲb	(2.0)	(1.2)	0.4	0.6
	368	石鏃	I－24	Ⅲb	(2.0)	(1.6)	0.5	0.9
	369	石鏃	F－39	Ⅲa	1.4	(1.4)	0.4	0.4
	370	石鏃	C－9	Ⅳa	(1.3)	1.2	0.3	0.3
	371	石鏃	H－33	Ⅲb	(1.7)	2.0	0.4	1.0
	372	石鏃	F－43	Ⅶ	(1.5)	1.9	0.3	0.7
	373	石鏃	—	表	(1.0)	1.4	0.3	0.3
	374	石鏃	E－26	Ⅲa	(1.9)	(1.5)	0.2	0.4
	375	石鏃	—	表	(1.5)	2.0	0.3	0.9
	376	石鏃	E－17	Ⅳ	(1.4)	1.6	0.3	0.3
	377	石鏃	—	—	(1.4)	1.7	0.5	0.8
	378	石鏃	F－34	Ⅲb	(1.8)	(1.5)	0.4	0.6
	379	石鏃	E－38	Ⅲb	(1.0)	1.9	0.5	0.7
287	380	石鏃	G－31	表	2.5	(2.2)	0.3	1.4
	381	石鏃	F－28	Ⅲb	2.6	1.8	0.3	1.0
	382	石鏃	E－17	Ⅲb	2.6	2.0	0.3	1.0
	383	石鏃	F－26	Ⅲa	(2.5)	1.9	0.5	1.2
	384	石鏃	H－32	Ⅲb	(2.7)	1.5	0.4	1.0
	385	石鏃	G－34	Ⅴ	(2.6)	(2.2)	0.3	1.1
	386	石鏃	C－4	Ⅲa	3.3	(1.6)	0.4	1.2
	387	石鏃	G－28	Ⅲa	2.3	(1.9)	0.3	0.9
	388	石鏃	E－16	Ⅲb	3.3	(2.0)	0.4	1.7
	389	石鏃	F－37	Ⅲa	(2.9)	(2.2)	0.5	1.9
	390	石鏃	F－15	Ⅲa	(2.1)	2.1	0.5	1.7
	391	石鏃	G－37	Ⅲb	(2.3)	2.1	0.4	1.2
	392	石鏃	G－17	Ⅲa	2.6	1.6	0.4	0.7
	393	石鏃	D－29	Ⅲa	1.9	(1.8)	0.4	0.7
	394	石鏃	E－24	Ⅲa	1.6	1.5	0.4	0.5
	395	石鏃	G－34	Ⅲb	1.5	1.5	0.2	0.3
	396	石鏃	I－35	Ⅲa	1.9	1.6	0.3	0.6
	397	石鏃	D－11	Ⅲa	1.9	1.8	0.3	0.6
	398	石鏃	D－9	Ⅲa	1.8	1.4	0.4	0.5
	399	石鏃	D－11	Ⅲb	2.0	1.4	0.3	0.7
	400	石鏃	H－32	Ⅲa	2.5	(1.6)	0.4	0.8

第37表　出土石器観察表（12）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
287	401	石鏃	G－37	Ⅲ	2.1	1.4	0.4	0.7
	402	石鏃	F－38	Ⅳ	1.9	1.6	0.3	0.6
	403	石鏃	E－34	Ⅲa	1.7	(1.4)	0.4	0.6
288	404	石鏃	E－26	Ⅲa	1.9	2.0	0.3	0.6
	405	石鏃	F－31	Ⅲa	1.6	(1.0)	0.3	0.4
	406	石鏃	E－37	Ⅲb	1.4	1.6	0.3	0.3
	407	石鏃	G－21	Ⅳ	1.8	1.7	0.4	0.6
	408	石鏃	H－34	Ⅲb	1.8	1.5	0.3	0.5
	409	石鏃	F－39	Ⅲa	1.7	1.4	0.3	0.5
	410	石鏃	F－38	Ⅳ	1.7	1.6	0.4	0.8
	411	石鏃	D－25	Ⅳ	2.0	1.5	0.2	0.6
	412	石鏃	H－33	Ⅳ	2.3	1.8	0.3	0.9
	413	石鏃	H－32	Ⅳ	1.7	1.3	0.3	0.4
	414	石鏃	G－38	Ⅲb	1.9	1.7	0.5	0.7
	415	石鏃	G－35	Ⅲb	1.7	1.8	0.3	0.4
	416	石鏃	G－35	Ⅳ	2.1	1.6	0.4	0.8
	417	石鏃	E－28	Ⅲa	1.8	1.4	0.2	0.3
	418	石鏃	F－43	Ⅲb	1.8	1.3	0.3	0.4
	419	石鏃	G－34	Ⅲb	1.6	1.3	0.3	0.3
	420	石鏃	H－35	Ⅲa	1.6	1.8	0.3	0.5
	421	石鏃	F－37	Ⅲb	1.8	1.5	0.4	0.5
	422	石鏃	F－36	Ⅲa	1.5	1.5	0.4	0.5
	423	石鏃	D－9	Ⅲa	1.5	1.7	0.5	1.0
	424	石鏃	H－32	Ⅲb	2.1	1.4	0.3	0.9
	425	石鏃	I－34	Ⅲa	1.5	1.2	0.3	0.3
	426	石鏃	G－33	Ⅲa	1.7	1.4	0.3	0.4
	427	石鏃	—	—	1.4	1.3	0.2	0.2
	428	石鏃	F－35	Ⅲa	1.4	1.1	0.4	0.3
	429	石鏃	C－9	Ⅳa	1.2	1.4	0.2	0.2
	430	石鏃	F－25	Ⅲa	(1.3)	(1.4)	0.3	0.4
	431	石鏃	E－34	Ⅲa	(1.7)	1.4	0.3	0.4
	432	石鏃	G－31	Ⅲb	(1.5)	(1.4)	0.4	0.5
	433	石鏃	F－38	Ⅲa	(1.5)	1.4	0.3	0.4
	434	石鏃	F－28	Ⅲb	(1.2)	1.3	0.3	0.3
	435	石鏃	F－38	Ⅲa	(1.9)	1.2	0.4	0.5
289	436	石鏃	F－25	Ⅲa	(2.0)	1.5	0.3	0.7
	437	石鏃	F－32	Ⅲa	(1.6)	1.5	0.4	0.5
	438	石鏃	E－37	Ⅲa	(1.9)	1.6	0.4	0.8
	439	石鏃	H－34	Ⅳ	1.9	2.0	0.4	0.8
	440	石鏃	G－32	Ⅲa	1.6	(1.3)	0.3	0.5
	441	石鏃	F－16	Ⅲb	(2.3)	(1.8)	0.7	1.4
	442	石鏃	G－33	Ⅲa	1.7	(1.6)	0.3	0.5
	443	石鏃	F－39	Ⅲa	2.6	(1.5)	0.4	0.8
	444	石鏃	H－38	Ⅲb	1.8	(1.5)	0.3	0.6
	445	石鏃	I－2	Ⅲb	2.3	(1.7)	0.4	0.8
	446	石鏃	F－15	Ⅲa	2.3	(1.5)	0.3	0.8
	447	石鏃	F－37	Ⅳ	1.9	(1.3)	0.3	0.5
	448	石鏃	E－10	Ⅲa	1.8	(1.5)	0.3	0.5
	449	石鏃	F－36	一括	1.7	(1.2)	0.2	0.4
	450	石鏃	F－36	Ⅳ	1.5	1.2	0.3	0.2
	451	石鏃	E－40	Ⅲb	1.5	(1.4)	0.4	0.6
	452	石鏃	—	表	(2.2)	(1.5)	0.4	0.9
	453	石鏃	F－37	Ⅳ	(2.2)	(1.5)	0.5	1.0
	454	石鏃	—	表	(1.3)	(1.3)	0.4	0.5
	455	石鏃	I－34	Ⅲa	1.5	(1.4)	0.3	0.4
	456	石鏃	E－38	Ⅲa	1.8	(1.4)	0.3	0.6
	457	石鏃	F－42	Ⅳ	(1.3)	(1.2)	0.3	0.3
	458	石鏃	F－36	Ⅳ	1.4	(1.1)	0.3	0.3
	459	石鏃	F－35	Ⅲa	0.9	(1.2)	0.3	0.4
	460	石鏃	E－28	Ⅲb	1.7	(1.3)	0.3	0.5

第38表　出土石器観察表（13）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
289	461	石鏃	E－38	Ⅲa	1.0	1.2	0.3	0.3
	462	石鏃	D－9	Ⅲa	1.5	(1.3)	0.3	0.2
	463	石鏃	E－28	Ⅲb	1.6	(1.2)	0.3	0.3
	464	石鏃	I－32	Ⅲb	1.5	(1.2)	0.3	0.3
	465	石鏃	G－34	Ⅴ	(1.3)	(1.3)	0.2	0.3
	466	石鏃	F－37	Ⅲb	1.8	(1.5)	0.3	0.6
	467	石鏃	—	—	(1.8)	(1.3)	0.3	0.4
290	468	石鏃	H－34	Ⅲb	2.0	(1.6)	0.4	0.8
	469	石鏃	H－31	Ⅲb	1.5	(1.1)	0.3	0.3
	470	石鏃	G－35	Ⅳ	(2.6)	(1.7)	0.6	1.9
	471	石鏃	—	表	1.6	(1.4)	0.3	0.4
	472	石鏃	I－33	Ⅲa	(1.3)	1.7	0.2	0.5
	473	石鏃	C－9	Ⅲb	(1.7)	(1.8)	0.4	0.9
	474	石鏃	D－25	Ⅲa	(1.3)	1.7	0.4	0.5
	475	石鏃	—	表	(1.8)	(1.5)	0.4	1.0
	476	石鏃	H－31	Ⅲa	(1.5)	1.9	0.3	0.7
	477	石鏃	E－26	Ⅲa	(1.3)	1.4	0.3	0.5
	478	石鏃	D－7	Ⅲa	(1.7)	1.7	0.4	0.9
	479	石鏃	F－33	Ⅲb	(1.3)	(1.6)	0.3	0.4
	480	石鏃	F－37	Ⅳ	(1.4)	(1.2)	0.4	0.5
	481	石鏃	F－41	Ⅴ	(2.1)	(1.4)	0.4	0.9
	482	石鏃	E－29	Ⅲb	2.4	(1.3)	0.4	0.8
	483	石鏃	H－40	Ⅳ	2.5	(1.2)	0.4	0.6
	484	石鏃	D－17	Ⅳ	1.4	(1.0)	0.3	0.3
	485	石鏃	F－33	Ⅲb	2.5	(2.0)	0.5	1.6
	486	石鏃	G－21	Ⅳ	3.2	(1.9)	0.3	1.2
	487	石鏃	H－33	Ⅴ	(3.1)	(2.0)	0.4	1.7
	488	石鏃	F－25	Ⅲa	(3.6)	(2.2)	0.8	4.6
	489	石鏃	E－38	Ⅴ	(2.6)	(1.9)	0.5	1.8
	490	石鏃	G－33	Ⅲb	(2.2)	1.6	0.6	1.5
	491	石鏃	E－26	Ⅲa	(2.5)	(1.4)	(0.5)	1.6
	492	石鏃	I－35	Ⅲb	2.9	(1.6)	0.5	1.7
291	493	石鏃	E－43	Ⅴ	(2.6)	(1.5)	0.4	1.8
	494	石鏃	G－27	Ⅲa	(1.9)	(1.6)	0.4	1.6
	495	石鏃	—	—	1.6	(1.3)	0.3	0.5
	496	石鏃	F－34	Ⅶ	(1.7)	(1.6)	0.4	0.6
	497	石鏃	C－12	Ⅲb	(1.6)	(1.3)	0.3	0.5
	498	石鏃	—	表	(2.0)	(1.3)	0.3	0.5
	499	石鏃	E－39	Ⅲb	(1.9)	(1.6)	0.5	1.2
	500	石鏃	F－37	Ⅳ	2.3	(1.2)	0.6	1.1
	501	石鏃	F－35	Ⅲb	(1.2)	(1.1)	0.4	0.4
	502	石鏃	F－38	Ⅲb	(1.6)	(1.3)	0.4	0.6
	503	石鏃	E－39	Ⅲa	(1.6)	(1.4)	0.4	0.5
	504	石鏃	H－33	Ⅳ	(1.3)	(1.4)	0.3	0.3
	505	石鏃	D－7	Ⅲa	(1.4)	(0.9)	0.3	0.2
	506	石鏃	E－37	Ⅲb	(1.7)	(0.9)	0.3	0.3
	507	石鏃	E－44	Ⅳ	(1.6)	(1.6)	0.4	0.7
	508	石鏃	G－35	Ⅲb	(1.4)	(1.1)	0.3	0.3
	509	石鏃	C－7	Ⅳb	(1.3)	(1.1)	0.3	0.3
	510	石鏃	E－40	Ⅲa	(1.3)	(1.2)	0.3	0.3
	511	石鏃	H－34	Ⅲb	(1.8)	(1.2)	0.4	0.5
	512	石鏃	G－29	Ⅲb	1.4	(1.3)	0.3	0.4
	514	石鏃	F－27	Ⅲa	1.3	1.0	0.4	0.4
	515	石鏃	F－14	Ⅳb	(1.8)	(1.5)	0.3	0.8
	516	石鏃	C－9	Ⅳb	(1.7)	(1.4)	0.4	1.0
	517	石鏃	E－38	Ⅲa	1.5	0.8	0.3	0.4
	518	石鏃	G－35	Ⅳ	(1.0)	(1.1)	0.3	0.3
	519	石鏃	E－10	Ⅲb	1.9	1.2	0.5	0.8
	520	石鏃	E－26	Ⅲa	(1.8)	1.3	0.4	0.9
	521	石鏃	D－12	Ⅲb	(1.6)	(1.2)	0.3	0.5

第39表　出土石器観察表（14）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
291	522	石鏃	G－28	Ⅲb	2.1	(1.6)	0.4	1.0
	523	石鏃	H－39	Ⅶa	1.2	1.6	0.5	0.7
292	524	石鏃未製品	E－27	Ⅲb	(2.7)	(1.7)	0.8	2.7
	525	石鏃未製品	F－39	Ⅲb	(3.2)	2.0	0.8	4.3
	526	石鏃未製品	E－10	Ⅲa	2.5	1.8	0.8	2.8
	527	石鏃未製品	G－35	Ⅲb	2.5	(1.8)	0.6	3.2
	528	石鏃未製品	G－39	Ⅳ	(2.5)	(1.6)	0.4	1.3
	529	石鏃未製品	F－43	Ⅴ	(2.2)	(2.9)	0.6	1.6
	530	石鏃未製品	C－7	Ⅳa	1.9	2.1	0.6	2.0
	531	石鏃未製品	E－26	Ⅲa	2.6	(1.5)	0.5	1.6
	532	石鏃未製品	F－43	Ⅴ	2.2	1.7	0.4	1.4
	533	石鏃未製品	F－35	Ⅲa	1.9	1.6	0.5	1.3
	534	石鏃未製品	E－25	Ⅲa	2.0	1.5	0.4	0.9
	535	石鏃未製品	F－37	Ⅳ	1.8	1.6	0.5	1.1
	536	石鏃未製品	F－29	Ⅲb	1.9	1.3	0.3	0.4
	537	石鏃未製品	I－35	Ⅲb	2.2	1.5	0.4	1.0
	538	石鏃未製品	F－47	Ⅶ	2.0	1.8	0.6	1.7
	539	石鏃未製品	E－39	Ⅳ	(1.6)	(1.4)	0.5	0.7
	540	石鏃未製品	F－43	Ⅳ	1.9	(1.3)	0.3	0.5
	541	石鏃未製品	H－36	Ⅳ	2.2	1.5	0.4	0.9
	542	石鏃未製品	G－34	Ⅲb	1.9	1.3	0.3	0.6
	543	石鏃未製品	E－37	Ⅲb	1.5	1.3	0.2	0.5
	544	石鏃未製品	E－40	Ⅲb	(1.8)	(1.2)	0.3	0.6
	545	石鏃未製品	E－38	Ⅲb	(2.0)	(1.2)	(0.3)	0.4
	546	石鏃未製品	E－26	Ⅲa	(1.3)	1.7	0.3	0.8
	547	石鏃未製品	G－32	Ⅲb	1.9	1.0	0.3	0.4
	548	石鏃未製品	G－31	Ⅲb	(2.0)	(1.9)	(0.5)	1.1
293	549	石鏃未製品	J－32	Ⅳ	1.4	1.3	0.4	0.6
	550	石鏃未製品	F－29	Ⅲb	(2.4)	(1.3)	(0.3)	0.7
	551	石鏃未製品	F－43	Ⅶ	(1.5)	(1.5)	0.3	0.6
	552	石鏃未製品	F－29	Ⅲb	(1.5)	1.3	0.3	0.7
	553	石鏃未製品	F－29	Ⅲb	1.3	(1.3)	0.3	0.3
	554	石鏃未製品	E－37	Ⅲa	1.2	1.4	0.4	0.8
	555	石鏃未製品	D－25	Ⅲa	(1.9)	(1.5)	0.4	0.7
	556	石鏃未製品	D－9	Ⅲb	2.2	(1.8)	0.2	0.7
	557	石鏃未製品	G－28	Ⅲb	(2.5)	(1.2)	0.3	0.9
	558	石鏃未製品	F－37	Ⅲb	2.0	(1.7)	0.6	1.2
	559	石鏃未製品	H－37	Ⅲb	(2.1)	(1.4)	0.4	0.8
	560	石鏃未製品	G－31	Ⅲb	2.3	(1.5)	0.5	1.1
	561	石鏃未製品	I－32	Ⅲa	1.4	1.3	0.2	0.3

第40表　出土石器観察表（15）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
294	1	掻器	G－37	Ⅲb	5.5	5.9	1.3	42.7
	2	掻器	G－36	Ⅲb	4.7	6.6	1.7	39.7
	3	掻器	E－9	Ⅲb	4.0	5.2	1.5	29.8
	4	掻器	H－33	Ⅲb	3.0	5.0	1.3	20.5
295	5	掻器	F－21	Ⅲa	2.3	4.2	1.1	12.4
	6	掻器	F－18	Ⅲb	3.4	2.9	1.2	9.0
	7	掻器	F－37	Ⅳ	4.0	3.4	1.0	13.0
	8	掻器	E－40	Ⅲb	1.8	1.9	0.6	2.3
	9	掻器	H－33	Ⅲa	3.8	4.0	0.7	14.3
	10	掻器	H－33	Ⅲb	3.8	3.7	1.4	17.9
	11	掻器	D－10	Ⅲa	5.0	3.6	1.6	21.3
	12	掻器	F－25	Ⅲa	3.6	3.5	1.0	9.8
296	13	掻器	F－43	Ⅳ	2.8	3.2	1.1	10.2
	14	掻器	E－37	Ⅳ	(1.8)	1.3	0.7	1.4
	15	掻器	G－18	Ⅲb	2.3	3.2	0.9	7.9
	16	掻器	E－10	Ⅲb	2.1	2.0	0.8	2.8
	17	掻器	G－33	Ⅲb	2.6	3.6	1.1	10.7
	18	掻器	J－33	Ⅲb	2.6	2.1	0.7	3.5
	19	掻器	G－36	Ⅲb	3.6	4.2	0.9	10.6
	20	掻器	G－29	Ⅲb	3.0	4.3	0.4	9.8
	21	掻器	D－7	Ⅲb	3.4	4.3	0.9	14.2
	22	掻器	F－41	Ⅴ	3.2	3.0	1.4	13.8
297	23	掻器	H－25	Ⅲa	4.9	5.9	2.0	49.1
	24	掻器	D－11	Ⅲa	4.9	5.3	1.4	46.0
	25	掻器	G－31	Ⅲb	4.1	6.5	0.9	28.8
	26	掻器	D－11	Ⅲb	2.4	5.5	0.9	10.5
298	27	掻器	F－17	Ⅲb	4.4	2.7	1.2	13.5
	28	掻器	G－35	Ⅳ	2.3	4.0	0.8	8.0
	29	掻器	H－39	Ⅶa	(1.8)	2.1	0.7	2.2
	30	掻器	F－40	Ⅲb	2.7	2.0	0.5	5.0
	31	掻器	F－40	Ⅴ	2.0	2.1	0.8	2.3
	32	掻器	F－30	Ⅲb	7.1	4.8	1.1	31.5
	33	掻器	G－33	Ⅳb	(2.4)	1.9	0.5	1.9
	34	掻器	G－40	Ⅲa	1.3	1.8	0.2	0.6
	35	掻器	G－34	Ⅳ	(1.8)	(2.3)	0.4	1.9
	1	彫器	D－12	Ⅲa	4.2	1.6	1.1	5.2
	2	彫器	E－37	Ⅲa	3.5	1.4	0.6	3.6
299	1	削器	E－27	Ⅲa	12.4	12.6	4.1	525.0
300	2	削器	F－19	Ⅳ	9.8	13.5	2.5	370.0
301	3	削器	D－16	Ⅲb	11.0	10.7	2.1	240.0
302	4	削器	H－33	Ⅳ	8.3	5.8	0.9	30.0
	5	削器	I－32	Ⅳ	8.1	6.6	1.6	54.4
303	6	削器	F－35	Ⅲb	6.3	7.0	2.0	91.5
	7	削器	F－33	Ⅲb	6.2	5.8	1.9	80.4
	8	削器	F－40	Ⅲa	5.6	5.7	2.1	40.0
304	9	削器	G－33	Ⅲb	5.3	5.4	1.3	30.6
	10	削器	G－37	Ⅲa	3.2	6.3	1.3	29.7
	11	削器	H－25	Ⅲb	7.5	4.7	1.2	44.9
305	12	削器	G－39	Ⅲb	4.9	5.8	1.7	37.4
	13	削器	D－11	横転	5.7	5.1	1.1	40.8
	14	削器	E－38	Ⅲb	5.2	4.9	1.2	38.6
	15	削器	D－25	Ⅲa	4.7	5.8	1.3	29.7
306	16	削器	D－12	—	4.0	5.3	1.6	37.3
	17	削器	G－20	Ⅳ	5.0	3.4	1.3	23.6
	18	削器	F－36	Ⅳ	(3.5)	3.1	1.0	10.7
	19	削器	F－39	Ⅲa	3.6	2.3	1.3	9.3
	20	削器	H－29	Ⅲb	5.0	3.2	1.0	9.5
	21	削器	H－39	Ⅶa	3.3	2.9	1.7	17.8
	22	削器	E－37	Ⅲa	2.5	3.0	1.2	8.7

第41表　出土石器観察表（16）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
307	23	削器	E－35	Ⅲa	6.9	3.7	0.9	21.6
	24	削器	F－38	Ⅳ	5.5	2.7	0.7	15.1
	25	削器	G－33	Ⅲb	5.7	3.3	1.2	16.1
	26	削器	H－34	Ⅲb	4.1	3.5	0.8	12.0
	27	削器	H－36	Ⅲb	4.5	3.9	1.2	18.1
	28	削器	G－31	Ⅲb	5.1	1.8	1.0	6.4
	29	削器	H－31	Ⅳ	4.9	2.9	1.1	16.6
	30	削器	E－47	Ⅴ	5.3	2.6	1.0	11.0
308	31	削器	C－20	Ⅱ	7.2	3.9	0.9	24.6
	32	削器	G－31	Ⅲb	6.8	2.8	1.1	15.6
	33	削器	E－27	Ⅲb	5.1	4.6	0.7	12.6
	34	削器	C－11	Ⅲb	4.5	1.9	1.6	11.8
	35	削器	D－6	Ⅲb	5.1	5.7	1.1	21.1
	36	削器	D－25	Ⅱ	4.7	2.1	1.2	11.1
	37	削器	D－9	Ⅲa	4.9	2.3	1.0	9.3
	38	削器	F－38	Ⅲa	4.3	1.6	0.7	4.1
309	39	削器	D－11	Ⅲa	5.5	2.0	0.8	9.2
	40	削器	I－30	Ⅲb	4.0	2.2	0.8	6.7
	41	削器	H－32	Ⅲa	4.0	1.6	0.6	3.1
	42	削器	G－32	Ⅳ	2.8	1.7	0.4	1.9
	43	削器	F－37	Ⅲa	4.1	2.0	0.8	5.7
	44	削器	F－38	Ⅲb	(5.0)	3.6	0.6	11.7
	45	削器	G－36	Ⅲa	3.8	3.0	1.0	13.4
	46	削器	E－38	Ⅲa	(4.3)	4.0	1.2	21.4
	47	削器	H－27	Ⅲb	3.8	3.2	0.9	8.0
310	48	削器	E－11	Ⅲb	4.8	5.5	0.8	19.2
	49	削器	F－38	Ⅲb	4.1	2.4	1.1	7.6
	50	削器	D－6	Ⅲa	4.7	2.9	1.5	15.1
	51	削器	—	表	4.5	4.2	0.5	11.6
	52	削器	G－29	Ⅲb	5.4	4.5	0.8	14.0
	53	削器	E－32	Ⅲa	4.1	3.6	1.0	14.3
	54	削器	F－35	Ⅲa	(4.3)	3.8	1.0	14.5
	55	削器	H－35	Ⅲb	3.2	3.2	0.8	7.5
311	56	削器	D－7	Ⅲa	5.4	3.0	1.4	17.4
	57	削器	E－36	Ⅲb	4.1	1.8	0.9	4.8
	58	削器	I－35	Ⅲb	4.3	2.2	0.8	6.9
	59	削器	E－39	Ⅲb	4.4	2.1	0.5	4.6
	60	削器	E－37	Ⅲa	3.6	2.5	0.6	6.1
	61	削器	G－35	Ⅲb	(3.5)	2.2	0.4	5.0
	62	削器	H－33	Ⅲb	(2.7)	2.0	0.8	4.5
	63	削器	I－36	Ⅳ	4.0	3.0	0.7	9.6
	64	削器	I－25	Ⅳ	(3.8)	(2.0)	0.8	5.3
	65	削器	F－40	Ⅲa	2.6	2.0	0.5	3.3
	66	削器	G－33	Ⅲb	2.4	1.6	0.4	1.7
	67	削器	E－41	Ⅲb	2.1	1.7	0.3	2.1
	68	削器	E－39	Ⅳ	(1.5)	(1.6)	0.4	1.1
312	69	削器	C－6	Ⅲa	4.9	3.5	1.3	20.6
	70	削器	G－37	Ⅲb	3.2	3.0	0.7	5.3
	71	削器	F－38	Ⅳ	4.4	3.8	0.9	16.1
	72	削器	I－35	Ⅲa	2.3	2.8	0.7	4.3
	73	削器	I－34	Ⅳ	2.2	2.3	0.5	2.3
	74	削器	D－8	Ⅳa	4.8	3.0	1.1	15.0
	75	削器	F－40	Ⅳ	2.6	1.6	0.5	2.6
	76	削器	I－35	Ⅲb	(4.6)	3.2	0.6	5.6
	77	削器	E－38	Ⅲb	2.2	1.7	0.6	1.7
313	78	削器	D－15	Ⅲb	5.2	8.2	1.1	45.8
	79	削器	G－36	Ⅲb	3.9	6.0	1.3	28.7
	80	削器	E－29	Ⅲb	4.7	6.8	1.0	36.0
	81	削器	H－36	Ⅳ	4.1	(5.8)	0.5	12.9

第42表　出土石器観察表（17）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
314	82	削器	H－26	Ⅲb	5.5	4.4	1.2	35.7
	83	削器	H－39	Ⅴ	2.9	2.7	0.7	5.6
	84	削器	H－32	Ⅲb	4.8	5.2	0.9	18.2
	85	削器	H－37	Ⅴ	3.1	1.8	0.7	5.0
	86	削器	E－34	Ⅲa	3.9	4.8	0.7	12.8
	87	削器	F－39	Ⅶa	2.2	2.9	0.3	2.4
	88	削器	H－33	Ⅲb	(2.9)	(4.7)	1.0	10.2
	89	削器	E－40	Ⅲb	1.9	2.9	0.9	4.9
315	90	削器	H－31	Ⅲb	3.6	3.7	1.2	13.8
	91	削器	H－36	Ⅳ	(3.5)	(2.9)	0.6	6.7
	92	削器	G－38	Ⅲb	(3.3)	4.9	1.4	23.1
	93	削器	H－38	Ⅲb	2.0	1.8	0.4	2.0
	94	削器	F－38	Ⅲa	4.2	3.5	0.8	16.8
	95	削器	F－39	Ⅲa	2.1	3.4	0.5	3.9
	96	削器	D－17	Ⅲa	(1.4)	(2.5)	0.4	1.3
	97	削器	E－37	Ⅴ	3.3	3.9	1.4	13.1
	98	削器	D－8	Ⅳa	2.3	3.6	0.6	4.7
316	99	削器	H－33	Ⅲb	2.7	6.4	1.0	12.1
	100	削器	H－33	Ⅲa	0.1	5.0	0.9	10.0
	101	削器	E－38	Ⅳ	2.1	1.3	0.3	0.9
	102	削器	E－36	Ⅳ	1.4	2.1	0.5	0.9
	103	削器	E－34	Ⅲb	3.8	(4.3)	0.8	14.5
	104	削器	H－37	Ⅳ	1.1	1.5	0.2	0.5
	105	削器	F－25	Ⅲa	2.3	3.5	0.6	3.9
	106	削器	H－39	Ⅳ	2.9	2.0	0.5	3.6
	107	削器	F－36	Ⅲb	2.3	1.7	0.7	3.1
	108	削器	E－34	Ⅲa	2.3	3.6	1.1	7.2
	109	削器	H－40	Ⅴ	(1.6)	(2.2)	0.3	1.0
317	110	削器	E－17	Ⅳ	6.3	5.2	1.6	35.0
	111	削器	E－9	Ⅲb	2.7	3.2	0.8	4.5
	112	削器	G－35	Ⅲb	2.5	2.1	0.7	3.7
	1	石錐	G－33	Ⅲb	4.2	2.7	0.7	4.4
	2	石錐	G－31	Ⅲb	3.0	2.0	0.6	2.5
	3	石錐	G－34	Ⅲb	(3.2)	(1.4)	5.5	2.2
	4	石錐	H－32	Ⅲb	2.6	2.1	0.6	2.4
	5	石錐	I－34	Ⅲa	(2.7)	2.0	0.6	2.3
	6	石錐	F－17	Ⅲa	2.7	1.9	1.1	3.6
	7	石錐	E－37	Ⅲb	(3.0)	1.1	0.4	1.0
	8	石錐	G－24	Ⅲa	1.9	1.4	0.7	1.4
	9	石錐	E－24	Ⅲa	2.4	1.3	0.6	1.6
	10	石錐	F－36	Ⅲb	2.8	2.0	0.7	2.9
318	11	石錐	I－33	表	6.4	3.8	1.0	2.5
	12	石錐	—	表	(5.2)	3.4	1.0	16.6
	13	石錐	F－33	Ⅲb	4.6	3.1	1.2	11.3
	14	石錐	E－40	Ⅳ	4.5	1.4	1.0	3.3
	15	石錐	E－28	Ⅲb	3.0	1.2	0.7	2.3
319	1	石匙	G－26	Ⅲa	12.0	6.3	2.0	142.0
	2	石匙	F－37	Ⅲa	(8.9)	(5.0)	1.0	48.2
320	3	石匙	I－29	Ⅲb	9.2	4.6	(1.7)	66.0
	4	石匙	F－38	Ⅳ	5.4	4.1	1.7	32.0
	5	石匙	C－10	Ⅲb	6.4	3.4	1.2	22.4
	6	石匙	D－11	Ⅲa	4.6	3.6	1.1	18.0

第43表　出土石器観察表（18）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
321	1	楔形石器	G－42	Ⅰb	3.8	3.4	1.5	20.7
	2	楔形石器	G－28	Ⅲa	2.3	2.7	1.5	10.6
	3	楔形石器	G－42	Ⅰ	3.5	4.0	2.2	29.6
	4	楔形石器	F－37	Ⅳ	2.9	2.8	1.3	11.2
	5	楔形石器	F－34	Ⅲa	2.6	2.6	1.8	10.2
	6	楔形石器	G－39	Ⅲb	2.8	2.8	1.5	11.3
	7	楔形石器	E－38	Ⅲa	2.5	2.2	0.9	5.3
	8	楔形石器	F－30	Ⅳ	2.8	(2.0)	0.7	4.3
	9	楔形石器	F－43	Ⅴ	1.9	2.2	0.7	3.0
	10	楔形石器	E－39	Ⅲb	(2.3)	1.5	0.5	1.9
	11	楔形石器	E－37	Ⅲa	2.0	2.3	0.8	2.9
	12	楔形石器	H－32	Ⅲb	1.9	1.9	0.6	2.2
	13	楔形石器	E－37	Ⅲa	2.1	2.1	1.0	3.7
	14	楔形石器	H－33	Ⅲb	1.8	1.9	0.5	2.0
322	15	楔形石器	E－36	Ⅲa	2.4	2.1	0.7	3.4
	16	楔形石器	E－37	Ⅲb	2.3	1.8	0.9	3.5
	17	楔形石器	F－37	Ⅴ	2.4	2.0	1.0	4.7
	18	楔形石器	G－37	Ⅲ	1.7	2.1	0.7	2.3
	19	楔形石器	H－36	Ⅲb	2.1	2.3	1.0	4.6
	20	楔形石器	E－35	Ⅲb	2.9	1.8	0.4	2.4
	21	楔形石器	H－33	Ⅲa	2.5	2.0	0.7	4.7
	22	楔形石器	F－39	Ⅲa	2.0	1.7	0.7	2.2
	23	楔形石器	H－36	Ⅲb	2.2	2.0	0.7	3.0
	24	楔形石器	H－38	Ⅲb	2.0	2.1	1.0	3.7
	25	楔形石器	H－36	Ⅳ	1.1	1.5	0.4	0.7
	1	小型両面調整石器	D－28	Ⅲa	(3.4)	(2.6)	1.0	10.8
	2	小型両面調整石器	—	—	2.0	1.7	0.5	1.6
	3	小型両面調整石器	E－38	Ⅳ	1.4	1.0	0.5	0.7
323	1	石鋸	G－36	溝中	5.7	5.1	0.7	31.0
	1	刃角状石器	C－4	Ⅲa	13.8	5.2	1.6	141.0
	1	石鎌	E－33	Ⅲa	4.3	7.5	1.4	44.4
	2	石鎌	F－28	Ⅲb	(6.5)	(3.7)	1.8	49.9
324	1	礫器	F－43	Ⅳ	16.0	12.1	3.2	630.0
325	2	礫器	G－21	Ⅲb	15.4	12.0	1.7	380.0
326	3	礫器	F－46	Ⅲa	(11.3)	9.1	2.4	370.0
327	4	礫器	D－15	Ⅲb	13.5	11.4	2.1	420.0
328	5	礫器	H－33	—	(8.9)	(9.5)	1.0	110.0
	6	礫器	H－32	Ⅲa	11.6	7.2	1.3	127.9
329	7	礫器	E－32	Ⅲb	(11.6)	7.9	1.6	185.0
	8	礫器	Ⅰ－24	Ⅲb	11.0	7.4	1.8	200.0
330	9	礫器	—	Ⅴ	8.0	6.0	1.2	75.3
	10	礫器	D－20	Ⅲa	(9.2)	(7.4)	3.2	330.0
331	11	礫器	H－35	Ⅲa	7.7	6.5	1.9	102.1
	12	礫器	E－38	Ⅳ	(5.5)	(6.0)	1.7	54.3
	13	礫器	C－17	Ⅲa	(3.8)	(6.7)	1.1	35.0
332	1	異形石器	D－15	溝	6.7	2.8	1.1	5.1
	1	セン孔礫	H－39	Ⅴ	3.4	1.5	2.1	8.2
333	1	磨製石包丁未製品	E－36	溝	3.4	4.3	0.5	8.3

第44表　出土石器観察表（19）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
334	1	加工痕・使用痕剥片	H－34	Ⅲb	5.3	7.5	1.4	58.6
	2	加工痕・使用痕剥片	H－38	Ⅳ	9.0	5.0	0.7	17.2
	3	加工痕・使用痕剥片	F－39	Ⅲb	2.7	3.4	0.8	6.4
335	4	加工痕・使用痕剥片	—	表	8.0	4.4	2.3	72.3
	5	加工痕・使用痕剥片	H－29	Ⅲa	7.2	4.6	0.5	18.0
	6	加工痕・使用痕剥片	H－35	Ⅲb	2.9	4.9	1.2	11.1
	7	加工痕・使用痕剥片	G－33	Ⅲb	3.1	6.5	1.9	38.6
336	8	加工痕・使用痕剥片	D－9	Ⅲa	3.9	6.2	1.3	29.2
	9	加工痕・使用痕剥片	E－37	Ⅳ	4.1	5.1	0.9	16.2
	10	加工痕・使用痕剥片	I－35	Ⅴ	4.6	2.6	0.6	9.4
	11	加工痕・使用痕剥片	E－42	Ⅲa	3.2	2.7	1.5	11.2
	12	加工痕・使用痕剥片	G－23	Ⅲa	4.4	2.9	0.9	12.1
	13	加工痕・使用痕剥片	E－31	Ⅳ	2.7	2.3	1.1	6.7
	14	加工痕・使用痕剥片	D－7	Ⅲa	3.5	3.5	0.7	9.9
	15	加工痕・使用痕剥片	H－31	Ⅲa	2.0	3.6	0.9	5.5
	16	加工痕・使用痕剥片	E－29	Ⅲa	2.2	2.9	0.3	3.4
	17	加工痕・使用痕剥片	I－35	Ⅲb	2.3	2.8	0.7	3.6
337	18	加工痕・使用痕剥片	F－26	Ⅲb	(2.3)	(2.7)	0.8	3.5
	19	加工痕・使用痕剥片	H－39	Ⅶa	1.8	1.8	0.5	1.7
	20	加工痕・使用痕剥片	I－34	Ⅳ	2.3	2.5	0.5	3.4
	21	加工痕・使用痕剥片	E－36	Ⅲ	1.8	2.6	0.6	3.7
	22	加工痕・使用痕剥片	H－39	Ⅳ	(1.7)	(1.5)	0.5	1.4
	23	加工痕・使用痕剥片	E－39	Ⅲb	2.2	1.7	0.5	1.1
	24	加工痕・使用痕剥片	H－38	Ⅳ	(1.9)	(1.9)	0.6	2.2
	25	加工痕・使用痕剥片	H－36	Ⅲb	2.1	2.0	0.4	1.6
	26	加工痕・使用痕剥片	F－24	Ⅱ	1.3	2.3	0.5	1.5
	27	加工痕・使用痕剥片	E－39	Ⅳ	1.9	1.9	0.5	1.6
	28	加工痕・使用痕剥片	H－35	Ⅲa	2.3	2.2	0.7	3.1
	29	加工痕・使用痕剥片	D－7	Ⅲb	2.8	0.9	0.5	1.7
	30	加工痕・使用痕剥片	I－35	Ⅲb	(1.8)	(1.3)	0.4	0.8
	31	加工痕・使用痕剥片	F－41	Ⅴ	0.9	0.5	0.1	0.1
338	1	石核	E－38	Ⅲb	4.9	1.9	3.6	51.4
	2	石核	G－40	Ⅲb	4.7	3.9	2.5	39.6
	3	石核	C－6	Ⅲb	5.1	3.1	1.6	23.1
	4	石核	F－42	Ⅳ	4.3	2.1	1.4	13.3
	5	石核	E－10	Ⅲb	2.2	2.8	1.2	9.6
	6	石核	E－25	Ⅲa	1.9	2.9	1.3	8.8
	7	石核	F－44	Ⅴ	2.9	2.7	1.2	6.5
339	8	石核	F－39	Ⅲb	2.5	3.9	3.1	36.5
	9	石核	F－38	Ⅲb	2.3	3.7	2.1	25.7
	10	石核	E－38	Ⅲb	1.8	4.0	2.1	15.6
	11	石核	F－38	Ⅲa	4.8	3.7	4.2	34.2
	12	石核	F－24	Ⅲa	2.2	3.7	1.3	14.0
	13	石核	G－24	Ⅱ	1.5	2.6	1.4	6.5
	14	石核	E－44	Ⅴ	3.8	3.8	2.7	56.8
340	15	石核	F－39	Ⅲa	4.4	3.8	3.0	71.4
	16	石核	E－29	Ⅲa	2.8	6.0	5.0	84.0
	17	石核	G－39	Ⅴ	2.4	3.3	3.3	19.7
341	18	石核	H－38	Ⅴ	4.8	7.0	8.3	315.5
342	19	石核	I－31	Ⅲb	8.6	8.0	5.4	470.0
343	20	石核	F－33	Ⅲb	6.4	6.5	4.0	194.1
344	21	石核	H－37	Ⅲa	3.4	7.2	2.7	50.0
	22	石核	C－13	Ⅲa	3.3	3.4	2.3	28.2

第45表　出土石器観察表（20）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
345	23	石核	E－26	Ⅲa	2.9	4.8	2.7	90.0
	24	石核	F－41	Ⅲa	3.1	3.5	3.1	31.8
	25	石核	E－23	Ⅳ	3.4	4.3	2.5	36.0
346	26	石核	D－12	Ⅳa	4.8	4.5	5.8	150.0
	27	石核	D－9	Ⅲa	2.7	3.5	2.0	22.4
347	28	石核	F－47	Ⅶ	3.8	4.6	3.2	68.3
	29	石核	H－18	Ⅲa	4.3	3.4	2.1	20.6
	30	石核	D－10	Ⅲa	3.0	4.4	1.9	28.8
348	31	石核	G－40	Ⅴ	2.6	3.3	3.2	35.1
	32	石核	E－44	Ⅴ	2.2	2.9	3.2	24.5
	33	石核	C－5	Ⅲb	2.2	3.5	1.7	14.6
349	34	石核	G－36	Ⅲb	2.3	2.2	2.7	10.6
	35	石核	F－37	Ⅶa	1.8	3.2	2.8	17.2
	36	石核	H－33	Ⅲa	2.3	2.9	2.1	15.0
	37	石核	F－44	Ⅴ	2.5	2.9	2.3	19.0
	38	石核	G－39	Ⅲa	2.4	2.4	2.1	10.1
350	39	石核	H－19	Ⅲa	5.9	4.7	2.9	97.8
	40	石核	F－47	Ⅴ	2.4	3.6	2.2	29.4
	41	石核	E－39	Ⅲb	3.8	4.4	3.8	67.5
351	42	石核	F－33	Ⅲb	1.9	1.7	2.7	8.9
	43	石核	E－34	Ⅲa	2.5	2.2	2.3	18.9
	44	石核	C－8	Ⅳb	2.5	3.2	3.2	24.9
	45	石核	G－38	Ⅲa	1.8	3.3	1.5	8.5
	46	石核	E－33	Ⅳ	2.6	3.3	1.7	14.8
352	47	石核	D－10	Ⅲa	2.3	2.8	1.8	11.1
	48	石核	E－40	Ⅲb	2.1	4.3	1.7	19.7
	49	石核	F－30	Ⅶ	2.6	2.6	1.6	14.3
	50	石核	E－42	Ⅳ	2.0	3.1	1.7	8.1
	51	石核	G－24	Ⅲa	2.7	3.0	1.8	11.8
	52	石核	F－40	Ⅳ	1.9	2.8	1.5	7.9
353	53	石核	F－31	Ⅲa	2.5	2.4	2.5	16.3
	54	石核	—	表	2.3	1.6	2.0	7.5
	55	石核	D－29	Ⅲa	3.1	6.4	2.4	49.4
	56	石核	D－8	Ⅲa	5.0	4.1	3.9	108.7
354	57	石核	D－7	Ⅲb	2.2	3.6	1.5	11.8
	58	石核	E－41	Ⅲb	2.1	3.6	1.3	13.8
	59	石核	F－41	Ⅲb	2.5	3.6	1.9	20.7
	60	石核	E－37	Ⅲa	2.1	3.3	1.8	16.4
	61	石核	D－9	Ⅳa	3.3	3.1	1.6	21.0
	62	石核	F－40	Ⅴ	(2.3)	(3.1)	(1.8)	14.6
	63	石核	F－35	Ⅲb	1.6	2.6	2.2	10.8
	64	石核	F－37	Ⅲa	2.5	2.1	1.8	11.4
355	65	石核	F－39	Ⅲa	2.7	6.4	2.4	46.5
	66	石核	E－37	Ⅲa	2.7	3.7	2.9	26.1
	67	石核	F－35	Ⅸ	1.8	2.3	1.1	4.6
	68	石核	D－7	Ⅲb	2.0	3.5	1.3	10.3
	69	石核	F－40	Ⅴ	1.8	3.5	2.1	9.7
	70	石核	C－9	Ⅲa	1.9	2.4	1.1	5.9
356	71	石核	F－39	Ⅲa	4.9	5.2	3.2	104.8
	72	石核	D－6	Ⅲb	2.6	3.6	1.6	14.8
	73	石核	H－30	Ⅴ	2.2	2.4	2.2	13.9
	74	石核	E－44	Ⅴ	2.1	3.1	2.2	22.4
	75	石核	F－44	Ⅴ	2.4	4.6	2.7	33.4
	76	石核	E－38	Ⅲb	3.8	4.2	2.0	39.1
	77	石核	C－9	Ⅲa	3.1	4.4	2.7	31.1

第46表　出土石器観察表（21）

挿図	番号	器　種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
357	78	石核	E－32	Ⅲb	2.1	3.4	3.6	36.0
	79	石核	E－39	Ⅲa	4.4	4.7	3.2	60.0
358	80	石核	H－38	Ⅴ	3.2	3.6	2.3	27.8
	81	石核	F－37	Ⅲa	3.7	2.9	2.1	22.4
	82	石核	F－37	Ⅲb	2.9	3.5	2.4	21.8
	83	石核	F－30	Ⅶ	2.0	3.2	1.2	8.2
	84	石核	F－35	Ⅶa	2.7	2.5	1.5	9.4
359	85	石核	E－40	Ⅲb	2.3	5.1	2.3	35.5
	86	石核	G－43	Ⅶa	3.4	2.7	1.9	22.2
	87	石核	F－38	Ⅲa	2.1	3.0	1.7	12.5
	88	石核	D－25	Ⅲa	2.2	3.3	0.9	9.1
	89	石核	E－28	Ⅲb	1.6	2.0	1.8	5.5
360	90	石核	E－38	Ⅲa	6.6	4.9	2.8	90.0
	91	石核	E－8	Ⅲb	3.4	2.9	1.8	18.1
	92	石核	D－25	Ⅲb	3.7	3.6	1.5	25.4
	93	石核	F－33	Ⅲa	2.3	3.1	1.6	10.1
	94	石核	E－14	Ⅲa	3.3	2.3	1.4	10.1
	95	石核	E－47	Ⅲb	3.4	3.3	2.0	22.1
	96	石核	D－9	Ⅲb	2.9	3.0	1.5	11.7
361	97	石核	D－8	Ⅲb	5.1	4.7	1.7	41.1
	98	石核	D－25	Ⅲa	4.5	3.7	2.1	29.7
	99	石核	D－8	Ⅲa	5.4	3.3	2.1	30.3
	100	石核	D－7	Ⅲa	3.8	3.0	2.1	23.3
	101	石核	E－41	Ⅲb	3.4	3.5	2.1	23.1
362	1	三角壔形石製品	—	—	9.9	5.6	6.4	450.0

第47表　出土石器観察表（22）

挿図	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
369	1	砥石	E－36	Ⅲa	安山岩	9.5	5.0	3.0	210.0	
	2	砥石	G－35	Ⅲa	安山岩	9.0	3.4	2.3	135.0	
	3	砥石	E－28	Ⅲb	安山岩	7.8	8.9	4.5	451.0	
	4	砥石	F－38	Ⅲb	安山岩	9.4	4.7	2.7	162.0	
	5	砥石	F－27	Ⅲa	粘板岩	5.1	2.8	0.5	12.3	
	6	砥石	J－33	Ⅲa	頁岩	1.9	2.5	0.4	2.8	提砥
370	1	石皿	E－34	Ⅲa	安山岩	22.8	15.8	6.5	2600	
	2	石皿	H－20	Ⅲa	砂岩	18.3	10.0	6.2	1200	
	3	石皿	F－34	Ⅲa	安山岩	22.1	24.6	6.7	4800	
	4	石皿	F－31	Ⅲa	砂岩	15.7	13.0	3.5	800.0	
	5	石皿	E－17	Ⅲb	砂岩	16.2	10.0	4.8	1000	
	6	石皿	G－34	Ⅲb	安山岩	16.3	9.6	4.5	1400	
371	7	石皿	C－7	Ⅲb	砂岩	44.7	25.6	15.5	31700	完形
	8	石皿	F－28	Ⅲb	安山岩	26.6	23.5	4.7	4600	
372	9	石皿	H－34	Ⅲb	安山岩	27.6	39.8	10.9	14200	
	10	石皿	H－36	Ⅲb	安山岩	33.0	30.7	8.5	11400	
373	11	石皿	G－33	Ⅲb	安山岩	30.4	39.0	5.3	10400	
	12	石皿	G－35	Ⅲb	安山岩	38.0	26.1	10.2	10600	
	13	石皿	E－29	Ⅲb	安山岩	12.4	10.1	4.2	780	
374	14	石皿	G－37	Ⅲb	安山岩	28.3	32.0	4.4	5400	完形
	15	石皿	I－33	Ⅲb	安山岩	41.8	21.7	5.1	7200	
	16	石皿	G－31	Ⅲb	安山岩	20.1	20.0	4.6	2310	
375	17	石皿	H－36	Ⅲb	安山岩	35.0	19.5	10.0	8200	
	18	石皿	G－34	Ⅲb	安山岩	24.8	17.6	6.5	4800	
	19	台石	G－37	Ⅲb	安山岩	24.1	17.5	13.5	7600	
376	20	石皿	G－36	Ⅲb	安山岩	25.6	23.0	4.7	3895	
	21	石皿	H－34	Ⅲb	安山岩	25.7	20.4	5.8	4800	
	22	石皿	H－36	Ⅲb	安山岩	29.3	25.0	4.5	4400	
	23	台石	G－35	Ⅳ	安山岩	20.3	10.8	8.4	2600	
377	24	石皿	E－27	Ⅳ	砂岩	55.0	35.0	9.0	20400	
378	1	磨石	G－37	Ⅱ	砂岩	8.5	7.0	3.8	305.5	
	2	磨石	F－34	Ⅲa	砂岩	10.2	7.5	3.9	466.0	
	3	磨石	I－33	Ⅲa	安山岩	11.0	7.7	4.7	590.0	
	4	磨石	E－9	Ⅲa	砂岩	8.9	4.9	3.5	206.0	
	5	磨石	F－34	Ⅲa	砂岩	10.5	9.6	4.5	172.0	
	6	磨石	F－38	Ⅲa	安山岩	6.3	5.1	2.7	136.0	
	7	磨石	E－38	Ⅲa	安山岩	8.1	7.1	2.1	220.0	
	8	磨石	F－39	Ⅲa	安山岩	11.0	7.0	4.2	492.0	
379	9	磨石	F－38	Ⅲa	安山岩	11.0	8.0	5.2	670.0	
	10	磨石	G－36	Ⅲa	安山岩	6.9	5.4	3.4	191.0	
	11	磨石	F－40	Ⅲa	砂岩	8.0	7.0	3.5	309.0	
	12	磨石	E－10	Ⅲa	砂岩	9.2	7.4	3.5	340.0	
	13	磨石	E－37	Ⅲa	安山岩	6.8	5.2	2.7	121.0	
	14	磨石	F－34	Ⅲa	安山岩	10.8	9.4	4.2	690.0	
	15	磨石	G－38	Ⅲa	砂岩	9.8	9.4	5.5	805.0	
	16	磨石	F－39	Ⅲa	安山岩	6.2	4.7	2.8	110.1	
380	17	磨石	E－39	Ⅲa	安山岩	10.8	5.3	3.8	265.0	
	18	磨石	E－37	Ⅲa	安山岩	5.5	5.3	3.3	139.0	
	19	磨石	F－39	Ⅲa	安山岩	7.7	5.7	3.2	193.0	
	20	磨石	G－36	Ⅲa	安山岩	10.4	8.1	4.8	595.0	
	21	磨石	F－37	Ⅲ	安山岩	11.7	8.9	4.6	660.0	
	22	磨石	G－25	Ⅲa	砂岩	4.1	3.8	2.9	66.8	
	23	磨石	H－39	Ⅲa	安山岩	9.2	8.0	2.7	310.0	
	24	磨石	I－34	Ⅲa	安山岩	9.0	7.2	4.0	376.0	
	25	磨石	E－39	Ⅲa	安山岩	7.0	5.5	4.7	219.0	
381	26	磨石	F－35	Ⅲa	砂岩	9.6	8.9	3.9	550.0	
	27	磨石	E－37	Ⅲb	安山岩	8.0	5.2	3.9	222.0	
	28	磨石	E－36	Ⅲb	安山岩	9.9	7.7	3.1	361.0	
	29	磨石	E－36	Ⅲb	安山岩	14.4	7.9	4.0	641.0	
	30	磨石	H－31	Ⅲb	安山岩	11.8	9.8	4.3	825.0	
	31	磨石	E－34	Ⅲb	安山岩	9.2	3.8	2.8	144.0	
	32	磨石	E－27	Ⅲb	安山岩	11.3	8.1	3.1	420.0	

第48表　出土石器観察表（23）

挿図	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
382	33	磨石	H－34	Ⅲb	安山岩	10.1	9.6	5.8	795.0	
	34	磨石	F－39	Ⅲb	砂岩	5.7	5.5	3.4	155.0	
	35	磨石	F－39	Ⅲb	安山岩	6.8	5.4	4.0	171.0	
	36	磨石	E－39	Ⅲb	安山岩	12.5	8.1	6.5	710.0	
	37	磨石	G－25	Ⅲb	安山岩	14.3	9.7	7.0	1474.0	
	38	磨石	F－30	Ⅲb	砂岩	6.8	5.2	2.5	121.0	
	39	磨石	G－25	Ⅲb	安山岩	9.5	6.7	3.6	384.0	
383	40	磨石	G－32	Ⅲb	安山岩	11.1	9.7	5.0	828.0	
	41	磨石	F－38	Ⅲb	砂岩	7.3	5.1	3.2	161.0	
	42	磨石	D－28	Ⅲb	安山岩	11.3	10.5	5.5	897.0	
	43	磨石	G－20	Ⅲb	安山岩	10.2	8.4	4.1	538.0	
	44	磨石	F－33	Ⅲb	安山岩	14.0	11.8	3.8	705.0	
384	45	磨石	F－40	Ⅲb	安山岩	12.7	10.1	5.7	959.0	
	46	磨石	E－28	Ⅲb	砂岩	9.7	8.6	4.4	555.0	
	47	磨石	J－33	Ⅲb	安山岩	9.5	9.3	6.2	855.0	
	48	磨石	E－28	Ⅲb	安山岩	8.7	7.5	4.5	590.0	
	49	磨石	I－34	Ⅲb	安山岩	10.8	7.7	5.4	664.0	
385	50	磨石	E－28	Ⅲb	砂岩	12.7	8.4	4.7	752.0	
	51	磨石	E－37	Ⅲb	安山岩	8.5	7.5	4.5	375.0	
	52	磨石	H－34	Ⅲb	安山岩	7.6	8.5	5.6	610.0	
	53	磨石	I－35	Ⅲb	安山岩	11.1	10.2	5.8	998.0	
386	54	磨石	E－32	Ⅲb	砂岩	10.6	8.2	6.7	829.0	
	55	磨石	I－35	Ⅲb	安山岩	10.0	9.6	5.1	731.0	
	56	磨石	E－33	Ⅲb	安山岩	9.6	8.7	5.6	697.0	
	57	磨石	G－39	Ⅲb	砂岩	8.9	6.2	5.0	355.0	
	58	磨石	H－34	Ⅲb	安山岩	10.8	8.0	5.4	775.0	
387	59	磨石	H－22	Ⅲb	砂岩	10.8	8.7	4.6	600.0	
	60	磨石	F－40	Ⅳ	安山岩	8.7	5.3	1.8	148.0	
	61	磨石	I－33	Ⅲb	安山岩	11.0	9.1	5.3	680.0	
	62	磨石	F－29	Ⅲb	安山岩	9.1	9.3	5.0	670.0	
	63	磨石	I－26	Ⅳ	安山岩	11.8	10.4	4.9	945.0	
388	64	磨石	I－33	Ⅳ	安山岩	13.6	9.9	4.6	889.0	
	65	磨石	E－39	Ⅳ	安山岩	9.4	6.2	4.0	293.0	
	66	磨石	F－37	Ⅳ	安山岩	9.0	9.1	4.1	516.0	
	67	磨石	E－39	Ⅳ	安山岩	8.4	8.0	3.3	190.0	
	68	磨石	G－40	Ⅳ	安山岩	13.0	9.9	5.6	1100.0	
389	69	磨石	H－39	Ⅳ	安山岩	10.3	6.1	3.4	237.0	
	70	磨石	E－31	Ⅳ	安山岩	10.4	8.3	4.9	614.0	
	71	磨石	C－9	Ⅳb	安山岩	9.3	7.2	4.4	413.0	
	72	磨石	D－24	Ⅳ	安山岩	7.2	7.4	2.2	180.0	
	73	磨石	E－21	Ⅳ	安山岩	8.0	7.9	4.3	285.0	
	74	磨石	G－26	Ⅳ	安山岩	8.6	7.4	3.8	373.0	
	75	磨石	D－9	Ⅳ	安山岩	10.5	9.0	4.0	585.0	
390	76	磨石	G－40	Ⅴ	砂岩	8.3	5.1	5.1	577.0	
	77	磨石	F－30	Ⅴ	安山岩	10.3	8.0	5.0	630.0	
	78	磨石	H－30	Ⅴ	安山岩	8.5	6.8	3.3	305.0	
	79	磨石	E－36	溝中	安山岩	8.9	9.0	5.8	710.0	溝遺構埋土内
	80	磨石	F－43	Ⅰ	砂岩	6.1	5.1	4.4	184.0	
	81	磨石	F－36	溝中	安山岩	11.3	8.8	4.8	649.0	溝遺構埋土内
391	82	磨石	E－29	Ⅲa	砂岩	11.5	8.7	4.5	710.0	
	83	磨石	F－34	Ⅲa	安山岩	6.0	5.6	3.3	145.0	
	84	磨石	E－31	Ⅲa	安山岩	9.0	7.6	4.2	426.0	
	85	磨石	E－34	Ⅲa	安山岩	8.1	4.8	3.1	205.0	
	86	磨石	H－26	Ⅲa	安山岩	10.9	9.2	5.4	866.0	
	87	磨石	D－28	Ⅲb	安山岩	7.4	5.7	3.1	209.5	
	88	磨石	F－20	Ⅲa	砂岩	6.3	14.8	5.3	470.0	
392	89	磨石	F－47	Ⅲa	安山岩	10.0	8.8	6.4	780.0	
	90	磨石	—	Ⅰ	砂岩	6.7	5.0	3.4	150.2	
	91	磨石	E－22	Ⅲa	安山岩	8.6	7.1	4.5	360.0	
	92	磨石	H－37	Ⅲb	安山岩	9.0	8.1	4.9	526.0	
	93	磨石	C－7	Ⅲb	砂岩	13.0	12.6	6.2	1508.0	
	94	磨石	E－29	Ⅲa	砂岩	10.1	6.2	2.5	240.0	

第49表　出土石器観察表（24）

挿図	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
393	95	磨石	F－37	Ⅲ	安山岩	13.5	9.1	5.0	648.0	
	96	磨石	F－37	Ⅲa	安山岩	6.1	6.1	2.3	145.0	
	97	磨石	E－35	Ⅲb	砂岩	10.6	7.8	5.4	683.0	
	98	磨石	G－34	Ⅲb	安山岩	5.6	6.5	2.1	97.1	
	99	磨石	F－37	Ⅲb	安山岩	8.7	5.8	5.0	342.0	
	100	磨石	H－32	Ⅲb	安山岩	11.3	9.5	5.2	840.0	
	101	磨石	E－29	Ⅲb	安山岩	7.8	8.2	3.9	453.0	
394	102	磨石	E－29	Ⅲb	砂岩	11.0	8.3	5.0	660.0	
	103	磨石	E－36	Ⅲb	安山岩	5.3	5.5	4.4	76.9	
	104	磨石	F－37	Ⅲb	安山岩	6.5	5.0	4.1	181.0	
	105	磨石	C－16	Ⅲa	安山岩	11.1	9.3	4.0	570.0	
	106	磨石	F－17	Ⅲa	安山岩	6.9	5.6	2.8	160.2	
	107	磨石	G－37	Ⅲ	安山岩	10.7	8.6	4.5	640.0	
	108	磨石	F－37	Ⅲb	安山岩	12.6	11.0	3.5	589.0	
395	109	磨石	F－26	Ⅲa	安山岩	10.9	9.1	5.1	890.0	
	110	磨石	E－33	Ⅲb	安山岩	7.6	5.2	4.2	236.0	
	111	磨石	F－18	Ⅲb	安山岩	10.9	10.3	4.9	840.0	
	112	磨石	G－31	Ⅲb	安山岩	9.8	8.5	5.4	610.0	
	113	磨石	F－35	Ⅲa	安山岩	13.5	9.7	4.5	860.0	
396	114	磨石	G－36	Ⅲb	安山岩	10.8	9.3	5.0	590.0	
	115	磨石	H－30	Ⅴ	安山岩	9.7	6.5	2.7	250.0	
	116	磨石	H－34	Ⅲb	安山岩	11.3	8.3	5.4	760.0	
	117	磨石	F－38	Ⅳ	安山岩	5.9	5.7	4.5	204.9	
	118	磨石	F－35	Ⅳ	安山岩	6.4	5.8	3.9	192.3	
	119	磨石	G－28	Ⅲb	安山岩	9.0	9.1	4.8	460.0	
	120	磨石	F－40	Ⅲb	安山岩	10.3	10.0	4.5	700.0	
397	121	磨石	I－31	Ⅳ	安山岩	8.9	7.9	3.7	380.0	
	122	磨石	G－37	Ⅲ	安山岩	8.5	7.1	5.5	475.0	
	123	磨石	F－39	Ⅳ	安山岩	5.9	4.2	3.3	118.7	
	124	磨石	C－7	Ⅳa	安山岩	14.7	9.6	7.3	1540.0	
	125	磨石	F－40	Ⅳ	砂岩	12.9	12.8	8.0	1945.0	
398	126	磨石	H－37	Ⅳ	安山岩	13.1	9.9	4.8	1090.0	
	127	磨石	G－39	Ⅳ	安山岩	8.3	8.4	5.6	468.0	
	128	磨石	G－32	Ⅳ	安山岩	15.7	9.5	6.1	1310.0	
	129	磨石	G－40	Ⅳ	花崗岩	8.5	7.3	4.5	540.0	
399	130	磨石	J－31	Ⅳ	安山岩	11.7	9.5	4.3	630.0	
	131	磨石	H－32	Ⅲb	安山岩	9.8	7.8	4.6	470.0	
	132	磨石	C－7	Ⅳa	安山岩	8.8	8.9	4.8	524.0	
	133	磨石	I－36	Ⅴ	安山岩	8.9	5.3	2.2	161.0	
	134	磨石	H－37	Ⅳ	安山岩	13.3	8.8	3.8	710.0	
400	135	磨石	J－33	Ⅴ	安山岩	9.7	8.0	4.3	450.0	
	136	磨石	E－47	Ⅶ	安山岩	7.1	6.9	3.2	203.5	
	137	磨石	F－39	Ⅲa	砂岩	8.8	6.7	3.7	292.1	
	138	磨石	F－30	Ⅲb	安山岩	10.8	8.9	4.8	700.0	
	139	磨石	I－30	Ⅴ	安山岩	8.4	9.7	4.2	331.0	
	140	磨石	F－44	Ⅳ	安山岩	10.0	8.3	5.0	630.0	
	141	磨石	H－32	Ⅲb	安山岩	9.7	7.5	4.2	550.0	
401	1	石錘	H－21	Ⅲb	砂岩	3.7	4.5	2.3	58.4	磨石転用
	2	石錘	H－21	Ⅲb	砂岩	4.0	5.2	2.3	76.4	磨石転用
	1	敲石	F－30	Ⅲa	頁岩	(6.2)	(2.3)	1.1	276.6	
402	2	敲石	I－36	Ⅲb	泥岩	11.8	4.8	2.5	173.0	
	3	敲石	E－40	Ⅲb	泥岩	9.9	3.6	2.0	96.6	
403	4	敲石	H－36	遺跡	砂岩	9.4	6.7	2.8	340.0	遺構埋土内
	5	敲石	F－35	Ⅲb	砂岩	(8.8)	5.9	3.2	300.0	
404	6	敲石	G－33	Ⅲa	安山岩	9.8	5.5	1.9	120.0	
	7	敲石	F－40	Ⅳ	安山岩	9.4	6.6	1.7	120.0	

第50表　出土石器観察表（25）

挿図	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
405	8	敲石	F－39	Ⅲa	安山岩	8.1	4.3	3.7	155.0	
	9	敲石	E－37	Ⅲb	安山岩	8.0	4.1	3.6	160.0	
	10	敲石	F－28	Ⅲa	安山岩	8.6	4.9	4.0	233.6	
	11	敲石	E－26	Ⅲa	砂岩	6.2	4.3	3.1	130.0	
	12	敲石	E－28	Ⅲa	砂岩	3.2	2.5	2.8	20.8	
	13	敲石	D－16	Ⅱ	砂岩	5.5	4.2	2.1	79.7	
	14	敲石	F－33	Ⅲa	砂岩	6.5	4.0	3.2	130.2	
	15	敲石	E－27	Ⅲa	砂岩	7.5	4.4	2.2	148.0	
	16	敲石	E－28	Ⅲb	砂岩	6.6	4.3	3.2	143.0	
	17	敲石	J－33	Ⅲb	安山岩	5.2	4.2	1.7	51.8	
406	18	敲石	E－27	Ⅲb	砂岩	10.6	5.6	3.5	340.0	
	19	敲石	F－37	Ⅲb	安山岩	7.1	4.4	3.0	144.0	
	20	敲石	C－9	Ⅲa	頁岩	10.2	4.9	3.6	262.5	
	21	敲石	E－34	Ⅲb	石英	7.3	4.1	3.2	127.0	
	22	敲石	F－35	Ⅲa	安山岩	8.1	6.8	4.0	260.0	
	23	敲石	H－34	Ⅲa	安山岩	10.6	7.9	5.3	660.0	
	24	敲石	I－37	Ⅴ	安山岩	7.6	9.1	6.1	530.0	
407	25	敲石	E－29	Ⅲa	安山岩	11.2	9.7	4.1	700.0	
	26	敲石	F－39	Ⅲa	安山岩	5.4	5.4	3.9	164.0	
	27	敲石	F－40	Ⅲa	安山岩	6.3	5.4	3.8	174.0	
	28	敲石	F－29	Ⅲa	安山岩	10.3	9.3	5.1	750.0	
	29	敲石	H－29	Ⅲb	安山岩	10.4	8.3	4.5	690.0	
	30	敲石	H－36	Ⅲb	安山岩	7.0	6.4	2.1	100.0	
	31	敲石	I－33	Ⅲb	安山岩	11.1	10.2	4.8	645.0	
408	32	敲石	D－21	Ⅱ	安山岩	11.5	8.6	3.4	450.0	
	33	敲石	E－36	Ⅲb	安山岩	7.5	6.0	2.8	113.2	
	34	敲石	G－27	Ⅲa	砂岩	8.7	7.3	4.5	450.0	
	35	敲石	H－38	Ⅴ	安山岩	8.4	6.5	4.5	345.0	
	36	敲石	F－33	Ⅲb	安山岩	10.6	7.9	3.6	320.0	
409	37	敲石	J－31	土坑1	砂岩	13.9	11.0	5.5	1200.0	溝遺構埋土内
	38	敲石	F－39	Ⅲa	砂岩	5.7	4.2	2.4	84.4	
	39	敲石	F－25	Ⅲa	安山岩	5.7	3.9	3.1	102.7	
	40	敲石	F－26	Ⅲa	安山岩	10.3	10.4	6.0	890.0	
	41	敲石	F－34	Ⅲb	安山岩	11.2	9.9	5.8	930.0	
	42	敲石	F－33	Ⅲb	安山岩	7.6	5.0	2.3	160.0	
	43	敲石	C－10	Ⅲa	砂岩	9.3	8.6	3.7	450.0	
410	44	敲石	E－27	Ⅲa	安山岩	6.8	10.4	4.3	560.0	
	45	敲石	E－38	Ⅲb	安山岩	6.5	4.9	3.6	150.0	
	46	敲石	H－33	Ⅲa	安山岩	5.7	4.5	3.3	117.3	
	47	敲石	F－34	Ⅲa	砂岩	10.0	8.6	6.5	789.0	
	48	敲石	E－37	Ⅲb	安山岩	12.0	10.0	3.9	680.0	
	49	敲石	E－27	Ⅲb	安山岩	6.2	4.7	2.9	126.0	
	50	敲石	E－33	Ⅲb	安山岩	14.6	9.6	3.7	730.0	
411	51	敲石	E－10	Ⅲb	安山岩	10.9	7.2	4.8	465.0	
	52	敲石	F－28	Ⅲb	安山岩	6.2	4.4	2.5	120.0	
	53	敲石	E－40	Ⅲa	安山岩	7.0	6.6	4.3	277.0	
	54	敲石	E－40	Ⅲb	砂岩	10.1	7.9	4.2	530.0	
	55	敲石	I－33	Ⅲa	砂岩	9.6	8.3	4.0	470.0	
	56	敲石	F－35	Ⅲb	安山岩	7.2	6.2	3.7	180.0	
	57	敲石	F－38	Ⅲb	砂岩	10.9	8.1	4.7	670.0	
412	58	敲石	F－36	Ⅲa	安山岩	9.8	7.8	5.6	660.0	
	59	敲石	H－35	Ⅳ	安山岩	6.3	6.6	3.5	235.0	
	60	敲石	G－35	Ⅲb	砂岩	11.1	8.3	3.7	700.0	
	61	敲石	H－37	Ⅶa	砂岩	7.3	6.3	4.7	270.0	
	62	敲石	E－34	Ⅲa	砂岩	10.6	8.5	4.0	540.0	
	63	敲石	F－29	Ⅳ	安山岩	10.4	8.9	2.6	280.0	
	64	敲石	E－36	Ⅲa	安山岩	7.3	7.4	2.6	185.0	

第51表　出土石器観察表（26）

挿図	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
413	65	敲石	E－36	Ⅲa	安山岩	11.1	9.2	5.0	790.0	
	66	敲石	F－39	Ⅲa	安山岩	9.0	5.2	2.2	200.0	
	67	敲石	E－24	Ⅲa	安山岩	8.1	6.0	2.7	198.0	
	68	敲石	G－25	Ⅲa	花崗岩	10.5	8.6	4.3	580.0	
	69	敲石	D－10	Ⅲa	石英	5.7	4.0	3.5	122.0	
	70	敲石	D－12	Ⅲa	安山岩	9.3	8.4	3.9	469.0	
	71	敲石	E－37	Ⅲa	安山岩	12.5	9.9	2.9	465.0	
	72	敲石	E－40	Ⅲa	安山岩	6.2	5.8	2.9	144.0	
414	73	敲石	F－25	Ⅲa	安山岩	7.3	6.6	5.4	350.0	
	74	敲石	E－36	Ⅲa	安山岩	7.7	5.8	1.7	93.2	
	75	敲石	F－40	Ⅲa	安山岩	6.4	4.3	3.5	141.0	
	76	敲石	F－31	Ⅲb	安山岩	12.7	10.2	4.2	641.0	
	77	敲石	F－39	Ⅲb	安山岩	13.0	8.7	4.1	632.0	
	78	敲石	F－24	Ⅲa	砂岩	2.9	2.7	2.2	25.6	
	79	敲石	F－26	Ⅲa	安山岩	5.7	5.1	2.4	112.5	
	80	敲石	G－38	Ⅲb	安山岩	5.1	7.5	7.8	441.0	
415	81	敲石	G－28	Ⅲb	安山岩	10.2	8.7	4.4	606.0	
	82	敲石	E－37	Ⅲb	安山岩	7.9	6.5	1.8	126.0	
	83	敲石	E－37	Ⅲb	安山岩	5.7	4.2	3.8	127.0	
	84	敲石	E－32	Ⅲb	安山岩	9.5	8.6	3.3	440.0	
	85	敲石	H－32	Ⅲb	安山岩	10.6	8.9	3.6	580.0	
	86	敲石	E－36	Ⅲb	安山岩	6.0	6.9	2.0	165.0	
	87	敲石	I－29	Ⅲb	安山岩	9.9	8.6	4.6	595.0	
	88	敲石	E－36	Ⅲb	安山岩	6.8	4.9	3.8	171.0	
416	89	敲石	G－40	Ⅲb	花崗岩	9.8	8.1	3.9	510.0	
	90	敲石	E－37	Ⅲb	安山岩	7.7	5.2	2.0	126.0	
	91	敲石	D－30	Ⅲb	安山岩	7.7	8.4	2.1	225.0	
	92	敲石	H－34	Ⅲb	砂岩	10.0	7.3	4.1	455.0	
	93	敲石	F－44	Ⅶ	安山岩	7.4	5.5	4.0	231.0	
	94	敲石	E－36	Ⅳ	安山岩	8.3	7.6	5.0	456.0	
	95	敲石	G－39	Ⅶa	蛋白石	5.1	3.4	2.3	55.4	
	96	敲石	E－37	Ⅲb	砂岩	5.6	4.8	3.7	144.0	
	97	敲石	D－6	Ⅳa	安山岩	10.8	10.9	6.6	890.0	
417	98	敲石	D－12	Ⅳa	安山岩	8.8	7.3	4.7	360.0	
	99	敲石	F－37	Ⅲb	安山岩	6.0	4.4	2.7	110.7	
	100	敲石	E－42	Ⅲb	砂岩	4.6	3.9	3.0	74.4	
	101	敲石	G－35	Ⅳ	安山岩	8.4	6.8	3.8	260.0	
	102	敲石	I－35	Ⅴ	安山岩	7.9	7.0	6.4	460.0	
	103	敲石	H－31	Ⅳ	安山岩	16.3	12.4	5.3	1818.0	
	104	敲石	F－38	Ⅲb	安山岩	7.4	5.8	3.4	227.3	
418	105	敲石	G－34	Ⅲb	安山岩	7.6	5.3	4.6	219.0	
	106	敲石	E－26	Ⅲa	安山岩	5.7	5.9	2.5	127.0	
	1	凹石	E－36	溝中	安山岩	10.4	8.9	5.6	800.0	溝遺構埋土内
	2	凹石	E－43	Ⅲb	砂岩	6.4	3.3	3.4	115.0	
	3	凹石	E－36	Ⅲb	安山岩	10.6	9.3	3.8	710.0	
	4	凹石	E－34	Ⅲb	安山岩	7.2	11.2	5.3	700.0	
419	1	軽石製品	G－34	Ⅲa	軽石	13.7	8.5	4.4	160.0	
	2	軽石製品	F－37	Ⅲ	軽石	12.1	9.7	5.6	100.0	穿孔
	3	軽石製品	E－36	Ⅲb	軽石	15.1	15.6	5.5	260.0	穿孔
420	4	軽石製品	E－18	Ⅲb	軽石	15.2	7.6	5.6	100.0	
	5	軽石製品	E－42	Ⅳ	軽石	14.7	13.7	5.7	400.0	線刻

第52表　弥生時代遺構内土器観察表

挿図	番号	遺構	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
4	1	1号住居	壺形土器	完形	浅黄橙	浅黄橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	2	1号住居	壺形土器	口縁部	橙	明赤褐	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ハケ目	ハケ目・ナデ	外面に炭化物付着
	3	1号住居	壺形土器	口縁部	黒褐	褐	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ハケ目	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着
	4	1号住居	壺形土器	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ハケ後ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	5	1号住居	壺形土器	口縁部	にぶい黄褐	黄褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	
5	6	1号住居	壺形土器	口縁部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	口縁部外面に工具痕
	7	1号住居	壺形土器	口縁部	浅黄橙	浅黄橙	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	8	1号住居	壺形土器	口縁部	褐灰	黒褐	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ナデ	ナデ	
	9	1号住居	壺形土器	口縁部	にぶい褐	明褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	10	1号住居	壺形土器	口縁部	浅黄	明黄褐	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	11	1号住居	壺形土器	口縁部	明灰黄	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	12	1号住居	壺形土器	口縁部	橙	にぶい褐	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	
	13	1号住居	壺形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ナデ	ナデ	
	14	1号住居	壺形土器	胴部	橙	明褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	内外面に炭化物付着
6	15	1号住居	壺形土器	底部	橙	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ハケ後ミガキ	
	16	1号住居	壺形土器	底部	明黄褐	—	○	○	○	輝石・白片岩	良	—	ハケ目・ヘラミガキ	
	17	1号住居	高坏形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ナデ	ナデ	
	18	1号住居	高坏形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○			雲母・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	19	1号住居	壺形土器	口縁部	明赤褐	明赤褐	○			雲母・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ナデ・暗紋	
	20	1号住居	壺形土器	肩部	赤褐	赤褐	○	○	○	雲母・ミガキ	ミガキ	ナデ・ミガキ	ミガキ	内外面赤色顔料塗布
	21	1号住居	壺形土器	肩部	赤褐	明赤褐	○			雲母	良	ナデ	ナデ	外面赤色顔料塗布
10	26	2号住居	壺形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ナデ	ナデ	
	27	2号住居	壺形土器	口縁部	明褐	明褐	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ナデ	ナデ	口縁内部に連点文
	28	2号住居	壺形土器	底部	赤	明赤褐	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ナデ	ナデ・ヘラミガキ	内外面に炭化物付着
13	29	3号住居	壺形土器	口縁部	明褐	橙	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ナデ・指押さえ	ナデ	外面に炭化物付着
	30	3号住居	壺形土器	口縁部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ナデ・ヘラミガキ	ナデ・ヘラミガキ	
	31	3号住居	壺形土器	口縁部	赤褐	明赤褐	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	指押さえ・ハケ目	ナデ	外面に炭化物付着
	32	3号住居	壺形土器	口縁部	明黄褐	明褐灰	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ナデ	ナデ	内外面に炭化物付着
14	33	3号住居	壺形土器	口縁部	褐	褐	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	34	3号住居	壺形土器	口縁部	赤褐	黒褐	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ナデ	ナデ	内面に炭化物付着
	35	3号住居	壺形土器	口縁部	黒褐	明赤褐	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ミガキ	ヘラミガキ	
16	38	4号住居	壺形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着
	39	4号住居	壺形土器	口縁部	明褐	黄褐	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	40	4号住居	壺形土器	口縁部	赤褐	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	41	4号住居	壺形土器	口縁部	にぶい赤褐	明赤褐	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	42	4号住居	壺形土器	口縁部	赤褐	にぶい褐	○	○	○	輝石	不良	ハケ後ナデ	ナデ	
	43	4号住居	壺形土器	口縁部	赤	赤	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	口縁部焼成前穿孔
	44	4号住居	壺形土器	口縁部	赤	赤	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ・ハケ目	
19	51	貝土坑	壺形土器	口縁～胴部	明黄褐	黄橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ハケ後ナデ	ハケ	外面に炭化物付着
	52	貝土坑	壺形土器	底部	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ヘラケズリ	
	53	貝土坑	壺形土器	頸部	黒褐	赤褐	○	○	○	雲母・火山ガラス	良	ナデ・指押さえ	ヘラミガキ	

第53表　弥生時代遺構内石器観察表

挿図	番号	遺構	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
6	22	1号住居	磨石	安山岩	12.3	10.6	8.0	1680	
	23	1号住居	磨石	安山岩	11.9	10.0	5.3	1080	
7	24	1号住居	石皿	安山岩	27.6	26.8	8.3	9000	
	25	1号住居	石皿	安山岩	9.5	33.8	7.2	7000	
14	36	3号住居	磨石	安山岩	13.6	9.4	7.0	742	
	37	3号住居	磨製石鏃	頁岩	3.7	2.1	0.2	2.3	
17	45	4号住居	石斧	頁岩	6.7	4.3	0.9	28.4	
	46	4号住居	磨製石鏃	頁岩	2.2	1.8	0.2	1.1	
	47	4号住居	磨製石鏃	頁岩	1.9	1.3	0.2	0.5	
	48	4号住居	磨製石鏃	頁岩	3.0	1.9	0.3	2.3	
	49	4号住居	磨製石鏃	頁岩	2.3	2.0	0.2	1.3	
	50	4号住居	磨製石鏃	頁岩	1.4	1.6	0.2	0.6	

第54表　弥生時代土器観察表（1）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
21	54	Ⅲa	C－9	甕形土器	口縁部	黄褐	黄褐	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	55	Ⅲa	C－9	甕形土器	口縁部	黒褐	にぶい黄褐	○	○	○	火山ガラス・白片岩	不良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	56	Ⅲa	E－39	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	
	57	Ⅲa	C－9	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	不良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	58	Ⅲb	G－33	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	59	Ⅲa	C－9	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	60	Ⅲa	H－23	甕形土器	口縁～胴部	褐	灰黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
22	61	Ⅱ・Ⅲa	E－25	甕形土器	口縁部	明赤褐	橙	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	62	Ⅲa	E－22	甕形土器	口縁部	明赤褐	赤褐	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	ナデ	内外面に炭化物付着
23	63	Ⅱ・Ⅲa	E－25	甕形土器	口縁部	明赤褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	64	Ⅲb	E－33	甕形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ヘラケズリ後ナデ	
	65	Ⅲa	C-9-D-9	甕形土器	口縁部	にぶい褐	橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	66	Ⅲa	E－15	壺形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○		金雲母・輝石	良	ナデ	ナデ	
	67	Ⅲa	C－6	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい赤褐	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	68	Ⅲa	F－35	甕形土器	口縁部	黄褐	黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
24	69	Ⅲa	F－33	甕形土器	口縁部	にぶい褐	黒褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ヘラケズリ	ケズリ後ナデ	外面に炭化物付着
	70	表	—	甕形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ	ナデ	
	71	表	—	甕形土器	口縁部	明褐	黄灰	○	○		輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	72	Ⅲa	F－32	壺形土器	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	73	Ⅲa	F－33	甕形土器	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	74	Ⅲa	E－27	甕形土器	胴部	にぶい褐	灰褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	75	Ⅲb	G－29	甕形土器	胴部	褐灰	にぶい褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
25	76	Ⅲa	G－48	甕形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	77	Ⅲa	F－33	甕形土器	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	78	Ⅳ	G－40	甕形土器	口縁部	灰褐	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	79	Ⅲa	D－3	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	80	Ⅲa	D－24	甕形土器	口縁部	赤褐	赤褐	○		○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	81	Ⅲa	D－25	甕形土器	口縁部	浅黄灰	明黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	82	Ⅲa	E－26	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	浅黄橙	○	○		輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
26	83	Ⅲb	E－39	甕形土器	口縁部	にぶい褐	橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	84	Ⅲa	G－21	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐	黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	85	Ⅲb	H－3	甕形土器	口縁部	黒	にぶい黄褐	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	86	Ⅲa	E－27	甕形土器	口縁部	にぶい褐	橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	87	Ⅲa	G－37	甕形土器	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	88	Ⅲa	C－48	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	内外面に炭化物付着
	89	Ⅲa	E－20	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
27	90	Ⅲa	G－37	甕形土器	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	金雲母・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	91	Ⅲb	G－32	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい褐	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	92	Ⅳ	G－40	甕形土器	口縁部	明黄褐	にぶい黄橙		○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	93	Ⅱ	E－25	甕形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ヘラケズリ	ヘラナデ後ナデ	
	94	Ⅲb	H－36	甕形土器	口縁部	明褐	明褐	○		○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	95	Ⅱ	E－24	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	96	—	—	甕形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	白片岩	良	ナデ	ナデ	
	97	Ⅲa	H－32	甕形土器	口縁部	褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ・指押さえ	
	98	Ⅲb	F－24	甕形土器	口縁部	黄橙	にぶい黄橙		○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	99	Ⅲb	H－32	甕形土器	口縁部	褐灰	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	100	Ⅲa	F－27	甕形土器	口縁部	橙	明黄褐	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	101	Ⅲa	E－37	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
28	102	Ⅲa	E－23	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐	明褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	不良	ナデ	ナデ	
	103	Ⅴ	F－46	甕形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	104	Ⅲa	E－27	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	剥離	ナデ	外面に炭化物付着
	105	Ⅲa	H－32	甕形土器	口縁部	赤褐	黒		○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ケズリ後ナデ	内面に炭化物付着
	106	Ⅲa	G－34	甕形土器	口縁部	明褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	

第55表　弥生時代土器観察表（2）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調		胎土				焼成	調整		備考
						外面	内面	石英	長石	角石	その他		内面	外面	
29	107	Ⅲb	H－21	甕形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	108	Ⅲa	E－24	甕形土器	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	109	Ⅲa	D－26	甕形土器	口縁部	褐灰	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	110	Ⅲb	F－34	甕形土器	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	111	Ⅲa	E－22	甕形土器	胴部	明赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	112	Ⅲa	F－21	甕形土器	胴部	にぶい赤褐	黒褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
30	113	Ⅲa・Ⅲb	E－24	甕形土器	口縁部	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	114	Ⅲa	E－20	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	115	Ⅲa	E-24・F-22	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	116	Ⅲa	F－25	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	117	Ⅲa	E－24	甕形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	118	Ⅲa	F－31	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	119	表	—	甕形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	120	Ⅲa	E－23	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	121	Ⅲa	E－25	甕形土器	口縁部	明褐	明褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	122	Ⅲa	F－25	甕形土器	口縁部	にぶい褐	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
31	123	Ⅲb	F－28	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	124	Ⅲa	D－26	甕形土器	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ヘラケズリ・ナデ	ヘラケズリ・ナデ	
	125	Ⅲa	E－34	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ	外面に炭化物付着
	126	Ⅱ	E－25	甕形土器	口縁部	黒褐	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	127	Ⅲb	F－37	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	明褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	128	Ⅲa	E－37	甕形土器	口縁部	暗赤褐	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	129	Ⅲa	D－25	甕形土器	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	内面に炭化物付着
	130	Ⅲa	H－25	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	131	Ⅲa	D－26	甕形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
32	132	Ⅲa	E－25	甕形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	133	Ⅲa	E－36	甕形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	134	Ⅲa	F－47	甕形土器	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	135	Ⅲa	D－27	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○		輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	136	Ⅲb	D－27	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	137	Ⅲa	E－35	甕形土器	口縁部	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着
	138	Ⅲa	G－25	甕形土器	口縁部	黄褐	明黄褐	○	○		茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	139	Ⅲa	F－20	甕形土器	口縁部	明黄褐	明黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
33	140	Ⅲa	F－28	甕形土器	口縁部	にぶい赤褐	褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	141	Ⅲa	E－29	甕形土器	口縁部	にぶい赤褐	黒褐	○		○	火山ガラス	良	ナデ	ケズリ後ナデ	内面に炭化物付着
	142	Ⅲa	E－36	甕形土器	口縁部	橙	明赤褐	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	ナデ・指押さえ	
	143	Ⅲb	H－33	甕形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	144	Ⅲb	G－32	甕形土器	口縁部	黒褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	145	Ⅲb	F－29	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	146	Ⅲa	E－34	甕形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	147	表	G－32	甕形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	148	Ⅳ	E－36	甕形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
34	149	Ⅲa	G－23	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	褐灰	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	150	Ⅲb	F－35	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	151	Ⅲa	F－28	甕形土器	口縁部	黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	152	Ⅱ	E－24	甕形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	153	Ⅲa	F-24・27	甕形土器	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着
	154	Ⅲa	E－27	甕形土器	口縁部	にぶい赤褐	黒褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
	155	Ⅲb	F－30	甕形土器	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	工具ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	156	Ⅲa	G－33	甕形土器	口縁部	にぶい赤褐	橙	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	157	Ⅲb	H－33	甕形土器	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	158	表	E－29	甕形土器	口縁部	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	159	Ⅲa	F－29	甕形土器	口縁部	明褐灰	にぶい褐	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	160	Ⅳ	G－31	甕形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着

第56表　弥生時代土器観察表（3）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 黒曜石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
35	161	Ⅲa	E－33	甕形土器	口縁部	にぶい褐	明褐		○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	162	Ⅲa	F－28	甕形土器	口縁部	褐	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	163	Ⅲa	D－27	甕形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	164	Ⅲa	F－24	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	内外面に炭化物付着
	165	Ⅲa	D－29	甕形土器	口縁部	褐	明赤褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ→ヘラミガキ	外面炭化物付着
	166	Ⅲa	E－28	甕形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着
	167	Ⅲa	H－25	甕形土器	口縁～胴部	褐灰	黒褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ後ミガキ	ナデ後ミガキ	
36	168	Ⅲa	F－34	甕形土器	口縁～胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	細かいハケ後ナデ	細かいハケ後ナデ	外面に炭化物付着
	169	Ⅲa	H－34	甕形土器	口縁部	浅黄	灰黄	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	170	Ⅲa	E－26	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	金雲母・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	171	Ⅲa	F－34	甕形土器	口縁部	浅黄	浅黄	○	○	○	金雲母・輝石	良	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	
	172	Ⅲb	E－37	甕形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	173	Ⅳ	E－29	甕形土器	口縁部	明黄褐	灰黄褐	○		○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	174	Ⅲa	H－32	甕形土器	口縁部	浅黄	浅黄	○			金雲母・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
	175	Ⅲa	H－32	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ハケ後ナデ	外面炭化物付着
	176	Ⅲa	H－32	甕形土器	口縁部	浅黄	浅黄	○	○		金雲母・茶粒	良	ナデ	ハケ後ナデ	
37	177	Ⅲb	E－33	甕形土器	口縁部	明黄褐	明黄褐		○	○	輝石・赤片岩	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
	178	Ⅲa	F－35	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	179	Ⅲb	F－32	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	180	Ⅲb	F－29	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒	良	ナデ	ナデ	
	181	—	—	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	182	Ⅲa	H－33	甕形土器	口縁部	浅黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	183	Ⅲa	D－19	甕形土器	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	184	Ⅲa	E－31	甕形土器	口縁部	橙	にぶい黄橙	○		○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	185	Ⅲb	F－31	甕形土器	口縁部	灰黄	浅黄	○			金雲母・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	186	Ⅲb	G－40	甕形土器	口縁部	橙	黄橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	187	Ⅲb	H－33	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	188	Ⅲb	H－34	甕形土器	口縁部	明黄褐	明黄褐	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	189	Ⅲa	F－34	甕形土器	口縁部	橙	橙	○		○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	190	—	—	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	191	Ⅲb	E－33	甕形土器	口縁～胴部	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着・内面指頭痕
	192	Ⅲa	E－32	甕形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	193	Ⅲa	G－34	甕形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	194	Ⅲb	F－29	甕形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
38	195	Ⅲa	G－33	鉢形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	196	—	—	鉢形土器	口縁部	黒褐	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	197	Ⅲb	E－33	鉢形土器	口縁部	灰褐	灰褐	○	○	○	赤片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	198	Ⅲb	F－32	鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	火山ガラス・赤片岩	良	ナデ	ナデ	
	199	Ⅱ	E－25	鉢形土器	口縁部	黒褐	にぶい褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ミガキ	ミガキ	外面に炭化物付着
	200	Ⅲb	F－35	鉢形土器	口縁部	明黄褐	明黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ヘラミガキ・ナデ	ナデ	外面赤色顔料塗布
	201	Ⅲa・Ⅲb	F－34	壺形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	
	202	—	—	壺形土器	胴部	黒褐	黒褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	203	Ⅲb	F－28	壺形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	204	Ⅲa	E－34	壺形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	205	Ⅲa	F－27	壺形土器	口縁～肩部	赤	橙	○	○		輝石・火山ガラス	良	ナデ	ヘラミガキ	内面口縁部から外面に赤色顔料塗布
	206	Ⅲa	E－29	壺形土器	口縁部	橙	にぶい橙	○	○		輝石・火山ガラス	良	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	207	Ⅲb	E－37	壺形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ヘラミガキ・ナデ	
	208	Ⅳ	G・H－40	壺形土器	口縁部	明黄褐	明黄褐		○	○	金雲母・輝石	良	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	209	Ⅲa	E－29	壺形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	210	Ⅲa	H－32	壺形土器	口縁部	にぶい褐	褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ヘラミガキ	
	211	Ⅲa	F－25	壺形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ヘラミガキ	
	212	Ⅲa	H－20	壺形土器	口縁部	明黄褐	明黄褐	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	

第57表　弥生時代土器観察表（4）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
39	213	Ⅲa	E－25	壺形土器	口縁部	褐	褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ヘラミガキ	ヘラミガキ・ナデ	
	214	Ⅲa	E－25	壺形土器	口縁部	明赤褐	橙		○	○	茶粒・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	215	Ⅲa	E－25	壺形土器	胴部	橙	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	216	表	—	壺形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ヘラミガキ	ミガキ後ナデ	
	217	Ⅲb	E－34	壺形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	218	Ⅳ	H－36	壺形土器	胴部	にぶい赤褐	明赤褐	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ヘラケズリ	ケズリ後ナデ	
	219	Ⅲb	J－31	壺形土器	胴部	にぶい赤褐	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	—	ミガキ	
	220	Ⅲa	E－38	壺形土器	胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	剥離	ミガキ	
	221	Ⅲa	G－24	壺形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ミガキ	
	222	Ⅲa	F－38	壺形土器	胴部	浅黄橙	灰黄	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	—	ナデ	
	223	Ⅳ	G－39	壺形土器	胴部	浅黄	浅黄	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	—	ナデ	
40	224	Ⅲb	G－32	壺形土器	口縁部	黒褐	明褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	不良	—	ミガキ・ケズリ	
	225	Ⅳ	H－37	壺形土器	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	226	Ⅲa	E－37	壺形土器	胴部	橙	橙	○	○	○	輝石・赤片岩	良	剥離	ナデ	
	227	Ⅲa	D－25	壺形土器	胴部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	金雲母・火山ガラス	良	ハケ	ハケ	
	228	Ⅲa	G－21	壺形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	229	Ⅲa	E－25	壺形土器	胴部	褐	褐	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	外面に炭化物付着
	230	Ⅲa	D－27	壺形土器	胴部	橙	にぶい橙	○	○		金雲母・輝石	良	ハケナデ	ケズリ後ナデ	
	231	Ⅲb	F－35	壺形土器	胴部	明褐	明褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	
	232	Ⅲa	F－25	壺形土器	胴部	褐	褐		○	○	茶粒・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	外面に炭化物付着
	233	Ⅲa	E－25・26	高坏形土器	坏部	淡黄	淡黄	○	○	○	輝石・茶粒	良	丁寧なナデ	丁寧なナデ	内面に赤色顔料塗布?
41	234	Ⅲa	H－21	甕形土器	底部	橙	橙		○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	235	表	—	甕形土器	底部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ	
	236	表	G－32	甕形土器	底部	明赤褐	にぶい黄橙		○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	237	Ⅲa	H－33	甕形土器	底部	にぶい褐	橙		○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	238	Ⅲa	E－25	甕形土器	底部	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	239	一括	D－34	甕形土器	底部	にぶい褐	橙	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	240	Ⅲa	H－33	甕形土器	底部	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ後粗いナデ	
	241	Ⅲb	H－34	甕形土器	底部	にぶい橙	橙	○	○		茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	242	Ⅲa	D－24	甕形土器	底部	にぶい赤褐	明褐	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	243	Ⅲa	D-24・F-24	甕形土器	底部	明赤褐	橙	○	○	○	火山ガラス	良	剥離	ケズリ後ナデ	底面木葉圧痕
	244	Ⅲa	E－33	甕形土器	底部	にぶい黄褐	にぶい黄褐		○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	245	Ⅲa	F－37	甕形土器	底部	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ	
	246	Ⅲa	F－47	甕形土器	底部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	247	Ⅲa	D-25・E-25	甕形土器	底部	明赤褐	浅黄	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	剥離	ナデ	
	248	Ⅲa	E－34	甕形土器	底部	橙	橙	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	249	Ⅲa	F－26	甕形土器	底部	明赤褐	にぶい褐		○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ・剥離多き	ナデ	
	250	Ⅲa	F－16	甕形土器	底部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ	
	251	Ⅱ	E－25	甕形土器	底部	明褐	にぶい赤褐		○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	252	Ⅲa・Ⅲb	H－21・33	甕形土器	底部	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	253	Ⅲa・Ⅲb	H－21・33	甕形土器	底部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○		○	火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
42	254	Ⅲa	E－24	甕形土器	底部	橙	にぶい黄橙	○	○		茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ	
	255	Ⅲa	G－26	甕形土器	底部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	剥離	ケズリ後ナデ	
	256	Ⅲa	F－47	甕形土器	底部	灰褐	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	257	表	—	甕形土器	底部	褐	褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	258	Ⅲa	G－35	甕形土器	底部	にぶい赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	ヘラミガキ	
	259	一括	D－34	甕形土器	底部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ケズリ後ナデ	
	260	Ⅲb	F－30	甕形土器	底部	にぶい褐	明黄褐	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	261	Ⅲa	F－47	甕形土器	底部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	262	Ⅲa	E－24	甕形土器	底部	橙	にぶい橙	○	○		火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ケズリ後ナデ	外面に炭化物付着
	263	Ⅲb	G－34	甕形土器	底部	にぶい橙	橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ	
	264	Ⅲa	E－29	甕形土器	胴～底部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着
	265	Ⅲa	F・G－23	甕形土器	底部	明褐	明褐		○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	266	Ⅲa	E－25	甕形土器	底部	浅黄橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ヘラケズリ後ナデ	ハケ	
	267	Ⅴ	G－37	甕形土器	底部	にぶい橙	明黄褐	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ハケ後ナデ	
	268	Ⅲa	F－22	甕形土器	底部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	

第58表　弥生時代土器観察表（5）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調		胎土				焼成	調整		備考
						外面	内面	石英	長石	黒石	その他		内面	外面	
43	269	Ⅲa	E－38	甕形土器	底部	にぶい橙	褐灰		○	○	金雲母・輝石	良	ナデ	ハケ	内面に炭化物付着
	270	Ⅲa	D－27	甕形土器	底部	にぶい赤褐	褐灰	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ	内面に炭化物付着
	271	Ⅲb	G－33	甕形土器	底部	橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ハケ	
	272	Ⅲb	G－31	甕形土器	底部	—	橙	○	○	○	赤片岩	良	—	ナデ	
	273	Ⅲb	D－29	甕形土器	底部	橙	褐灰	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ハケメ・ナデ	
	274	Ⅲb	F－29	甕形土器	底部	橙	灰褐	○	○	○	輝石	良	ハケ後ナデ	ナデ	内面に炭化物付着
	275	Ⅲa	E－27	甕形土器	底部	にぶい橙	褐灰		○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ケズリ	
	276	Ⅲb	H－29	甕形土器	底部	にぶい橙	褐灰	○	○	○	輝石	良	ナデ	ハケ	
	277	Ⅲa	H－35	甕形土器	底部	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	赤片岩・輝石	良	ハケ後ナデ	ナデ	
	278	Ⅲa	F－32	甕形土器	底部	にぶい褐	褐灰	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ	
	279	Ⅲa	E－24	鉢・壺形土器	底部	オリーブ褐	黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ヘラケズリ	
	280	Ⅲa	F－35	鉢・壺形土器	底部	にぶい橙	明黄褐	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	調整	ナデ	
	281	Ⅲa	D－8	鉢・壺形土器	底部	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	282	Ⅲb	H－31	鉢・壺形土器	底部	明褐	褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	283	Ⅱ	G－24	鉢・壺形土器	底部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	284	Ⅲa	F－27	鉢・壺形土器	底部	褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ヘラミガキ・ナデ	外面に炭化物付着
	285	Ⅲa	H－25	鉢・壺形土器	底部	にぶい橙	灰黄	○	○		茶粒・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
	286	Ⅲa	H－25	鉢・壺形土器	底部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	287	—	—	鉢・壺形土器	底部	黄橙	黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	288	Ⅲa	G－35	鉢・壺形土器	底部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ後ナデ	

第59表　古墳時代遺構内土器観察表

挿図	番号	遺構	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
47	1	1号住居	壺形土器	口縁～胴部	明褐	にぶい赤褐	○	○	○	雲母・茶粒	良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
	2	1号住居	壺形土器	口縁部	明赤褐	赤	○	○	○	雲母・茶粒	良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	外面に炭化物付着
	3	1号住居	壺形土器	口縁部	明赤褐	橙	○	○	○	雲母・茶粒	良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
	4	1号住居	壺形土器	胴部	橙	明赤褐	○	○	○	雲母・茶粒	良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
	5	1号住居	壺形土器	脚台	にぶい黄橙	橙	○	○		雲母・火山ガラス	良	—	ハケ・ナデ	
	6	1号住居	壺形土器	脚台	明黄褐	にぶい黄	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	—	ハケ	
49	8	2号住居	壺形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	雲母・茶粒	良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
	9	2号住居	壺形土器	胴部	にぶい黄橙	浅黄	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ハケ	ハケ	
	10	2号住居	壺形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	雲母・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	11	2号住居	壺形土器	口縁部	橙	にぶい褐	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	12	2号住居	壺形土器	脚台	明赤褐	明黄褐	○	○		雲母・茶粒	良	ナデ	ハケ	
	13	2号住居	甕形土器	完形	明赤褐	黒	○		○	雲母・茶粒	良	ハケ・ナデ	ナデ	
	14	2号住居	壺形土器	底部	明褐	明赤褐	○	○		雲母・茶粒	良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
51	15	3号住居	壺形土器	口縁～胴部	橙	明黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ・ナデ	ハケ	
	16	3号住居	壺形土器	口縁～胴部	黒褐	橙	○	○	○	雲母・輝石	良	ハケ	ハケ	
	17	3号住居	壺形土器	口縁～胴部	橙	明黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ・ナデ	ハケ・ケズリ	
52	18	3号住居	壺形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○		雲母・火山ガラス	良	ハケ・ナデ	ハケ	
	19	3号住居	壺形土器	胴部	にぶい赤褐	明赤褐	○	○		雲母・輝石	良	ハケ	ハケ	
	20	3号住居	高坏形土器	胴部～底部	浅黄橙	浅黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	22	4号住居	鉢型土器	口縁～底部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	雲母・火山ガラス	良	ハケ・ナデ	ナデ	
	23	4号住居	指形土器	完形	橙	橙	○	○	○	赤片岩・火山ガラス	良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
	24	4号住居	壺形土器	胴部	明赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	雲母・火山ガラス	良	ハケ後指押さえ	ハケ	
55	25	貝殻土坑	壺形土器	胴部～底部	にぶい橙	明褐	○	○		雲母・白片岩	良	ハケ後指押さえ	ハケ・ナデ	外面に炭化物付着

第60表　古墳時代遺構内石器観察表

挿図	番号	遺構	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
47	7	1号住居	磨石	安山岩	10.4	9.0	5.3	742.0	
52	21	3号住居	磨石	安山岩	8.7	6.7	4.4	350.0	

第61表　古墳時代土器観察表（1）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
56	26	Ⅲa	E－37	壺形土器	口縁～胴部	にぶい褐	明褐	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ハケ	ハケ	外面に炭化物付着
	27	Ⅲa	G－34	壺形土器	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○		輝石・火山ガラス	良	ハケ	ハケ	外面に炭化物付着
	28	Ⅲa	F－34	壺形土器	口縁部	明赤褐	灰黄褐	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着
	29	Ⅲa	H－34	壺形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ・ナデ	ハケ	外面に炭化物付着
	30	Ⅱ	D－24	壺形土器	口縁部	淡黄	淡黄	○		○	輝石・茶粒	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
	31	Ⅲa	H-20-21	壺形土器	口縁部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○		輝石・茶粒	良	ハケ	ハケ	
58	32	Ⅲa	G－26	壺形土器	口縁部	橙	黄褐	○		○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ・ナデ	
	33	—	—	壺形土器	口縁部	浅黄	淡黄	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ	ハケ	
	34	Ⅲa	H-21-22	壺形土器	口縁～胴部	明黄褐	明黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ	ハケ・ナデ	
	35	Ⅲa	H－19	壺形土器	口縁部	にぶい褐	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ハケ	ハケ	
59	36	Ⅲa	H-22-P-21	壺形土器	口縁～胴部	橙	黄橙	○	○	○	雲母	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	内外面に炭化物付着
	37	Ⅲa	E－37	壺形土器	口縁部	明褐	灰黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着
	38	Ⅲa	E－27	壺形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○		茶粒・金雲母	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
	39	Ⅲa	I－22	壺形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○			茶粒・金雲母	良	ハケ	ハケ	

第62表　古墳時代土器観察表（2）

掲図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
60	40	Ⅲa	G－25	壺形土器	口縁～底部	淡赤橙	にぶい橙	○	○	○	火山ガラス・雲母	良	ハケ後ナデ	ナデ	内外面に炭化物付着
	41	Ⅲa	D－27	壺形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙		○	○	輝石・金雲母	良	ハケ	ナデ	
	42	Ⅲa	G－23	壺形土器	口縁部	明黄褐	明黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ	ハケ	外面に炭化物付着
61	43	Ⅲa・Ⅲb	G－21	壺形土器	口縁～胴部	明褐	橙	○			輝石・茶粒	良	ハケ・ケズリ	ハケ・粗いハケ	外面に炭化物付着
	44	Ⅲa	E－26	壺形土器	口縁部	明赤褐	明赤褐	○			茶粒・金雲母	良	ハケ	ハケ	
	45	Ⅲa	E－25	壺形土器	口縁部	にぶい黄橙	明褐	○	○		輝石・火山ガラス	良	ハケ	ハケ	
	46	Ⅲa	F－35	壺形土器	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○		輝石・火山ガラス	良	ハケ	ハケ	内面に炭化物付着
	47	Ⅲa	G－22・23	壺形土器	口縁部	橙	にぶい黄橙	○			火山ガラス・白片岩	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着
62	48	Ⅲa	G－26	壺形土器	口縁～胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ハケ	ハケ	外面に炭化物付着
	49	Ⅲa	G－21	壺形土器	口縁部	褐	橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ハケ	外面に炭化物付着
	50	Ⅲa	F－25	壺形土器	口縁～胴部	黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ	ハケ	外面に炭化物付着
63	51	Ⅲa	D－16	壺形土器	口縁～胴部	黒褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着
	52	Ⅲa	F・G－24	壺形土器	口縁～胴部	浅黄	浅黄	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ	外面に炭化物付着
	53	Ⅳ	F－21	壺形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○		輝石・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着
	54	Ⅲa	E－25	壺形土器	口縁部	黒褐	褐灰	○	○		輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ	
64	55	Ⅲa	F－25	壺形土器	口縁～胴部	暗褐	橙	○	○	○	火山ガラス	良	ハケ・指頭押圧	ハケ	外面に炭化物付着
	56	Ⅲa	F-27・E-27	壺形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着
	57	Ⅲa	E－24	壺形土器	口縁部	黒褐	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒	良	ハケ・ナデ	ハケ	外面に炭化物付着
	58	Ⅲa	G－26	壺形土器	口縁部	褐	褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ	ナデ	
65	59	Ⅲa	F－23	壺形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	60	Ⅲa	F－23	壺形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	61	Ⅲa	G-25・H-21	壺形土器	胴部～底部	橙	明赤褐	○	○	○	金雲母・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ	内外面に炭化物付着
	62	Ⅲa	F－25	壺形土器	胴～底部	にぶい橙	橙	○			茶粒・白片岩	良	ナデ	ハケ	
	63	Ⅲa	F・G－25	壺形土器	胴部～底部	橙	明黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ	外面に炭化物付着
66	64	Ⅲ	G－24	壺形土器	底部	黄褐	黄褐	○		○	白片岩・金雲母	良	ナデ	ハケ後ナデ	
	65	Ⅲa	F－25	壺形土器	底部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ハケ	
	66	Ⅲa	H－25	壺形土器	底部	橙	橙		○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ	
	67	Ⅲa	E－28	壺形土器	底部	橙	橙	○	○	○	茶粒・金雲母	良	ナデ	ハケ	脚台内に炭化物付着
	68	Ⅲa	F－25	壺形土器	底部	灰黄褐	にぶい褐	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ハケ	
	69	Ⅲb	E－29	壺形土器	底部	にぶい橙	にぶい赤褐	○			白片岩・金雲母	良	ナデ	ハケ	
	70	Ⅲa	E－37	壺形土器	底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	白片岩	良	ナデ	ナデ	
	71	Ⅲ	C－2	壺形土器	底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ハケ	
	72	Ⅲa	G－24	壺形土器	底部	浅黄	浅黄	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ハケ	
	73	Ⅲa	E－36	壺形土器	底部	にぶい褐	褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	指頭押圧	
	74	Ⅲa	F－25	壺形土器	底部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ハケ	内面に炭化物付着
	75	Ⅲa	F－24	壺形土器	底部	橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	76	Ⅲa	G－22	壺形土器	底部	橙	橙	○		○	茶粒・金雲母	良	ハケ	ハケ	
	77	Ⅲa	E－19	壺形土器	底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ	
	78	Ⅱ	G－24	壺形土器	底部	橙	にぶい褐	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ハケ・ナデ	
	79	Ⅲa	E－20	壺形土器	口縁部	にぶい黄橙	浅黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	布留式丸底壺古墳前期
	80	Ⅳ	F－36	壺形土器	口縁部	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
67	81	Ⅲa	H－21	壺形土器	完形	黄橙	黄橙	○	○	○	火山ガラス	良	ハケ	ハケ	
68	82	Ⅲa	D－26	壺形土器	口縁部	明黄褐	橙	○	○	○	火山ガラス	良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
	83	Ⅲa	H－20	壺形土器	完形	浅黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	粗いナデ	
	84	Ⅲb	G－40	壺形土器	口縁部	褐灰	にぶい黄褐	○	○	○	火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着
	85	Ⅲa・Ⅲb	E-27・F-28	壺形土器	肩部	にぶい黄橙	明黄褐	○		○	茶粒・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
	86	Ⅲa	H－25	壺形土器	頸部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ハケ	
	87	Ⅲa	E-20・21	壺形土器	頸部	明赤褐	にぶい褐	○	○	○	輝石	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
69	88	Ⅲa	H－21	壺形土器	口縁～底部	橙	黄橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	指圧痕ナデ・ハケ	ハケ後ナデ	
70	89	Ⅲa	G－25	壺形土器	肩部	浅黄橙	浅黄橙	○	○	○	火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ	
	90	Ⅲa	G－26	壺形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○		○	金雲母・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	91	Ⅲa	E－26	壺形土器	胴部	にぶい黄橙	明赤褐	○		○	金雲母・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ	
	92	Ⅲb	H－26	壺形土器	胴部	橙	灰	○	○	○	火山ガラス・赤片岩	良	ナデ・ハケ	ナデ・ナデ	外面に炭化物付着
	93	Ⅲa	E－28	壺形土器	胴部	明黄褐	橙	○		○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	94	Ⅲa	D－27	壺形土器	胴部	橙	橙	○			金雲母・茶粒	良	ハケ後ナデ	ハケ	外面に炭化物付着
	95	Ⅲa	E－22	壺形土器	胴部	橙	明赤褐	○			金雲母・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
	96	Ⅲa	G－25	壺形土器	胴部	橙	褐灰	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	剥離	ハケ後ナデ	

第63表　古墳時代土器観察表（3）

挿図	番号	層位	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	調整 内面	調整 外面	備考
71	97	Ⅲb	G-36・H-36	壺形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	火山ガラス・赤片岩	良	ハケ後ナデ	ハケ	
	98	Ⅱ	E－26	壺形土器	胴部	明黄褐	橙	○	○		金雲母・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
72	99	Ⅲ	F－37	壺形土器	胴部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ	
	100	Ⅲa	E－20	壺形土器	胴部	にぶい褐	橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ハケ	
	101	Ⅲa	E－34	壺形土器	胴部	橙	にぶい橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
73	102	Ⅲa	F－35	壺形土器	底部	橙	橙	○	○	○	火山ガラス	良	ハケ後指ナデ	ハケ後指ナデ・刻目	
	103	Ⅲa	E－29	壺形土器	底部	橙	明赤褐	○	○	○	金雲母・火山ガラス	良	ナデ	ハケ	
	104	Ⅲa	E-36・F-25	壺形土器	底部	橙	橙	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ハケ後ナデ	
	105	Ⅲa	E－35	壺形土器	胴部～底部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
74	106	Ⅲa	G－27	小形壺形土器	口縁～底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	107	Ⅲa	E－22	小形壺形土器	胴～底部	灰	浅黄		○	○	火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	108	Ⅲa	F－26	小形壺形土器	底部	にぶい黄	浅黄	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	109	Ⅲa	H－20	小形壺形土器	底部	明黄褐	明黄褐	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ・ケズリ	
	110	Ⅲa	G－25	小形壺形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	金雲母・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	111	P-7	F－43	小形壺形土器	口縁部	明黄褐	明黄褐			○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	112	Ⅲb	F－35	小形壺形土器	胴～底部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石	良	ハケ・ナデ	ハケ	
	113	IVa	E－30	小形壺形土器	胴～底部	明黄褐	明黄褐	○	○		輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	114	Ⅲa	G－24	小形壺形土器	胴～底部	明赤褐	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ・ナデ	ミガキ	
	115	Ⅲb	E－29	小形壺形土器	胴～底部	にぶい橙	明黄褐				輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ	
	116	Ⅱ	E－26	小形壺形土器	胴～底部	にぶい黄橙	明黄褐	○		○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	底部はケズリ
	117	Ⅲa	E－25	甕形土器	胴～底部	明黄褐	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
75	118	Ⅲa	D－26	鉢型土器	口縁～底部	黄橙	橙	○	○		金雲母・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ	
	119	Ⅲa	E－26	鉢型土器	口縁部	にぶい黄橙	黒褐	○	○	○	金雲母・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	120	Ⅲ	J－33	鉢型土器	口縁部	浅黄	浅黄	○	○		火山ガラス	良	指頭押圧	指頭押圧	
	121	一括	D－27	鉢型土器	完形	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ	
	122	Ⅲa	D－27	鉢型土器	口縁部	橙	明黄褐	○	○		輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	
	123	Ⅲa	D－24	鉢型土器	底部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ・指頭押圧	
	124	Ⅲa	E－24	鉢型土器	底部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ・指頭押圧	
	125	Ⅲa	E－25	鉢型土器	底部	にぶい黄橙	褐灰	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ・指頭押圧	
	126	Ⅲa	F－24	鉢型土器	底部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ハケ後ナデ	ナデ・指頭押圧	
76	127	Ⅱ・Ⅲa	F-24・25	高坏形土器	坏部	橙	橙	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	128	Ⅲa	F－26	高坏形土器	坏部	明黄褐	明黄褐		○		輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	129	—	—	高坏形土器	坏部	明黄褐	明黄褐		○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	130	Ⅲa	G－25	高坏形土器	坏部	にぶい黄橙	明黄褐	○		○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ミガキ	
	131	Ⅲa	F－26	高坏形土器	坏部	橙	淡黄	○		○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	132	Ⅱ	G－25	高坏形土器	脚部	淡黄	淡黄	○	○		火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	133	Ⅲa	F－23	高坏形土器	脚部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ・ナデ	ヘラミガキ	
	134	Ⅲa	G－27	高坏形土器	脚部	淡黄	淡黄	○	○	○	赤片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	135	Ⅲb	G－29	高坏形土器	脚部	にぶい黄橙	黒		○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	136	Ⅲa	G－25	高坏形土器	脚部	浅黄	浅黄	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	137	Ⅲa	G－27	高坏形土器	脚部	明黄褐	明黄褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ハケ・ナデ	
	138	Ⅲa	H－25	高坏形土器	脚部	明赤褐	灰黄		○	○	火山ガラス	良	ナデ	ミガキ	
77	139	Ⅲa・Ⅲb	E-34・35	小形土器	口縁～底部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ	
	140	Ⅱ	E－24	小形土器	完形	赤	赤	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	141	Ⅲa	H－21	小形土器	完形	橙	にぶい黄橙		○		金雲母・火山ガラス	良	ナデ・指頭押圧	ナデ・指頭押圧	
	142	Ⅲa	H－21	小形土器	口縁～底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙		○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ・指頭押圧	
	143	Ⅲa・Ⅲb	G-25・35	小形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	144	—	—	小形土器	胴部	浅黄	浅黄		○	○	輝石・金雲母	良	ナデ	ナデ	
	145	Ⅲa	F－26	小形土器	完形	橙	褐灰	○	○	○	輝石・金雲母・火山ガラス	良	ナデ	ナデ・指頭押圧	
	146	Ⅱ	F－25	小形土器	底部	にぶい黄褐	褐		○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ・指頭押圧	
	147	包含層	D－26	小形土器	完形	浅黄	オリーブ褐		○	○	雲母・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	148	Ⅲa	E－23	小形土器	完形	浅黄橙	明黄褐	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ハケ・ナデ	ナデ・指頭押圧	外面に炭化物付着
	149	Ⅲa	H－25	小形土器	胴部	にぶい黄橙	褐灰	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	150	Ⅲa	F－25	小形土器	底部	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	151	表	—	土製品	不明	橙	橙		○	○	白雲母・輝石	良	ナデ	ナデ	
	152	Ⅲa	E－29	須恵器蓋	口縁～胴部	灰白	黄灰	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ	

第64表　古代・中世遺構内遺物観察表

挿図	番号	遺構	種類	器種	部位	色調	胎土	口径(cm)	底径(cm)(高台径)	器高(cm)	調整 内面	調整 外面・底部	備考
87	1	溝1号	土師器	埦	底部	にぶい黄橙	精製	—	7.4	—	ナデ	ナデ	
	2	溝1号	白磁	碗	底部	灰白	堅緻	—	3.6	—	—	—	近世白磁
	3	溝2号	土師器	埦	底部	橙	精製	—	9.8	—	ナデ	ナデ	
	4	溝2号	土師器	埦	口縁部	明黄褐	精製	11.6	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	
	5	溝2号	土師器	埦	底部	にぶい黄橙	精製	—	7.0	—	横ナデ	横ナデ	内黒
	6	溝2号	土師器	埦	底部	にぶい黄橙	精製	—	7.0	—	横ナデ	横ナデ	内黒
	7	溝2号	土師器	坏	口縁部	にぶい黄橙	精製	—	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	8	溝2号	白磁	碗	口縁部	灰白	堅緻	—	—	—	—	—	
88	10	溝3号	須恵器	捏鉢	口縁～胴部	灰	精緻	32.0	—	—	横ナデ	横ナデ	東播磨系
	11	溝3号	瓦質土器	擂鉢	胴部	灰	精製	—	—	—	ハケ目	ナデ	
	12	溝4号	土師器	埦	口縁部	にぶい黄橙	精製	—	—	—	横ナデ	横ナデ	
	13	溝4号	手捏土器	蛸壺	完形	にぶい黄橙	精製	2.1	—	—	ナデ	ナデ	
90	16	遺跡	土製品	羽口	—	灰	精製	—	—	—	—	—	
	17	遺跡	土製品	土錘	—	浅黄橙	精製	—	—	—	—	ケズリ	
	18	遺跡	土師器	坏	底部	浅黄橙	精製	—	6.0	—	横ナデ	横ナデ	
94	19	焼土跡5	土師器	埦	口縁部	にぶい黄	精製	14.2	—	—	横ナデ	横ナデ	内黒
	20	焼土跡5	土師器	埦	口縁部	明黄褐	精製	14.8	—	—	横ナデ	横ナデ	
	21	焼土跡5	土師器	埦	底部	にぶい黄橙	精製	—	8.6	—	ナデ	ナデ	
95	22	焼土跡7	土師器	埦	口縁部	浅黄橙	精製	14.0	—	—	横ナデ	横ナデ	内黒
	23	焼土跡7	土師器	甕	口縁部	にぶい黄褐	精製	—	—	—	ナデ	ナデ	
	24	焼土跡7	土師器	鉢	口縁～胴部	にぶい黄橙	精製	25.0	—	—	ナデ	ナデ	
97	25	埋納土坑	土師器	皿	完形	にぶい黄褐	精製	9.0	6.8	1.4	横ナデ	横ナデ	糸切り
	26	埋納土坑	土師器	皿	完形	淡黄	精製	9.3	7.0	1.7	回転ナデ	回転ナデ	糸切り
	27	埋納土坑	土師器	皿	完形	明黄褐	精製	9.1	7.4	2.0	ナデ	ナデ	糸切り
141	238	土坑69	擂鉢	鉢	底部	灰褐	精製	—	—	—	—	回転ナデ	

挿図	番号	遺構	種類	器種	色調	備考
87	9	溝2号	銭貨	熙元通寶	—	
88	14	溝5号	銅製品	不明	暗オリーブ灰	
	15	溝5号	銅製品	不明	暗オリーブ灰	

第65表　古代土器観察表（1）

挿図	番号	層位	出土区	種類	器種	部位	色調	口径(cm)	底径(cm)(高台径)	器高(cm)	調整 内面	調整 外面・底部	備考
98	28	Ⅲa	D－7	土師器	鉢	完形	暗茶褐	12.9	4.8	8.1	ナデ	ナデ	
	29	Ⅲa	D－7	土師器	埦	完形	橙	14.1	8.3	7.9	ナデ	ナデ	
100	30	—	—	土師器	埦	口縁～底部	黄橙	14.9	8.2	7.3	ナデ	ナデ	
	31	Ⅲb	G－29	土師器	埦	完形	黄橙	14.1	7.4	6.5	ナデ	ナデ	
	32	Ⅲa	G－25	土師器	埦	完形	にぶい橙	12.1	5.7	5.7	ナデ	ナデ	
	33	Ⅲb	D－28	土師器	埦	口縁～底部	浅黄橙	12.8	5.2	5.2	横ナデ	横ナデ	充実高台
	34	Ⅲa	D－17	土師器	埦	完形	にぶい黄橙	12.4	6.8	5.5	横ナデ	横ナデ	
	35	Ⅲa	E-17-F-17	土師器	埦	口縁～底部	橙	13.7	7.3	6.0	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	36	Ⅲa	E－15	土師器	埦	口縁～底部	浅黄	11.8	7.4	7.3	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	37	—	—	土師器	埦	完形	灰黄褐	13.4	7.6	6.7	ミガキ	ナデ	内黒
	38	Ⅲa	E－17	土師器	埦	口縁～胴部	浅黄	13.4	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	39	Ⅲa	E－17	土師器	埦	口縁～胴部	にぶい橙	12.6	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	40	Ⅲa	E－16	土師器	埦	口縁～胴部	にぶい橙	14.0	—	—	ミガキ	横ナデ	内黒
	41	Ⅲa	F－17	土師器	埦	口縁部	浅黄	15.6	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
101	42	Ⅲb	G－34	土師器	埦	口縁部	にぶい黄橙	15.0	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	43	Ⅲa	D－8	土師器	埦	口縁～胴部	にぶい黄橙	14.0	—	—	横ナデ	横ナデ	
	44	Ⅲa	D－17	土師器	埦	口縁部	にぶい黄橙	13.1	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	45	Ⅲa・Ⅲb	G-47-F-47	土師器	埦	口縁部	明黄褐	16.4	—	—	横ナデ	横ナデ	内外面に炭化物付着
	46	Ⅲa	D－28	土師器	埦	胴部～底部	灰黄褐	—	9.4	—	横ナデ	横ナデ	2次焼成
	47	Ⅲa	E－18	土師器	埦	口縁～胴部	浅黄橙	13.0	—	—	横ナデ	横ナデ	
	48	Ⅲa	E－17	土師器	埦	胴部～底部	にぶい黄橙	—	7.0	—	横ナデ	横ナデ	
	49	Ⅱ・Ⅲa	D－16	土師器	埦	胴部～底部	にぶい黄橙	—	7.0	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	50	Ⅲa	C－5	土師器	埦	胴部～底部	にぶい黄橙	—	5.2	—	横ナデ	横ナデ	充実高台
	51	Ⅲa	C－17	土師器	埦	胴部～底部	にぶい黄橙	—	6.0	—	横ナデ	横ナデ	充実高台
	52	Ⅲa	E－17	土師器	埦	底部	にぶい黄橙	—	7.5	—	横ナデ	横ナデ	
	53	Ⅲa	D－21	土師器	埦	底部	明黄褐	—	6.6	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	54	Ⅲa	E－15	土師器	埦	胴部～底部	にぶい黄橙	—	8.0	—	横ナデ	横ナデ	
	55	Ⅲa	E－16	土師器	埦	底部	にぶい黄橙	—		—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	56	Ⅲa	E－17	土師器	埦	胴部～底部	にぶい黄橙	—	7.8	—	横ナデ	横ナデ	
	57	Ⅲa	E－16	土師器	埦	底部	にぶい黄橙	—	7.6	—	横ナデ	横ナデ	
	58	Ⅲa	F－16	土師器	埦	底部	浅黄	—	7.8	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	59	Ⅲa	E－16	土師器	埦	底部	浅黄	—	7.6	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	60	Ⅲa	F－16	土師器	埦	底部	にぶい黄橙	—	7.8	—	横ナデ	横ナデ	
	61	Ⅲa	F－17	土師器	埦	底部	橙	—	9.6	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
102	62	Ⅲa	E－16	土師器	埦	口縁部	浅黄	—	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	63	Ⅲb	F－35	土師器	埦	口縁部	暗灰黄	—	—	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内黒
	64	Ⅲa	G－35	土師器	埦	底部	明黄褐	—	5.7	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	65	Ⅲa	G－16	土師器	埦	底部	明黄褐	—	7.4	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	66	Ⅲa	F－17	土師器	埦	底部	浅黄	—	6.8	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	67	Ⅲa	F－17	土師器	埦	底部	浅黄橙	—	7.0	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒

第66表　古代土器観察表（2）

挿図	番号	層位	出土区	種類	器種	部位	色調	口径(cm)	底径(cm)(高台径)	器高(cm)	調整 内面	調整 外面・底部	備考
103	68	Ⅲa	C－7	土師器	坏	底部	にぶい黄橙	—	4.6	—	横ナデ	横ナデ	
	69	Ⅱ	G－47	土師器	坏	底部	赤	—	6.0	—	横ナデ	横ナデ	
	70	Ⅲa	E－19	土師器	坏	口縁～底部	にぶい黄橙	13.1	7.4	4.1	横ナデ	横ナデ・ヘラ切り	外面に炭化物付着
	71	Ⅲa	C－10	土師器	坏	底部	浅黄	—	10.6	—	横ナデ	横ナデ	２次焼成
	72	Ⅲa	G－47	土師器	坏	口縁～底部	明黄褐	13.2	7.8	3.2	横ナデ	横ナデ	
	73	Ⅲa	E－17	土師器	坏	口縁部	にぶい黄橙	14.0	—	—	横ナデ	横ナデ	
	74	Ⅲb・Ⅳ	E－28	土師器	坏	口縁部	明黄褐	15.0	—	—	横ナデ	横ナデ	
	75	Ⅲa	E－35	土師器	坏	口縁部	にぶい黄橙	15.0	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	76	Ⅲa	F－32	土師器	坏	口縁部	にぶい黄橙	12.0	—	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内黒
	77	Ⅲa	F－34	土師器	坏	口縁部	明黄褐	14.6	—	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内黒
104	78	Ⅲa	D-17-E-17	土師器	鉢	口縁部	にぶい橙	10.0	—	—	横ナデ	横ナデ	
	79	Ⅲa	D－17	土師器	鉢	底部	にぶい黄橙	—	11.2	—	横ナデ	横ナデ・ケズリ	
	80	Ⅲa	E－14	土師器	鉢	底部	浅黄	—	14.8	—	横ナデ	横ナデ	
	81	Ⅲa	D-17-E-17	土師器	鉢	底部	にぶい黄褐	—	17.6	—	横ナデ	横ナデ	
	82	Ⅲa	D－16	土師器	鉢	底部	浅黄橙	—	14.6	—	横ナデ	横ナデ	
105	83	Ⅲa	G－47	土師器	甕	口縁部	灰黄褐	31.2	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ	
	84	Ⅲa	G－47	土師器	甕	口縁部	浅黄	31.4	—	—	横ナデ・斜めケズリ	ハケ目後ナデ	
	85	Ⅲa	D－17	土師器	甕	口縁部	黒褐	25.2	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ	外面に炭化物付着
	86	Ⅲa	E－17	土師器	甕	口縁部	褐	30.4	—	—	ナデ・ケズリ	ケズリ後ナデ	
	87	Ⅲa	C－7	土師器	甕	口縁部	明赤褐	—	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ	
106	88	Ⅲa	F－47	土師器	甕	口縁部	浅黄橙	—	—	—	ケズリ	ナデ	内外面に炭化物付着
	89	Ⅲa	E－16	土師器	甕	口縁部	黒褐	—	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ	外面に炭化物付着
	90	Ⅲa	G－48	土師器	甕	口縁部	橙	27.2	—	—	横ナデ・斜めケズリ	ナデ	外面に炭化物付着
	91	Ⅲa	G－47	土師器	甕	口縁～胴部	橙	30.4	—	—	ケズリ	ナデ	
	92	Ⅲa	E－16	土師器	甕	口縁部	にぶい褐	—	—	—	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
107	93	Ⅲa	E－17	土師器	甕	口縁部	黒褐	—	—	—	横ナデ・斜めケズリ	ナデ	外面に炭化物付着
	94	Ⅲa	F－16	土師器	甕	口縁部	にぶい褐	—	—	—	ケズリ後ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	95	Ⅲa	G－47	土師器	甕	口縁部	橙	—	—	—	ケズリ	ナデ	
	96	Ⅲa	G－47	土師器	甕	口縁部	オリーブ褐	—	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ	
	97	Ⅲa	G－47	土師器	甕	口縁部	橙	—	—	—	ケズリ	ナデ	
	98	Ⅲa	G－47	土師器	甕	口縁部	橙	—	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ	
	99	Ⅲa	G－47	土師器	甕	口縁部	橙	—	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ	外面に炭化物付着
108	100	Ⅲb	G－33	土師器	埦・坏	口縁部	にぶい黄橙	—	—	—	横ナデ	横ナデ	墨書
	101	Ⅲa	D－16	土師器	埦・坏	口縁部	にぶい黄橙	—	—	—	横ナデ	横ナデ	墨書
	102	Ⅲa	F－17	土師器	坏	口縁部	橙	—	—	—	横ナデ	横ナデ	内黒・墨書
	103	Ⅲa	E－16	土師器	埦	口縁部	橙	—	—	—	横ナデ	横ナデ	墨書
	104	—	—	土師器	坏	口縁部	にぶい橙	—	—	—	横ナデ	横ナデ	墨書
	105	Ⅲa	D－17	土師器	埦・坏	胴部	にぶい黄橙	—	—	—	横ナデ	横ナデ	墨書
	106	Ⅲa	E－17	土師器	埦・坏	胴部	にぶい橙	—	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒・墨書
	107	Ⅲa	E－16	土師器	埦・坏	胴部	にぶい橙	—	—	—	ミガキ	横ナデ	篦書
	108	Ⅲa	E－17	土師器	埦・坏	胴部	にぶい黄橙	—	—	—	横ナデ	横ナデ	内黒・墨書
	109	Ⅲa	D－15	土師器	埦・坏	胴部	にぶい黄橙	—	—	—	横ナデ	横ナデ	墨書
	110	Ⅲa	E－17	土師器	埦	口縁～底部	にぶい橙	14.3	7.5	6.4	ナデ	ナデ	墨書・内外面に炭化物付着
	111	Ⅲa	D－13	土師器	埦	口縁～胴部	にぶい橙	13.4	—	—	横ナデ	横ナデ	

第67表　古代土器観察表（3）

陣図	番号	層位	出土区	種類	器種	部位	色調	口径(cm)	底径(cm)[高台径]	器高(cm)	調整 内面	調整 外面・底部	備考
109	112	巨大土坑	D－21	須恵器	皿	口縁～底部	灰黄	14.0	9.6	1.8	横ナデ	横ナデ	
	113	表	G－40	須恵器	蓋	天井部	褐灰	3.2	—	—	ナデ	ナデ	
	114	Ⅲa	C－5	須恵器	甕	口縁部	灰白	15.8	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	焼成不良
	115	Ⅲa	D－16	須恵器	甕	胴部	にぶい黄	—	—	—	同心円アテ具	平行タタキ	外面自然釉
	116	Ⅲa	E－17	須恵器	甕	胴部	黄灰	—	—	—	同心円平行アテ具	平行タタキ	
	117	—	—	須恵器	甕	胴部	灰白	—	—	—	同心円アテ具	平行タタキ	焼成不良
	118	Ⅲa	F－15	須恵器	甕	胴部	にぶい赤褐	—	—	—	同心円アテ具	格子タタキ	
	119	Ⅲa	E－17	須恵器	甕	胴部	にぶい赤褐	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
	120	表	—	須恵器	甕	胴部	灰オリーブ	—	—	—	同心円平行アテ具	平行タタキ	
	121	Ⅲa	D－16	須恵器	甕	胴部	暗灰黄	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
	122	Ⅲa	F－17	須恵器	甕	胴部	黒褐	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
	123	Ⅲa	E－39	須恵器	甕	胴部	黄灰	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
	124	Ⅲa	E-17-18	須恵器	甕	胴部	オリーブ灰	—	—	—	平行タタキ	平行タタキ・アテ具	
110	125	Ⅲa	E－17	須恵器	甕	胴部	褐灰	—	—	—	同心円アテ具	平行タタキ	外面自然釉
	126	Ⅲa	E－17	須恵器	甕	胴部	黄灰	—	—	—	—	平行タタキ	
	127	Ⅲa	C－5	須恵器	甕	胴部	淡黄	—	—	—	同心円アテ具	格子タタキ	
	128	Ⅲa	C－5	須恵器	甕	胴部	オリーブ黄	—	—	—	同心円アテ具	格子タタキ	
	129	—	—	須恵器	甕	胴部	橙	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
	130	Ⅲa	E－17	須恵器	甕	胴部	暗赤褐	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
	131	Ⅲa	E－17	須恵器	甕	胴部	黄灰	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
	132	Ⅲa	E－17	須恵器	甕	胴部	灰褐	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
	133	—	—	須恵器	甕	胴部	灰	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
	134	表	—	須恵器	甕	胴部	灰褐	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
	135	Ⅲa	E－17	須恵器	甕	胴部	灰オリーブ	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	外面自然釉
111	136	—	—	須恵器	甕	胴部	淡黄	—	—	—	同心円アテ具	平行タタキ	焼成不良
	137	Ⅲa	G－26	須恵器	甕	胴部	橙	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
	138	—	—	須恵器	甕	胴部	褐灰	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
	139	Ⅲa	G－47	須恵器	甕	胴部	灰褐	—	—	—	格子タタキ・ナデ	平行アテ具	
	140	—	—	須恵器	甕	胴部	灰	—	—	—	平行タタキ	同心円アテ具	
	141	—	—	須恵器	甕	胴部	暗青灰	—	—	—	平行アテ具	格子タタキ	
	142	Ⅲa	E－17	須恵器	鉢	口縁部	にぶい橙	14.0	—	—	ナデ	ナデ	
	143	—	—	須恵器	壺	頸部	灰	—	—	—	ナデ	ナデ	

第68表　中世土器観察表（1）

陣図	番号	層位	出土区	種類	器種	部位	色調	口径(cm)	底径(cm)[高台径]	器高(cm)	調整 内面	調整 外面・底部	備考
113	144	—	—	土師器	椀	底部	黒	—	6.6	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	両黒
	145	表一括	—	土師器	坏	口縁～底部	にぶい黄橙	13.8	12.6	2.9	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	146	Ⅲa	E－35	土師器	坏	口縁～底部	にぶい橙	13.4	9.3	2.4	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	147	表一括	—	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙	13.2	8.2	2.2	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	148	表一括	—	土師器	坏	口縁～底部	にぶい橙	11.8	9.4	3.1	横ナデ	横ナデ	
	149	Ⅲa	H－34	土師器	坏	底部	橙	—	10.4	—	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	150	表	—	土師器	坏	底部	にぶい橙	—	12.8	—	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	151	Ⅲa	E-27-G-25	土師器	坏	底部	明黄褐	—	8.2	—	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	152	表一括	—	土師器	坏	底部	浅黄橙	—	6.8	—	横ナデ	横ナデ・糸切り	

第69表　中世土器観察表（2）

挿図	番号	層位	出土区	種類	器種	部位	色調	口径(cm)	底径(cm)(高台径)	器高(cm)	調整 内面	調整 外面・底部	備考
114	153	表一括	—	土師器	坏	体部～底部	にぶい黄橙	—	11.4	—	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	154	表一括	—	土師器	坏	底部	にぶい橙	—	7.4	—	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	155	Ⅲa	F－26	土師器	坏	体部～底部	にぶい黄橙	—	8.0	—	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	156	Ⅲa	G－26	土師器	坏	底部	にぶい橙	—	6.4	—	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	157	Ⅱ	G－25	土師器	坏	体部～底部	にぶい黄橙	—	8.0	—	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	158	Ⅱ	I－25	土師器	坏	底部	明黄褐	—	8.2	—	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	159	—	—	土師器	皿	口縁～底部	浅黄	5.8	3.8	1.5	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	160	Ⅲa	D－19	土師器	皿	口縁～底部	にぶい黄橙	7.0	5.4	1.7	横ナデ	横ナデ	
	161	表一括	—	土師器	皿	口縁～底部	にぶい橙	6.4	4.8	2.3	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	162	表	—	土師器	皿	口縁～底部	灰黄	7.2	6.2	2.5	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	163	表一括	—	土師器	皿	口縁～底部	浅黄	6.8	5.0	2.0	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	164	—	G－27	土師器	皿	口縁～底部	にぶい橙	6.8	4.8	2.0	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	165	表一括	—	土師器	皿	口縁～底部	にぶい黄橙	7.0	5.4	2.0	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	166	Ⅲa	E－26	土師器	皿	口縁～底部	にぶい橙	7.8	5.6	1.8	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	167	Ⅲa	F－24	土師器	皿	口縁～底部	にぶい黄橙	7.4	5.2	1.8	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	168	表一括	—	土師器	皿	口縁～底部	にぶい橙	7.4	6.6	2.0	横ナデ	横ナデ・糸切り	
115	169	Ⅱ	C－18	土師器	皿	口縁～底部	浅黄	7.4	6.4	1.4	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	170	表一括	—	土師器	皿	口縁～底部	にぶい橙	7.6	6.4	1.3	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	171	Ⅲa	E－35	土師器	皿	口縁～底部	にぶい黄橙	7.6	4.8	1.7	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	172	表一括	—	土師器	皿	口縁～底部	にぶい黄橙	7.8	6.4	2.0	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	173	表	—	土師器	皿	口縁～底部	にぶい黄橙	8.4	6.9	2.5	横ナデ	横ナデ	
	174	表一括	—	土師器	皿	口縁～底部	にぶい黄橙	8.6	6.6	1.6	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	175	Ⅲb	F－36	土師器	皿	口縁～底部	浅黄橙	8.6	6.6	1.5	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	176	Ⅲa	D－19	土師器	皿	口縁～底部	にぶい黄褐	8.8	6.2	2.1	横ナデ	横ナデ	
	177	Ⅲa	E－35	土師器	皿	口縁～底部	にぶい橙	9.2	7.3	1.4	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	178	Ⅲa	D－15	土師器	皿	口縁～底部	浅黄橙	10.4	9.6	1.1	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	179	Ⅲa	C－18	土師器	皿	口縁～底部	灰白	9.2	7.8	2.1	横ナデ	横ナデ	
	180	表一括	—	土師器	皿	底部	にぶい黄橙	—	4.8	—	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	181	Ⅲa	H－34	土師器	皿	底部	にぶい黄橙	—	6.0	—	横ナデ	横ナデ	
	182	Ⅱ	G－24	土師器	皿	底部	にぶい黄橙	—	5.2	—	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	183	表一括	—	土師器	皿	底部	にぶい黄橙	—	5.0	—	横ナデ	横ナデ・糸切り	
116	184	Ⅲb	E-27-G-25	須恵器	甕	口縁部	灰	—	—	—	ナデ	平行タタキ	東播磨系・土師質
	185	Ⅱ	E－26	須恵器	甕	口縁部	灰	—	—	—	ナデ	ナデ・平行タタキ	東播磨系
	186	Ⅲa	G－33	須恵器	甕	頸部	灰	—	—	—	ナデ	ナデ・格子目タタキ	櫛万丈系
	187	—	—	須恵器	甕	頸部	灰白	—	—	—	ナデ	ナデ・平行タタキ	東播磨系
	188	Ⅲa	E－26	須恵器	甕	頸部	灰白	—	—	—	ナデ	ナデ・平行タタキ	東播磨系
	189	表	—	須恵器	甕	胴部	灰白	—	—	—	ナナメハケ目	平行タタキ	東播磨系
	190	Ⅲa	E－26	須恵器	甕	胴部	明黄褐	—	—	—	ナデ	格子目タタキ	
	191	Ⅲa	G－25	須恵器	甕	胴部	にぶい橙	—	—	—	ナデ	平行タタキ	
117	192	Ⅲa	H－34	瓦質土器	擂鉢	口縁～胴部	黄灰	30.0	—	—	ナデ	ナデ	
	193	巨大土坑	D－21	瓦質土器	擂鉢	口縁部	浅黄橙	—	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	
	194	Ⅲa	F－33	瓦質土器	捏鉢	口縁部	灰白	—	—	—	ナデ	ナデ	内面の剥落多い
	195	—	—	瓦質土器	擂鉢	口縁部	灰白	—	—	—	ナデ	ナデ	焼成不良
	196	Ⅱ	G－24	瓦質土器	捏鉢	口縁部	灰オリーブ	—	—	—	ナナメハケ目	縦ハケ目後ナデ	
118	197	巨大土坑	D－21	瓦質土器	擂鉢	底部	にぶい黄褐	—	—	—	ナデ	ナデ	内面使用による磨滅
	198	—	—	須恵器	捏鉢	底部	灰	—	—	—	ナデ	ナデ	東播磨系
	199	Ⅱ	G－24	瓦質土器	捏鉢	口縁部	にぶい黄	—	—	—	ナデ	ナデ	櫛万丈系
	200	表	—	瓦質土器	捏鉢	口縁部	灰	—	—	—	ナデ	ナデ	櫛万丈系
	201	—	—	瓦質土器	捏鉢	口縁部	灰	—	—	—	ナナメハケ目	ナデ	櫛万丈系・内外面剥落
	202	Ⅲa	E－31	瓦質土器	捏鉢	胴部～底部	灰白	—	—	—	ナナメハケ目	縦ハケ目	焼成不良
	203	巨大土坑	D－21	瓦質土器	火鉢	口縁部	灰	—	—	—	ナデ	ナデ	外面に花文スタンプ
119	204	Ⅱ	C－13	備前焼	擂鉢	底部	にぶい赤褐	—	19.0	—	ナデ	ナデ	内面使用による磨滅

第70表　中世磁器観察表

挿図	番号	出土区	層位	種類	器種	胎土	釉(藁)	生産地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　考
119	205	E－36	Ⅲa	青磁	碗	精緻	灰オリーブ	龍泉窯系	15.6	—	—	
	206	F－38	Ⅲa	青磁	碗	精緻	灰オリーブ	龍泉窯系	—	5.8	—	劃花文，畳付・高台内露胎
	207	H－34	Ⅲa	青磁	碗	精緻	灰オリーブ	龍泉窯系	—	6.8	—	劃花文，畳付・高台内露胎
	208	E－36	Ⅲa	青磁	碗	精緻	灰オリーブ	龍泉窯系	—	8.4	—	劃花文，畳付・高台内露胎
	209	D－21	巨大土坑	青磁	碗	灰白	オリーブ黄	龍泉窯系	—	5.6	—	
	210	E－37	Ⅲa	青磁	碗	精緻	灰オリーブ	龍泉窯系	—	—	—	
	211	E－36	Ⅲa	青磁	碗	精緻	灰オリーブ	龍泉窯系	—	—	—	
	212	E－26	Ⅲa	青磁	碗	精緻	灰オリーブ	龍泉窯系	—	—	—	
120	213	G－25	Ⅱ	青磁	坏	精緻	緑灰	龍泉窯系	12.0	—	—	鎬蓮弁文
	214	G－28	Ⅲa	青磁	坏	精緻	緑灰	龍泉窯系	—	—	—	口縁部輪花
	215	E－26	Ⅲa	青磁	坏	精緻	灰オリーブ	龍泉窯系	11.6	—	—	口縁部輪花
	216	D－21	巨大土坑	青磁	皿	茶粒・白粒	オリーブ灰	龍泉窯系	14.1	—	—	
	217	D－16	Ⅲa	青磁	皿	精緻	オリーブ灰	龍泉窯系	—	—	—	
	218	D－21	巨大土坑	青磁	碗	灰白・黒色粒	オリーブ灰	龍泉窯系	—	—	—	
	219	—	表	白磁	碗	精緻	灰白	—	8.0	3.0	3.5	高台内面に墨書
	220	F－34	Ⅲa	白磁	碗	精緻	灰白	—	—	—	—	
	221	D－21	巨大土坑	青花	皿	灰白・黒色粒	灰オリーブ	漳州窯系	—	4.4	—	畳付きに重ね焼の跡

第71表　中世土製品観察表

挿図	番号	出土区	層位	種類	器種	胎土	釉(藁)	備　考
121	222	F－26	Ⅱ	土製品	土錘	—	にぶい黄橙	
	223	H－33	Ⅲa	土製品	土錘	—	にぶい橙	
	224	E－31	Ⅲa	土製品	土錘	—	にぶい黄橙	
	225	C－18	Ⅲa	土製品	土錘	—	にぶい橙	外面に赤色顔料塗布
	226	G－27	Ⅱ	土製品	土錘	—	暗灰黄	２次焼成
	227	E－36	Ⅲa	土製品	土錘	—	浅黄	
	228	D－28	Ⅲb	土製品	土錘	—	浅黄	
	229	—	イモ穴	土製品	土錘	—	にぶい黄橙	
	230	H－34	Ⅲb	土製品	不明	—	にぶい橙	用途不明
	231	D－28	Ⅲb	土製品	不明	—	にぶい黄橙	用途不明
	232	D－21	巨大土坑	土製品	鵜の羽口	—	にぶい黄褐	外面にガラス質物質が付着
	233	D－21	巨大土坑	土製品	鵜の羽口	—	にぶい橙	先端部が被熱変色

第72表　中世石製品観察表

挿図	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
121	234	石鍋	H－37・38	—	滑石	8.2	8.9	1.8	161.0	
	235	石鍋	F－34	Ⅲa	滑石	4.1	3.9	2.2	73.0	
	236	石鍋	E－36	Ⅲa	滑石	—	—	—	39.2	
	237	石鍋	E－36	Ⅲ	滑石	7.0	5.8	1.0	51.0	底径12cm

第73表　近世陶磁器観察表

挿図	番号	出土区	層位	種類	器種	釉(藁)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備　考
152	1	表採一括	—	瀬戸焼	碗	明黄褐	—	4.6	—	蛇の目釉剥ぎ
	2	表採一括	—	瀬戸焼	鉢	黒褐	—	5.0	—	畳付に目跡
	3	表採一括	—	瀬戸焼	帆燭立て	にぶい黄褐	6.8	4.8	5.6	底部外側露胎
	4	表採一括	—	瀬戸焼	土瓶の蓋	灰オリーブ	9.2	7.1	—	
	5	表採一括	—	瀬戸焼	土瓶の蓋	黒褐	7.0	—	—	梅皮花
	6	表採一括	—	瀬戸焼	土瓶	黒	—	—	—	
	7	表採一括	—	瀬戸焼	壺	灰黄褐	10.6	—	—	
	8	表採一括	—	瀬戸焼	徳利	黒褐	4.2	7.2	21.6	
	9	表採一括	—	瀬戸焼	徳利	灰オリーブ	—	6.4	—	
153	10	F－27	Ⅲa	瀬戸焼	鉢	暗オリーブ灰	—	—	—	
	11	表採一括	—	瀬戸焼	壺	オリーブ灰	16.0	—	—	
	12	表採一括	—	瀬戸焼	鉢・徳利	オリーブ黒	—	13.4	—	
	13	表採一括	—	瀬戸焼	擂鉢	オリーブ黒	26.6	—	—	
154	14	表採一括	—	瀬戸焼	擂鉢	暗オリーブ褐	—	13.0	—	
	15	表採一括	—	瀬戸焼	擂鉢	灰褐	—	11.8	—	
	16	表採一括	—	瀬戸焼	片口	極暗褐	—	—	—	
	17	表採一括	—	瀬戸焼	壺	灰褐	—	9.0	—	糸不明
	18	表採一括	—	瀬戸焼	壺	灰	26.3	—	—	
	19	表採一括	—	瀬戸焼	壺	黄灰	24.8	—	—	
155	20	表採一括	—	瀬戸焼	壺	オリーブ黒	29.0	—	—	
	21	表採一括	—	瀬戸焼	壺	明赤灰	26.6	18.6	12.8	
156	22	表採一括	—	瀬戸焼	壺	黒オリーブ	28.0	20.0	9.1	
157	23	表採一括	—	瀬戸焼	甕	灰白	—	—	—	
	24	表採一括	—	瀬戸焼	甕	黒褐	37.0	—	—	
	25	表採一括	—	瀬戸焼	甕	灰オリーブ	—	15.6	—	
	26	表採一括	—	瀬戸焼	甕・壺の耳	オリーブ黒	—	—	—	
	27	表採一括	—	磁器	管状細製品	灰白	—	—	—	用途不明
	28	表採一括	—	瀬戸焼	棒状陶製品	極暗褐	—	—	—	

第74表　近世陶製品観察表

挿図	番号	出土区	層位	種類	器種	釉(藁)	備　考
158	29	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	黒褐	
	30	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	暗灰黄	
	31	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	オリーブ黒	
	32	F－43	Ⅴ	陶器転用品	メンコ	黒褐	
	33	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	暗緑灰	
	34	G－35	Ⅲa	陶器転用品	メンコ	灰オリーブ	
	35	イモ穴	—	陶器転用品	メンコ	灰褐	
	36	I－39	Ⅳ	陶器転用品	メンコ	灰褐	
	37	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	オリーブ黒	
	38	G－27	Ⅲa	陶器転用品	メンコ	オリーブ黒	
	39	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	暗灰黄	
	40	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	オリーブ黒	
	41	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	灰	
	42	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	褐灰	
	43	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	褐灰	
	44	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	黒褐	
	45	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	灰	
	46	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	黒	
	47	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	灰黄褐	
	48	H－38	Ⅳ	陶器転用品	メンコ	オリーブ黒	
	49	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	褐灰	
	50	H－35	Ⅴ	陶器転用品	メンコ	黒	
	51	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	褐灰	
159	52	表採一括		陶器転用品	メンコ	オリーブ黒	
	53	F－27	Ⅲa	陶器転用品	メンコ	灰赤	
	54	G－27	Ⅲa	土器転用品	メンコ	黒	
	55	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	灰赤	
	56	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	褐灰	
	57	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	にぶい褐	
	58	表採一括	—	陶器転用品	メンコ	暗赤褐	備前焼

第75表　近世銭貨観察表

挿図	番号	出土区	層位	銭貨名	初鋳年	径(cm)	重さ(g)	備　考
160	59	F－38	I	寛永通宝	1636	2.3	1.92	
	60	表採一括	I	寛永通宝	1636	2.3	2.06	
	61	E－37	I	寛永通宝	1636	2.2	2.17	
	62	表採一括	I	寛永通宝	1636	2.4	2.04	一部欠損
	63	表採一括	I	寛永通宝	1636	2.3	2.48	
	64	表採一括	I	寛永通宝	1636	2.3	2.09	
	65	表採一括	I	寛永通宝	1636	2.4	1.05	
	66	表採一括	I	寛永通宝	1636	2.2	2.21	一部欠損
	67	表採一括	I	寛永通宝	1636	2.5	2.58	一部欠損

第Ⅺ章　発掘調査のまとめ

第１節　旧石器時代

１　ナイフ形石器文化期

この時期の遺物は，ナイフ形石器の２点だけである。一つは鉄石英の，もう一つは西北九州産の黒曜石の横長剥片を用いている。第Ⅳ章第１節でも述べたように，この２点は，素材となった剥片に共通する特徴がある。再度ここで記述しておこう。

礫皮面打面で，木口面を作業面とする盤状の石核から剥離される横長剥片を素材とする。この石核では，加撃軸方向の長さは木口面の高さとなり，横幅は木口面の幅以内に規制されるので，このような規格の剥片が定量的に生産されることになり，その剥片を用いることで斉一性のあるナイフ形石器の量産が可能となる。この遺跡を残した人は，この規格へのこだわりがあったようであり，鉄石英と黒曜石と異なった石材であっても，ほぼ同じ大きさの製品を作り出している。

また，素材から製品への加工にしても，ほぼ同じような調整剥離を行っており，あたかも同一人物の手になるかのようである。

２　細石刃文化期

148個の細石刃核，同母核がＡ～Ｆの六つのブロックとまばらな環状分布，およびその周囲に散在するように出土している。

さて，148個の細石刃核を型式に分けると，福井型，船野型，野岳・休場型となるが，第Ⅳ章第２節では次のように分類しながら記述したところである。Ａ：福井型，Ｂ：傾斜打面の船野型，Ｃ：平坦打面の船野型，Ｄ：楔形への指向が強い野岳・休場型，Ｅ：細かくなった分割礫素材で下縁調整等のない野岳・休場型，以上の５分類した。

ここで，ブロックごとにこの５類がどのように出土しているかを確認したい。

Ａブロック：Ａ類，Ｃ類，Ｄ類　　Ｂブロック：Ａ類，Ｄ類，Ｅ類
Ｃブロック：Ａ類，Ｂ類，Ｃ類，Ｄ類，Ｅ類　　Ｄブロック：Ａ類，Ｂ類，Ｃ類，Ｄ類，Ｅ類
Ｅブロック：Ｂ類，Ｃ類，Ｄ類，Ｅ類　　Ｆブロック：Ｃ類
環状分布内：Ａ類，Ｂ類，Ｃ類，Ｄ類，Ｅ類　　ブロック外：Ａ類，Ｂ類，Ｃ類，Ｄ類，Ｅ類

以上のような結果である。従来は細石刃核の型式の違いでもって，時期差を論じる傾向があったが，このような出土状況を見る限りでは，時期差を考えるのは困難ではないかと思う。

では，何が型式の違いを生じさせているのであろうか。「７環状分布内およびブロック外」の項で簡単に触れたが，この５類は大きさが違うのである。大きい順に並べるとＡ類・Ｂ類－Ｃ類－Ｄ類－Ｅ類となる。Ａ類とＢ類はほぼ同じ大きさである。

ところで，東アジアの細石刃文化は楔形細石刃核を中心に論じられてきた。楔形細石刃核は規格を維持したうえでの定量的生産のために生まれたのだといわれる。このことと先の大きさのことを考え合わせると，次のようなことが考えられる。両面調整の母核を作れる大きさの剥片が得られれば，西海技法を用いてＡ類を作り，船底型石器様の母核を作れるだけの大きさの剥片，もしくは分割礫が得られればＢ類を作り，それらが作れるほどの素材が得られないとＤ，Ｅ類を作る。つまり，型式の違いは素材の大きさによるのである。　（冨田逸郎）

第２節　縄文時代

１　遺構

縄文時代において，確実に該期の遺構として捉えられるものは，集石遺構のみであった。各層毎の検出数は，Ⅲa層が７基，Ⅲb層が14基，Ⅳ層が40基，Ⅴ層が12基の計73基が検出されている。

これらの検出数と土器の出土量を比較すると縄文時代早期中葉から後葉に特に塞ノ神式土器の時期に盛んに集石による調理が行われたものと考えられる。

２　土器

本遺跡からは，非常に豊富な多種に渡る縄文土器の出土が見られた。便宜上，23類に分類して報告した。ただし，縄文早期後葉の条痕文系土器，前中期の条痕文系土器は多岐に渡り分類が混乱してしまった感がある。

・１類土器は，その特徴から岩本式土器である。ただし口唇内面の稜の弱い平坦に近いものなどは，Ⅱ－ａ類に近い関係のものである可能性が高い。また，レイアウト図面にはないが，図版（PL－52）の下段中央の破片には口縁内面に赤色顔料が塗られており，科学分析の結果，ベンガラであることが判明した。

・２類土器はａ・ｂ・ｃの３タイプに分類した。２－ａ類は，口縁部にヘラや貝殻その他の工具による連続文様を施し，胴部に斜位の条痕による調整を施すもので，前平式土器である。

２－ｂ類は，口縁部に横位や縦位の連続的な刺突を行い，胴部には地文の上から縦位，斜位，直線や流水文などの刺突や条痕を施すもので，近年において志風頭タイプと言われるものである。

２－ｃ類土器は，口縁部に横位や縦位の連続的な刺突を行い，その直下に楔貼付文を施すものと施さないものがある。胴部は地文である斜位の条痕の上から縦位の貝殻刺突文を基本とするもので，加栗山タイプである。

・３類土器は，胴部の調整が施文が押し引きを基本とするもので，吉田式土器である。

・４類土器は，胴部の調整が綾杉状の条痕を基本とするもので，石坂式土器である。

・５類土器は，平底の底部から内湾しながら口縁部へと至る基本的に大型土器で，胴部には櫛描状の沈線文を密に施すもので，桑ノ丸式土器である。

・６類土器は，肉厚で内外面にヘラ状の調整が観察され，口縁部は貝殻復縁の連続刺突が廻るもので，県内でも中尾田遺跡など数例の出土例があるのみの土器で，大分県政所遺跡出土の政所式土器に酷似するものである。

・７類土器は，条痕文系の土器で，横位に近い櫛描状のものと，板状のヘラ状工具による縦位・横位の調整の２種がある，ａ・ｂとしたが，別系統の土器で独立した分類が出来る可能性もある。

・８類土器は，楕円・山形の施文原体を転がす，押型文土器である。

・９類は口縁部が大きく外反し，頸部でくびれ，胴部中央部で張り出して屈曲しながら底部へいたる器形であり，外面及び口縁内面に山形や曲線状の押型文が施されるもので，手向山式土器である。

・10類土器は，数点の破片の出土である。胴部の結節縄文から平栫式土器と思われるものである。

・11類土器のａ類は，円筒形の胴部にラッパ状に開いた口縁部を有するもので，口縁部に幾何学文や刺突文を施し，胴部に撚糸文系の縄文を施す塞ノ神式Ａ式土器である。ｂ類は口縁部に貝殻等による連続刺突を施し，やや張る胴部に貝殻や櫛状工具による条線を施すもので塞ノ神Ｂ式土器であ

る。また，c類は当該期の無文土器と思われる。

・12類土器は，1個体のみの出土で，苦浜式土器である。

・13類土器は，最大径が口縁部にあり，緩やかに内湾しながら底部へと至る。口縁部に刻みを施し，外面には，板状のヘラ状工具による幾何学文的調整を，内面はナデ調整を基本とするもので，右京西式土器である。

・14類土器は，縄文時代早期の土器の底部で帰属時期の不確かなものである。

・15類土器は，13類土器に類似した器形を呈するものであるが，13類土器との大きな違いは，内外面の調整が粗い条痕であり，481のように口縁の内外面に曲線状の条痕が施されているところである。16類と近い関係のものであると考えられる。

・16類土器は，鹿屋市神野牧遺跡で出土したような垂下状の突帯を有するものと，口縁部に数条の密なミミズバレ状の突帯を施すものなどで，轟式B式土器である。ただし，胴部のみの破片では，15類が混入している可能性がある。

・17類土器は，櫛描き状の幾何学文を器面全面に施すもので，曽畑式土器である。文様帯の構成によりa・b・cの3類に分類した，第1文様帯に連続刺突文，第2文様帯に横位短沈線文を施すものが古いタイプと言える。

・18類は，広義の深浦式土器で，貝殻による連点文を主とするa類が日木山タイプ，微細突帯・刻目突帯・相交弧文等の文様を施し，比較的薄手のbタイプが鞍谷タイプである。また，該期及び該期に近い時期の無文・条痕文・不安定な突帯に粗い刻みを施す土器などを一括してc類とした。

・19類土器は，4脚または5脚の脚部を有し，外面に縄文を施すもので，竹崎（鷹島）式である。

・20類土器は，船元式土器である。a類が船元Ⅰ式土器であり，本遺跡のⅠ式土器はその胎土に特徴がある。黒色の砂粒が多く混入しており，これらは，他の土器では見られないものであることから，搬入品の可能性が高い。また，Ⅱ式土器についても，その出土量が少ないこと，本県でもあまり出土例がみられないことからⅠ式と同様に搬入品の可能性が高い。

・21類土器は，縄文時代中期後半の土器群で，数点の出土であったために，一括して扱った。阿高式土器系や南福寺式土器系等の土器である。

・22類土器は718から727までであり，縄文時代後期の土器群である。718は2本の凹線を単位とする文様を施すもので指宿式土器である。719は，口縁断面が三角形を呈するもので，市来式土器である。720・721は口縁部の沈線間に磨消縄文を施すもので，西平式土器である。722～725は内外面にミガキによる調整を行うもので，三万田式土器である。726・727はやや内湾する口縁部に2条の沈線を施すもので，御領式土器である。

・23類は縄文時代晩期の土器を一括した。728～737までは上加世田式土器で，728～732は深鉢形土器733～737は浅鉢形土器である。738から767までは入佐式土器で，738～745は深鉢形土器，746～757は浅鉢形土器，マリ状の形態を呈する土器等である。758～761は深鉢形土器，浅鉢形土器等の中間形態である。また，762～764は，該期の底部である。特質すべきものとして，765から768がある。波状口縁を呈するもので，口縁部の沈線には，科学分析により，ベンガラが塗られていることが判明し，胎土等から搬入品と考えられるものである。（鶴田静彦）

3　石器

第Ⅴ章第３節石器の項で述べたように，本遺跡では層位が不安定であり，層位による時期区分が不可能な状況にあった。南九州においては，通常アカホヤ火山灰の上下によって，少なくとも縄文時代早期と前期以降の層位的区分は明瞭であるが，本遺跡ではそれすらも不可能な状況にあった。型式的には縄文時代早期の土器がⅡ層，Ⅲ層からも出土し，その破片がⅣ層，Ⅴ層の破片と接合するというような状況があったのである。第Ⅴ章第３節で述べたように出土した石器もまた，その出土層位によってその帰属時期，土器型式を決定できない状況であったので，縄文時代から古墳時代にかけての石器をすべて一括して叙述したのである。

そこで，縄文時代以外に帰属する石器を抽出してみたい。

はじめに磨製石斧であるが，第Ⅴ章第３節でも述べたように，12，14は弥生時代の太型蛤刃石斧の蓋然性が強い。

次に石錐であるが，11～13が弥生時代の攻玉用の石錐である蓋然性が強い。

石錘では，あきらかに２点の切目石錘は弥生時代，古墳時代の所産であろう。

磨石，凹石，敲石，石皿，砥石，軽石製品では縄文時代のそれらと同様の形態，使用痕等を持つ石器が，古墳時代成川式土器にともなって出土する事例が，少なからずある。特に，他地域では見られない古墳時代の凹石は橋牟礼川遺跡等でよく見受けられる。筆者も，成川式土器を持つ住居跡で炭化した堅果類と共に凹石が出土したのを経験している。この６器種では，個々の石器の帰属時期を，その形状によって縄文時代，弥生時代，古墳時代のいずれとは決しがたい。

磨製包丁未製品は弥生時代以降の所産である。

三角槽型石製品については，東北・北陸地方のそれは縄文時代後期から晩期にかけての所産であるらしい。第Ⅴ章第３節において，本遺跡の三角槽型石製品と東北・北陸地方のそれとの類縁関係について，形態的類似はあるものの，別器種として判断した。特に，東北・北陸のそれに文様が施されているのに比べ，本遺跡のそれには文様はなく，使用の結果による研磨であることを論証したつもりである。従って，その帰属時期も不明といわざるを得ない。

以上をのぞく石器が縄文時代の所産であろうと判断できる。煩雑ではあるが，ここに列挙してみよう。磨製石斧（太型蛤刃石斧をのぞく），打製石斧，石匙，石槍，組合式石銛，石鏃，掻器，彫器，削器，石錐（大形をのぞく），箆状石器，楔形石器，小形両面調整石器，石鋸，双角状石器，石鎌，礫器，異形石器，穿孔礫，使用痕剥片，加工痕剥片，石核，以上の22器種となる。これに，石錘，磨石，凹石，敲石，石皿，砥石，軽石製品の７器種も全ての個体ではないが，本遺跡の縄文文化の石器に加わるであろう。合計29器種が，本遺跡の縄文時代石器として捉えられる。

次に，本遺跡の縄文石器を検討してみたい。

まず時期区分であるが，先に述べたように層位による区分は不可能であり，他遺跡の類例によって類推するほかない。ここで参考したいのが霧島市国分の上野原遺跡第10地点の石器群である。この遺跡は塞之神式，平栫式の時期の二つの土器形式にまたがるものの，早期後葉に限定されており，少なくとも，本遺跡石器群を早期とそれ以外の時期に区分する手がかりとなる。

上野原石器群にない器種は組合式石銛，双角状石器，石鎌である。この３器種は早期の所産では

ないと判断できるであろう。組合式石銛は後期，市来式土器の頃に出土する例が多いようであり，本遺跡例も同様に捉えて間違いはないであろう。双角状石器は第Ⅴ章第３節で述べたように枕崎市鞍谷遺跡に類例があり，前期のものとされている。本遺跡例も同じ時期と捉えて間違いはないであろう。石鎌は，西日本では後期に出土例が多いようであり，本遺跡例も同時期と捉えて間違いはないであろう。

次に，本遺跡石器群と上野原石器群に共通する器種ではあっても，形態的，製作技法的に相違を見出せないだろうか。

磨製石斧では，本遺跡の26，27は乳棒状石斧ではないかと思われる。完形ではないので，乳棒状石斧と断定するのに若干躊躇するが，乳棒状石斧は上野原石器群には含まれておらず，早期の所産ではないと判断できる。それ以外の磨製石斧は第Ⅴ章第３節でも述べたように，上野原石器群と共通する形態，製作技術である。

打製石斧は，黒色磨研土器段階以降の出土例が多いようであるが，上野原石器群にも２点の石鍬のような打製石斧が出土している。同報告書中第66図70，71がそれである。ただし，この資料はおそらく折損しており，完形ではないので，黒色磨研土器段階の石鍬と同一形態であると断定できない。また，大きさにおいても若干小さいようであり，土掘具としての機能・用途があったとしても，黒色磨研土器段階の石鍬とはやや異なっていると思われる。

石匙では，本遺跡石器群に合って上野原石器群にないものがある。それは粗製大形の石匙であり，本遺跡では第262図30や第269図88のように，縦型，横型ともに粗製大形の石匙があるのに比べ，上野原石器群には１点も見あたらない。おそらく，早期までの石匙と前期以降の石匙との違いであろう。また，小形のものであっても，粗製のものが多いのも本遺跡石器群の特徴であろう。ところで，この粗製石匙と削器との違いは何か。機能においては，その刃部形状を見る限り，何らの違いもない。おそらく，「切る」「削る」機能であろうことは一般に言われているとおりである。違いは，ただ一点，二つの抉入で作られる「つまみ」があるか，ないかである。このことは，石匙という器種の用途を考える上で重要なことであろう。通常，「つまみ」は「紐かけ」のためと説明されるが，そのとおりであるなら，「紐をかける」ことこそが削器との違いになる。何のための「紐」なのか，今後の課題にしたい。

石槍は本遺跡石器群と上野原石器群とでかなり様相が異なる。本遺跡の石槍は１点だけであるが，丁寧な周縁加工が施された半両面調整の細身の木葉形石槍であり，上野原石器群の石槍は，ラフな器面調整と周縁加工が施された両面調整の木葉形石槍と丁寧な器面調整，周縁調整が施された柳葉形石槍の２種類がある。本遺跡のような石槍は南九州では草創期，早期前葉に多いようであり上野原遺跡例との違いは，その時期差ではないかと考えられる。

石鏃では，さほど顕著な差異は見られない。本遺跡石器群の240，251，277，287，等の，脚部もしくは側縁の一部が強く張り出す，いわば有肩石鏃とでも言うべき形態のものは上野原石器群には見当たらない。前期以降に作られるようになるのであろう。他の形態の石鏃－ 有茎鏃・小形剥片鏃・鋸歯縁鏃・鍬形鏃・粗製大形のいわゆる「石銛」等－ は上野原石器群と共通するものである。

播器，彫器にはまったくといっていいほど差異がない。ただし，彫器は前期以降の出土例が見当たらないので，早期の所産であると考えられる。

削器にはやや違いがある。本遺跡石器群には丁寧な刃部加工が施された削器がないのに，上野原石器群には多様な形状でかつ丁寧な刃部加工を持つ削器が目立つ。これは，時期差と捉えるよりも，遺跡の性格の違いが反映された結果と考えたほうが妥当ではないかと思う。なぜなら，上野原遺跡は「祭祀の場」として機能していたことが指摘されており，本遺跡はふつうの居住域であったと思われる。祭祀で使われる刃物と日常生活で使われる刃物との違いと想定したい。

石錐，箆状石器，楔形石器，小型両面調整石器，石鋸の５器種にも差異が見られない。

礫器も同じく差異は見られないが，上野原遺跡では733点にも及ぶ大量の礫器があるのに比べ，本遺跡では13点を数えるにすぎない。これも遺跡の性格の違いであろうか。なお，第Ⅴ章第３節でも指摘したように，礫器のなかには，土掘り具としての打製石斧と同じような使用痕を持つものがあることと，木を割る際の楔として使用されたと想定できるものとがあることに留意しておきたい。

本遺跡で出土した異形石器は，上野原遺跡例と同一のものである。上野原遺跡の細分類にあてはめるならば，ＡⅡ類に相当する。これは，体部と叉状部が一体化したうえで，体部が長大化し，両側縁に複数の抉入が入るものである。

磨石，凹石，敲石，石皿，砥石，使用痕剥片，加工痕剥片にも差異は認められない。

石核も同様に差異は認められない。素材礫の木口面や板目面を作業面にする石核，頻繁な打面転移を持つ石核，盤状石核のいずれもが本遺跡石器群にも上野原石器群にも入っているのである。剥片剥離技術は，石核を見る限り，早期後葉と前期以降では差異がないということになる。

以上を要約する前に，今一度次のことを確認しておきたい。それは，上野原石器群は早期後葉，塞之神式土器・平栫式土器段階のものであり，本遺跡石器群は縄文時代早期から晩期までの時期にわたるものである。

さて，上野原石器群と本遺跡石器群とを比較した結果，次のようなことが言える。

本遺跡石器群にあって上野原石器群にない器種は組合式石銛と双角状石器と石鎌の３器種のみである。このことは，縄文時代の石器の器種構成は早期後葉でほぼ完成されるということである。

また，各器種内での形態的な違いは次の通りであった。①磨製石斧では乳棒状石斧が前期以降に付加される。②石匙では粗製大形の縦型・横型が前期以降に付加される。③石鏃では有肩鏃が付加される。

いうまでもなく，磨製石斧，石匙，石鏃は縄文時代の石器を代表するものであるが，これらもまた，早期後葉段階でほぼ全ての形態のものが出そろい，前期以降になってから現れるのは，乳棒状石斧，粗製大形石匙，有肩石鏃の３種類のみである。

南九州における縄文時代の石器構成は，早期後葉段階でほぼ完成し，前期以降に出現するのは，①組合式石銛，②双角状石器，③石鎌，④乳棒状石斧，⑤粗製大形石匙，⑥有肩石鏃である。

本遺跡では出土していない前期以降の石器はまだまだ多いものと思われるが，今後このような比較，検証を重ねることで南九州の縄文石器の様相を明らかにできるであろう。本遺跡石器群によって，ここまで明らかにすることができた。（冨田逸郎）

第３節　弥生時代

１　遺構

竪穴住居跡４軒と貝層を含む土坑１基が検出されている。その他に弥生時代の土坑・ピット群・石器類もあったことが当然想定されるが，第Ⅹ章で記述したように，遺構内遺物を伴わず，かつ土層の堆積が薄く安定を欠くことから，土坑・ピット群は第Ⅹ章に，石器類は第Ⅶ章に一括して掲載してあるので，ここでの記述は竪穴住居跡と貝溜り土坑にとどめたい。

これら竪穴住居跡と貝溜り土坑遺構内の出土遺物からこれらは弥生時代中期のものと考えられる。竪穴住居跡の平面プランは円形のものが３軒で，方形のものが１軒である。１号住居跡からは入来Ⅱ式土器，須玖式土器，黒髪式土器，絡縄突帯文土器等多種類の土器が出土している。

中村直子氏によると弥生・古墳時代の住居跡一括資料の性格として，

①火災などによって当時の生活道具を残したまま住居を廃棄した，もしくはたまたま残ったもの。

②住居を廃棄する時に祭祀等の目的で意図的に土器を残したもの。

③使用されなくなった住居跡がくぼ地となり，周辺で使用した土器を意図的に廃棄したもの。

④住居跡のくぼ地に自然に周辺から流れ込んだもの。

を想定し，特に③と考えられる事例が多いことを指摘している。このことを１号住居跡にあてはめると遺物の出土レベル差がわずかにみられるものの，入来Ⅱ式土器，須玖式土器，黒髪式土器，絡縄突帯文土器が同時期あるいはきわめて近い時期に使用されていたことが考えられる。また丹塗壺も出土しているが南九州での弥生時代中期の丹塗土器は薩摩半島西海岸側を中心に出土例が報告されているものの，きわめて少なく北部九州や中部九州で製作されたものと推察される（中園1998）。

いわゆる松菊里タイプの住居とは円形の掘込みで床面中央に炉跡があり，その両脇にピットを有するものであるが，南九州では弥生時代前期から中期（入来Ⅱ式期）の遺跡でみられるものである。本遺跡の２・３号住居跡はその時期に該当し，形状より松菊里タイプの住居であると考えられる。これと同様と考えられる住居跡は隣接する市ノ原遺跡第２地点と桜ヶ丘団地遺跡・魚見ヶ原遺跡（共に鹿児島市）で報告されている。また住居内埋土から見た場合，１～３号住居は鬼界カルデラ起源の通称アカホヤ火山灰の単一層であった。このことから同時期に住居が使用されていたことが想定される。　住居内遺物で特筆すべきは，２号住居跡のすぐ横で出土した壺形土器の口縁部（27）上面には管状の工具で刺突した連点文を有し，弥生時代中期の在地の壺形土器にはあまり見られないものであることから，人の移動に伴う他地域からの搬入品であることが考えられる。また打製石鏃の出土は無く，３号住居跡に隣接するピット（P17）と４号住居跡からは頁岩の磨製石鏃が出土している。このことは住居跡から打製石鏃が出土し，この時期まで打製石鏃の使用が確認されている市ノ原遺跡４地点の弥生時代前期の竪穴住居跡との時期差を現すものであると考えられる。

本遺跡の集落の性格としては，広い面積の調査にもかかわらず，４軒の住居跡しか検出されていないということから小規模で継続性があまりない短期廃絶型集落であったのか，あるいはさらに調査区外の北東方向に継続的に営まれた集落がひろがっていたかもしれない，という二つが考えられる。いずれにせよ遺跡が所属する台地全体から集落の位置づけを検討していく必要があると考える。

貝溜り土坑は古墳時代の竪穴住居跡（２号）に隣接する地点で検出されたので，古墳時代の遺構である可能性が当初は考えられたが，土坑内貝殻の放射性炭素年代測定を行った結果，2561± 32と

いう結果が出ている。貝種は沿岸の岩礁域に生息するものの割合が高かった。また土坑内からは入来Ⅱ式土器の鉢形土器（51）も出土している。2561± 32は入来Ⅱ式土器の使用時期のひとつの基準になりえるものであると考えられる。

この他，G－34区に小規模な貝の散布域がみられ，このことは，第Ⅶ章古墳時代に記載してあるが，同じく放射性炭素年代測定を行った結果，2702± 30という結果が出ているので弥生時代の遺構とみなすのが妥当であろう。これらの貝類は本遺跡の南西方向に直線で約1.8km先にある東シナ海の海岸よりもたらされたものと考えられる。

2　遺物

本遺跡での弥生土器の出土状況は甕形土器の出土量が多く，次いで壺形土器がくる。鉢形土器・高坏の出土量は非常に少なく，また蓋形土器は小片で見落としているかもしれないが，確認されなかった。これは南九州の弥生時代の遺跡の傾向とだいたい一致するようである。時期は弥生前期から中期に及ぶ。甕形土器は形状・調整をもとに１～10類に分類し，さらに12に細分した。１～４類は弥生時代前期，５～10類は弥生時代中期の土器である。出土量より中心を占めるのは１～４類であるが，竪穴住居跡と貝溜まり土坑より出土した甕形土器はいずれも弥生時代中期の土器の５・７・８・９類である。なお，この分類は基本的には中園聡氏の編年案（中園1997）に依って行うこととしたい。

１類～４類は現在大雑把に夜臼式土器・板付式土器・高橋式土器と呼ばれている土器群である。

１類～３類は刻目突帯文を持つ甕形土器で，４類は高橋貝塚で河口貞徳氏が高橋Ⅰ式とした如意状口縁部を有する甕形土器である。１類は口唇部からわずかに下がったところと屈曲部に刻目の入った断面三角形の突帯を貼り付けるもので２・３類は口唇部の外側と胴部の屈曲部付近に刻目の入った断面三角形の突帯を貼り付ける。一般的に口唇部からわずかに下がったところ貼付けられているものが，口唇端部に貼付けられるものより古いとされる。また，３類土器になると胴部の屈曲がかなり緩やかになっており，砲弾形にすぼまる形状に変化してきている。４類土器は如意形の口縁部を有するもので，弥生時代前期中頃に位置づけられるものではないかと考える。

５類より後は，弥生時代中期の土器である。５－Ａ類―入来Ⅰ式土器，５－Ｂ類―入来Ⅱ式土器，６類―吉ヶ崎式土器，７類―一の宮式土器のような結縄突帯を有するものである。口縁部断面が厚く，一の宮式の祖形になるものではないかと思われるが，資料が２点しか確認されないため詳しくは不明である。他地域からの搬入品の可能性も考えなければならないだろう[1]。８類―須玖１・２式土器，９類―黒髪１・２式土器に比定される，10類は５～９類のいずれにも該当しないもので，南九州の弥生時代中期（入来Ⅱ式期）の遺跡で報告数は少ないが，見かける甕形土器である。ところで黒髪式土器は九州中部の肥後地方を中心に出土が見られる土器型式であるが，南九州では黒髪式土器が後期に松木園式土器へ変化していったことが指摘されている。本遺跡では松木園式土器が出土していないことから，弥生時代後期には人々の定住が見られなかったものと考えられる。壺形土器に関しては完形復元できたものが無く，全体形状は不明である。肩部にヘラ描きの沈線で数条の直線文・鋸歯文・重弧文等が施されているものは弥生時代前期のものである。口縁部内面に突帯が二条貼り付けられているもの（213～215）は弥生時代中期のものである。その他甕形土器と壺形土器以外の器種がほとんど出土しないのは，前述したように南九州の遺跡で一般にみられる傾

向であり，本遺跡にもそれはあてはまる。特に高坏形土器と確認されたものは小片で判断できないものを除くと１点（233）のみであり，これは弥生時代中期（甕形土器８類の時期）のものである。

磨製石鏃は住居内と住居に隣接するピットから出土しているものの，包含層での出土はみられなかった。打製石鏃は第Ⅴ章第３節に掲載されたもののなかに弥生時代のものも含まれていると考えてよいだろう。

水はけの良い台地上に位置する本遺跡は，第Ⅶ章に掲載したように水田耕作をおこなう上で必要な石器はきわめて少なく，縄文時代以来の打製石斧・磨石・石皿が数多く出土している。このことから，本遺跡の弥生時代前期から中期の人々の生業は水田耕作に依存したものではなく，縄文時代以来の狩猟・採集と畑作あるいは栽培に依存した生活を行っていたのではないかということが窺える。ただし，畑作・栽培に伴う石器とされる打製石斧は出土層の堆積が不安定であるため，弥生時代のものと断定できないことも附言しておきたい。（抜水茂樹）

第４節　古墳時代

１　遺構

竪穴住居跡４軒と貝溜り土坑１基が検出されている。その他に弥生時代と同様に土坑・ピット群・石器類もあったことが当然想定されるが，第Ⅹ章で記述したように，遺構内遺物を伴わず，かつ土層の堆積が薄く安定を欠くことから，土坑・ピット群は第Ⅹ章に，石器類は第Ⅶ章に一括して掲載してあるので，ここでの記述は竪穴住居跡と貝溜り土坑にとどめたい。１・２号竪穴住居跡の検出位置は弥生時代の竪穴住居跡とほぼ隣り合う場所であり，３・４号竪穴住居跡はややはなれた場所に位置するものの，本遺跡の古墳時代における生活の中心地域は１・２号竪穴住居跡の周辺であると考えられる。

竪穴住居跡の平面プランは円形のものが２軒で，方形のものが２軒である。１・２号住居跡は弥生時代の竪穴住居跡と形状が似ており共に床中央部に炉跡と考えられる凹みがみられる。３・４号住居跡は非常に小規模な住居跡で，１・２号とは時期差や用途の違いがあるのではないかと考えられる。住居内遺物として甕形土器，鉢形土器，小形丸底壺，高坏形土器，磨石が出土している。このなかで３号住居跡から出土した高坏形土器が胎土と形状より他地域からの搬入品であると思われる。住居内出土土器の特徴から１号～４号住居跡は古墳時代前半期の東原式土器の住居であると考えたい。貝層を含む土坑より出土した貝種は弥生時代の貝種と同様に沿岸の岩礁域に生息するものの割合が高かった。遺構内の脚台がはずれた甕形土器は竪穴住居跡内の甕形土器と同じ東原式土器であるので，やはりこの時期の遺構であると考えたい。

２　遺物

出土範囲は４軒の竪穴住居跡とだいたいにおいて一致する。器種の特徴を甕形土器でみると，弥生時代終末期～古墳時代前期の中津野式土器，古墳時代前半期の東原式土器，古墳時代後半期の笹貫式土器の３型式がみられ，このなかで主体をなすものは東原式土器である。このほか器壁が薄く，口縁部内面に稜を作るほど強く外反する布留式の甕形土器も出土しており，他地域と交流があったことが伺える。（抜水茂樹）

第５節　古代・中世

１　遺構

本遺跡で検出された古代・中世の遺構は，掘立柱建物跡19棟，溝５条，道跡２条，焼土跡10基，土師皿埋納土坑１基である。

掘立柱建物跡については，切り合い関係にあるものはなく，建物の方向などから何棟かは同一時期に建っていた事が予想される。ただ，それぞれが非常に接近しあっているため，同時に19棟全部が建っていたとは考えにくい。これらの建物群の性格については，共伴遺物がないことから，古代から中世の具体的にはどの時期に建てられた建物であるということは不明である。

溝は，Ⅲa・Ⅲb層の上面で５条検出され，底面が平坦もしくは丸みをもち，ゆるやかに立ち上がるのが特徴である。埋土からは，土師器・内黒土師器の埦，東播磨系須恵器の捏鉢，古墳時代の手捏土器などが出土した。白磁の碗や銅製品も出土しているが，おそらく近世のある時期に埋土に紛れ込んだものであろう。また，唐銭の「開元通寶」（初鋳年621年）も出土しているが，これも古代から中世の時期に使用されていたものか，あるいは後の時代に混入したものかは，定かではない。道跡は南北に直線状にのびており，埋土からは土製品，土師器の坏底部，土錘等が出土した。検出層位や埋土状況により，古代から中世の時期に使用された道路跡と判断した。

焼土跡については，著しい痕跡が認められるもの10か所とし，遺構内からは土師器の埦，内黒土師器の埦もしくは坏，土師器の甕，鉢等が出土した。焼土跡の断面を観察すると全体的に底面はほぼ平坦でゆるやかに立ち上がるものが多く，遺構内遺物はあまり多く確認されなかった。

土師皿埋納土坑は，長軸約86cmのⅢa層土を埋土とする楕円形の土坑で，遺物は糸切り痕のある土師皿である。調査時の不手際により遺構の一部が切られ，全体形状は不明であるが，中世の土坑墓として捉えてよいのではないだろうか。

２　遺物

古代の遺物は，主にⅢa・Ⅲb層を包含層として，土師器の鉢・埦・坏・甕，内黒土師器の埦・坏，墨書土器，篦書土器，須恵器の皿，蓋，甕，鉢，壺などが出土した。墨書土器の中には「万」「万万」と解読できるものがあり，同様に解読できる墨書土器が出土した市ノ原遺跡第１地点との関連性が窺える。市ノ原遺跡第１地点では405点の墨書土器が報告されており，遺跡の性格として「建物跡や遺物などから寺院またはこの地方の豪農の居宅かと推定され，寺院・豪農の居宅のいずれであっても，文字の使用を頻繁に行う階層の人（々）がそこに生活していたことは事実であり，それは薩摩国司が直接間接かは不明としても管轄する場所であったことが想定される。」としている。そして，第３地点の遺跡範囲でも墨書土器が出土していることから，何らかの関わりがあったであろうことが推察できる。しかし，第１地点に比べると全体的に古代の遺物量，特に墨書土器の出土量は少なく，単純に第１地点と同様に捉えることはできない。前述したように，掘立柱建物跡でも決め手となるような共伴遺物は確認されず，建物群の定義付けも困難である。よって本遺跡は，あくまでも第１地点が中心となる施設群の周辺部としての位置付けを考えるのが妥当であると考えられる。

中世の遺物は土師器，須恵器，瓦質土器，備前焼，輸入磁器（青磁・白磁・青花），土製品，滑石製品等が出土している。このなかで土師器は椀，坏，皿で，須恵器と瓦質土器は九州北部の樺万

丈（樺番城）系と東播磨系の広域流通品である甕，摺鉢・捏鉢等である。東播磨系須恵器の鉢・甕は12世紀後半から15世紀前半にかけて西日本に広く流通しており，南九州の中世前半期の遺跡でもよくみかけるものである。青磁は全て15世紀に編年される龍泉窯系のものである。

九州西部では中国陶磁器の輸入量は13世紀から14世紀前半期に最盛期を迎え，一部庶民階層にまで需要は及んでいる。本遺跡の中世の出土遺物は概ね14世紀中頃から16世紀前半の遺物でしめられており，この時期に該当するといえる。（市村哲二，抜水茂樹）

第６節　近世

本文中にもたびたび記述している通り，本遺跡は以前，圃場整備事業が行われたり，本来なら近世の主な包含層であるⅠ・Ⅱ層は部分的にしか見られなかったため，近世と判断できる遺構は検出されず，掲載遺物も表採のものが大半である。本遺跡の南東部に隣接する市ノ原遺跡第４地点では本遺跡寄りの調査区内西側で近世の街道（出水筋）跡とされる道路遺構及び街道沿いに位置したと考えられる集落とされる遺構（掘立柱建物跡，溝状遺構，竈跡，道跡等）が確認されているにもかかわらず本遺跡で同時期に該当する遺構が検出されなかったわけであるが，そのおもな理由として道路遺構や集落からややはずれた場所に本遺構が位置していることと，先に述べた圃場整備等の事業で遺構が削平されてしまったことなどを可能性として挙げたい。ただし，出土遺物は17世紀後半～19世紀後半にかけての肥前系陶磁器・在地系陶磁器と椀型滓が他の時代と較べると極めて少量であるが出土していることから，本遺跡及びその周辺で近世の時期に生活の営みがあったことを伺い知ることができる。特筆すべきは徳利（８・９），片口（16），蓋（18～20・22），甕（23・24）等で，これらは初期の薩摩焼（苗代川焼）の様相を有するものであることから，本遺跡より南東方向に直線で４km強に位置する堂平窯かその周囲の窯で製作されたものと考えられる。なお製作時期については堂平窯跡報告書（埋文センター2006）に基づくと下記の通りである。

・Ⅰ期（17世紀前半）

　　Ⅰa期（1620～1630年代）

　　Ⅰb期（1630～1650年代）

・Ⅱ期（17世紀後半）

このなかで本遺跡出土の遺物はⅡ期に該当するものである。これらのものは製作地である苗代川より，出水筋等の経路を経て本遺跡に持ち込まれたと考えられる。また同時に本遺跡を含み周辺の地域でも17世紀後半には堂平窯製の薩摩焼が広く流通していたことが伺える。（抜水茂樹）

注

（１）中園聡氏の指摘による。

【引用・参考文献】

中園聡　1997「九州南部地域弥生土器編年」　『人類史研究第』９号　人類史研究会

中園聡　1998「丹塗精製器種群盛行の背景と性格―東アジアの中の須玖Ⅱ式土器―」　『人類史研究第』10号人類史研究会

河口貞徳　1981　『一の宮遺蹟報告』　「河口貞徳先生古稀記念著作集」上巻
鹿児島県立埋蔵文化財センター　2003　『市ノ原遺跡第１地点』　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（49）
鹿児島県立埋蔵文化財センター　2006　『堂平屋跡』　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（106）
鹿児島県立埋蔵文化財センター　2008　『上水流遺跡２』　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（121）
鹿児島県立埋蔵文化財センター　2008　『市ノ原遺跡第４地点・第２地点』　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(130)
佐賀県教育委員会　2008　『西畑瀬遺跡１』　佐賀県文化財調査報告書176集
三日月町教育委員会　2005　『戊，赤司，赤司東，深川南，土生遺跡』　三日月町文化財調査報告書　第16集
亀井明徳　1986　『日本貿易陶磁史の研究』　同朋舎出版
『一湊松山遺跡』1996　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（19）
『上野原遺跡（第10地点）』2001　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（28）
『城ヶ尾遺跡』2003　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（60）
『桐木耳取遺跡Ⅰ～Ⅲ』2005　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（91）
『堂園平遺跡』2006　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（104）
『前原遺跡』2007　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（107）
『向栫城跡』2008　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（129）
『中尾田遺跡』1981　鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（15）
『中ノ原遺跡Ⅰ～Ⅳ』1989　鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（48）
『前畑遺跡』1990　鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（52）
『上水流遺跡』1998　金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書（9）
鹿児島大学考古学研究室25周年記念論集刊行会編　2006『Archaeology from the south 鹿児島大学考古学研究室25周年記念論集』　鹿児島大学考古学研究室25周年記念論集刊行会
小林　達雄　2008　『総覧　縄文土器』　㈱アム・プロモーション

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（140）
南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（ＸＸⅨ）

市ノ原遺跡（第3地点）【第Ⅲ分冊】

発行日　2009年３月

編　集　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号
電話番号　0995-48-5811

印　刷　㈱イースト朝日
〒891-0122　鹿児島県鹿児島市南栄３丁目30-7
電話番号　099-266-5522